

(2) 2023 年度第 4 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	89
人文学部	人類文化学科	93
人文学部	心理人間学科	97
人文学部	日本文化学科	102
外国語学部	英米学科	106
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	109
外国語学部	フランス学科	111
外国語学部	ドイツ学科	112
外国語学部	アジア学科	114
経済学部	経済学科	115
経営学部	経営学科	122
法学部	法律学科	130
総合政策学部	総合政策学科	135
理工学部	ソフトウェア工学科	141
理工学部	データサイエンス学科	144
理工学部	電子情報工学科	146
理工学部	機械システム工学科	147
国際教養学部	国際教養学科	149
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	155
教職センター		158
外国語教育センター		160
体育教育センター		171

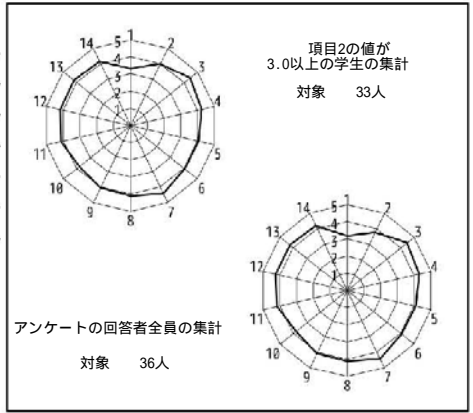
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	173
人文学部	心理人間学科	174
人文学部	日本文化学科	176
外国語学部	英米学科	177
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	178
外国語学部	フランス学科	181
外国語学部	アジア学科	183
経済学部	経済学科	184
経営学部	経営学科	186
法学部	法律学科	188
総合政策学部	総合政策学科	189
国際教養学部	国際教養学科	191
共通教育	仏語	191
共通教育	西語	192
共通教育	中国語	193
共通教育	日本語	194
共通教育	共通	196
共通教育	韓国朝鮮語	205
教職センター		206
外国語教育センター		208
留学生別科		227

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[E]3
授業コード	10A01-020
教員名	DANCAR, Aleksander
教員コード	104655
登録人数	150
回答数	36
回答率	24.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

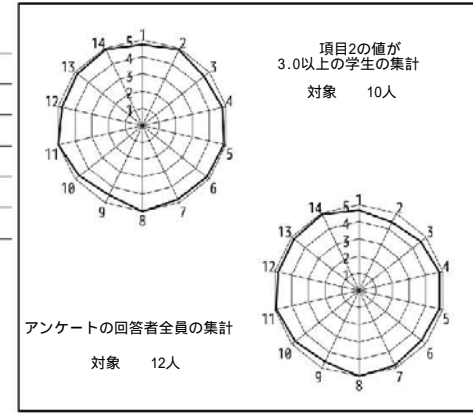


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生からの評価を読みました。基本的に統計評価の読み方、理解の仕方がわかりませんが、ここで「自己点検」として書いていることは、どちらかという、学生の自由評価からわかったことに基づいて書きました。私はまた、最終レポートを読んだ後に受けた全体的な印象に基づいて、この宗教論コースの担当者としての自己点検を書きました。以上のことを踏まえると、この授業の目標は十分に達成されたとは思えません。この講義で何かを理解した、あるいはこの講義に満足したと感じている学生たちがいるということは、私の意図した目標が達成されたことを説明するのに十分ではないと思います。シラバスに書いた目標は長期的な目標だと思い、現在の学生たちの宗教的・精神的な状況からすると、この目標はあまりにも遠いところにあるように思えるかもしれません。しかし、学生たちは今回の授業でその第一歩を踏み出したのではないかと思います。最初のステップは、「宗教」と呼ばれるものは、いつでもどこでも、人間の生活の存在、基盤、目的、実践に何らかの関係があるという認識です。宗教というものは単なる科学研究の対象ではありません。どの国の人間も文化的生き物として認識されるなら、宗教は人間の心の働きとして最も原始的であり、最も現代的で、最も独創的な文化であると思います。ほとんどの学生は、宗教の役割、倫理的および道徳的機能等についてさらに詳しく書きました。これは決して間違ったことではありません。これが、私がこの授業の主目的、すなわち霊的・宗教的能力を持った存在としての自分を知ることへの「第一歩」の一つと呼んでおります。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	神学入門
授業コード	21C01-001
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	18
回答数	12
回答率	66.7%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4Qにおいて「神学入門」シラバスに従って行われた。学生たちに解りやすく新学の入門の内容などを説明出来たと思われる。内容から振り替えて見ると現代神学をもう少し取り入れても良かったと思われる。説明がゆっくりだったがキリスト教について全く知らない学生いたので専門的な話を理解するために時間がかかってしまった。学生がらも積極的な参加態度あって異常にやりがいのある時間だった。真剣に取り組むために最初の授業では厳しく指導したが、学生の意欲を増すためであった。アンケートにもあったように脱字誤字などを改める必要がある。リアクションペーパーの提出時間があまり間に合わなかったということは今後考え直す必要がある。出席と取ったり取らなかったりという件に関しては、学生の授業への積極的な賛歌態度に焦点を当てたからだ。今後の授業において今回の関心点などを取り入れながら学生にとって最も最適な内容と神学に関する学びの場を提供したい。全体的には授業自体が期待通りに運営され、シラバスに取り上げた到達目標に達することが出来たと言える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 自然神学

授業コード 21C12-001

教員名 松根 伸治

教員コード 101833

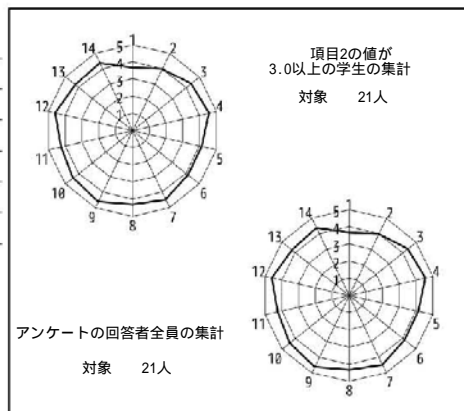
登録人数 40

回答数 21

回答率 52.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで設定した到達目標 (1) 自然神学に関わる重要な概念を説明できる、(2) 神の存在証明のいくつかのタイプの特徴を理解している、の二つについて、中間レポートと期末レポートの内容からは、おおよそ達成できたと判断できる。受講生による評価では、項目13(知識と理解の深まり)が4.24、項目14(全体的満足度)が4.38という結果で、あまり高い数値ではなかった。しかし、項目1(履修前の興味)の3.67と比較するならば、一定程度の成果があったとも言えるだろう。

評価がとくに低いのは、項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」で、どちらも4.14である。上記の目標を授業で強調したつもりだったが、理論的・抽象的な内容が多く、受講者には目標そのものが実感しにくい面はあったと思われる。次年度は、各回のテーマがどんな意味をもつのかを、より細分化したうえで具体例を使って提示し、各自の経験や心情に結びつけて考えてもらえる工夫をしたい。他方で、日常生活から離れたように見える問題を考える面白さを伝えることもこの授業の意図なので、そのあたりのバランスをうまくとることが課題である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世哲学史II

授業コード 21C14-001

教員名 井上 淳

教員コード 100301

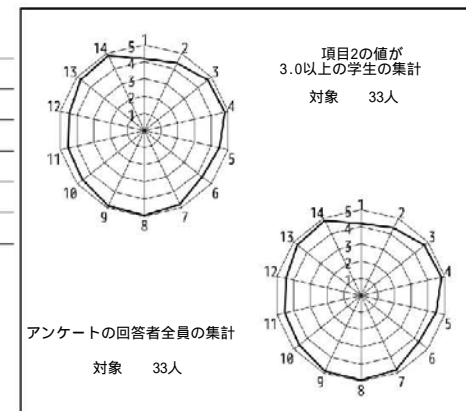
登録人数 98

回答数 33

回答率 33.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

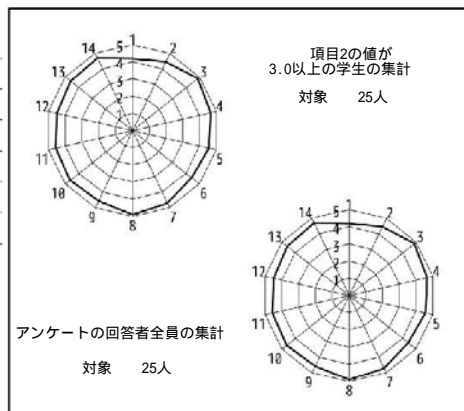


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中世哲学史IIは当初に設定していた目標にほぼ到達できたと思います。授業は毎回1人もしくは2人の思想家について説明し、毎回500字～600字の小レポートをWebClassで書いて提出してもらいました。毎回の授業ではA4サイズに4頁のカラーの挿絵などがついた説明文書を講義資料DLサーバーに上げて自由に参照できるようにしました。それに加えて説明する各思想家の言葉などの資料も講義資料DLサーバーに上げ、その資料は白黒印刷して教室で配布しました。授業は前半と後半に分かれていて、前半と後半の間に10分間の小レポートの時間を取り、後半の話の後の残り時間をまた小レポートの時間としました。小レポートは100分の時間内に書いてしまうことも可能ですが、ゆっくり書きたい人のために、提出期限をその日の夕方5時としました。最終レポートは700字～800字とし、1週間ほどの提出期間にWebClassから提出してもらいました。学生からの評価は、項目14(全体としての満足度)が4.82、項目13(新しい知識や理解を得たか)が4.73、項目9(授業の適切な進め方)が4.88と好評でした。一番評価が高かったのは項目8(教員の声はよく聞き取れたか)で4.94でした。項目1から14の平均は4.63、項目3から14の平均は4.68でした。よりよい授業を目指して、これからも努力を続けたいと思います。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	新約聖書学(公同書簡)
授業コード	21C28-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	30
回答数	25
回答率	83.3%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



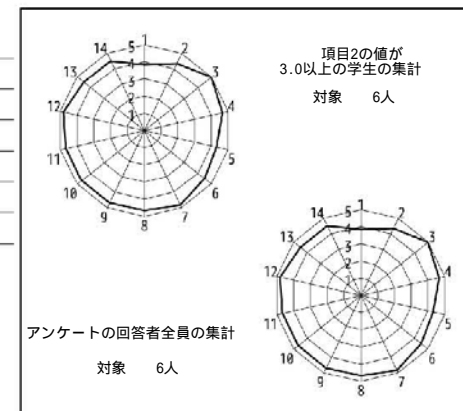
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、パウロ書簡以外の新約聖書の書簡（ヘブライ人への手紙、公同書簡、黙示録）を学ぶ授業でした。多くの学生にとって、黙示録以外はほとんど触れたことがない書物ということもあり、学生に興味を持たせるための更なる工夫が必要だということを感じました。学生には毎回特定の聖書箇所を読み、そこから理解できたことや思っている疑問や質問を書くという課題を与えました。しかし、それに対して表面的形式的な回答が多いので、今後は学生が聖書の内容を深め、自分で考えるヒントを与えるような課題を用意する必要があると感じました。

学生の授業評価の結果を見る限りでは、この授業は全体として目標に達成できたと思います。評価の自由記述には、「難しい内容をわかりやすく説明していた」、「生徒が発言する機会が十分に設けられていた」、「キリスト教の信者ではない聖書にあまりなじみのない学生にとっても、とてもわかりやすい授業」などの学生の声から、意識した学生参加型授業や学生の理解度に配慮するという点も良かったと思います。今後、更なる授業の工夫をしていきたいと考えています。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	初期キリスト教思想B
授業コード	21C31-001
教員名	岡崎 隆哲
教員コード	103614
登録人数	12
回答数	6
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初目標としていたことのうち、ヨーロッパの精神、文化の二大源流とされるヘレニズムとヘブライズムの各特性について理解するという点について、各々における哲学、文学、宗教思想の具体的な内容の紹介をとおり、ある程度達成できたと思う。東西の古代教父がキリスト教の形成について果たした役割を理解するという点については、東方ギリシア教父の紹介が今回も不十分なままであったかと反省される。アウグスティヌスの基本思想について学ぶという点については、アウグスティヌスの生涯を詳しくたどることと、そこで扱えなかった思想内容について説明するというやり方で進めたが、特に思想内容の講義について、受講者自身の関心とどれだけ合っていたかという点について懸念された。

数値については特に低い値はなかったように思われるが、特別な関心の呼び起こしなどには至れなかったのではないかと感じている。

次クォーター以降に向けて、あらためて、とりわけアウグスティヌス思想などがいまの受講者の世代にとって持ち得る意味を考えて、取り組むようにしたいと考える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教思想A
授業コード	21C32-001
教員名	寒野 康太
教員コード	104315
登録人数	6
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

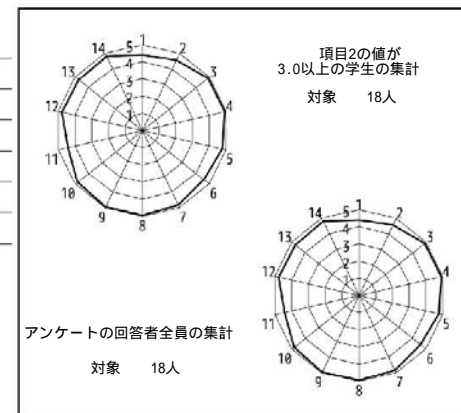
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、この愛業では、キリスト教の聖書解釈の歴史にかんして、一定の知見をもつことができるようになること、西洋の解釈学の歴史について知見をもち、自分の見解を表明できるようになること、そして、キリスト教内部の歴史における「伝統」理解の幅広さに関して、それぞれの立場を理解し説明できるようになることを目指したが、なかなか達成することはできなかった。まず、受講した学生たちが他学科が多く、そのような基礎知識が欠けていたことは、授業実践の大きな障害となった。それを埋めるべく努力しても、学生たちは関心を示さなかったという事態が生じた。

これに関連する点として、授業時間外の学習に対する反応が薄かったことをあげておきたい。準備学習として、渡されるプリントについて読み、課題に回答すること、並びに、予備的知識として、近代ヨーロッパの哲学の歴史等に関して自分で調べ整理することを課したが、それを実践してきた学生は一人だけだった。この点でも、科目の目的達成には困難をきたす要因があったと言える。この科目を通じて、解釈というものの理解、人文学上大きな比重を置いている実践、つまり受け手の側から、文章等を理解し、説明するという振る舞いについて理解を深めてもらうということは達成できなかった。よって、来年度から、本科目は大幅に構成を変え、履修生の要望に応えられるものとしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教史II
授業コード	21C58-001
教員名	袴田 渉
教員コード	104814
登録人数	87
回答数	18
回答率	20.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

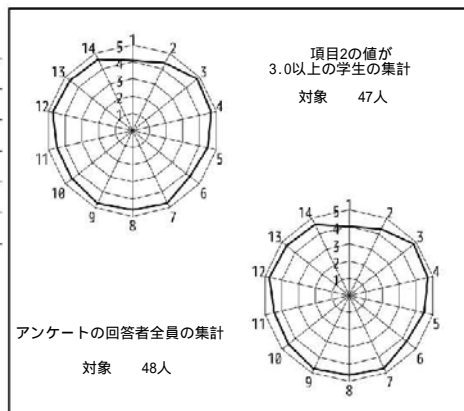
開講当初は、授業内容に対する学生からの意見や質問を促し、活発な授業づくりを目指したが、授業全体を通して学生たちからの質問数が期待していたよりも少なく、総じてやや不活発で教員から学生への一方的な授業となる傾向があった。しかしながら、学習意欲や質問の機会に関する項目11と12について、それぞれ4.44と4.78という評価を得ることができ、教員の予想に反し学生からは一定の評価のなされていたことが分かった。

数値データに関しては、項目1から14の平均値が4.75と比較的高い評価を得られ、特に項目4、8、9について高評を得たことが分かった。項目4の自己評価としては、毎回の授業の始めに前回で出された学生からの質問に答える時間を設け、授業の間には出来る限り視聴覚資料を用いて学生の集中力が途切れないよう心掛け、授業の終わりには質問や意見を2~3文程度でまとめる短いアクションペーパーを書く時間を作るようにしていた一連の取り組みが一定の評価を得たと考えられる。また、相対的に評価の低かった項目1については、シラバスへの記載内容が不十分であったが、学生にとって魅力的なものとなっていたことが考えられる。

次クォーター以降に向けての改善点・抱負としては、活発な授業づくりに向けて、教員が授業内容を説明し過ぎず、ある程度疑問の余地を残しておくことで学生からの質問や意見を促すといった工夫を試みたい。また、改善の必要な項目1に関しては、シラバス記載内容の更なる充実を図ることで対応していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
B <国際科目群> 2
授業コード 31C07-903
教員名 KISALA, Robert
教員コード 018275
登録人数 77
回答数 48
回答率 62.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

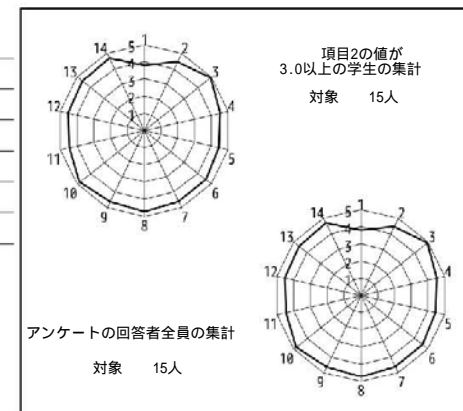
The goals of the course were two-fold: 1) students will become able to appreciate the continuing importance of religion, broadly understood, in many contemporary societies, focusing on the United States as an example of this phenomenon, and 2) students will be able to analyze and understand the current manifestations of religion in U.S. life and how that impacts on public policy. The responses to questions 5 and 6 indicate that more could be done to clarify the goals.

Overall, the evaluations indicate a high level of satisfaction with the class, although more could be done to motivate the students (question 11). In the comments, special mention is made of the incorporation of small group discussions and the online discussion with students in the United States as part of the NU-COIL program. I have been using NU-COIL in this class for the last four years, and the reports submitted by the students after the online discussion, as well as the evaluations, indicate that it was well-appreciated. I will plan on continuing the use of NU-COIL.

In terms of improvements, I will work to clarify the goals of the class and better motivate the students.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習II2
授業コード 15P13-002
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 17
回答数 15
回答率 88.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

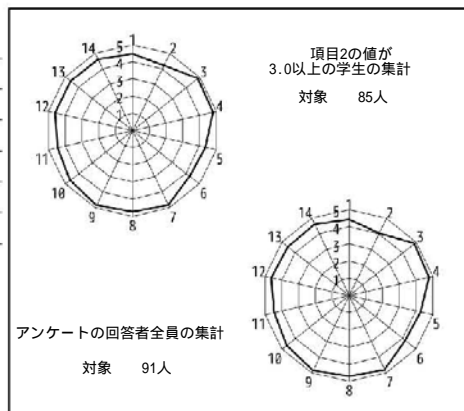
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。開校当初の目標として「1.図書館オリエンテーションとデータベースガイダンスを実践できる」「2. SNSによる情報発信ができる」「3. パスファインダーを作成できる」の3点を設定した。それぞれについて、学生から提出された課題を見る限り、概ね目標は達成できたと考えている

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目1-14の平均は4.56、項目3-14の平均は4.63で、いずれも開講科目全体および資格科目の平均を超えている。それぞれの項目についても極端に低い項目はないため、問題ないと考えている。自由記述の良かった点として「実践的に技術を得ることができる」「自分でやってみる形式の授業なので、しっかり学べた」という意見が複数見られた、演習形式の狙いは理解されたものと考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったこと」について「課題が多い」という意見が一件見られた。また「パソコンを長時間使うので、机にコンセントがある教室か充電がしやすい環境でないと授業がやりにくい」という意見も一件見られた。特に授業環境については、次年度から図書館セミナールームで行う予定だが、授業中に必要に応じてコンセントのある場所まで移動することも可としたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 考古学概論
授業コード 22B04-001
教員名 渡部 森哉
教員コード 101237
登録人数 127
回答数 91
回答率 71.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

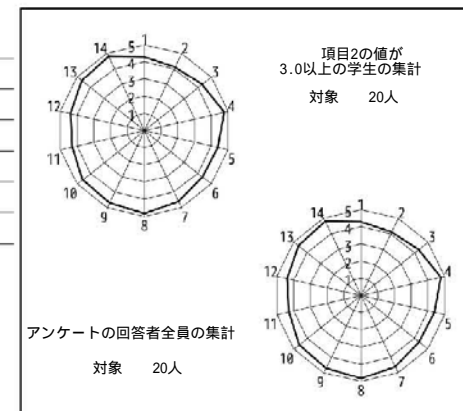


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業をおこなった。
授業評価の結果を見ると、概ね目標は達成されていると思われる。
設問2の数値がやや低い。予習の必要ないため、より授業の内容を復習して
期末レポートに組み込む工夫をしていきたい。
アンケートの回答者が登録者127名中91名であり、回答率が向上した。
自由記述欄では36名が好意的な意見を記入している。リアクションペー
パーで質問する機会が確保されていたこと、レジュメがあり家でも復習できたこと
、スライドを使用したことなどを評価する意見があった。
2名の受講生からは改善点を指摘された。レジュメにもう少し空白を作っ
てほしいという意見、および授業で用いた画像データを受け取れるようにしてほ
しかった、という意見である。レジュメの作り方に関しては次回以降改善した
い。また、授業で用いる画像データを全て配布することはできないが、レジュ
メに含める画像データをもう少し増やしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学文化論A
授業コード 22C22-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 60
回答数 20
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

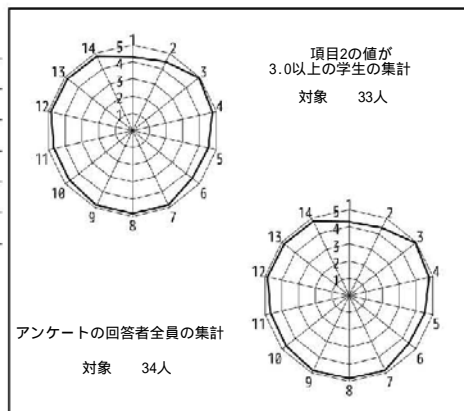
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標は以下を挙げていた。
・自然哲学の基礎知識・思考法を身につけ、さまざまな問題に応用できる。
・各種個別分野の理論的・哲学的基盤を理解している。
項目5および6が4以上であったので、概ね到達目標は達成できているものと判
断している。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点
検・評価。
どの項目も4以上であったので、総合的には問題がなかったのだろうと判断し
ている。特にこれといって気になる評点もなかったため、概ね想像通りの評価
内容ではあった。したがってこれ以上何も書けることはない。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
レポート課題が曖昧であったとの指摘があった。色々な論点を扱う授業であり
、自身で問題を見つけ出して欲しいとの考えで課題を広めの内容にしていたが
、今後考慮が必要なのかもしれない。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化理論
授業コード 22C36-001
教員名 吉田 竹也
教員コード 019158
登録人数 66
回答数 34
回答率 51.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

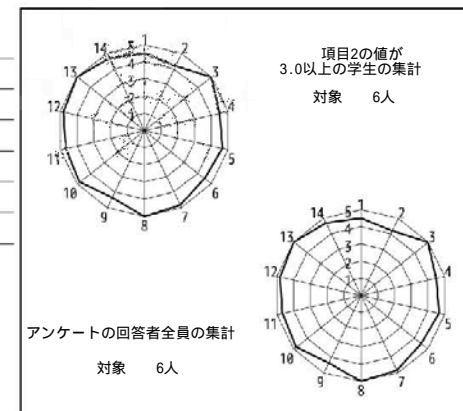
この授業は、理論面中心の講義と民族誌的事実中心の演習の回をほぼ半分ずつ組み合わせ、文化という概念・理論について学ぶ、選択科目の授業である。到達目標には、批判的検討を通じて、文化を論じる上で重要なポイントを把握すること、文化について論理的に思考する姿勢を習得することなどを掲げている。予習の負担がおおきい授業であることも、シラバスで触れている。

数値データおよび自由記述等を見るかぎり、こうした授業の趣旨はおおむね理解されていると判断する。自由記述の改善すべき事項には「授業内で積極的な発言が求められていたにもかかわらず先生が解説で全て話してしまうため発言する意欲が削がれてしまっていた」という指摘1点があったが、他方で「わかりやすい説明」を評価する意見もあり、「教員の丁寧な説明、質問・発言の機会を適宜設けている点、・・・活発な討議、聞くだけでなく自分でメモを工夫して取ったり、言葉にしてアウトプットする力が養われる」といったコメントもあった。

今後、説明過多には気をつけたいと考える。また、講義と演習とを組み合わせるといって授業はほかにあまりないようなので、そうした形式的特性や、内容的には何を学ぶ(学べる)授業なのかを、シラバスに明示し、この種の授業の受講を希望する学生の需要にこたえていきたいと考える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(日本)B
授業コード 22C57-001
教員名 青山 幹哉
教員コード 019323
登録人数 9
回答数 6
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

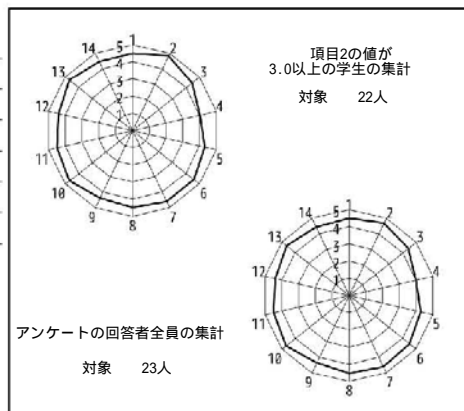
設定した到達目標は、(1)日本中世史料解読に関する基本的知識を習得できる (2)『吾妻鏡』の史料性格が理解できる (3)鎌倉幕府の歴史的特性が理解できる、の3点であった。設問6の平均値は4.50であり、期末試験受験者の平均得点は84.25点(100点満点)であったので、目標はおおむね達成できたものと判断する。

この科目は、2020年度Q4学期における学生評価の対象であった。2020年度はオンライン授業、今期は対面授業という相違点もあるがほぼ同じ項目なので、設問1~14の回答平均値を比較したところ、今回アップした設問が11、同じであった項目は2、ダウンした項目は0、であった。学芸員や研究者を目指さないと、授業で身につけた史料読解能力がすぐに活かされる機会はないであろうが、設問16の平均値が5.00であったところを見ると、受講生はそれなりの満足感を得たようである。ただし、自由記述に「予習が重いです」とあったように、あまり受講意欲のなかった学生には大変であったらしい。

問題は、受講生の減少にある。学期曜日時限が同じながら、2021年度は21名、22年度は19名、本年度は9名、と履修者数は年ごとに減った。難解であると敬遠された可能性を考慮し、次年度には、漢文だけではなく訓読文(古文)もテキストにして読解を易しくし、初学者にとってのハードルを下げようと思う。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(西洋)B
授業コード 22C60-001
教員名 坂下 浩司
教員コード 100471
登録人数 39
回答数 23
回答率 59.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

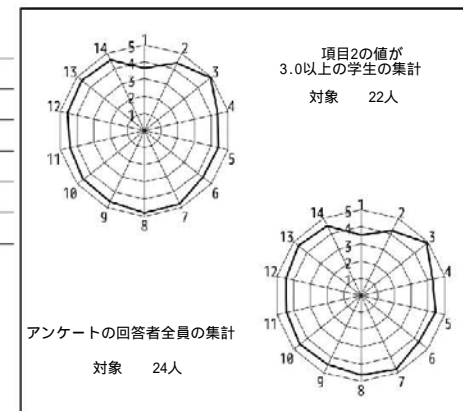


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)の「開講当初に設定していた目標と到達の程度」は、「人文科学の書物を原典で読む能力が身についている。外国語を自然な日本語に翻訳する能力が身についている。文献資料から生じる問題を理解し、それについて自ら考察する能力が身についている。読書ノートの作り方が身についている。古代ギリシア・ローマの天文星座神話の正確な知識が身についている」であった。(2)データと自由記述を踏まえた自己点検・評価：ポイントはどれも「4」以上であり、自由記述を見ても、「アンドロメダ座やみずがめ座の時に映像資料を見せてくれたり、星座の起源や辞典を参考資料としてアップロードしてくれた。本文訳へのやる気(星座への興味関心)を高めてくれた。翻訳の仕方について「情景を思い浮かべよう」というアドバイスが個人的にはグッと刺さった」、「映像資料や関連する文献などをいろいろな資料を見ることができ、取り扱う文献に出てくる人名や神話のエピソードについて知識を得ることができた。ギリシャ語やラテン語を受講している人には、資料の原文についての補足説明があったのもとてもよかった」などあり、目標は達せられたと思われる。(3)自由記述で「一人一人が回答する機会があり授業に参加していると感じられた」とあった反面、参加人数が「38名」だったので必然的に予習量が増え、否定的な自由記述として「予習が多く他の科目との兼ね合いが悪かった」などがあつた。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(民族誌)
授業コード 22C61-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 47
回答数 24
回答率 51.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

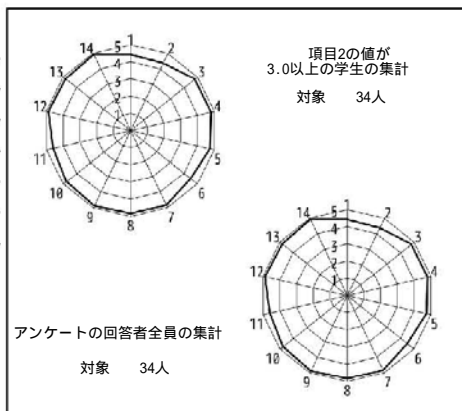


授業評価結果を踏まえた点検・評価

文化人類学を学ぶ上で、民族誌がどのようなものかを知り、理解していることは必須であるという観点から、文化人類学の古典的な名作と評価されている『The Nuer』を英語で読んだ。基本的に私が本を英語で(抜粋しながら)読み上げ、それを翻訳しながら、要約をし、重要な語句や表現、キーポイントについて随時出席者に質問・確認しながら、授業を進めた。それにより、全6章のうち、重要な部分が含まれている5章までを読み終えた。時々質問をすることによって、履修生がついてきているかどうか、内容を把握しているかどうかを確認した。授業評価は、出席と提出物(各章の要約)をもとにして行った。数値データは、「1」以外は評価が4以上であったので、真摯な態度で授業にのぞんでいた学生(つまり私の読むペースについてきてくれていた学生)にとっては、有意義な授業となったのではないかと思うが、開講時間が1限ということもあり、途中で意識が飛んでしまう(寝てしまう)学生もあり、授業についていけないとするコメントはそうした理由によるものと思われる。今回、比較的高評価であったので、来年度も同様の方法によって授業を実施したいと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)
授業コード 22C72-001
教員名 石川 岳彦
教員コード 104800
登録人数 102
回答数 34
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

期末レポート(提出率93.1%)の採点結果やアンケート結果をもとに履修学生の授業内容理解度をみると、開講当初に設定していた目標は達成できたと考えられる。

1~14のすべての項目の値が、大学全体および開講主体の平均値を上回った。なかでも授業の満足度に関する項目14の数値が4.91と全項目中もっとも高く、授業が学生におおむね好評であったと言える。

自由記述回答をみると、具体的な良かった点や評価できる点として、毎回の授業の冒頭に前回のリアクションペーパーに記載された質問に対して丁寧に回答していたこと、中国で撮影した遺跡や遺物の写真を多用した説明用スライド(Powerpoint)と配布資料のわかりやすさ、完成度の高さへの評価が目立った。これらは授業の質向上のために意識的に実践したものであり、取り組みとして成功だった。

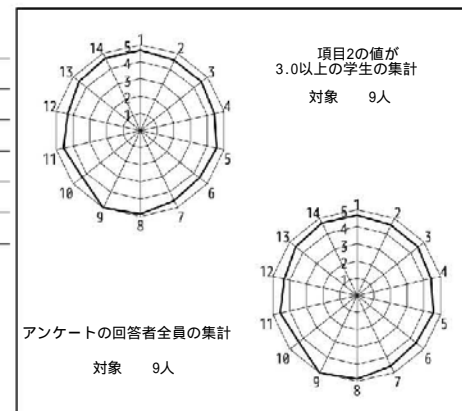
また、改善要望や困った点に関する記載がなかったことも授業に対する高評価を反映している。

本科目は、本学着任後初めての担当であったが、アンケート結果を総合すると、授業の内容、方法ともに適切だったと言える。

改善点をあげるとすれば、アンケートの項目2(4.38)、項目6(4.50)、項目11(4.62)の値がほかの項目に比べて若干低めであることだろう。これらはいずれも授業時間外学修に関連する事項である。次年度は中間レポートを導入して、これらの数値のさらなる底上げを図る予定である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐる5
授業コード 13A04-005
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 46
回答数 9
回答率 19.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目(学際科目・思想と文化芸術)として全学部全学科の学生を対象としている。本講義の到達目標は3つある：創造性と想像力について理解を深めることができる、美術教育と芸術療法における美術活動の意義について理解することができる、癒しとしての美術について自身の考えを表現することができる。

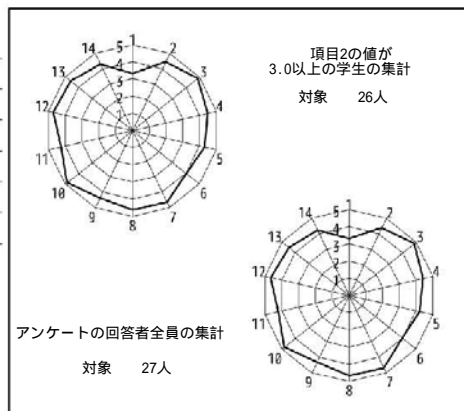
本講義は2020年に開講し今年度で4回目となる。今年度の大きな変更点として受講者人数が50名以下にしたことである。理由は、実際に創造的活動を授業内にも含めるため、そうした課題を教室でも実施できるよう人数調整を行った。そのおかげで、学生の理論的理解に具体性を持たせるような授業展開ができた。到達目標についての設問(項目6)に対して、2020年度の平均値は3.87であったが、今年度は4.56であった。このことは、理論と体験を組み合わせることで学生の理解が進んだとも考えられる。一方で、具体的な体験を授業にふくめることで、講義の内容が十分に時間内で伝えられなかったという反省点もあるので、この点は授業時間外の学習内容として改善する必要性を感じている。

学生の自由記述欄の評価できる点(項目15)として、グループワークや体験的な取り組みをあげている意見が複数あった。「知識的な理解だけでなく、感覚的にも理解しようと試みることができた。」という意見は、担当者が意図して取り組みたいと思った点でもある。また改善点(項目16)として、課題の説明が曖昧になり課題に取り組みづらいという意見があった。ウェブクラスで実施する課題の提示方法が曖昧であったと反省する。期限の提示の仕方や内容の提示の仕方を明示するようにしたい。

最後になるが、今回の授業評価の反省すべき点は授業評価を実施した学生が46名中9名と非常に少ないことである。そのことも、来年度の改善点としてできるだけ多くの学生が参加してくれるように取り組む必要性を感じている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習ID
授業コード	23A07-001
教員名	浦上 昌則
教員コード	018788
登録人数	31
回答数	27
回答率	87.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理人間学基礎演習ID

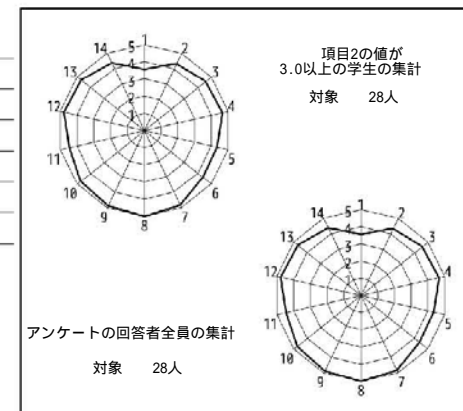
人間科学を学ぶ上で必要となるデータの扱い方、統計的な考え方の基礎について理解することを目的とする。具体的には、推測統計の考え方を理解する、表計算ソフト（エクセル）を用いて簡単な統計処理ができる、推定および検定についての基礎知識を習得する、などを到達目標としている。

授業評価の回答は、平均値が4以上の項目が多く、まずまずの評価を得られたと考える。授業形態として反転授業的なものを採用しているが、「理解定着問題が毎授業用意されおり、予習課題を通して学んだことを用いて、ら実践する機会が設けられていたこと。（回答ママ）」、「学生同士で教えあいができて、学生がそれぞれお互いに理解を深めることができていた点。」といった肯定的意見があった。他方で、「グループの子と、学力・この授業に対する向き合い方？がズレていて少しやりにくかった。」との意見も少数ではあるが存在した。授業中にも注意喚起をし、このようなことが起きないように留意している点ではあるが、学生の主体性を重視することに伴う不可避なりスクかもしれない。いっそう注目、注意していきたい。

なお、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という設問に対する回答の平均値は3.33と低く、1と回答した学生は少ないものの、2から5それぞれの回答比率は同程度であり、興味のばらつきは極めて大きいことがうかがえる。先行する心理人間学基礎演習1Cよりもばらつきが大きくなっている可能性もあり、調査検討が必要な点といえるだろう。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習ID
授業コード	23A07-002
教員名	藤田 知加子
教員コード	100382
登録人数	31
回答数	28
回答率	90.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

最終テストの全体成績から、おおむね目標は到達できたと考える。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

自由記述では、

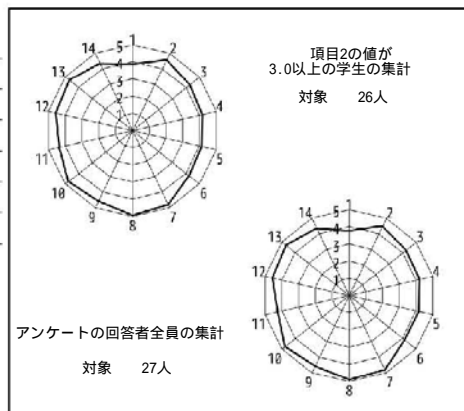
- ・内容ごとに授業が進むので内容が理解しやすかったこと。
- ・丁寧な説明やグループワークにより、難しいところを放置せず、理解しようという気持ちになった。
- ・毎回予習・復習があり、授業に対してのやる気が保てた点。
- ・グループで相談した後に先生のおさらいがあって確認できた。

など、グループ活動を用意していた点や、させっぱなしではなく教員からの解説があったことなどに対して高く評価する学生が多いことがうかがえた。本講義は反転授業形式で行っているが、その目的とねらいが受け入れられているようで、この点は評価できると考える。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など予習課題の印刷持参については、金銭的な問題を報告する学生もいたので、この点は今後の課題と言えよう。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習ID
授業コード 23A07-003
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 33
回答数 27
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、以下の3点であった。

- ・推測統計の考え方を理解する。
- ・表計算ソフト（エクセル）を用いて簡単な統計処理ができる。
- ・推定および検定についての基礎知識を習得する。

定期テストや、Excel統計による分析を用いた小レポートにより、上記の目標は概ね達成したと考えている。

学生の主観評定においても、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目への評定平均は4.70という結果であった。

その他の授業評価アンケートの結果も、概ねポジティブであった。

本授業は、反転学習と協同学習を組み合わせた授業形式で行われた。

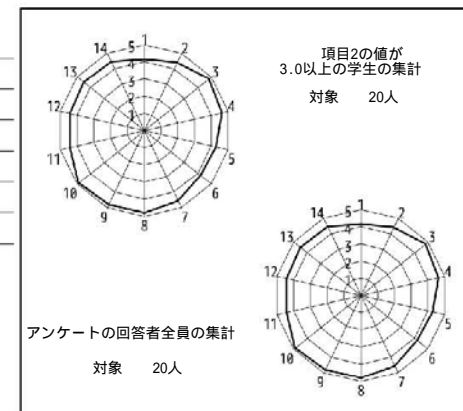
自由記述では、「学生同士で話し合うことでどこが分かっていたとどこが分かっていたかを自分で知ることができた。分かっているところを教えることで理解を深めることができた」というコメントに表れるように、グループでの話し合いの中で自身の疑問や不明点を解決しながら進められたというコメントが多く得られた。

これらは、本授業で意図していた学びや相互作用が学生たちによってなされており、本授業のねらいが一定程度成功していたことを示唆するものと考えられる。

一方で、授業中に解くことを求められる課題については、教員による解説の時間をもっと増やしてほしいという趣旨のコメントがいくつかみられた。グループで取り組む時間と、講義・解説の時間のバランスをとることは今後の課題と考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育課程論
授業コード 23C16-001
教員名 高橋 亜希子
教員コード 103582
登録人数 38
回答数 20
回答率 52.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

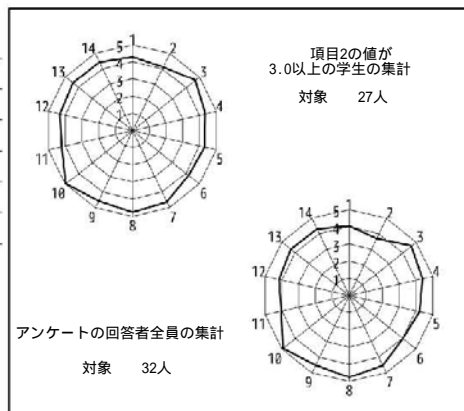


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について：今回の授業では、12月までに系統的な内容の部分を終え、1月にグループ発表を行う計画であり、その通り進めることができた。グループ発表のテーマが昨年は多岐に亘り、拡散した反省があり、今回は教育とAI・ICT使用を統一のテーマとした。学生の自由記述として「戦後から今までの教育の変遷を学習指導要領の変化と比較してみることができる。またその変遷や変化について小テストによって理解が促されている。グループでの活動や話し合いが多く、他者の意見や経験を知り、自らと比べることができる」という感想から、前半を講義とし、後半にグループ活動を入れた意義があったと捉えている。一方「テストもレポートもグループ発表もあるのは大変」「グループ発表があることは自分たちで調べる機会や、他のグループから得られる学びも多かった。しかし単元的な知識の学びももっとしたかった。」という意見もあり、内容を絞る必要性も感じている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション論
授業コード 23C18-001
教員名 加藤 隆雄
教員コード 019349
登録人数 81
回答数 32
回答率 39.5%
休講回数 2 回
補講回数 0 回

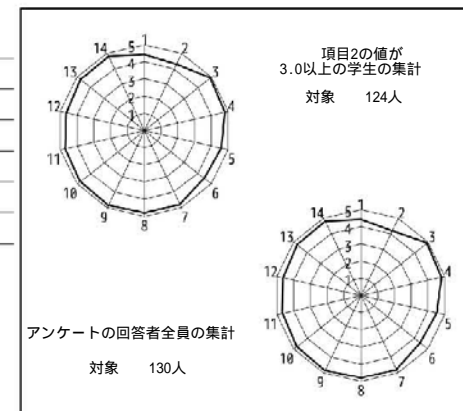


授業評価結果を踏まえた点検・評価

体調不良のため、2024年に入ってから対面での授業ができず、受講者には申し訳なかった。このアンケートも授業外に回答してもらうことになったため、回答数も1/3程度になってしまった。2021年にもこの科目でアンケートを行っているが、回答者がしぼられたせいかもしれないが、そのときよりも全体的に評価は全般的に上がり、当初の目標は一定以上達成したといえる。「あえていえばQ11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の平均点が低いが、講義型の授業であることの限界はあるにしても、講読推薦文献を示すなどの対応が必要ではないかと思った。自由記述での良かった点としては「授業スライドがしっかりと授業前には提示されるので予習できる」「レジュメが充実していた」「一つ一つの説明のための例をたくさん用意してくださったため分かりやすかったです」などがあり、熱心な学習者には授業の内容がよく伝わったと思われる。改善すべき点としては、パワーポイントの色が見づらいという指摘が複数あった。パソコンで表示される色と、スライドをプロジェクタで呈示する際の色、受講者各自が印刷する際の色とがそれぞれ微妙に違うこともあり、調整は難しいが、ひとまず濃い色の背景を修正したいと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 発達心理学
授業コード 23C21-001
教員名 西脇 良
教員コード 100623
登録人数 266
回答数 130
回答率 48.9%
休講回数 2 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、 出生前期から老年期までの主要な発達課題、定型/非定型発達に関する基礎的知識の習得、 学生自らの生育史への理解、を学修目標としました。

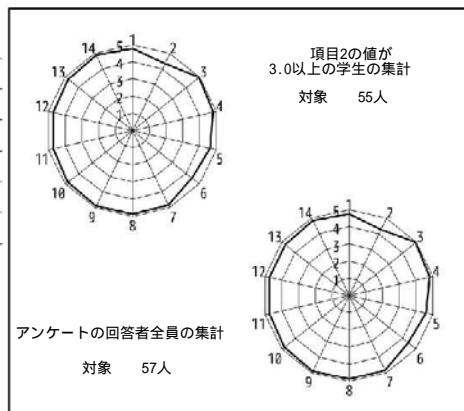
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあ良し」との判断であったように思います（全設問の平均値 = 4.67）。この値は、心理人間学科科目の平均値（4.59）、および評価対象科目全体の平均値（4.50）を若干上回っていました。

自由記述についてですが、まず肯定的な意見として、「視聴するビデオが学習する上で理解の助けになった」「授業資料が多く、授業で扱わない範囲も含まれており、発達心理学に興味がある者として有難かった」「説明が丁寧で理解しやすい」「先生のお話が面白くて授業の内容がずっと入ってきた」等の評価を40件ほど頂戴いたしました。今後も、最新データを紹介しつつ、皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

他方、改善すべき点として、「授業中にお菓子を食べている人がいた」「話す声の調子がゆっくり過ぎて眠くなってしまふ」の2件を頂戴いたしました。授業態度については、水分補給のみお認めし、それ以外は見つけ次第声をしておりましたが、気付かなかった時もあったと思います。いっそう留意してまいります。入眠を誘発させやすい声とのご指摘は、小学生からも長年指摘されております。パーソナリティの一部でありなかなか改善も難しいですが、皆さんの様子を見ながら調整できるよう、取り組んでまいります。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード 23C60-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 138
回答数 57
回答率 41.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約140名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目(項目6)は、4.40と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたと考えることができる。また、全体に関する満足度に関する項目(項目14)は、4.84と高い水準にあることから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

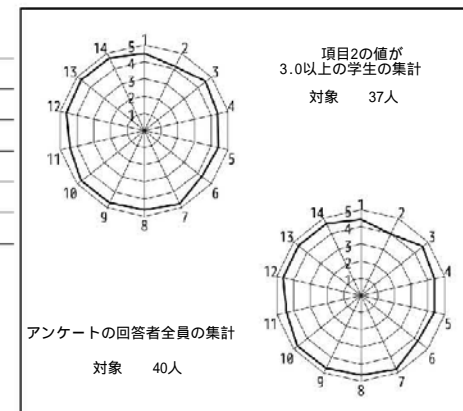
WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設け、VTRを多く活用し、実際に実験のデモを行った。また、昨年に引き続き、WebClassのアンケート機能を用いて、毎回の授業後の記録(ジャーナル)を記入してもらった。書かれた内容は、匿名状態にして、受講生全員が相互に見られるようにし、質問には講師が回答した。とくに、映像を多く用いたことについては自由記述でも複数言及されており、学習に効果的であったと言える。

(3) 改善点

自由記述において、教室の狭さに関する要望が数多く見られた。初回授業時に教務課とも相談したが、該当する教室がなかったため変更はできなかった。授業では、遅刻学生が着席できずにいたこともあった(講義時は気づかなかった)ことなどもあり、改善が求められる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード 23C78-001
教員名 中野 有美
教員コード 103995
登録人数 95
回答数 40
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

について

精神疾患について今日的な正しい知識を修学することで精神障害に対する偏見が減り、支援の在り方について検討でき、自分自身のメンタルヘルスについてモニター並びにマネジメントできる人材育成を目指した。講義中のごたえ、各講義後のリアクションペーパーの内容、履修学生からの授業評価の特典と記述から、それらは概ね達成できたと考えている。到達目標に向け、次のようにできる限りの工夫を凝らした。講師自身が講義に対して真摯な態度を貫き、各講義のテーマを厳選し、学外講師を招聘し、動画を用いるなど複数の手法を駆使して学生の集中力を持続させる工夫を行った。

について

項目2の得点が低めであった。しかしながら、本講義のテーマは公認心理士免許を取るためには必須だが、心理人間学科が開港している科目の中では決して主流ではない。担当者としてはなるべく多くの若年者にメンタルヘルスに向き合う総合的な力をつけてほしいと願っているため、履修意欲向上を狙って予習復習が必要な状態にはしていない。今後、何等かの工夫によって項目2の得点を現在以上に向上させるのは至難かもしれない。各授業後に提出を指示しているのリアクションペーパーはできる限り次の講義の前までに目を通し、そこに書かれている質問や意見には何らかの反応をしていきたい。資料配布については、後部座席の学生の負担が増大しないように何等かの工夫をしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 カウンセリング演習

授業コード 23C87-001

教員名 楠本 和彦

教員コード 055780

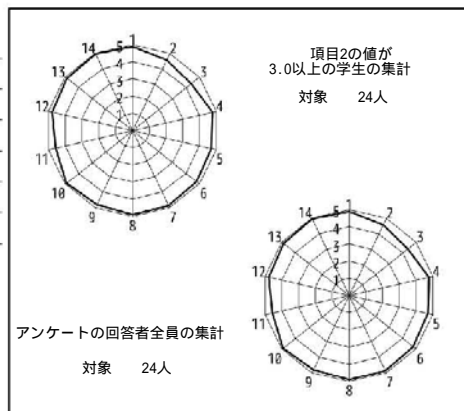
登録人数 33

回答数 24

回答率 72.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、以下のものであった。

1. マイクロカウンセリングの考え方の概要を理解している。
2. マイクロカウンセリングの基本的傾聴技法の考え方を理解するとともに、それを実践することができる。
3. マイクロカウンセリングの積極技法について、理解している。

本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、授業時間に関する項目3において、本授業の結果が下回った。本授業は実習を伴うため、授業運営上、授業の終了時刻が定時にならない場合があったためと考えられる。学生グループによる各技法についての発表時間が流動的であることと、カウンセリング実習は1クール約30分かかるため、授業運営が難しい面がある。今後、改善を検討したい。

それ以外の項目は全学の平均を上回っており、設問1 - 2、5 - 7、10、12 - 14の項目は0.2ポイント以上、上回っている。これらの項目は、授業への参加、授業全体、授業運営、全体的な評価に関することであり、現在のそれらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。設問5 - 6、13 - 14 の評価を見ると、到達目標は達成されたと考えられる。設問7、10 - 12の評価を見ると、授業運営に関しても一定の評価を得ていると考えられる。

今後とも、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史C

授業コード 24C13-001

教員名 坂井 博美

教員コード 102981

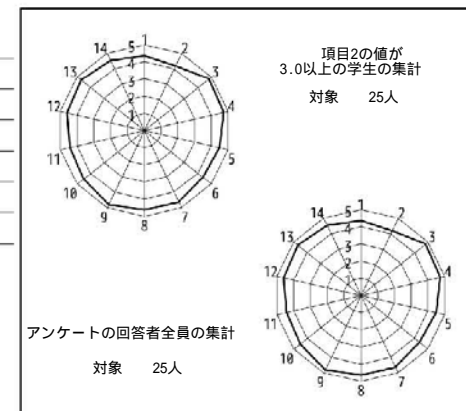
登録人数 104

回答数 25

回答率 24.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

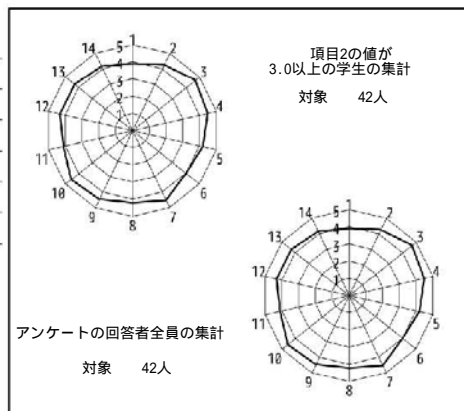


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できた。授業では、史料を多く提示し、それを使用した小課題を提出してもらうこともあった。そのため、アンケートの「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」という問いの数値が高かったことは、その成果としてみてよいかと考える。一方で、回答の数値が最も低かったのは、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」という設問であった。課題提出以上の主体的取り組みへの意欲を引き出すという点で、課題が残ったといえる。次年度は、課題の内容もより長期的、積極的な学習へとつながるようなものになるよう工夫をしたい。小課題は授業内に提出してもらうもの、あるいは授業後に提出してもらうものがあったが、自由記述においては、授業内での課題取り組みの時間がもう少し短くてもよいという意見と、時間が足りなかったという意見がいずれもあった。この点も、進捗状況をみて、適切な方向を探りたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代日本とアジア
授業コード 24C14-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 98
回答数 42
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

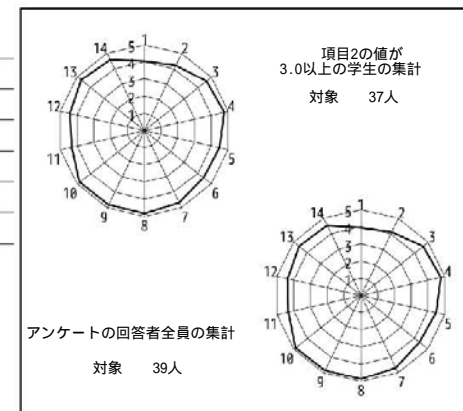
この授業では、植民地期台湾の状況から、近現代日本とアジアの歴史的関係性について考察するという全体テーマのもと、特に台湾先住民政策に焦点をあて講義形式で授業を行った。主な教材としては、教員作成の配布プリントを使用し、それへの解説と補足の板書を中心にテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパー記述の時間にあて、各回の授業で扱った内容をテーマとして、それについて考えたことや感想、質問などを書いてもらい、次の授業の冒頭で、教員がそのいくつか紹介することで復習を行うとともに、適宜、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、シラバスに示した授業計画は、ほぼ予定通りに進行することができた。

上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法などについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.52、設問9の4.52、設問10の4.57という比較的高い数値や、「自由記述欄」で、配布プリントや多様な資料、そしてそれらへの解説について、複数の学生が好意的な意見を寄せてくれたことから、おおむね好評であったと思われる。

反面、「自由記述欄」で、リアクションペーパーの課題の提示方法や提出期間、教室の使用方法について、改善したほうがよい点として意見が寄せられていた。これらの点、特にリアクションペーパーの課題の提示方法については、今後、よりよい方法を工夫していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世文学研究
授業コード 24C33-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 80
回答数 39
回答率 48.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

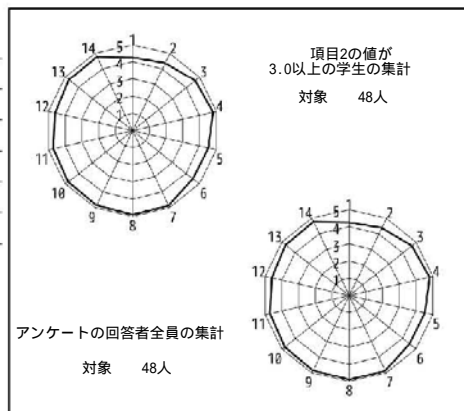


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が3.95であるのに対して、設問14の満足度も4.51であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えているが、当初からより関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目のうちの一つであり、日本文学のうち古典文学作品を扱い、多少専門性の高い知識も求められる内容であった。履修者に他学科生が少数だが含まれたため、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり普遍的な作品理解の方法につながるように、また、具体的な関心を高められるように努め、本文の解釈においても負担をかけないようにとつとめたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。また登録期間中の初回・二回目の出席の取り扱いや病欠の取り扱いについて不満があったが、公平かつ厳格な対応を模索したい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけたが、回答数が十分でなかった改善を期したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代小説研究
授業コード 24C37-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 106
回答数 48
回答率 45.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q4の開講科目「近現代小説研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

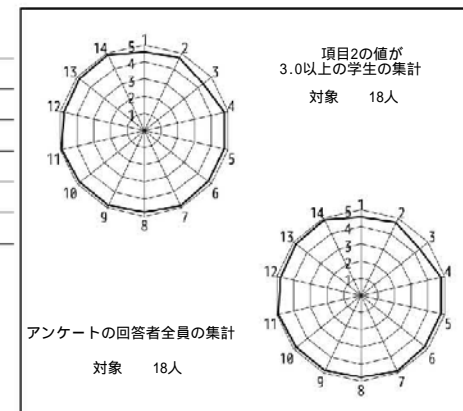
まず、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5で4.54という評価を得たことから確かめられる。

次に、数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問1-14の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.71、4.77という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）の内容に関しては、これまでも改善を重ねてきたが、次クォーター・学期以降に向けて一層の改善を図りたい。具体的には、予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びを充実させたい。また、授業で配布するレジюмеについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 古文獻入門
授業コード 24C42-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 33
回答数 18
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた目標は以下の通りであった。

- 1 簡単な漢字が混じた平仮名のくずし字を読めるようになっている。
- 2 日本の古い書物の形態についての基礎的な知識を身につけている。
- 3 書誌学についての入門的知識を得ている。
- 4 活字からではなく、原本をみて研究することの意味に気付いている。

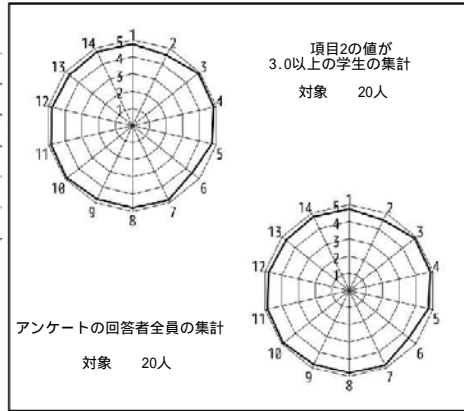
試験の結果を見ると、1～3については、ほとんどの受講生がある程度のレベルにまで達したようであるが、4については、授業中十分触れることができなかった。

少人数の授業であったことと、目的が見えやすい内容であったことから、授業評価の平均値は大変高かったが、今後も工夫を続けてよい授業にするように努力したいと考える。特に、こまめに課題を出すこと、実物を見せることを心掛けたい。

自由記述の中に、声が小さい、字が小さいというものがあった。教室のサイズがやや大きかったので、そこは留意すべきであった。反省点である。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の会話教育
授業コード 24C63-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

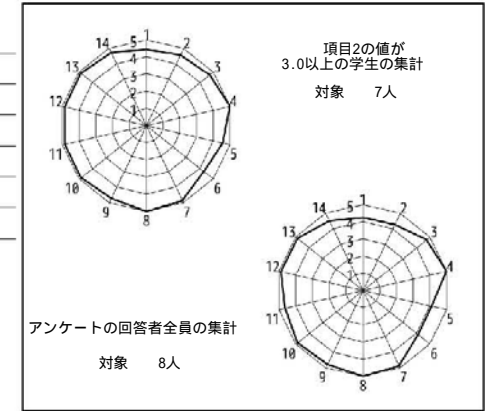
開講当初に設定していた目標は、概ね達成されていたとようです。イタリアのヴェネチア・カフォスカリ大学とのCOIL活動については、先方の大学の学生とのグループ編成に教員も学生も相当手間取り、計画の日程より活動が遅れましたが、学生の自由記述や毎回のリアクションペーパーのコメントから多くの成果があったことがわかり、時間をかけた甲斐がありました。全体に学生の評価は高めでしたので、授業活動や計画は概ねよかったのだと思います。

今後の課題として、最も気がかりなのは、いかに学生に課題へのフィードバックをするかです。クォーター半ばに提出された課題については、グループ全体についてのフィードバックはしましたが、時間的制約のため学生それぞれにはフィードバックをすることは、できませんでした。さらにクォーター末の課題についても学生の学びを高めるためにはフィードバックするべきかと思いますが、卒論評価や入試業務など他の業務に追われてフィードバックすることが難しいため、フィードバックできずにいます。学生へのフィードバックを効率よくされている先生方の事例を聞く機会があればありがたいです。

また、今回は、MacBookの画面をプロジェクターで映すことに手間取りました。今後、教室の視聴覚の設備について事前に十分に把握し、毎回早めに教室に向かうことに努めます。Windowsなら問題がないはずとは伺っており、WindowsのPCを購入するかどうかとも思案中です。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語学と日本文化
授業コード 24C65-001
教員名 平子 達也
教員コード 104112
登録人数 20
回答数 8
回答率 40.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

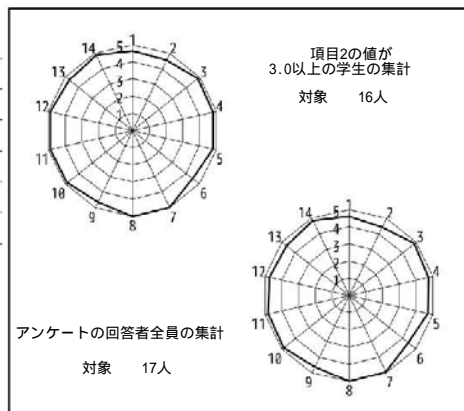


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標としては、「キリシタン語学（キリシタン資料の成立背景や扱い方など）についての基本的な知識を持っている」「キリシタン資料の研究を通して、文献資料を用いた日本語（史）研究の方法を知り、日本語史研究に必要な視点や考え方を身につけている」の2点を設けた。レポートを見る限り、特に前者については概ね達成されていると思われる。しかし、一方で、授業内容が専門的であるにも関わらず、その前提となる知識を十分に身につけず受講生が多数いたために、2つ目の目標については達成できたとは言いがたい。アンケートに答えてくれた学生は概ね肯定的な評価をしてくれたようだが、実際としては、高度に専門的な内容であったために、十分な理解が達成できたとは言えないと考えている。今後、このような専門的な内容を扱う際には、シラバスにその旨を明記し、その前提となる知識が身につけていない学生に対しては、受講を差し控えるように促す、あるいは、自主的に補うように強く求めるなどの措置を講じたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(中級)
授業コード 24C66-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 25
回答数 17
回答率 68.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 年度により受講人数の増減が大きく、昨年度は2回の発表機会があったが、今期は1回にとどまった。十分な発表時間と質疑応答時間、教員からの指導時間を考えると、これはやむを得ないと考えている。当初に設定していた目標には受講した学生はおおむね達成できていると考えているが、発表回数を重ねることで改善を実感させる機会が得られなかったことが課題かと認識している。

(2) 予習・復習、主体的な取り組み、という点での数値が低かった。今期は、質疑の担当者を決めたことから、自由記述にはその点を評価したコメントも見られたが、質疑の担当者が事前に担当箇所も把握する工夫をしておくべきだと考えた。発表者の発表資料の事前提出は昨年度までは指示していたが、今期、その縛りを外したことが影響を与えたものとする。

(3) おおむね高い評価を得たと考えているが、上述したように、今年度以上の履修者が出た場合に発表回数の確保をどうするかということは重要な検討課題である。受講人数の制限を検討してもよいかと考える。一方で、日本語教員養成プログラムの科目の一つであることから、受講人数の制限に抵抗があることも事実である。また、発表箇所は、受講者がある程度自由に選択できるようにしたことから、質疑担当者の事前準備に課題を残した可能性が高い。発表箇所を事前に指示し、質疑の準備をしやすい状況を作ることも検討したい。受講者が自由に選べることのメリットとしては、自分が知りたいことを調べ発表し教員からの指導が受けられること、と認識していたのだが、この点を生かす方法を検討していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: International Studies A5
授業コード 31B04-006
教員名 WILSON, John
教員コード 102696
登録人数 11
回答数 3
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

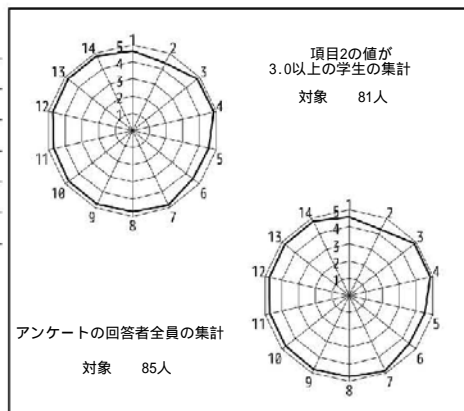
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since this was the first time the course was taught, in retrospect I think the amount of reading and homework was balanced and appropriate.

Having realized that some students may not be used to reading English texts on their own and may find it difficult, I elected to have students read some parts of the text in class and I explained significant points while the reading took place. This was useful for the students as they took notes. I also think the quality of the portfolios was very good. A few students may have been frustrated about the amount of time for the assignments, however that is the nature of Q4 and having 2 100 minutes back to back. Before making significant changes to the course, I will teach it once more and determine if the same concerns arise for the students. Overall, I think the students appreciated a historical look at a certain point in American history and how this period (Reconstruction, post Civil War) influenced Black Americans. A student mentioned something about sun coming through the curtains in the afternoon. This was addressed in class and students if needed were able to close the curtains and did so.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語研究の基礎
 授業コード 31D01-001
 教員名 今井 隆夫
 教員コード 104239
 登録人数 117
 回答数 85
 回答率 72.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

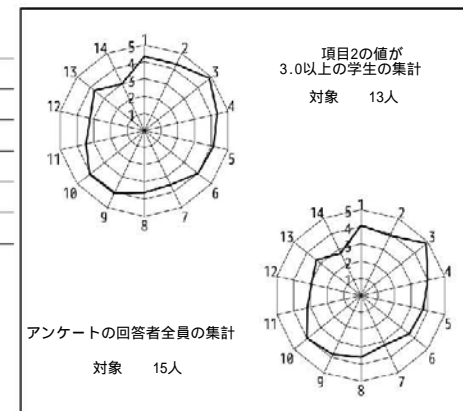


授業評価結果を踏まえた点検・評価

数値データおよび自由記述コメントから、開講当初設定していた目標は十分に達成できたものと考えられる。言語学の入門的な内容を使い、学生に抽象と具象を往来して考える力を付けてもらうことを目標にしたが、数値データと自由記述から、目標が達成できたことが観察できる。まず、次の自由記述コメントから学生が授業に参加して、内容を積極的に理解していたことがわかる。「たくさん新しい知識を身につけることができた。/ 言語の面白さを知ることが出来たこと。/ 先生が合間に話してくれる小話もためになる情報であったこと。/ 一年生が履修できる唯一の言語学の授業で、この分野の基礎を学ぶことができて楽しかった。/ 飽きない話し方と内容の面白さが今井先生の魅力だと思います。」また、次のコメントから、学生同士で話し合いを通して、学べたことがわかる「毎回のリアクションペーパーや、ペアの人と質問の答えを相談する時間が十分に設けられていたため、内容を理解しやすかった点。/ 学生が授業に発言を通して参加できる点。生徒同士で話し合う時間が頻りに設けられ、友達と意見交換することで理解を深められたこと。」また、「今井先生が、このテーマのことがとても好きで、学んで欲しいという気持ちが伝わるとも楽しい授業でした。」というコメントから、授業は教員対学生のコミュニケーションであり、伝えたいことを伝えることの重要性を再確認できた。120名程度の大きなクラスであったが、質問と話し合い形式を取り入れ、学生に身近な言語の具体例から考えてもらうことで、抽象化する帰納法を採用した点がうまく機能したので、来年以降もこの線で進化させたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの歴史
 授業コード 31E06-001
 教員名 原田 健二郎
 教員コード 104468
 登録人数 48
 回答数 15
 回答率 31.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果では全体平均値が約3.6となり、これまでで最も低い数値となった。学生が求めるものとのギャップがあることを認識し、反省をもとに大いに改善しなければならないと考えている。

講義中心の授業スタイルを2コマ連続で行ったことが大きな原因ではないかと考える。担当者が受け持つ全授業の中で、本科目は知識教授型の授業と割り切っており、初回にもその説明をしたのだが、この授業のみを履修する学生にとっては単なる講義授業であることには変わりがなかった。映像視聴を取り入れたり、約50分ごとに休憩を入れたり、決して教員が話し続けないようにはしたが、50人程度の教室で各学生に話させる方法が考えつかないまま、授業を続行してしまった。中盤ごろから教室内の空気が停滞し始めたことは察知していたので、やはり早めに対処すべきであったと後悔している。授業時間の後半はペーパーを通じての質問への回答時間に充てており、数十人の質問に答えるなど質問の機会は確保していたが、この数値が低かったのは、やはり「口頭で」そうする機会が設けられなかったためだと考える。

無断退出を含めた出欠席や課題提出の管理を厳格に行ったことも不満を呼んだと考える。これまでの授業運営で見られた様々な問題点をもとに、注意や警告を随時行ったことが、重い空気を生んだと反省している。自由記述欄には若干誤解がみられたように思われる。「無断」退室は不可であるとは指示したが、様々な理由でことわりがあれば可であるので、トイレ退出もできないというのは誤解である。また、任意のインターンシップは授業時間外に行うものと考えてるので、これに配慮することは難しい。

課題を多く課したことも、「労多くして益少なし」の感を強めたかもしれない。しかし本年度の成績は例年よりよく、真面目に取り組んだ学生にはよい成績がついた。全体的に出席率も高く、私語もない授業になった。厳格さと自主性、強制性と自由のバランスをとることは難しいが、今後も思索し続けたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外国語教育論

授業コード 31E13-001

教員名 COCHRANE, Robert

教員コード 104483

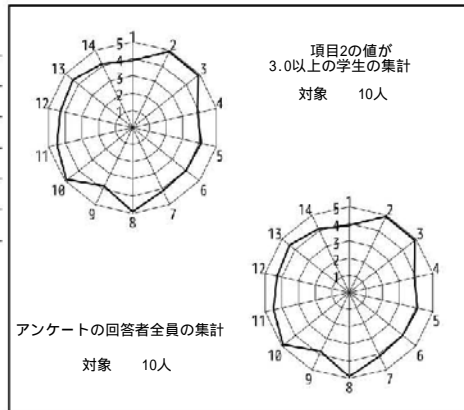
登録人数 21

回答数 10

回答率 47.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the first time to teach this course and from the student evaluations I believe that I was successful in giving the students a positive experience. Student responses were positive in almost all areas. I think that the goal and materials covered were achieved. In the future, I will need to slow down the delivery of content and allow students more time to prepare on their own and discuss ideas in class. I will reevaluate the course content for next year. Some students commented on the text in slides but this was only one or two students. Without knowing who the students were it is difficult to evaluate. Students had the opportunity to select their own seating yet some students chose to sit at the back of the class. Students who had difficulty seeing the slides could have sat closer to the TV. I will be reviewing and updating the slideshow in the future. The pacing of the class was appropriate according to student responses. From the numerical data students were generally positive and the class was successful. The experience was also positive for me, students seemed to be engaged and their projects showed that they were able to understand the contents and goals of the course.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米社会特殊研究A

授業コード 31E26-001

教員名 大井 由紀

教員コード 101888

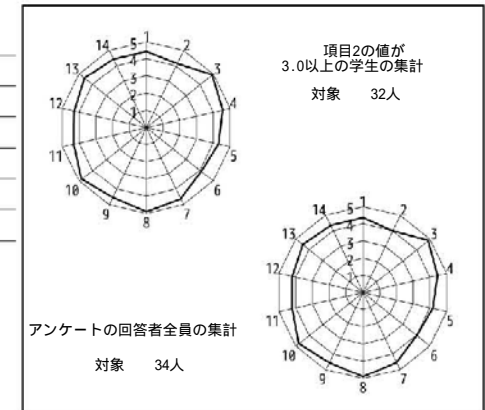
登録人数 50

回答数 34

回答率 68.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

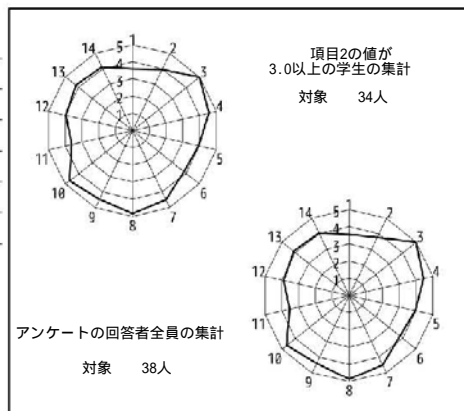
本講義の到達目標は、アメリカ社会における差別について、
 (1) ジェンダー・セクシュアリティや人種・エスニシティ、移民などの視点から具体的に理解する
 (2) 各イシューに関する理論を学ぶ
 (3) 差別を解消するためにどのような努力が行われてきたのか、という問いを中心に、アメリカ社会への理解を深め、アメリカ社会の問題について考える力、自分なりに「平等」とは何か考えようとする姿勢が身につく
 でした。
 到達度を期末試験の結果から推察すると、当たり前ではありますが、学生さんの熱意と取り組み具合に応じてかなり差が出たように思います。
 毎回の復習の時間に最重要キーワードの説明を繰り返し行い、期末試験でその語の意味を記述式で問いました。その結果からすると、口頭での説明をよく聞かず(メモをとらず)、パワーポイントの資料に頼っているように感じました。結果、説明が不十分な回答が目立ちました。

復習は従来、私が重要な点を絞って解説していましたが、受講者のより能動的な参加を目指し、私が質問し、学生さんに回答してもらおう、あるいはグループで議論してもらおうなど、やり方を再考したいと思います。

講義内容についても、アップデートしていきたいと思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済特殊研究A
 授業コード 31E30-001
 教員名 金 慧昇
 教員コード 104504
 登録人数 48
 回答数 38
 回答率 79.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

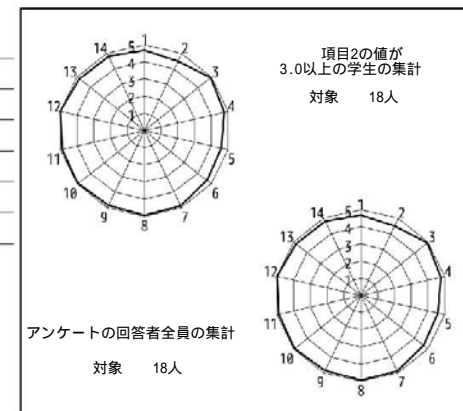


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、産業革命がなぜイギリスで起きたのかという問いについて考え、産業革命が世界経済に及ぼした影響を分析し、現代経済の形成過程を理解する手がかりを得ることでした。そのために、毎回の授業の前半ではグローバル視点から見たイギリスの産業革命についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容と関連する議論の時間を設けました。今年度からはアクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークを導入し、授業の後半にはグループごとに討論を行うとともに、研究報告のための準備をしていただきました。本授業を通じて、多くの学生がイギリスの産業革命について具体的な理解を深めることができたと思われます。また、最初は本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、グループ・ワークを通じて様々なテーマについて主体的に考えて調べる機会が得られたと思われます。ただし、今後は講義にもっと集中できるような方法や、グループ研究を準備する時間を十分に確保するなど、より効果的な運営方式を工夫する必要があると感じられました。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII[FS]1
 授業コード 11D08-001
 教員名 牛田 千鶴
 教員コード 100657
 登録人数 32
 回答数 18
 回答率 56.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



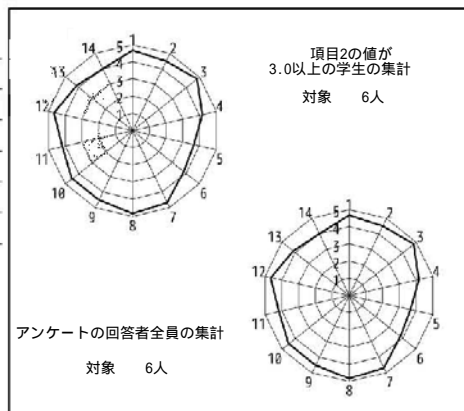
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年次生用の本科目は、シラバスにも記載されている通り、スペイン語文法の基礎固めを目標に掲げている。第4クォーターともなれば、基礎といえども次第に複雑な文法知識も必要となり、覚えなければならないルールや活用、語彙の量も格段に多くなる。そのため、授業の中では何度も、過去に学習済みの項目にも立ち返って復習をしつつ、新しい内容が定着するよう心がけた。文法を学び始めて1年近く経つ段階ともなれば、学生各自のアウトカムにどうしても差が見られる時期とも重なり、授業進度を多少遅らせてでも定着度を優先させつつ進めたが、期末試験の結果を見る限り、学習達成度に大きな差が表れている。2年次以降、その差をどう縮めていくのが学科の言語教育全体にとっても新たな課題となるであろう。

授業評価そのものについては、どの設問に関しても平均値が4.50から5.00の間に収まっており、概ね学生にも満足してもらえたことが窺われる。自由記載欄にも、丁寧でわかりやすく面白い授業であったとのコメントが何件もあり、上記の意図が学生にも好意的に受け止められていたことが確認できる。来年度は後半から研究休暇を取得するため本科目は他の学科教員が担当する予定だが、しっかりと引き継ぎを行ない、1年次生のよりよい教育に繋げていきたいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII [FS]2
授業コード 11D08-002
教員名 額田 有美
教員コード 104774
登録人数 35
回答数 6
回答率 17.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

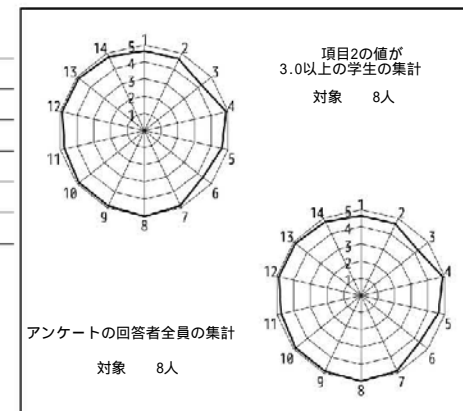
開講当初に設定していた目標と到達の程度()について、スペイン・ラテンアメリカ学科の他のスペイン語科目(講読や作文、会話)との密接な連携を保ちながら授業運営を行うことはできた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価()としては、シラバスのスケジュールを遵守したうえで、無理のない範囲で学生への個別的な対応および学習補助に概ね取り組むことができた。授業内容+ で学習したいと申し出た学生に対しても、その都度柔軟に参考テキストなどの情報提供を行うこともできた。他方、本授業に先立つQ1~Q3の間に生まれていた学生間での学習内容への理解度の差が、本クォーターではさらに著しくなっていた。

このようなクラスの状況において、限られた授業内のみで一人一人に「寄り添う」ことは非常に困難だと感じた。授業前後の休憩時間中なども利用し、学生が気軽に質問し易い時間を今後も意識的に設ける等の工夫を、次クォーター・学期以降に向けての改善点および今後の抱負、方針()として実践していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン文学特殊研究B
授業コード 32C15-001
教員名 小阪 知弘
教員コード 103689
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、予定していたスペイン語劇の概要と理論及び実践を全て扱うことができたので、目標まで到達できたと考えている。また、到達の程度であるが、授業中に実際にスペイン語による台本の読み合わせをおこない、生のスペイン語劇の成り立ちを学生たちが実感できたため、到達の程度も達成できたと判断している。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、最高5.0を獲得し、最低でも4.25だったので、数値データについてはある程度、達成できたと見なしている。自由回答についても、おおむね好意的な記述が多かったので、授業がうまく展開できたと判断している。だが、板書きの並べ方が不十分であった点は反省し、板書きを見やすく空間的に書き取りやすいよう明瞭に書き込んでいこうようにしたいと目下、考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについてであるが、さらに研鑽を積んで、講義内容の質を高めたいと考えている。今回指摘があった、板書きの配置を思考の流れと連結させて工夫し、より良い講義展開へとつなげていけるよう研鑽を積んでいく所存である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語圏歴史・社会特殊研究
授業コード 32C41-001
教員名 永田 智成
教員コード 103900
登録人数 7
回答数 2
回答率 28.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

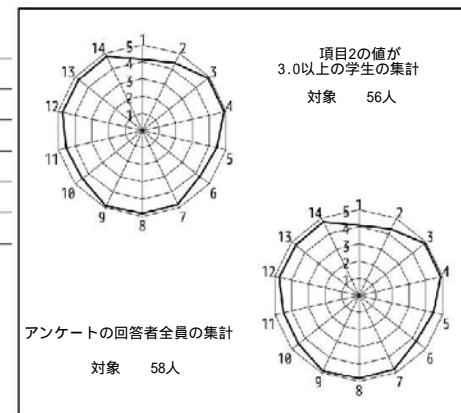
開講当初に設定したスペイン語で書かれた専門書を読むことができるおよび専門書の内容を日本語で表現できるという目標は達成できたと思う。回答数が少なかったため、細かいことはわからないが、自由記述欄を見ると、学生は一定の満足度を得ているように思われる。

この講義は、スペイン語の専門的なテキストを使って、専門的な論文を日本語話者がどのようにして読むのかという技術的なことを習得すること、また、記述内容を日本語で説明できるようにすることに重点を置いて行われた。このように書くと、和訳や通訳と同列に扱われてしまうことが多いが、そうではなく、今まで学生が得てきた文法の知識は、実際に文章を読むときに、どのように使われるかということを確認してもらうことを目的としている。そして、スペイン語で書かれた文章を読解する中で、同時に日本語力の向上を目指してきた。

きめ細かい指導が必要となるので、大人数での開講は不向きであるが、引き続きこのスタンスで取り組んでいきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語学
授業コード 33A23-001
教員名 茂木 良治
教員コード 102698
登録人数 101
回答数 58
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

音声学、音韻論、形態論、文法論、意味論、語用論、社会言語学、応用言語学など言語学の諸分野を扱う概論的な授業である。フランス文化専攻の必修科目であるためフランス語の言語学を主な対象としているが、学部共通科目として設定されているため、フランス語に限らず履修者が学習したことがある言語を対象とし、基礎的な言語分析を行うことを目標としている。設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」が4.76点と高い得点であったことから、高い満足度を得られたことがわかる。担当教員の姿勢や、教材提示、授業の理解度に関する設問7,8,9が高得点であることから、授業の進行に関して概ね問題がなかったことがうかがえる。自由記述欄に「プリントの内容が具体的かつ例などがあってわかりやすかった」「学んだことを利用して答える問題があり、授業の内容を理解しているか確認しやすかった」など肯定的な意見があった。また、設問3～14の平均点が4.69と高得点であることから、授業全体として満足度が高いといえる。担当教員として授業を振りかえると、履修者は約100名に対して教室が大きく、授業運営が少々難しかったと感じている。そのため、自由記述式設問で「授業中、話をしている人が多く先生の声が聴きづらいときがあった。」というような否定的な意見もあった。次年度以降は私語の対応なども含めて授業の進め方を再検討していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの映画<国際科目群>
授業コード	33C11-901
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to present an overview of seven films representative of French cinema from various periods (from the 1950s to the 2000s). With the dedicated web page, students can find out the main information on the films in the program (director, year, main actors and actresses, screenplay) and discover documents (magazine articles, analysis videos by specialists).

During the lessons, we study the particularities of these films and their era: the rhythm of the sequences, the camera movements, the dialogues, the use of music, costumes and sets.

For 4 black and white films (from Jean Cocteau to the New Wave), the aesthetics of the image must be approached as if we were spectators of that era. The genres are described to know their particularity and their evolution in the history of cinema.

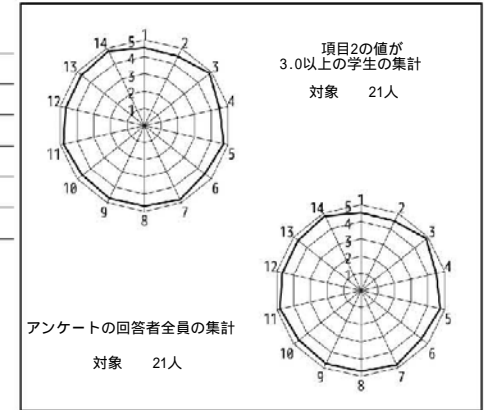
For 3 more recent color films, students must understand the changes in rhythm and camera movements depending on the evolution of the equipment (lighter cameras, stunts, digital tools, etc.). The dramatic, ironic or comic dimensions must also be commented on.

The conversation with the students allows them to check if they have understood the meaning of the film and the director's messages (on the history of France or on the evolution of feminism, for example).

In the future, I would like to involve students more often in describing film shots or explaining dialogues on their own.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献講読(ドイツ語圏の文化)
授業コード	34A23-001
教員名	麻生 陽子
教員コード	104628
登録人数	34
回答数	21
回答率	61.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

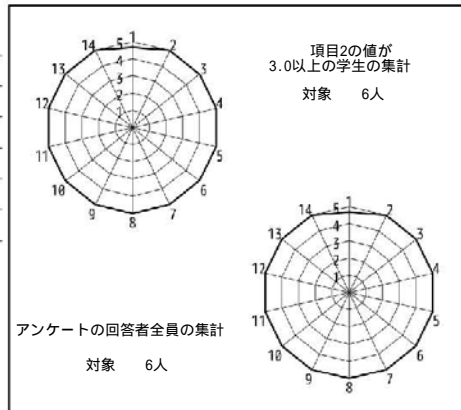
当初の目標についてはじゅうぶんに達成することができた。毎回の予習はたいへんだったと思われるが、受講者の半数は、熱心に授業のための予習を行っていたおかげで、こちらの指導も比較的スムーズに行うことができた。

予想以上に、全体の平均の数値が高く、学生にとって授業の意義はたいへん大きかったように思われる。普段のドイツ語の授業とは異なり、辞書を持参させ、毎回の課題(予習)を課した。また、より専門的な事柄にかんして異なるアプローチができたこともあり、その点が授業評価につながったと思われる。文学テキストにたいする解説を通して、文学への関心をもってもらうことができた。また、これまでなんとなく曖昧であった文法についても、通常の語学では授業では使用しない辞書をあえて使用することによって、ていねいに解説を行なった。

次年度もひきつづき教材にたいする解説のさらなる充実をはかるべく努めると同時に、目の前の学生の関心や習熟度を見極めながら、授業を行いたいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習A<国際科目群>
授業コード 34D02-902
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 11
回答数 6
回答率 54.5%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course stands out as an exemplary pedagogical experience in the field of intercultural communication. The project of creating German-language YouTube videos exploring various aspects of Japanese culture presented students with a complex challenge that required the simultaneous mastery of linguistic, technical and cultural skills.

The curriculum guided students through every step of the video production process, from research and script writing to filming, editing and pronunciation refinement. Beyond technical skills, the course emphasised the cultural sensitivity and nuance required to effectively bridge the gap between these two vibrant cultures.

In conclusion, this course transcends the conventional framework of language learning and is highly recommended to anyone seeking an enriching and challenging academic experience at the intersection of language, culture and digital media.

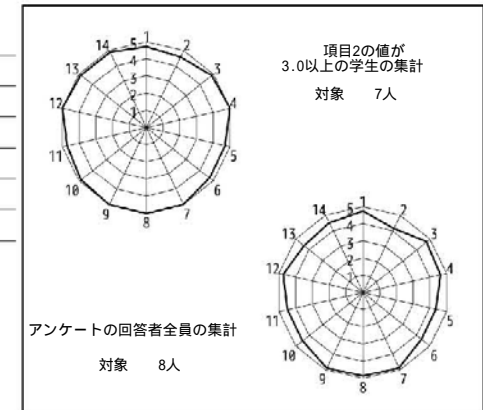
Even after my retirement in 2025, I am willing to serve as a part-time teacher to continue this successful course.

Anyone can view the videos here:

https://youtube.com/playlist?list=PLaz0SLZMy96QE7RJW9vCJCjfEkwiaPsr_&i=V5KB-tE1neSNcrJW

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語通訳法
授業コード 34D08-001
教員名 太田 達也
教員コード 101967
登録人数 8
回答数 8
回答率 100.0%
休講回数 0回
補講回数 0回

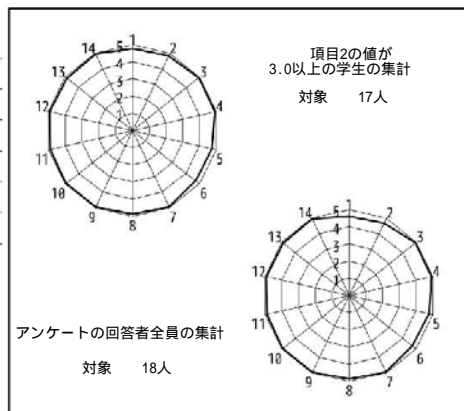


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「項目2の値が3.0以上の学生の集計」(対象7人)のレーダーチャートを見ると、平均が5点満点がほぼそれに近く、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと見てよいだろう。一方で、「アンケートの回答者全員の集計」(対象8人)のレーダーチャートを見ると、項目5と項目6の平均値が下がっていることが見て取れる。これはすなわち、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の値が3.0未満の学生1名の回答が、全体の平均値を大きく下げているということを示している。本授業のシラバスには、「少なくともB1合格相当のドイツ語力を持っていることを前提として授業を行う」との履修条件を明記していたが、実際には相応のドイツ語力を有していない学生も履修中止せずに最後まで参加していた。大多数の履修学生の言語レベルに合った内容で授業を行う必要がある一方で、履修中止をしなかった以上、そうした学生のレベルに合わせた内容もあわせて提供する配慮が必要となり、授業運営には相当の工夫が求められる。今後は、初回授業と2回目授業だけでなく、第2週の授業においても、前提としているレベルについての説明と、レベルが合わないと感じた場合には履修中止の可能性のあることについての説明を、より明示的に行うこととしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II語法1
授業コード 35A08-001
教員名 鈴木 史己
教員コード 103651
登録人数 24
回答数 18
回答率 75.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

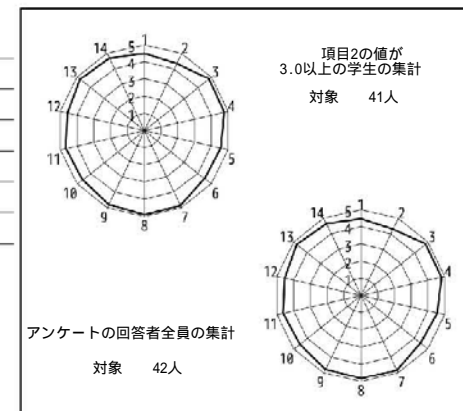


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、中級中国語 語法で習得した文法事項を応用し、さらに様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習することである。教科書に沿って文法事項を確認したうえで、教科書外の例題を追加して定着を図った。また、応用力を養うために、身近なテーマで作文課題を課して提出させ、添削を行った。1文レベルの表現力は身につけているように思うが、作文課題では機械翻訳を利用したためか、文脈に合わない表現が選択されているのが気になった。
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データはおおむね高い評価が得られており、予習用に授業資料をあらかじめ配布するスタイルを評価する声があったことは収穫といえる。また、特に大事なポイントでは学生同士で確認しあう時間を設けたことで、授業中の参加態度も改善したように思う。
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
単純な単語の置き換えで外国語へ翻訳ができるという考えをもつ学生が少なくないため、各表現が使用される場面を意識できるようアプローチを改善する必要がある。また、スライド教材についても、受講生の自主性をさらに促せるように改善していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究
授業コード 35C20-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 111
回答数 42
回答率 37.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

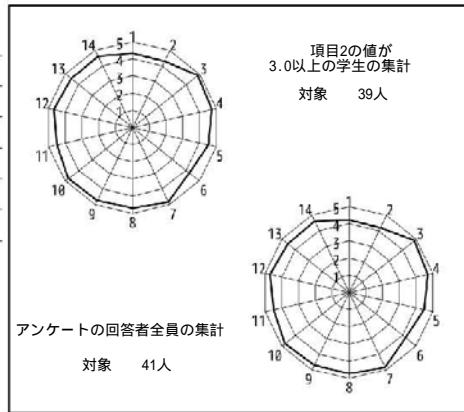


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 当該授業は、各地の中国系移民の発生や華人社会の形成・変容および母国（故郷）と居住国との相互作用の諸相をいくつかの国・地域を取り上げ、華人社会が「中華性」を保ちつつ、居住国の一員としてほかの民族・文化集団と共生していく可能性について考察するものである。当初設定した授業の到達目標は以下の三点あった。
・華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解することができる。
・華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できる。
・ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できる。
いずれも、概ね達成できたことは、アンケートの回答のみでなく、毎授業後のリアクションや期末レポートからも窺われる。
2. 設問項目と自由記述を見る限り、授業全体のデザイン、内容、進度は、受講生の関心、理解度にも合っているように思われる。夫々リアクションペーパーに書かれた感想・質問・意見を授業で共有し、議論を交わすことは学生の理解を高めるのにとっても効果があったことも確認できた。
3. 大人数の講義科目なので、学生がより関心をもって自主的に授業に関わるような創意工夫が必要である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア文化研究
授業コード 35D12-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 85
回答数 41
回答率 48.2%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

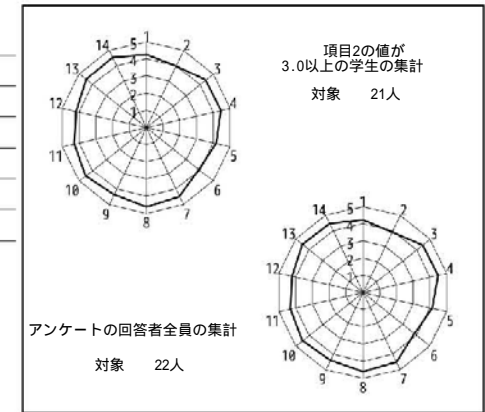
この授業は講義形式で行われる。授業で紹介する様々な文化を知ることによって、受講生はインドネシア全体に関する理解を深める。

本授業の目標は実際に果たすことが出来たと思う。学生からのコメントにあったように、「初めて、他国について多方面から知ることの授業を履修することができ大変うれしく思っています。歴史、部族など限られた範囲でのみの授業はありますが、この授業のように1つの国に対して、文化・習慣・伝統・衣食住など幅広くしることの授業は初めてでした。」学生がこのような理解と知識を得たのは説明を聞いたただけからではなく、授業で紹介された動画と写真をも観ただけからではないかと思う。これは学生たちのコメントからも言えることである。「ビデオを見ることで具体的にイメージすることができた。知らないもの一つ一つの写真や動画を見れる点。動画などをを使っていて分かりやすかった。映像を沢山見せていただいたので、現地の様子を目で見て感じる事ができ、より理解が深まりました。映像資料をたくさん紹介してくれたので、よりその文化についての理解がしやすかったこと。」

来年度も学生たちが授業内容を分かりやすくするために動画や写真などを使用したいと思う。今年度、インターンシップという理由で授業欠席学生は多かった。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プライバシーと倫理
授業コード 13C03-001
教員名 阪本 俊生
教員コード 017020
登録人数 37
回答数 22
回答率 59.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

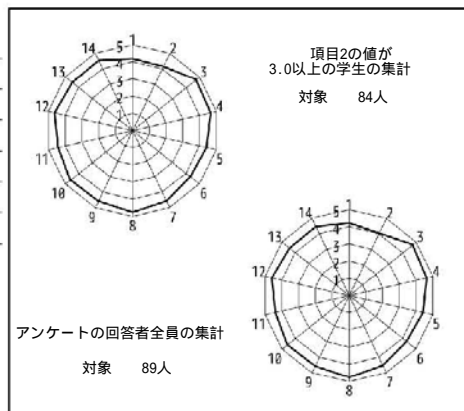
当初に設定していた目標と到達に関しては、授業の感触および成績評価からは、まだ少し物足りないところである。設問6で4を切っているところも気になる。

全体としての満足度は4.45で、数値としては高いが、開講主体の平均値や全体の平均値も高いので、その意味では普通程度の満足度といえる。また今回、受講生が少なく、おそらくまじめな学生が多かったこともあるだろう。改善点についての指摘は1つもなかった。よかった点としては、プライバシーに関してこれまでと異なる視点から考えられたこと、レジュメや講義資料が見やすく、レポートの振り返りも丁寧、事例もあって理解しやすかったという評価があった。個別の設問項目で4を切っていたのは、設問2の予習、復習の項目、設問6の到達目標に向けて力がついているかどうかであった。

来年度は、自宅学習をさらに促すかたちの授業形態に変える予定であり、それにより改善されるかどうか見ていきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計論B
授業コード 40D14-001
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 352
回答数 89
回答率 25.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思うが、今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.54、設問1～14の平均値が4.48であり、前回のこの科目での結果と比べると、かなり改善したようである。

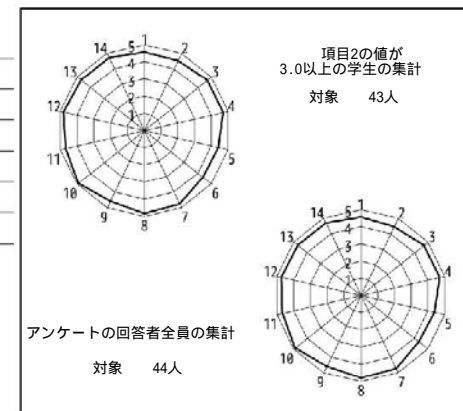
これは、前回の授業評価項目では、設問5が低い値であったため、新聞記事を適切に活用することで、学生の学習意欲を引き出し、講義内容の理解が深まったことを実感してもらえるようにした成果によるものと考えられ、うれしく思っている。

今後の課題としては、自由記述欄にあったように、授業スライドの背景を統一すること、印刷した場合のことを考えて、白黒にすること等である。

自由記述欄では、「新聞記事や実際のデータを紹介してもらえたので、興味をもって参加できた」、「授業での説明が丁寧で分かりやすい」、「声が聞き取りやすかったこと、丁寧に説明していただけた」、「難しい語句や新しい語句を分かりやすく教えてくれる」等の肯定的な意見を多くもらったので、引き続き、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報経済学B
授業コード 40D18-001
教員名 小林 佳世子
教員コード 100487
登録人数 91
回答数 44
回答率 48.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、ゲーム理論基礎を理解し、簡単なゲームについて自分で解を求めることができるようになるだけでなく、ゲーム理論や経済学が想定する理論と現実の人の意思決定の乖離について、行動経済学的に考えるようにできることがその目的です。

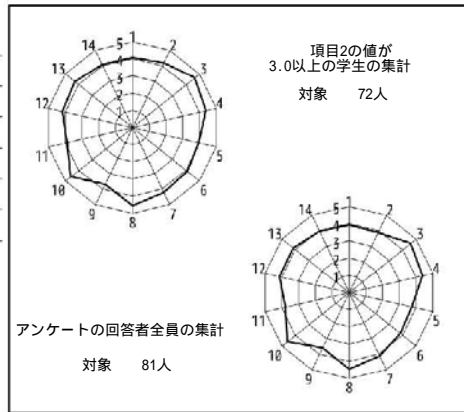
結果として、すべての項目で大学の平均点を上回り、高い評価となったことを素直に嬉しく思っています。

自由記述を見ても、「とても分かりやすかった点が良かった」、「聞いていてワクワクした」など、楽しんで学んでくれていた様子が伝わってきます。基礎的な理論を説明した後で、必ず現実の応用例を話すようにしていますが、数式の展開に追われ、社会科学という視点を忘れがちな経済学の授業において、現実とのつながりを感じられることができた点も、とても新鮮に映ったようです。毎時間、前回の復習から入りましたが、その点も高く評価されました。

また今回初めて、スマホやノートPCなども含めて、すべての電子デバイスの使用を原則として禁止しました。そのおかげで集中して取り組むことができたという声は多数ある一方で、否定的な声は一つもありませんでした。学生さんとも相談しながら、この点は続けていこうと考えています。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学特論
授業コード 40D21-001
教員名 赤星 立
教員コード 103866
登録人数 110
回答数 81
回答率 73.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に課していた目標は主に次の3点である。(1) 余剰分析の技術を修めること(2) 用意された3つの単元で、なぜ市場が総余剰の最大化に失敗してしまうのかを理解すること(3) 各単元で学ば政策の効果について理解すること

上記の目的はシラバスにも明記し初回の授業でも確認した。授業では一貫して、この目標の達成のために遂行された。試験でも直接的にこれらについて問うた。答案を見る限り、多くの学生は一定水準の理解に達することができたと言える。したがって目標は十分に達成されたといえる。

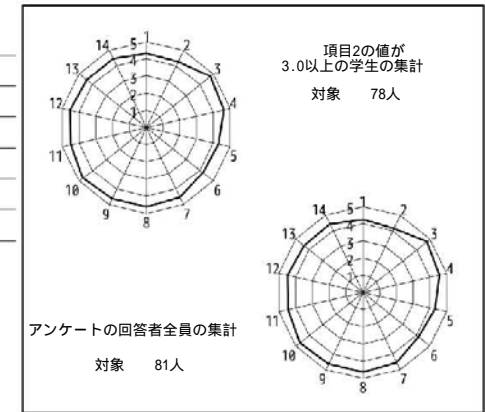
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

約120名の履修登録者のうち80名ほどの学生が回答してくれているが、毎回の講義出席者はその程度であったように思われる。それに鑑みると、実際の受講者のほとんどが回答してくれたことになる。評価については満足している。どの項目についても高い評価がなされている。特に、同じ科目での直近のアンケート結果と比べても、どの項目でも高い評価となっている。学生の反応や自由記述欄での回答に鑑みるに、過去回より演習を増やしたことが効果的であったのかもしれない。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も学生が経済学に興味を持ってくれるように改善していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 金融論B
授業コード 40D29-001
教員名 都築 栄司
教員コード 103265
登録人数 323
回答数 81
回答率 25.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に予定していた講義の内容は過不足なく扱うことができた。また、中間・期末レポートの結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることが分かった。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

この科目の受講には若干の数学的な予備知識が要求されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで、理解の速さに差が出ることは仕方がない。

この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。

。毎時限、理解度の確認のための練習問題を配布しているが、授業内で解説をするだけでなく、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるようWebClassを活用している。

講義資料は、煩雑にならない程度に、各自で自習ができるよう、幾分詳細な内容も反映した作りとしている。

これは好評のようである。

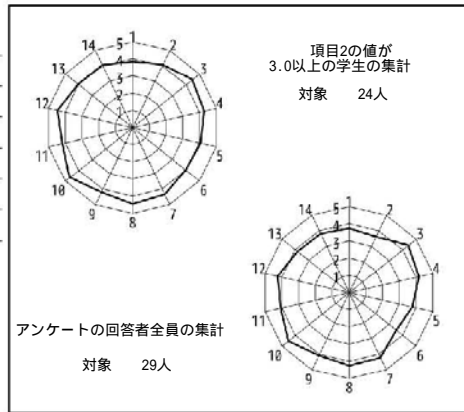
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

分析手法それ自体はよく理解していると思われるが、実際問題への応用については、時間的な制約もあり、授業では扱うことができていない。

吸収した知識をいかに身の回りの事柄に役立てられるかは、学問を修得するうえで最も大切なことの1つであると思われるので、今後はそのような内容を充実させていきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 産業組織論A
授業コード 40D36-001
教員名 上田 薫
教員コード 016832
登録人数 107
回答数 29
回答率 27.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



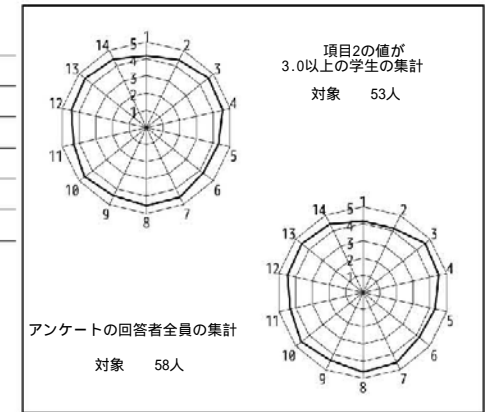
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は寡占の理論と競争政策の関わりについて、ミクロ経済学およびゲーム理論の基本的知識を踏まえた理解を行えることを学修目標としている。企業および独占市場の理論、さらに非協力ゲーム理論の入門的知識の概説を行なったうえで、寡占市場の理論とそこから導かれる競争政策に関する含意と実践について学ぶという構成である。今回はハイブリッド形式で行われたが今年度は完全な対面が復活したことから講義の進め方の全体的な見直しを行い、さらに垂直的市場関係について、新しい分析手法による説明の改善を目指して、全面的な書き換えを行っている。

ハイブリッドから対面への変更で設問8の評価が大幅に改善した。授業管理における不如意が解消されたことで設問9、11、12の評価も概ね正常な水準に戻っており、安堵している。設問4、7、10の平均値のいずれも4.1を超えていることから、授業の行い方について概ね問題はなかったと考える。他方で設問5、6の平均値の低さは、ミクロ経済学のモデル分析が講義内容の主要部分を占めることから、難しいと感じる学生がいたのではないかと考える。また毎度のことではあるが、授業が終わりに近づくにつれて時間が足りなくなり、授業で見た理論による知見が実際の競争政策にどのように反映されているかについての説明が駆け足になってしまう。設問13、14の平均点は、こうした問題の反映であるように思う。これらの点については、一層の改善を心掛けたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会保障論B
授業コード 40D39-001
教員名 神野 真敏
教員コード 103880
登録人数 176
回答数 58
回答率 33.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

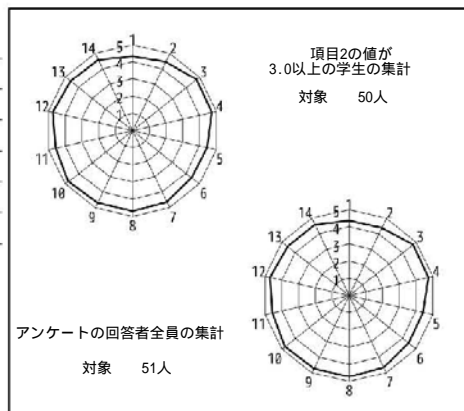
本講義では、社会保障の中でも生活保護制度、労働支援や格差の指標、そして社会保障の財源調達などについて解説してきました。その際、皆さん自身で社会保障を経済学的視点から分析できるように、できる限り分かりやすく説明してきたつもりです。

しかし、設問1～14の経済学科の平均値は4.45に対し、本講義は4.42。設問3～14では、4.49に対し、4.46でした。両区分において、ともに平均を超えることができませんでした。ただその一方で、授業の良かった点についての自由記述には、「丁寧」・「優しく」・「適切」などが記述されており、自身が講義の際に心がけたことは若干なりとも伝わったかなと思っております。また、その思いが伝わったのか、設問14に関しては、経済学科平均4.40に対して4.41、ほぼ誤差の範囲ですが、若干でも上回りました。そして、設問13に関しては、経済学科平均4.43に対して、こちらは4.53との評価でした。「新しい知識」・「理解の深まり」に関しては、皆さんの期待にある程度ですが応えられたかなと思いました。

ただ、その一方で、改善した方がよい点に関する自由記述には、数式の数字が小さすぎるとの記述がみられ、この点は来年度への課題としたいと思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済学B
授業コード 40D41-001
教員名 相浦 洋志
教員コード 103642
登録人数 124
回答数 51
回答率 41.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

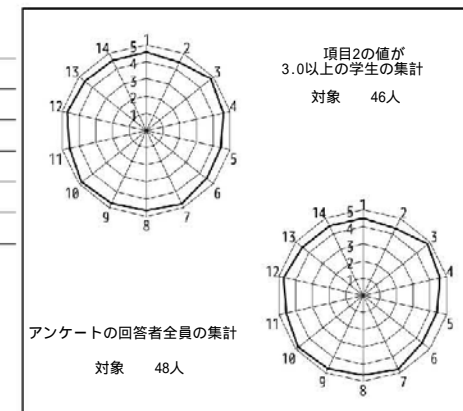


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は地方自治体の経済政策について総論するとともに、RESASの地域データを用いて指定された地域における経済支援策をグループワークを通じて考察する内容となっている。学生からの評価としては、アンケートのすべての項目において学部平均を上回っており、十分な評価が得られていると思われる。ただ、自由記載欄に「前日などにスライドを変えたのなら、ウェブクラスなどを通じて授業前までに教えてほしい。」とあり、確かに授業直前の変更は学生の混乱を招くので、差し替えではなく追加資料として提示するなどひと工夫すべきだった。また、「分析対象地域の難易度に差があるように感じた。成績に関わるものなので、自分で地域を選択できるようにするか、難易度のばらつきがでないように工夫してほしい。」という意見もあった。私としては様々な地域を見てもらうために難易度に差があるのは致し方ないと思っており、その点を加味したうえで評価点を付けているが、それが学生に上手く伝わってなかった感がある。来年度においては、公平に評価していることをしっかりと学生に伝えていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済政策論B
授業コード 40D51-001
教員名 蔡 大鵬
教員コード 103260
登録人数 97
回答数 48
回答率 49.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] 授業目標および達成度

本講義は、(1) 国境を越えた資金に関する様々な問題を経済学の観点から理解できるようになること、また(2) 為替レートの決定、通貨危機や通貨統合など、国際経済に関わる様々な問題に対する関心を深めることを目標としています。上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。

[2] 点検・評価

授業評価の結果として、項目1から14の平均値、項目3から14の平均値、また、各項目はすべて学部平均を上回っており、ある程度満足してもらっていると理解しています。

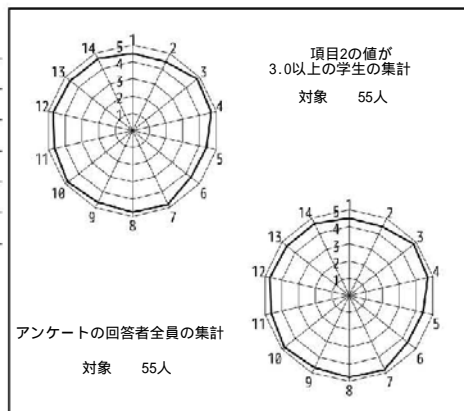
[3] 次学期以後に向けての改善点等

まず、端の席に座って授業を受けた時、ホワイトボードの書き込みがスライドと重なって、分かりづらい箇所があるとの指摘に対して、対策を講じていきたいと思えます。今後、大教室の後ろに座る学生さんを特に意識して、フォントを大きくしたり、また色分けするなど板書の内容を工夫することで、内容を写し終える前に消してしまったり、ホワイトボードとスライド、また上下のボードを重ねて見えなくなったりということがなくなるように改善していきたいと考えています。

また、アルファベットで省略する時などは毎回それが何を意味するのか定義して欲しいとの要望がありました。今後、専門用語やメカニズムより詳しく解説すると共に、複数回復習する機会を設けたいと考えています。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(国際)A
授業コード 40D58-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 110
回答数 55
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

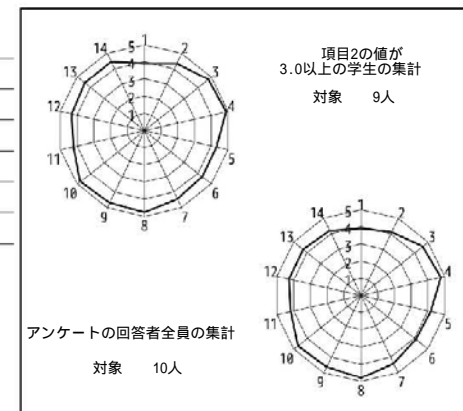
開講当初に設定していた目標と到達の程度について
「回帰分析の基礎を習得する」、「国際経済に関連したデータを収集し、その特徴を理解できるようになる」という2つの到達目標を掲げたように、統計分析に重点を置いた講義としました。講義に関する学生からの質問、課題レポート、期末試験の結果から判断する限り、これらの目標は十分に達成できたと判断されます。例えば課題レポートは、「ドル円相場の変動要因を自分自身で考え、その要因に対応したデータを独自に入手し、その要因の影響力を回帰分析により統計的に立証する」という内容でしたが、ほぼ全ての受講生が課題レポートをこなすことができました。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
設問13と14が学部平均値を上回るなど、数値データから判断する限り問題なく講義を実施できたと考えられます。また、自由記述では「講義が分かりやすい」等、学生が講義内容を問題なく理解できことを示す内容がほとんどでした。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上述した通り問題なく講義を実施できたと判断されますので、この調子を次回以降も維持したいと思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋経済史B
授業コード 40D61-001
教員名 梅垣 宏嗣
教員コード 102397
登録人数 39
回答数 10
回答率 25.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



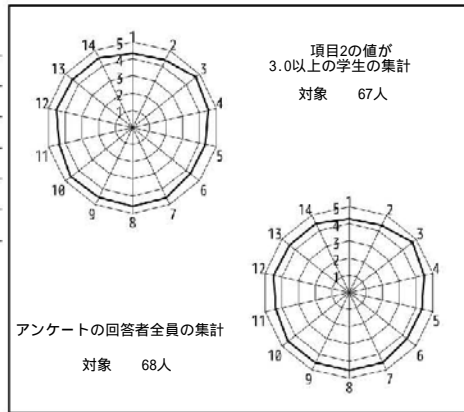
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート回答の数値等に関しては、特に問題はないが、履修登録者の4分の1程度しか回答していないことが、大きな課題である。もとより、大半の履修登録者が、初回から最終回まで一度も出席しておらず、おそらく、いわゆる「楽単」として本科目を履修登録していたものと考えられる。しかし、仮にそうであったとしても、一般的には、定期試験直前に、授業に出席している友人にノートを借りて勉強する等の、最低限の努力くらいはするはずだが、定期試験の答えは、白紙に近いものや、まったく的外れのものが多く、そうした努力すらしていない履修者が大半だったようである。

これまで、本科目担当者は、基本的に学生の自主性に任せるという形で授業を行ってきた。しかし、少子化や、学業成績を問わない入試種別による入学者の増加が一層進むものと考えられることから、今後、本学入学者の基礎学力に、従来と同等の水準を期待できない可能性があるため、入学後の教育が極めて重要となる。よって、学生を授業参加・学習に向かわせる、何らかのインセンティブのある取り組み、あるいは、強制力を伴った取り組みが必要となる。以上のことから、来年度は、授業内で行う小テストを成績評価の対象に含めることとし、来年度のシラバスにも、その旨を明記した。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本経済史A
 授業コード 40D62-001
 教員名 林 順子
 教員コード 101007
 登録人数 212
 回答数 68
 回答率 32.1%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

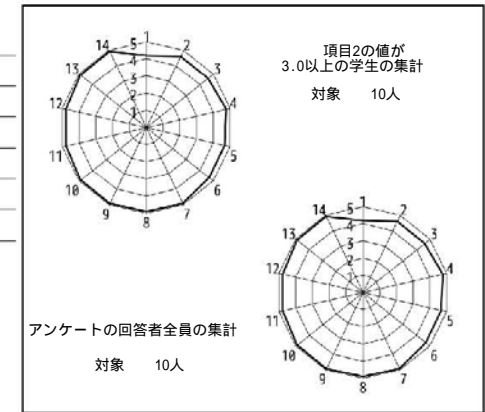
期末試験の結果から言えるのは、到達目標の、とも、受講者の理解度が二極分化していることである。毎回の講義の終わりに実施する小テストは、成績評価に関係なく出席状況のみをみるもので、しかしwebclassで実施しているため、実際の出席状況を反映しているわけではない。実際の出席者の人数は、実のところかなり少なく、それが期末試験の結果に如実に表れたように見える。自由記述欄を記入して欲しいため、講義終了から3時間後を切としているが、次年度は、講義時間中の提出を義務づけるように変更を試みる。とはいえ、講義時間中に小テストをやりきる時間がないと、今回の評価の自由記述欄にコメントがあったので、講義時間内に時間を確保するよう、十分に気をつけたい。

自由記述欄にはそのほか、小テストの解答後すぐに解説が見られるようにしてほしいとの要望があった。確かに一理あるが、こちらとしては、学生にとってどの問題が難しいのかを把握したくもあり、検討するものの迷うところではある。テスト問題をもう少し具体的に教えて欲しいという要望もあったが、講義を受講し、かつ試験前の説明にしたがって復習すれば、解答は可能だったはずである。

授業評価の数値データは学部の平均値とほぼ一致しており、良好と考えるが、回答率が低くあまり参考にはならないように思う。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想史B
 授業コード 40D65-001
 教員名 荒井 智行
 教員コード 104493
 登録人数 14
 回答数 10
 回答率 71.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

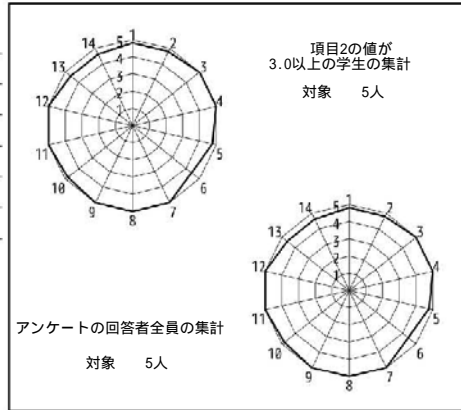
については、概ね達成できた。受講生の反応に応じて、授業速度や内容を若干変えることにより、本来はもう少し内容を進めたかったところもあったが、シラバス記載通りの内容を扱うことができた。については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多く用いた。授業では、学生の前向きな参加を促した。については、受講生からは、要望や改善点を求める声はなかった。受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。

昨年度よりも、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用し、授業内容についても、昨年度よりも理解が深められるものにした。授業時間の残り10分程度、質問や相談の機会をつくる時間を増やすなど、工夫したい。

授業の改善については、毎年度、努めているが、この科目については、ようやくその完成型が見えてきたと思う。授業内容として、歴史や思想という科目は、個人的な見解として、受講生が理解するのに難しいものと考えており、こうしたアンケートではなかなかすぐに成果が出ないものと感じているところもある。だが、今回の結果を見て、概ね好評だったと思うし、授業後にも大変勉強になったとし、感謝してくれる学生も複数いた。今後もさらなる授業の改善に努めながら、本学のディプロマポリシーに応じた授業ができるよう、研究・教育ともに精進する所存です。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVオーラル・コミュニケーション1
 授業コード 42G07-001
 教員名 WOOD, Joseph
 教員コード 103072
 登録人数 8
 回答数 5
 回答率 62.5%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

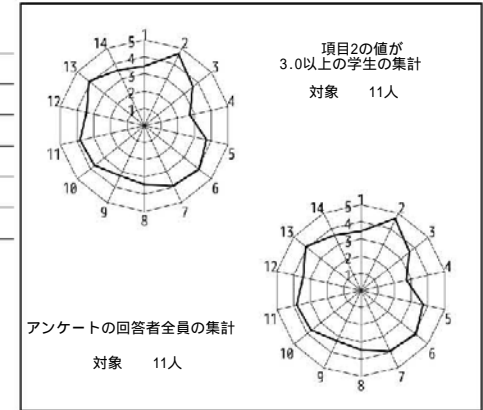


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I'm glad to learn that the students of this class liked my class and gave me positive scores. The averages were high for each question, so I feel that they must have enjoyed the class and felt that it helped them improve their English skills. One of the written comments from a student said that they felt they had plenty of time to actually speak English in class. That was my main goal, so I am happy to know they felt it was useful. The majority of class time is always used for speaking and I believe that students really improved their speaking skills over the school year because of this. I will continue to find ways to help students speak more in class and become more confident in using English. I will continue to improve the course each year and also find ways to encourage students to use English outside of class. This class was surveyed twice for some reason this year, but I am happy to learn that in both surveys they reported that they enjoyed the class and felt it helped them with their English-speaking skills. I look forward to continuing to teach this course next year with new students.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報機器の操作4
 授業コード 14D02-004
 教員名 長谷川 高則
 教員コード 000162
 登録人数 32
 回答数 11
 回答率 34.4%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標
 この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、パソコン操作のスキル差は大きく、授業の進行状況は遅れ気味であった。
2. 目標達成度
 出席状況は欠席が多く、欠席者への対応が十分にできなかった。開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。
3. 授業評価
 前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.50から3.68に大きく低下した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問2(主体的に授業に参加) 4.64、設問13(新しい技術や能力を得た) 4.09等であり、評価が低いのは設問4(授業の構成や進行速度) 2.73、設問9(学生の理解度に配慮) 3.27であった。設問4の評価を改善するのは受講生のスキル差も有り難題ではあるが、設問9に関しては演習課題の所要時間・難易度を再検討し、欠席者への対応のあり方について改善中である。
4. 今後の抱負
 動画教材を制作して授業の予習・復習のボリュームを最適化したい。次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プレゼミD
授業コード 42A08-008
教員名 伊藤 彰敏
教員コード 104839
登録人数 24
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者は、ファイナンスとリスク管理の専門的知識を習得した。具体的には、リスクの定義と管理の方法、リスクの好ましい側面を活用する概念枠組みと経営戦略への応用について理解を深めることができた。また毎回課されたケース分析のためのグループ討論とグループごとの発表を通じて、受講者はディスカッションのスキルを養うことができた。最後の回でグループ単位のプレゼンテーションを実施したので、他の学生に分かりやすく説得的に考えを伝えるスキルを実践的に訓練することができた。全般的に、当初の目標を達成できたと評価する。

各界の学生ごとの出席も良好で（無断欠席は0）、各回のグループ討論や発表の際にも、4-5名の学生が議論をリードしつつ、多くの学生が質問や意見の表明などで積極的に参加していた。受講者にとって、インタラクティブな状況で議論を通じて考えを深める練習となったと評価する。

来年度は、各回のケース討論に関して、もう少し詳細な資料と検討課題を事前に受講者に与えて、当日の議論のレベルをできるだけ高められるよう注力したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究D1
授業コード 42A16-015
教員名 石垣 智徳
教員コード 101889
登録人数 13
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

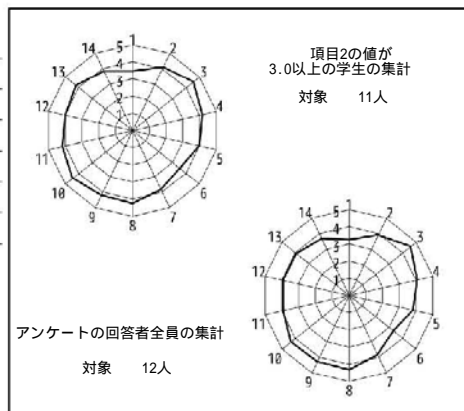
卒業研究ABCDを通して設定した目標は「論文作成の知識を高める」「論文作成のプロセスを習得する」であり、卒業研究D1までのQ1からQ3で教科書を使用して論文作成の知識や作成プロセスの概要を輪読にて学生が発表したことにより、十分知識は高められたと認識している。また、それを踏まえて卒業研究D1では、学生の書いた論文を相互に読みあい、表現で修正すべき点や論文の構成に対する質疑応答を行うことによって各自が卒論作成において自分で具体的に何に注意すべきかの指示を与え、自主的に論文が執筆できるところまで指導したと考えている。

学生によるアンケート結果がないため、数値データと自由記述を踏まえた総合的な自己点検・評価についてはここでは行わない。

次期以降に向けての改善点・抱負などについては、教科書を使用した知識獲得は一時的な知識となると考えられ、実際に学生が作成した論文をチェックすると教科書に書いてあった（発表した）内容を記憶しておらず、複数人に同様の指導が必要である。具体的な対策は現在未定だが、効率的に各自が論文作成をできるような方法を今後考えていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学112
授業コード 42B04-002
教員名 宮元 忠敏
教員コード 017293
登録人数 101
回答数 12
回答率 11.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

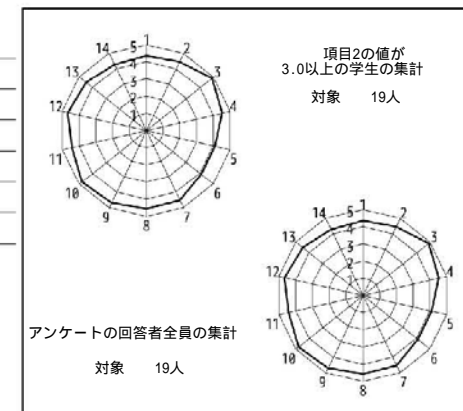
目標と到達度：1変数多項式の微積分、指数・対数の微分、2変数多項式の偏微分等。概ね達成できた。

総合的な自己点検・評価：数値の高いものの例は、授業の開始と終了時間は守られていたか（4.58）、授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか（4.33）である。授業開始20分まえあたりからPCやプロジェクターの準備を始めた。数値のひくいものの例は、この授業を履修する前、授業内容に興味をもっていたか（3.25）、到達目標に向けて力がついてきていると思うか（3.33）である。講義ノートは事前に公開されていた。毎回、授業の初めに、復習のための3～4題からなる問題を提示し、それらを履修生が解く時間をとった。その後、それらを解説した。その他自由記述欄から、小テストを良しとする意見（1）、例や練習問題の構成を良しとするもの（1）、私語が多かった（1）、例をわかりやすく（1）、スピードが速い（1）等である。教室の前の方まで届く私語については存在していなかったように思うが、私語は存在したようだ。

今後の抱負：カリキュラム改正にともない、この科目に終止符を打つことが決定している。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際会計論B
授業コード 42C24-001
教員名 野口 晃弘
教員コード 104773
登録人数 44
回答数 19
回答率 43.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

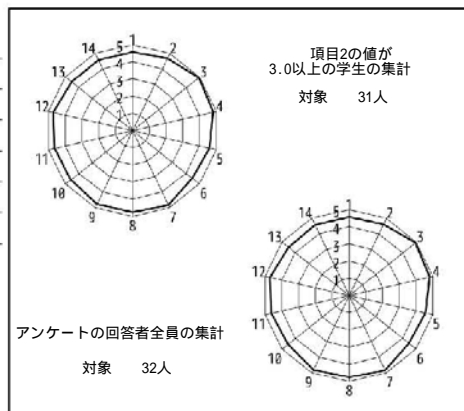
国際会計論という科目の位置づけ、主として用いる教材がアメリカにおける標準的な中級会計学の教科書であり、小テストを複数回、中間テストを1回、さらに期末テストを行うことをガイダンスで丁寧に説明した結果、国際会計論を学ぶ意欲の高い学生にのみが、最終的な履修者には多く残ったものと考えられ、その学生たちの多くは、目標の水準に達することができたと考えていえる。学習意欲の高い学生たちに助けられた側面が大きいと思われるため、講義のさらなる改善と工夫が必要である。

平均的な評価となっているものと思われるが、履修者が少ないという根本的な問題を抱えている。科目の位置づけが会計学分野の最上級科目であることが影響した上、会計学分野の希望者が少なくなっているという分野の傾向を反映しているものと思われる。そのため、この問題を解決するためには魅力的な新しい会計学の姿を、初級レベルの講義内容に組み込むなど、分野全体で取り組む必要がある。

当面の対応の一つとしては、講義内容を学部最上級科目という高度なものではなく、より一般的・基礎的な内容にとどめ、世界各国における会計環境の違いのほうに講義内容をシフトするという方法が考えられるが、そのためには科目の位置づけそのものを変更することにつながる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織心理学B
授業コード 42C26-001
教員名 中尾 陽子
教員コード 064188
登録人数 144
回答数 32
回答率 22.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

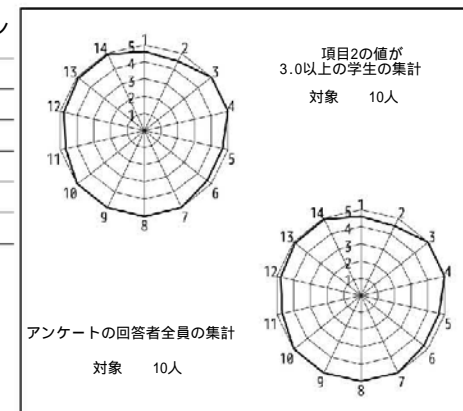
この授業は、到達目標を「組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。試験の記述内容を拝見すると、程度の差はあれど、概ね達成できたものと考えています。

今回の受講生は、経営学部生が約3分の2、心理人間学科の学生さんが約3分の1で、更に他学部の学生さんもいらっしゃいました。心理学の前提知識が全く異なる上に、学習意欲も様々で、グループワークへの取り組み方やスキルにも随分差がありましたが、そういうメンバー構成だからこそお互いから学び合うことができたという肯定的なFBを多くの方からいただきました。ただ、工夫と努力をしてきたつもりでしたが、自由記述欄には「グルーピングについて、多様な考えが得られるというようなコンセプトがあり、性別や学部が混在するようになっていたという認識がある。しかし、実際には、どのグループでも経営学部の学生が多数派となり、心理人間学科の学生が疎外感を抱いていたのではないかとと思われる。」「4人グループであれば2:2にするなど、配慮が必要だと思われる。」などのFBもいただきました。次年度も、このような受講者状況に大きな変化はないと思われますので、引き続き、このような特徴を早い段階で理解していただくよう取り組んでいこうと思います。

また、「この授業は公認心理師対応科目の役割も担っているが、その役割を果たしていたとは思えない。」「課題などの意図が先生から伝わってこなかった」というような記述もありました。授業全体をふりかえって感じることもあるかとは思いますが、気になることはその都度尋ねていただくと、対話の機会も生まれたのではないかと思います。そのため、今後はより一層質問や相談の機会を設け、受講生の方々と協力しながら授業を創っていきたいと考えています。引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング・コミュニケーション
B
授業コード 42C37-001
教員名 川北 真紀子
教員コード 102879
登録人数 98
回答数 10
回答率 10.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

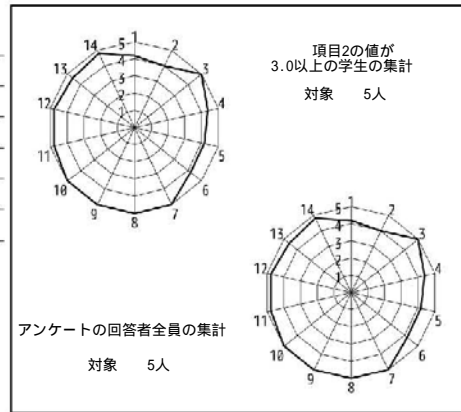


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、「組織が多様なステークホルダーと良好な関係を築くために行う様々なコミュニケーションについて、総合的に理解をする。その上で実際の広報活動について事例を踏まえながら考えていく」であった。結果を見ると、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均が4.9と高く、学生たちは自分でも理解が高まったと感じていることがうかがえる。また、設問14の全体満足は4.9と高いところを見ると、概ねよい授業であったことがうかがえる。自由記述の回答では、「学生が意見を発信できる参加型の講義であった事で、様々な意見を互いに共有する事ができ、視野を広げる事ができた」とあり、参加型の講義にしたことにより、他の学生たちがどのような意見を持っているのかという、多様な視座を獲得することができたようである。教員だけの立場からよりも、学生たちの生活に根ざした意見は、彼らの理解を深めるだけでなく教員にとっても新しい広報の現実を知ることができるため、非常に有意義であった。今後も、このスタイルで臨みたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 管理会計論
授業コード 42C44-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 52
回答数 5
回答率 9.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

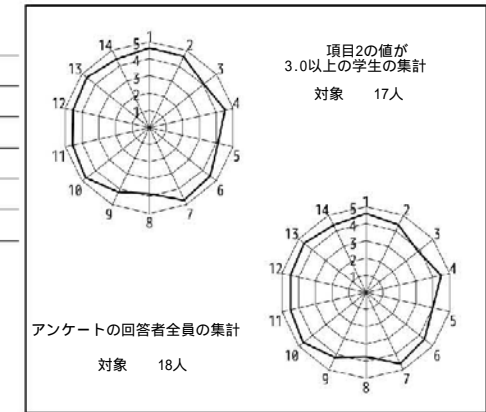
開講当初に設定していた目標は、学生たちが「管理会計の意義と管理会計で用いられる基礎概念について説明できる」「予算管理、原価管理、経営計画の各内容とそれぞれの結びつきが説明できる」「活動基準原価計算、バランススコアカード、原価企画など代表的な管理会計実践について説明できる」であったが、定期試験の結果からは、多くの学生がこの目標に到達できたように思われる。

本科目は経営学科の専門科目であり、3年生以上対象の科目であるため、熱心な学生たちが履修していた。そのため、授業はスムーズに運営することができており、概ね、よい評価であった。履修生の満足度は4.8であった。その理由として、授業中のクイズなどの学生に考えさせる時間があったことや経営企画室で管理会計実務を担当している外部講師による出前授業が好評につながったようである。

今後の改善点としては、学生の予習・復習の評価が低かったので、適宜、適切な内容を授業中に指示することで改善を図りたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報処理B
授業コード 42D03-001
教員名 姜 秉国
教員コード 019547
登録人数 25
回答数 18
回答率 72.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



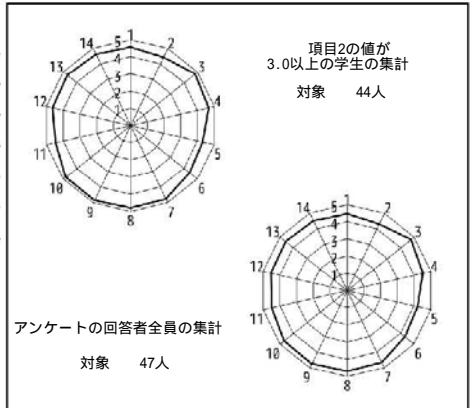
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができること」と「簡単な事務処理の自動化システムの構築ができること」を開講当初に設定した目標であった。登録した学生のExcelの使い方に関する習熟度にバラツキが大きいいため、講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていく必要があった。評価項目全般にわたり良い評価を得ており、現段階で特に改善を要する点は見当たらない。学生の出席、レポート、発表内容からみて、授業の目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメント（評価できる点）があった。

- わからない所があれば教えてくださった。
- ゆっくり丁寧に説明してくれたところ。
- 説明が分かりやすく、ペースが丁度良かった。また、何を学ぶべきなのか目的が明確化していて良かった。
- 授業内容をしっかり理解できるように、質問の時間を作ったり、先生が周って一人一人に理解できているか確認してくれていたのが、わかりやすかったです。
- 今までにないことを学べた。
- 経験したことのない、プログラミングのスキルを経験し、若干習得することができた点。
- プログラミングに興味はあったがなかなか手を出すことができなかったのが、授業という形で一歩踏み出せるのがよかった。内容も最初の方は簡単なので苦手でもついていけた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	企業論B
授業コード	42E02-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	184
回答数	47
回答率	25.5%
休講回数	3 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

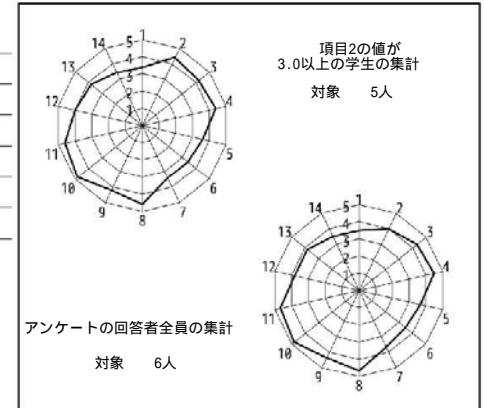
開講当初に設定していた目標と到達の程度について
シラバスにおいて、「様々な人事制度について、そのメリットとデメリットを経済学的に考察できるようになること」を到達目標に掲げた。授業期間中に3回課した小レポートと期末レポートの記述内容を踏まえると、ほとんどすべての受講生が、この目標にある程度到達したと言える。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
総合的な満足度を指し示す設問14の平均値は4.49で、経営学科科目の4.47、受講生数が同程度の科目の4.34を超えている。このことから、総合的には、この科目をよく運営できたと自己評価する。自由記述には、主として説明の方法や資料等の提示方法に対して、肯定的な記述が10件あった。いっぽうで、小レポートの提出期間をもう少し長くしてほしいという記述が1件あった。小レポートの提出期間を短めに設定する（教育効果上の）理由を第1回の講義にて示しており、自由記述においても、提出期間が短めであったからこそ意欲的に取り組めたという意見もあったことから、この方針を今後も維持することとする。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
期末レポートにおいて、生成AIに頼り切ったものが十数件見られた。生成AIが吐き出す記述は、「講義内容を踏まえて書くように」とのアナウンスに反するものが多く、その分、減点したわけであるが、今後は生成AIの利用についてももう少し細かな指示を事前に出しておく必要があると感じた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論B
授業コード	42E06-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	19
回答数	6
回答率	31.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

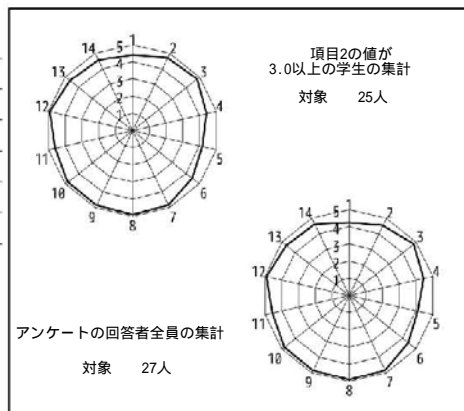
再生可能資源である漁業資源の最適利用や、資源リサイクルに関する課税・補助金政策がどのような影響を及ぼすのかについて、ミクロ経済分析アプローチに基づく講義を行った。また、米国における2大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。

事前に講義レジュメや関連資料を講義資料サーバにアップし、毎回、これら資料をディスプレイに映しながら講義を行った。また、学期中に課題練習問題を2回出し、そのレポートが提出された直後に授業で解答を解説した。板書としては、ipad に手書きした映像をディスプレイに映し出して授業を進めた。

すべての質問項目1～14の平均値が4.06であり、平均的には講義に満足してもらえたかと判断する。しかしながら、全体としての満足度を尋ねる設問14の平均値が3.50で、例年と比較して低かった点は気になる。受講者数は19人であったが、授業評価回答者数が6人と非常に少なかったため、特定の回答値が全体に影響を及ぼしたとも考えられる。1人だけ自由記述コメント欄に記載があり、「教えるのが下手」という書込みであった。具体的にどの部分について言及しているのか判明しないが、大気浄化法や水質浄化法の説明部分で多数の参考資料を利用したため、受講生の理解が追いつかなかったのかも分からない。単にこれら資料を表示して説明するだけでなく、できれば受講生に資料を読み込む時間を確保してから説明するように努めたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 オペレーションズ・リサーチB
授業コード 42E16-001
教員名 奥田 隆明
教員コード 102600
登録人数 48
回答数 27
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

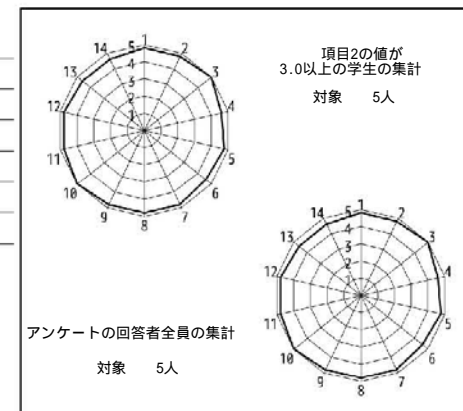
地域経済と地域間取引の実態を統計データで把握し、必要なロジスティクスを客観的に判断できることを学習目標とした。この目標に対して受講生の52%が「力がついた」、41%が「どちらかと言えば力がついた」と回答している。統計データを用いた実態把握に多くの時間を割いたため、必要なロジスティクスについて考える時間が少なくなった。次年度以降にはこのバランスに注意したいと考えている。

他方で、授業内容については、知識・理解（設問13）が平均4.67（学部平均4.52）、満足度（設問14）が4.59（学部平均4.47）となり、比較的高い値を示している。また、演習の時間には質問する機会を設けたため、質問（設問12）が4.93（学部平均4.62）、学生配慮（設問9）が平均4.85（学部平均4.67）と特に高い値を示している。その他、姿勢（設問7）が4.85（学部平均4.69）、声（設問8）が4.93（学部平均4.66）と高い値を示している。

また、自由回答欄を見ると、「内容は難しかったが、丁寧に教えてもらえた」、「Excelに不安があったが、できるようになった」などの意見が見られた。他方で、経済学部の受講生からは「マクロ経済学の知識についても説明してほしい」との意見があった。経営学部の受講生にはマクロ経済学を履修していない受講生も多いため、今後、マクロ経済学の授業と連携しながら理解を深める方法について検討していく必要があると考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング1
授業コード 42G08-001
教員名 BIERI, Thomas
教員コード 102517
登録人数 9
回答数 5
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) For the six goals in the syllabus, five were achieved to an adequate or higher degree by all students. The goal of reading more than 5000 words of English each week was not quite or barely achieved by a couple of students but on the other hand greatly exceeded by a few.

(2) All survey items scored between 4.6 (3 items) and 5.0 (2 items), and were above school and department averages. Only one single response was a 3, all others were either 4s or 5s, showing an overall high level of satisfaction among the respondents. Only three comments were added. One student commented that my enthusiasm is apparent and that I gave needed advice. One student noted the assignments were difficult and another that the class should be more than one credit. I found it hard to balance my desire to challenge the students to achieve more by spending more of their time on reading and writing with the reality that this was a one-credit class.

(3) I need to be better at managing what is the appropriate expectation for achievement within the general expectations of a one-credit course. I will continue to try to adjust my level of demands on the students.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(組織)
授業コード	42G19-001
教員名	安藤 史江
教員コード	019554
登録人数	21
回答数	1
回答率	4.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

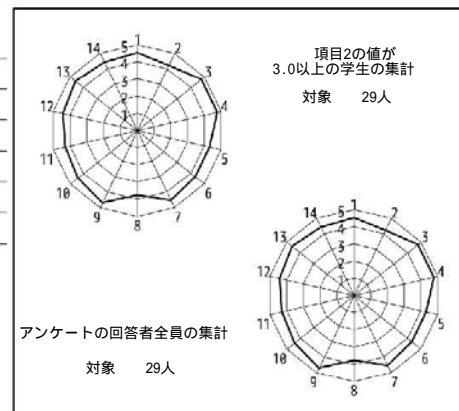
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目的としては、英語を用いて企業の事例を読み、データ等の二次資料を用いてその組織的、および戦略的な分析を行うこととしていた。毎回、英語の文献を決めた範囲のみ読んできて、それについての考えをグループで討議するという形式をとったが、参加学生の準備はあまり熱心とはいえず、十分ではなかった。授業評価についても回答者が少なかったため、担当者の所見と期末レポートなどの到達具合で測るほかはないが、次年度の授業では、それぞれが確実に予習してこないと授業に参加できないような授業デザインにする必要があると感じた。また、グループで発表することを授業の最後で掲げており、最終的には可能ではあったが、グループ活動に難あり、という事態も生じたため、それについても、次年度以降は再考し、個別で参加できる形に修正したいと考えている。もちろん、参加する学生の人数や希望にもよるため、その点については必要に応じて、学生と相談しながら柔軟に対応していければと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学 / Management Studies
授業コード	48C15-001
教員名	湯本 祐司
教員コード	017533
登録人数	92
回答数	29
回答率	31.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

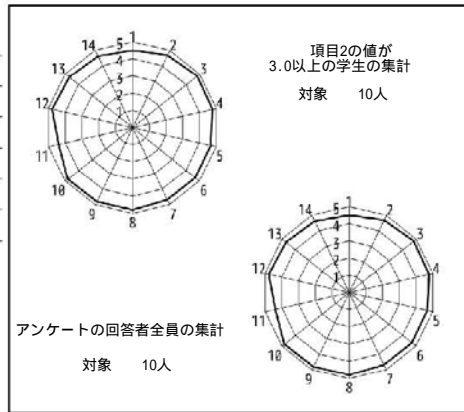


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は国際教養学科「学問知の基礎科目」の選択科目であり、登録している92名はすべて国際教養学科の学生である。到達目標は「経営戦略および関連する基本概念や理論が理解できる」「事例と理論の関連が理解できる」であり、授業中の課題およびおよび期末試験の解答から判断する限り、かなりの学生は目標に到達している。学生の授業評価では履修登録者92名のうち29名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.43と4.44であった。学生の評価が特に高かった設問は、3「事前に予告された開始時間は守られていましたか」(4.76)、4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」(4.79)、13「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか。」(4.59)である。一方、8「授業中に、教員の声や構成機器の音はよく聞き取れましたか」が平均値3.76で低かった。自由記述欄には、「多数の事例を挙げながら説明して下さったため、ほとんど知識がなかった経営戦略についての授業でしたが、理解がしやすかった」「授業中で得た知識を活かしてその場で課題を行うことで、その日学んだことを整理し、それを自分の言葉でまとめる力を訓練することができた」「グラフや図などがスライドでよく使われていて、内容理解をしやすかった」など好意的なコメントが多かったが、「声が小さくて聞き取りにくい(特に語尾)」というコメントが2件あり、次年度には発音とマイクの使い方に気をつけて改善していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐる8<国際科目群>
授業コード 13C05-902
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 23
回答数 10
回答率 43.5%
休講回数 0回
補講回数 0回

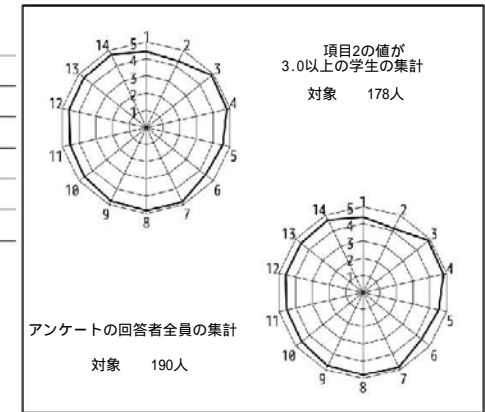


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The course was carried out throughout the quarter according to the topics and objectives set up in the syllabus. As all topics were covered and students seemed to understand the content as apparent from reaction papers at the end of every class, in general it can be said that the objectives of the class have been well achieved.
- 2) Based on the numerical data and comments from the students' evaluation, most students seemed satisfied with the topics, contents and the way each topic was presented during the class. Of course, as most students are not native speaker, not everything taught in the class could be understood. But additional materials, such as related news and videos for concrete examples seemed very helpful to understand the materials of every class.
- 3) Some extra efforts for a more dialogical approach are necessary to encourage students' active participation during the class. Providing some easy questions or opportunities for group or personal presentation are some of the approaches worth considering for the future class.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論A
授業コード 44A10-001
教員名 橋本 広大
教員コード 104649
登録人数 363
回答数 190
回答率 52.3%
休講回数 2回
補講回数 1回

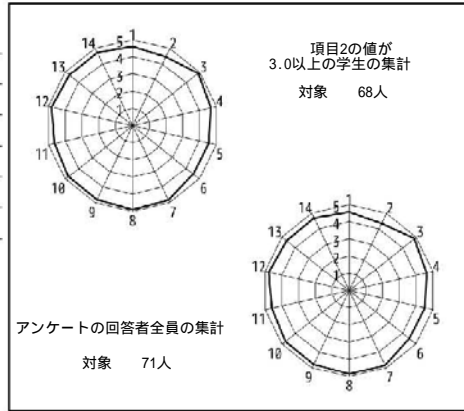


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
試験の回答をみる限り、多くの学生が、本科目の目標として掲げていた点を達成できていた。また、一部には、特に優れた回答をしている学生もみられた。その反面、記述式問題において、そもそも文章自体がわかりにくかったりするものも一定数あったことから、論理的な文章作法の習得も課題となりうるものと思われた。
- 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
まず、複数みられた自由記述の内容として、「暖房によって教室が暑すぎた」という旨のものがあつた。今後は学生の受講環境について、よりきめ細やかな配慮をすべきと反省した。それを除けば、数値データおよび自由記述等からみる限り、おおむね良い評価をいただいたものと考えている。
- 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本科目「刑法総論A」は、その履修者の多くが一年生であり、法（律）学の学習を始めて間もない初学者も多かったものと思う。
本科目の試験の回答をあらためて分析し、正解率が低かった問題を、初学者が特に理解に困難を覚える点であると（ひとまず）とらえ、今後はその点をより詳しく説明するなどして、学生にとってわかりやすい講義となるよう心がけていきたい。
- また、単なる知識の伝達にとどまらず、論理的思考力の涵養や、刑法、ひいては法（律）学全体の興味・関心を惹起するような講義となるよう努めていきたいと考えている。

2023年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働法B
授業コード 44B28-001
教員名 緒方 桂子
教員コード 103261
登録人数 317
回答数 71
回答率 22.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度労働法Bに対する学生からの評価を受けて、以下のとおり自己評価します。

開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、十分に対応ができたとして自己評価しています。理由は、当初予定していた授業範囲を終えることができたこと、及び、労働法Bの期末試験の結果によります。労働法Bの期末試験の結果は全体的にみてかなり良く、授業内容をきちんと理解していた学生が多かった印象でした。

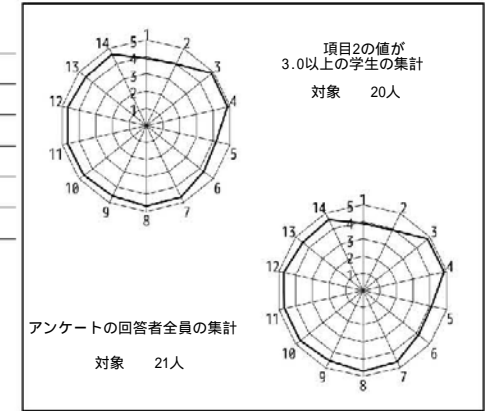
数字データ及び自由記述等を踏まえての自己評価に関しても、おおむね十分であったとして自己評価しています。口頭での説明とレジュメ、板書とテキストを利用するオーソドックスな授業形態ですが、学生からはかなり好意的に評価を受けているように思います。とりわけ、授業後に板書をPDFファイル化して公開していること、授業後の質問等があった場合に次回の授業のなかで共有していること、そして期末試験直前の授業で質問時間を設けていたことが、学生らの理解を助けたようです。とりわけ最後の点については、効果がわからないままに今回初めて設けてみましたが、次年度からはもう少し意識的にそのような時間を設けたいと思いました。

他方、教室の後方で私語がうるさいことがあったとの意見がありました。そうであれば早めにごちらに伝えて欲しいと思います。前方で講義をしている私に察知できないことであるために、なかなか難しいように思います。

次クォーター以降に向けての改善点や方針などは 及び に記したとおりです。

2023年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法B
授業コード 44B30-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 56
回答数 21
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

南山大学での最後の授業評価である。今回は項目3から14の平均が、4.57という好評価を得た。2009年からの授業評価で、4番目にいいスコアである。この間、設問文が少し変わり、授業期間もセメスター制からクォーター制に変わったため、単純比較は適切ではないかもしれないが、設問そのものはおおよそ同じ趣旨もので構成されている。それを前提に経年比較をすると、私の最高値は、2011年の秋学期の4.63であった。2位が同年春学期の4.60、3位が翌年秋学期の4.59、そして今回が、これに次ぐ第4番目の評価となる。

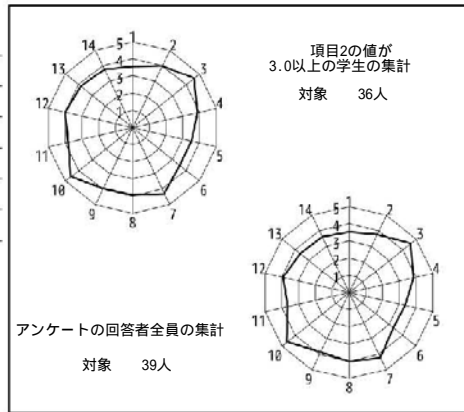
今回が、2011年頃と決定的に違うのは、その受講者数である。2011年秋は168名、同年春は204名、翌年秋が148名であった。今回の登録者は、56名である。ちなみに今回の回答者は21名である。

自由記述欄を見ると、わかりやすさ、レジュメの読みやすさを指摘した意見が多かった。例年通りといえる。その一方で、設問5と6の回答値が4.10と4.14となっている。これらは、到達目標の関する質問である。これも例年通りといえる。

そもそも法とは一般に各国の主権のもと存在するもので、そうした中で国境を越える形で発生する法律問題をどう解決するのか、構造的に難しい問題を扱うのが、国際私法である。国際私法の、このわかりにくい構造が、最後まで影響したのであろう。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋法史B
授業コード 44B36-001
教員名 田中 実
教員コード 017038
登録人数 182
回答数 39
回答率 21.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

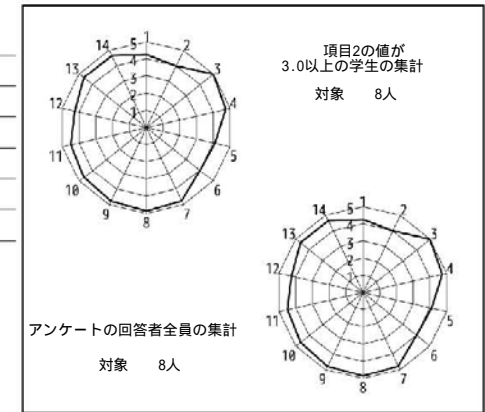


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の授業評価の結果は、過去のそれに比べて全体として厳しい数値を受けることになった。また、数値にあらわれない項目15について、肯定的・積極的な評価を受け、授業後に的確な質問を受けたりすることもあった反面、項目16について、過去に受けたことのない厳しい所見が見られた。過去と今年度との講義の違いとして、受講者からの相談もあり講義内容をかなり欲張って増やしたことのほか、西洋法史Aの受講者の数に比べ、西洋法史Bの受講者が圧倒的に多かったこと、つまり西洋法史Aを聴講していない受講者が多くバランスを欠いたこと、加えて、初回を受講せずに2回目から登録変更した学生が相当にあったこと（初回登録者よりも若干多く当初用意した講義資料が2回目以降かなり足らなくなって増刷したこと）が挙げられる。こうしたことに適切に対応すべく、前提や基本的なことにより時間を割く工夫をしなかったことは、大きな反省点である。また、講義資料で割愛したり、とばす部分があり、受講者にとってフォローが困難になってしまった。この点は改善したい。定期試験をみると、例年に比べA+とFが増える結果となった。従って、レベルを落とさず、わかりやすい復習の意味のある説明やまとめの時間をとるように心がけたいと考える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済法B
授業コード 44C20-001
教員名 齊藤 高広
教員コード 103599
登録人数 46
回答数 8
回答率 17.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

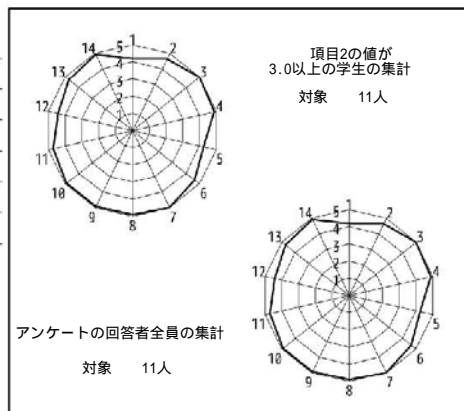


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、独占禁止法のうち、主として不公正な取引方法を扱い、経済活動に対する法的規律を理解する、市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができる、競争減殺行為の規制手法を理解すること、を目標として掲げていた。今年度も、当初の予定通り、講義内容を進行することができた。定期試験は、奇をてらうことなく、典型的な事例問題と説明問題とした。アンケート結果のうち、学生側の目標到達度については、他の項目と比較して平均値が相対的に低かったが、事例問題に対する回答内容を見る限り、比較的よく理解できていたことから、あるいは想定目標値が高い学生が少なかったのかもしれない。他方で、説明問題については、記述・論述力に課題が目立つものもあったが、必ずしも本講義に固有の事情ではないのかもしれない。なお、本講義は、過去5年以上、同一時間帯に配置しているが、他の関連科目との開講時間の重複を指摘するコメントが初めてあった。当該科目担当との調整を試みるなど、引き続き、改善に努めていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倒産法2
授業コード 44C22-002
教員名 小原 将照
教員コード 102897
登録人数 24
回答数 11
回答率 45.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



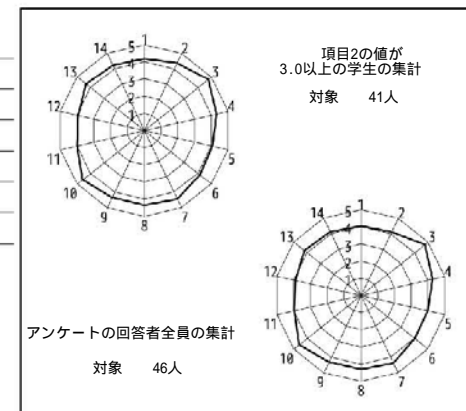
授業評価結果を踏まえた点検・評価

定期試験の結果を踏まえると、当初の授業目標はクリアできたのではないかと考える。受講生の授業参加度も高く、真剣に学習しようとする態度がうかがわれた。受講生数が少ない点はあるが、以前に比べて、楽に単位が取れることを期待する学生層が受講しなくなったため、受講生と定期試験受験者数の差がほとんどなくなっていると思われる（特に3年生について）。

自由記述において肯定的な評価をしてもらえたことについては、教員として感謝しかない。そのことに慢心せず、今後もさらに高い水準での授業を目指したいと考えている。本年度、学会（法と教育学会）において個別報告を行った。内容については、主にゼミを中心としたアクティブラーニングであるが、2024年度以降、順次、導入教育および専門教育における講義科目でのアクティブラーニングの実施と結果分析を報告する予定である。本科目は、そのための実践の場として傾注したいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法総論（応用）
授業コード 44F02-001
教員名 榎原 秀訓
教員コード 100548
登録人数 172
回答数 46
回答率 26.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

過去は、行政法総論（基礎）で授業評価がなされていて、また、本年度は、履修登録者が例年よりも少ないことから多少比較が難しい。部数をかなり限定してレジュメ等印刷し、同様の資料を資料講義DLサーバに掲げた。また、自習用に、×式の参考問題と、過去の記述問題を示し、行政法総論（基礎）の試験問題の解説を行い、本年度、冬休みに行政法総論（基礎）の答案を採点したので、その感想も示した。さらに、最高裁判決を含め、有名事件の判決などをときどき紹介した。回答数は46名で、27%程度しかない。昨年度は、回答数117名であり、回答率は58%程度であるから、相当減少しているが、理由は不明である。先に述べたように、「基礎」と「応用」という相違があるが、点数が比較的低い項目は、「適切な指導や情報提供はありましたか。」昨年3.62から3.98、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」が3.68から3.91であり、それ以外は4を上回っているため、比較的評価が良かったのではないと思う。自由記述欄をみると、比較的好評価のものが多かったが、中には「別の行政法の教員はいないのか」「この授業しかないから仕方なく取っている」といった意見もあった。もちろん、「別の学生はいないのか」など教員が裏返しのことを感じることもあるが、その点は別にしても、自分と合わない教員、人間はどの世界にも存在することが常であろうし、教員に変な期待をし過ぎていてのではないかと感じる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法（ガバナンス）

授業コード 44F05-001

教員名 佐藤 勤

教員コード 101599

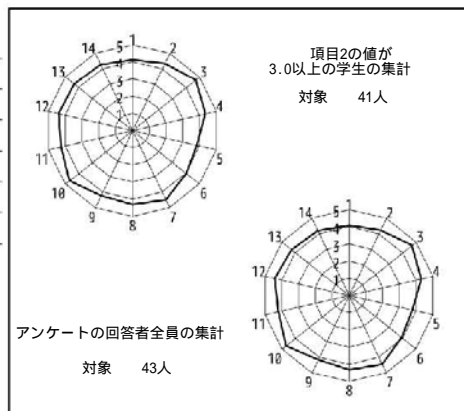
登録人数 224

回答数 43

回答率 19.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、株式会社の運営機構における各機関の役割、責任を理解することを目標とする。定期試験の結果および設問項目5および6の評点からみると、目標を達成したとは評価しえない。その原因としては、設問項目1の評点が4.09と相対的に低いこと、出席率が前年度と比較し、低下していること、Webclassに課題を掲示していたが、それを活用している学生が少ないこと（予習率が低い）、の3つが挙げられる。今年度は、例年に比して、受講生が多く、興味の薄い学生がとりあえず履修していたことも、原因の一つに挙げられる。

上記が当初設定した目標が未達であった原因であると考えると、有効、効果的な施策は少ない。とりあえず、粘り強く、学生に働き掛けることを継続していくこととする。

全体としては、目標が未達であったが、個々の学生レベルでは、良い結果・成果を出した学生は多くなっている。

これら評点（定量評価）および自由記述意見（定性評価）を踏まえれば、現状の授業方法・形態をブラッシュアップし。精度を上げるよう、改善を加えていくこととする。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 International Law <国際科目群>

授業コード 44M08-901

教員名 洪 恵子

教員コード 103537

登録人数 9

回答数 4

回答率 44.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

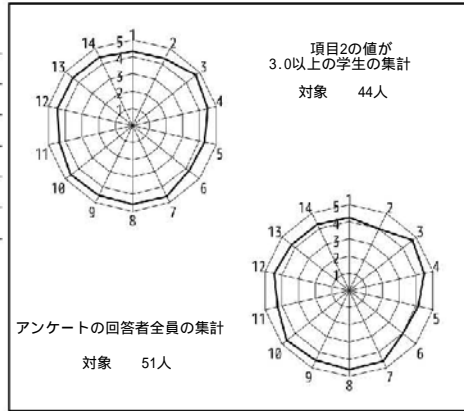
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回のアンケートでは回答数が4件に満たなかったため、集計が行われず、自由記述に1件のコメントがあったのみである。

この授業は英語で教える専門科目であるが、事前に英語の試験を行って受講生を選抜するわけではないので、受講生の英語力には大きな開きがある。そのような状況を前提として、授業では、スライドを用意して、またそのなかでは追加の資料や文献（日本語も含む）を示し、講義を行った。また私が一方的に話すだけでは受講生が理解しているかを把握できないので、授業中はできるだけ質問を行い、受講生の理解を確認しながら進めた。さらに受講生に希望する国の人権状況を学習して、プレゼンテーションを行ってもらった。自由記述ではこの点が良かったというコメントだった。来年度も引き続き、受講生の理解を確かめながら授業を行うことを心掛けたい。またこの授業では一定の英語力が必要であるが、その点を誤解していた受講生もいたため、シラバスに明記することとした。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済刑法
授業コード 44P01-001
教員名 大山 徹
教員コード 104613
登録人数 264
回答数 51
回答率 19.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

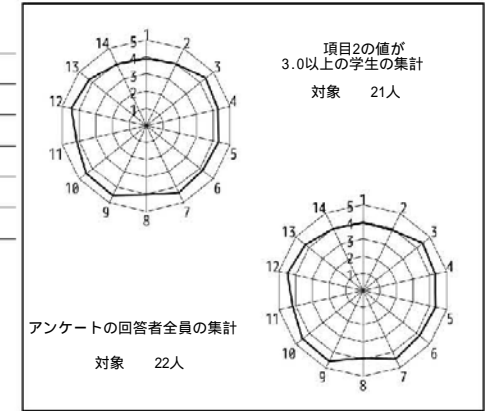


授業評価結果を踏まえた点検・評価

経済刑法は専門性の高い授業であり、問題の所在と法的な論点をわかりやすく説明する必要があったが、目標にはおおむね到達できたように思う。法学部では2年次までに、刑法総論A・刑法総論B・刑法各論A・刑法各論Bを受講生が履修しているはずであり、これら4科目の教育内容との連続性が担保できるように努めた。設問項目につきすべて4以上の評価を頂いたので担当教員としての役割は果たせた。「PPTの資料が分かりやすかった。新たな知識や考え方を習得することができた。話が面白い。具体的かつ分かりやすい事例を元に解説がなされ、理解を深めることができた。質問をしても的確な回答が貰えた、神授業」との評価も頂いた。反面、パワポ資料がカラフルに過ぎポイントが把握し辛い、教科書全般に言及すべきとの厳しい意見も頂いた。また、パワーポイントをWebClassにアップロードする時間帯を講義前日までにしていただけるとありがたいとの峻厳なご指摘も頂いた。当日の8時30分頃にアップロードされた場合、事前に印刷をしたうえで講義に参加するのが難しい。次クォーター以降、パワポ資料を改善しなるべくテーマは網羅的に触れられるように努力していく。そして、パワポ資料は前日までにアップすることにする。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳6
授業コード 10D08-006
教員名 BOSAKAIBO, B. Georges
教員コード 104045
登録人数 83
回答数 22
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

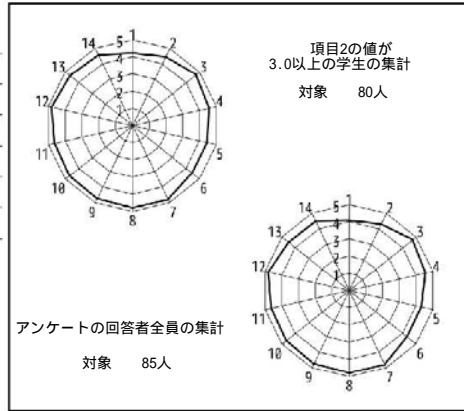


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義形式で行われたこの授業では、民族問題のさまざまな形態について、地域的な側面や原因的な側面も含めて掘り下げた。特にアフリカやアジアなどの地域において、人間の尊厳という文脈の中でこれらの問題を理解することに重点を置いた。その目的は、民族問題と人間の尊厳の複雑さを把握するための歴史的・現代的洞察を学生に身につけさせることであった。予定されていた授業は、キャンセルや振替もなく、すべて無事に終了した。このコースを通して、学生たちは現代の民族問題を分析する上で人間の尊厳が持つ意義について理解を深め、それは授業への参加や最終レポートにも表れている。いくつかの章は長かったが、包括的な理解のために重要なポイントを抽出し、人権向上のための人間の尊厳と民族的課題の交差を強調するよう努めた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策と倫理
授業コード 46A12-001
教員名 太田 和彦
教員コード 104469
登録人数 306
回答数 85
回答率 27.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度

本授業の主要目標は、学生が授業内容に深い興味を持ち、自主的に学習に取り組むことで、新しい知識や技術、能力を習得することにあった。授業評価の平均点から、学生が授業内容に興味を持ち、主体的に授業に参加していることが示されており（4.09）、到達目標に向けた学生の自覚も高い（4.32）。これらの数値は、設定された目標に対して、高い到達度を示しているといえる。

総合的な自己点検・評価

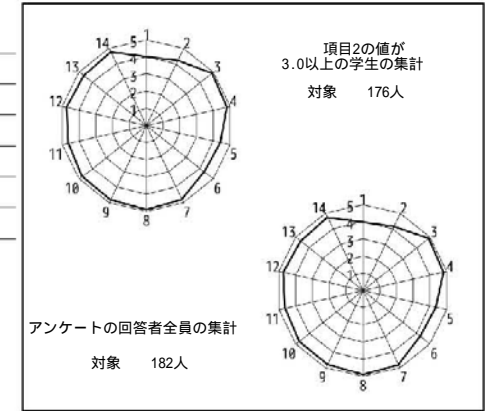
数値データを基にした評価では、授業の時間管理（4.75）、進行の適切性（4.59）、教員の姿勢（4.80）、声や音声機器の聞き取りやすさ（4.81）、学習意欲の喚起（4.66）等、ほとんどの領域で高い評価を得た。特に、質問や相談の機会の提供（4.81）については、毎回40分ほどリアクションペーパーをふまえたQ&Aの時間が確保されている点が好評を得たと考えられる。しかしながら、到達目標の理解度（4.34）や、新しい知識の習得・理解の深まり（4.49）に関しては、さらなる改善の余地が見られる。

改善点及び今後の方針

次クォーター・学期に向けて、学生の到達目標の理解を深めるため、より具体的なガイダンスと例示を提供することを検討する。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法
授業コード 46D09-001
教員名 三輪 まどか
教員コード 102263
登録人数 457
回答数 182
回答率 39.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、行政法の体系を把握し、行政法分野を理解できることを到達目標とし、コア科目でもあるため、いわゆる知識の習得を目的とする科目である。したがって、考えるための前提となる知識の習得を目的とした定期試験を実施した。定期試験の結果をしてみると、ほとんどの学生がこの目標に達していると思われる。

アンケート結果を見ると、学習意欲の高い履修生により回答されたことがよくわかり、全体の満足度を示す設問14は4.73、最も力を入れた、設問9、設問11、設問12、設問13が、それぞれ、4.76、4.64、4.75、4.62と4点台後半であり、かつ学部平均を上回ったことは、この履修生の意欲に支えられ、熱心に講義できたことによるものと思われる。この点で、熱心に受講して下さった学生の皆さんに感謝したい。

自由記述に目を向けてみると、穴埋めのレジュメ、板書、復習のためのWebclassによる小テストに満足する意見も多く、「教え方が非常に熟練したもので大変分かりやすかった」といった教員冥利につける言葉もいただけた。一方、この授業は大変難しい内容を初学者（1年生）向けに教えなければならないこともあり、ペースが速い、学ぶ範囲が広い、授業の連続性がかめない、など、授業についていけない学生も一定数出る結果となった。受講者数（457名の履修）やレベルを考えると、一定数ついていけなくなる学生がいることも視野に入れておかなばならない。

次クォーター以降は、オリエンテーションにおいて「難しさの度合い」についてより強調して伝えるとともに、学ぶ内容もより精査し、法の中のどの部分を学んでいるのか、よりわかりやすく伝えていこうと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語I111
授業コード 46F06-001
教員名 原田 直枝
教員コード 018754
登録人数 7
回答数 4
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数4件以下のため集計されない扱いとなり、具体的な数値にもとづいた報告を行なうことができなくなったことについて、今後の反省点としたい。授業時にディスプレイで「授業評価入力にご協力をお願いします。」という掲示をしたうえで、口頭でも協力を呼びかけ、入力可能な時間を20分程度確保し、学生たちはその時間にスマホを操作していたが、一定の回答が得られなかった。この結果は残念である。

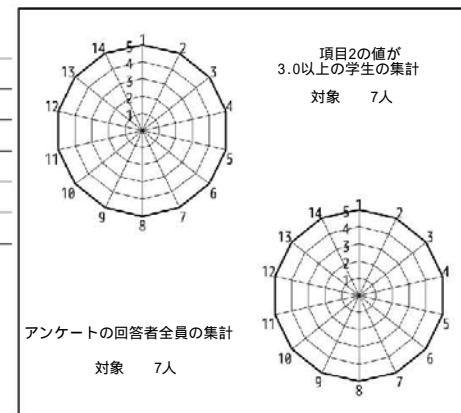
授業時の学生たちの様子と、小試験、期末試験の出来映えを手がかりに今期の授業について点検を行なうと、授業の目標「1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。3. 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。」のうち、いずれも個々の学生において、相応の達成はあったように見える。唯一、3については、今後さらなる実践を重ねる中で、身につけ具合が確かめられるようになっていくと考えられる。

自由記述1つがあり、(Q1)、(Q3)に続いて、この科目がめざす「無理なくしかし着実に、初級中国語から中級中国語のレベルへ導く」授業がある程度実践できているように受けとめられる。

例年のことでもあるが、Q4開講のこの科目は、年末年始をはさむ暦の影響を直接に受けやすく、受講生たちの授業に臨むモチベーションを維持するのが難しいところがある。テキストの進め方と、小試験との組み合わせなど、細かい部分でスケジュールを工夫して、間延びしない授業作りをさらに検討していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語I112
授業コード 46F06-002
教員名 梁 暁虹
教員コード 045229
登録人数 7
回答数 7
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

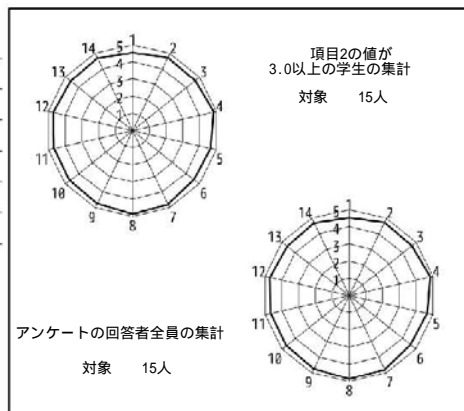


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、全て達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は全て5.00と最高点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「映像を見たり、授業の内容に沿った発表の機会があり、全体としてとても楽しかった。」「教科書外の中国語の表現方法や、いろいろな単語を知れて勉強になった。」「先生が質問に対して丁寧に答えてくださった。」「授業内容を将来に活用する方法を適宜教えてもらえた点(検定試験など)」等のよい評価があった。南山大学での最後の授業として、このような良い評価を頂き、嬉しいことであります。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策日本語II
授業コード 46F12-001
教員名 山口 和代
教員コード 049726
登録人数 15
回答数 15
回答率 100.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

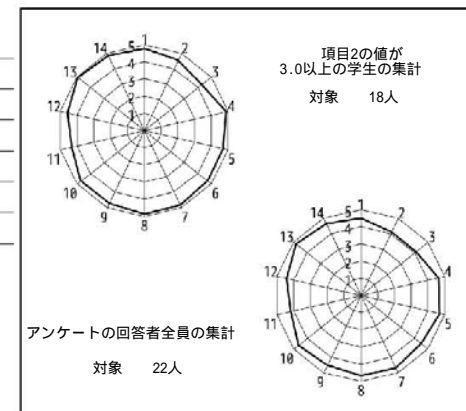


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、現代の諸問題に関する具体的課題を取り上げ、情報収集と分析を行い、ディベートにより視点を広げることで理解を深めることである。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.53から4.80という結果であった。授業への主体的参加についての項目が4.73、到達目標への理解についての項目が4.67、授業の到達目標に向けて力がついてきているかと授業を通して新しい知識を得たり理解が深まったかについての項目が4.60であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、積極的に授業に取り組んだことが伺われる。以上から判断する限り、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。自由記述欄については授業の良かった点、評価できることへの記入が6あったが、いずれも肯定的なもので、ディベートを行うためのグループ作業の効果をうかがわせる記述が複数あり、ゼミ（プロジェクト研究）の基礎となる知識と技術を学ぶという目標もある程度達成できたのではないかと考える。今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 対外政策論
授業コード 46L03-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 65
回答数 22
回答率 33.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

(1) 日本にとっての朝鮮半島の意味を理解する。

テストの解答から多くの受講生が理解してくれたと思うが、一部、理解が足りない受講生がいた。とくに日本外交の軸である対米関係との関連から朝鮮半島の重要性について講義したが、そのあたりの連携について理解させることが難しかった。

(2) 日本の朝鮮半島政策決定過程と目標を理解する。

複雑な官僚制の話なので消化不良の受講生が多かったように思う。ただ、従来の外務省中心の外交から安保を含めて官邸主導、そのための国家安全保障局の役割について、わかりやすく説明しなければ、と思う。

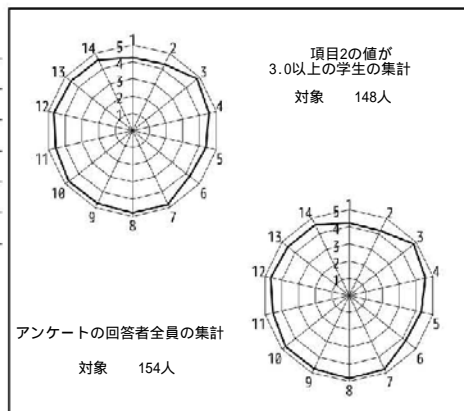
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

現在進行形の事象について理解するための経緯、構造について説明しているつもりだが、一定程度理解してもらえているとは思いますがまだ改善しなければならない点がある。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など対米関係の重要性、日本外交の基軸としての対米外交を丁寧に説明し、対米関係を良好に維持するための対朝鮮半島外交、という視点を理解してもらえるようにしたい。また、外務省、首相官邸のホームページに掲載されている資料を十分活用できればと思う。私自身の経験などから説明すると理解度が高まるようなので、できるだけ身近な問題に引きつけて説明するようところがけたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境経済学
授業コード 46N01-001
教員名 鶴見 哲也
教員コード 102265
登録人数 374
回答数 154
回答率 41.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

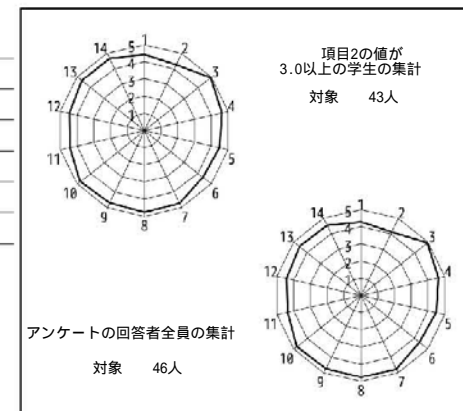


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均が4.55、項目3から14の平均が4.61であり、同人数帯の科目の平均を若干上回ることができ、おおむね良い評価を得たと考えている。特に、同人数帯の平均回答者数が113人であるのと比較してそれよりも多い154人の回答者がいる中で、このような評価を得ることができたことは、多人数講義の位置づけとしては良好な評価を得たのではないかと考えている。開講当初に設定していた目標についても、提出された最終レポートを参照するとおおむね達成ができたのではないかと考えている。自由記述を見ると、経済学を学んだことがない学生に対して基礎から説明を丁寧に繰り返し行ったことに対して、肯定的な意見が目立っていた。来年度も基礎から繰り返し説明を行うことを心掛けたい。環境経済学は経済学の中では応用科目と位置づけられるが、経済学を学んだことがない学生が受講することも多く、受講者全体の理解が高まるように、すでに経済学を学んだことがある学生にも気づきがあるような科目を目指していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経営戦略論
授業コード 46N03-001
教員名 金網 基志
教員コード 102923
登録人数 123
回答数 46
回答率 37.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

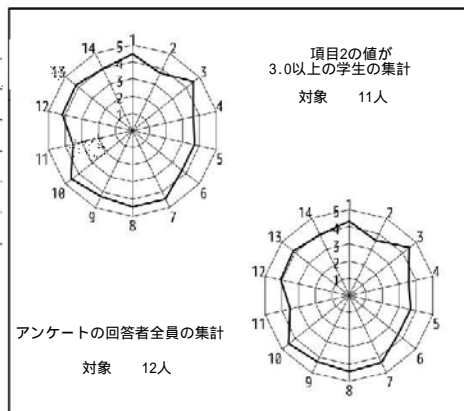


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の全体としての満足度を示す項目番号14は全体平均、科目登録者別集計を上回っている。項目4、項目7、項目8、項目9、項目10の評価は特に高い。自由記述欄を見ると、講義の中で具体例が多く紹介されていること、Exerciseで学生に質問を投げかけ考えさせたうえで発表させていること、講義の開始時に前回の復習を行っていること、資料であるパワーポイントが見やすい点などが評価されている。こうした方法は引き続き継続して行っていきたい。到達目標の理解を示す項目5の評価が他の項目と比較するとやや低い。これは、到達目標自体を学生が認識していないことが要因の一つである可能性がある。この点については、到達目標を講義中に示すなどして到達目標の周知を図っていきたい。質問の機会は講義の最期に設けているが、ほとんど質問が出されることはない。学生が質問しやすいようにwebclassを活用するなどの方法を検討していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地方自治論
授業コード 46N14-001
教員名 茂木 康俊
教員コード 104802
登録人数 19
回答数 12
回答率 63.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

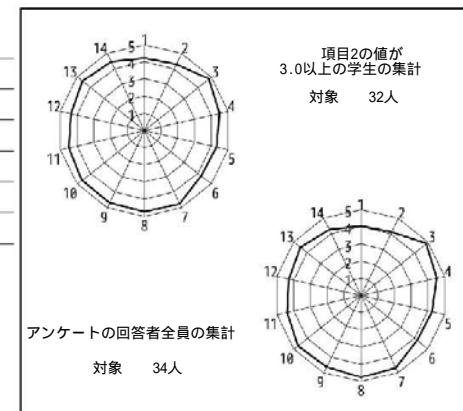
本科目について、学生の到達目標として次の三点をシラバスで挙げている。

1. 地方行政の機能について考えるための基礎的な知識を習得し、地方行政の制度や機能を理解できるようになる。
2. 行政学・政治学上の理論や概念枠組みに関して知識を深め、地方自治制度が理解できるようになる。
3. 講義内レポートや期末試験を通して、身につけた知識を活用し表現できるようになる。

設問14の総合的満足度は、平均3.92であり、良好であると言える。設問13までの個別項目については、設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」が平均4.50であり、これが他の項目に比べ最も高得点であった。この点について、本年度適切に対応できたところであり、来年度も引き続き適切に対応したい。その一方で、個別質問項目で最も低かったのが設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」である。集計表を確認したところ、他の質問項目に比べ5をつけた受講生が少ない。この点を参考にして、来年度の授業運営では学生の学習意欲を引き出すような工夫を行っていききたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境学
授業コード 46N25-001
教員名 大八木 英夫
教員コード 104123
登録人数 106
回答数 34
回答率 32.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



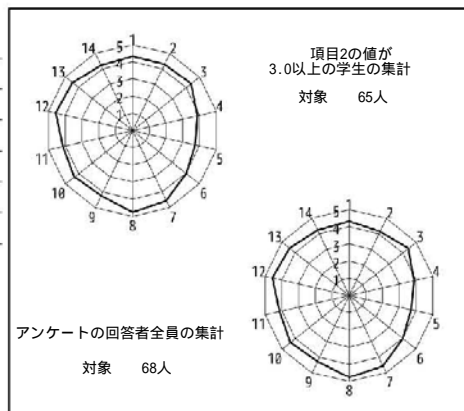
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、生活環境学に関する各専門分野の知識を横断し、地球環境と人の密接な結びつきや「生活環境」のあり方について理解させ、大気（空気）、熱、水、廃棄物、生態系といった環境要素に分けて、人が自然と共存し持続可能な発展についての授業を展開させた。

目標と到達の程度については、地球環境と人の密接な結びつきや人が自然と共存について認識は、確認テスト通じて理解度が高まった。一方、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会について考察について、環境問題や災害・防災を自分で考える能力の点から、授業中の反応や確認テストから今後の課題となると感じる場面があった。アンケート結果からは、2022年度に比べて進行速度や構成について評価された。また、概ね学生からの対応は良好で、特に、「（学生の）積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」についての評価はよい。これは、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れつつ、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた結果、その満足度が高まったものと思われる。しかし、講義との関連性について工夫をさらに進める。今後に向けては、気候変動などの時事ニュースは常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、生活環境学や地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、環境について自分で考える能力を身につけさせることをさらなる目標としたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[TC]1
授業コード 50A28-003
教員名 名倉 正剛
教員コード 103899
登録人数 76
回答数 68
回答率 89.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2年次以降のプログラミング科目の基礎となる科目であり、到達目標自体はそれら科目で必要とされる基礎知識を修得させるものであり妥当ではあったが、設問20, 21(Cプログラミングの記述方法を理解できたか、と設定)についてのスコアが若干低かった。

丁寧な説明を心掛けたつもりであったが、自由記述欄を見ると学生もそのように感じているようでその点は良かった。しかし結果として目標の到達の程度はアンケートからは高いと言えず、内容の再構成を検討する必要がある。

継続的に丁寧に説明をすることを心掛けていきたい。

なお、アンケート内に教室の空調(S23 教室は傾斜がきついので、温度が一樣にならない)についてのコメントが多々あったのですが、何かしらの改善策をお願いしたいと思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会と倫理
授業コード 52B09-001
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 18
回答数 2
回答率 11.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者数が18名であったため、少人数であることを活かし、よりきめ細かく授業の内容を伝えることが目標となった。実際には、初回から3回目前後、13回目辺りから14回目の授業において少ないが一定数の出席者があったのを除くと、出席者の数はさらに少なかった。この授業でここまで出席者数が低い年度は初めてだった。ただし、WebClassの「実行者数」を見ると、履修者の多くが教材にアクセスはしていた。出席者が少なかったことから、授業評価を行なった履修者は少数に留まった。

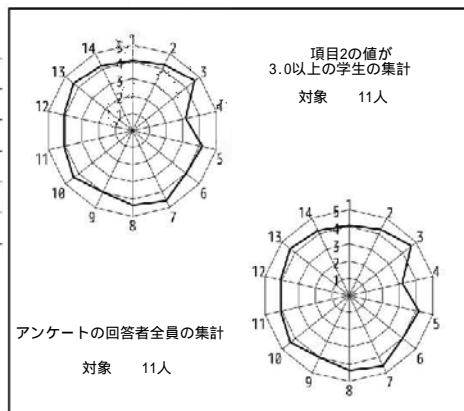
授業評価への回答は何も、設問1-14が全て5だった。設問15には「個別で対応してくれるところ」という回答があった。これらから、授業に出席した履修者にとっては、各設問について高い評価を得ていることが分かる。授業では個別の対応に時間をかけることができたため、個別対応が評価されている。ただし、授業評価に回答する学生は、回答する履修者数の少なさから高評価気味の回答をする傾向にあったとも考えられる。設問21は4あるいは3という結果だった。

今回の結果から、授業内で個別の対応をきめ細かく行えば、受講者の評価が高まることが実感された。これまでのこの授業では、今回のような個別対応はできていなかった。今後、履修者数が増えた場合にも、今回のようなきめ細かな対応を各受講者に向けてどのように実施していくかが検討課題となる。

加えて、初回に出席した受講者が継続的に授業に出席するように、初回において全体の授業の内容をより詳しく伝え、各回の授業の面白さを提示していくことが必要だと思われる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報システム開発実習1
授業コード 54A10-001
教員名 金山 知俊
教員コード 019455
登録人数 38
回答数 11
回答率 28.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

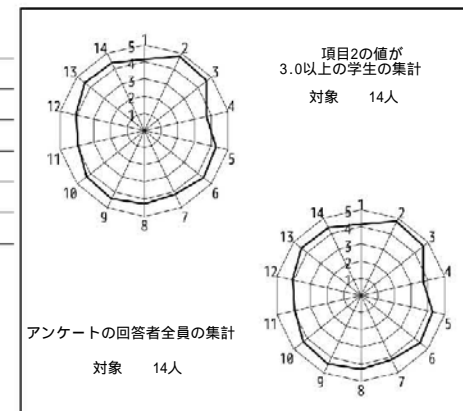


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ソフトウェア工学実習は組込みシステムを題材にソフトウェアを工学的に開発する技術を実践しながら学ぶ科目である。2023年は使用する機材をこれまで使用していた LEGO Mindstorms EV3 から sony の toio に変更し、開発環境や開発言語は Visual Studio Code とpython を用いた。受講生は従来よりモダンな環境での開発を体験できたと考えるが、開発環境構築や実習の準備につまづくトラブルがあり、当初検討していた授業内容のうち、可視化などいくつかの内容を実施できなかった。
- 授業評価の結果は項目1~14の平均、項目3~14の平均がともに4.17であり、ソフトウェア工学科科目の平均値より少し低い値であった。個別の項目では授業の構成や進行速度に関する項目4が3.18と、他の項目にくらべ低い値であった。これは前述した授業中のトラブルや予定内容を一部実施できなかったことが影響していると考えられる。自由記述欄では項目15で新しい言語によるシステム開発で実践的に理解できたという肯定的な評価や、項目16で授業中のトラブルについての指摘がみられた。アンケートの回答は登録人数の1/3以下であり、表明されていない不満を持った受講生がいた可能性もある。
- 内容を一新したことで新しい機材や開発環境を用いた授業を実施できたことは肯定的に考えているが、トラブルによって授業の進行や内容の削減が発生してしまったことが問題であった。これらの問題を解決するために、次年度は今年度より早い段階から授業の準備を進める予定である。また、受講生が積極的に授業に参加できるよう、分かりやすく興味を引く資料を作成することを考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報システム開発実習2
授業コード 54A10-002
教員名 横森 励士
教員コード 101114
登録人数 38
回答数 14
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、授業時間を他学科と合わせるために、前年度から機材を変更する必要があり、今年から toio と呼ばれるロボットを導入して実習を行った。今年度の目標は、その新機材に合わせて内容を一新したうえで実習の授業をどうにかこなしていくという点にあった。

その点で学生さんにとっては、新しい機材で取り組めるというメリットを享受できると同時に、デメリットとして今回初めてtoio に関する開発環境を学生の環境に導入するという点で、どんな不具合が実際に出るのか未知数であるという、いわば人柱的な立場になってもらうことになった。その点で準備は入念に行ってきたが、それでもいくつか不具合が出たことは致し方ないともいえるのだが、その点については学生さんには申し訳ないことをしたとも認識している。

授業としてはレポート一回分は実施できなかったことはあったが、幸いどうにかこうにか破綻せずに、最後の発表まで何とかうまくいくことができ、学生さんの努力と尽力に感謝している。レーダーチャート自体も悪くなく、toio自体は好評であるという認識であるので、つながりにくいという欠点をどうにかしつつ、来年以降も改善していきたいと考えている。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学特別講義
授業コード 54B11-001
教員名 井上 克郎
教員コード 047811
登録人数 57
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の到達目標は以下の通り

1. 理工学に関わる研究背景、および、解決すべき諸問題の重要性を理解している。
2. 課題解決に必要な文献調査を行い、その内容を理解し、問題解決に利用することができる。
3. デザイン能力を活用して、専門分野の知識を研究活動へと応用することができる。
4. システムの目標を満たすための最適化、あるいは準最適化手法について理解している。
5. 論理的表現による文章を用いて研究内容を報告し、質問に対して適切に答えることができる。

これらの目標に対して、1.に関しては、外部講師の現実の諸問題の解説により涵養できたものと考え、2., 3., 4.に関しては一部の講義の中でそれらに関して講義、演習を行なった。5.についてはレポートを課してその能力の確認を行なった。

おおむね多数の学生が8割以上の出席をし、レポートを提出した。ただ授業中に講師が促しても質問がない場合や数少ない場合が多かった。今後、学生の授業の参加をより促進させる方法を考えていく。

授業前に、講義を聞きながら質問事項を考えさせるなどの工夫が必要かもしれない。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学特別講義
授業コード 54B11-001
教員名 佐伯 元司
教員コード 100223
登録人数 57
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

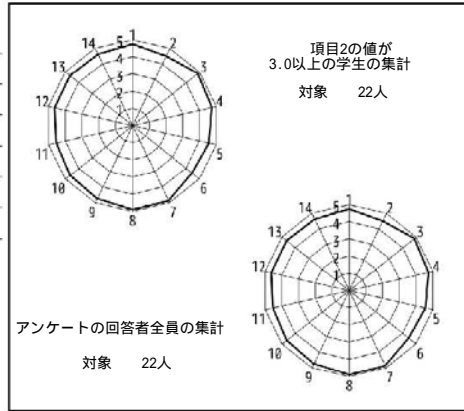
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、ソフトウェア工学科の3年生に対して行われ、実社会におけるソフトウェア工学の実践とその最新の話題や、現場における経験などを、企業で研究・開発を行っている人を非常勤講師に招いて行った。トピックが現在のソフトウェア工学の最先端技術をオムニバス形式で行ったため、学生の理解度を心配したが、適宜質疑応答時間を入れ、場合によっては我々が質問者を指名するなどした結果、理解度はおおむねよかったと思われる。講師によっては企業内で資料として配布が禁止されている技術の紹介もあり、後方に座っている学生にとっては見づらかったと思われる。学生を強制的に前に座らせるなどの工夫が必要であろう。また、生成AIに関連するトピックは3件あり、学生も興味深く聞いていたようであるが、内容が難しいため、関連したトピックを日的に近づけたり、初心者向けの基本的な部分からさらにアドバンスな内容に並べたりするなど工夫が必要な部分もあった。一部、簡単な演習を取り入れたトピックもあったが、今後は学生の理解度に応じて質疑応答と合わせて積極的に取り入れていくのがよいと思われる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報1
授業コード 13E09-001
教員名 三浦 英俊
教員コード 102259
登録人数 43
回答数 22
回答率 51.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について以下の3つを設定していた。

1. ORが実社会でどのように使われているか、いくつかの例を知っている。
2. ORの基本的な手法について理解している。
3. 実社会の様々な問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを理解している。

それぞれについて、授業中に教科書を使いながら取り組む問題の説明、問題を解くための数理モデルの説明、数理モデルを使った解き方の説明、さらに得られた解の解釈について講義を行った。初回を除き毎回課題を出した。課題は授業の内容の補完として位置づけた。学生の課題提出物を採点して、目標に到達できていることを確認した。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

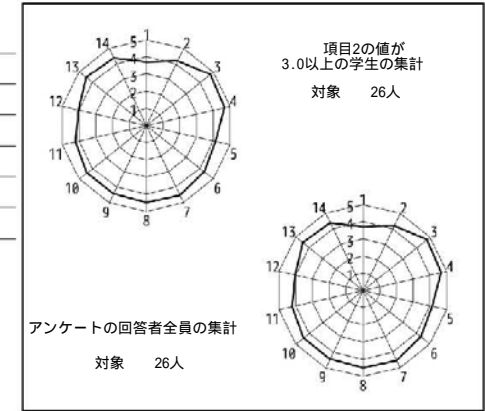
この授業は2015年度以来9年目となり、講義内容を毎年改善しつつ進めてきたことが効果を奏して、多くの学生により評価がもらえるようになったと感じている。ORが社会問題から身近な問題まで適用可能であることを教えることに重点を置いている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など後半の内容である数理最適化問題はコンピュータを用いて解を得ることを前提とした数理モデルとなっており、授業では一部の問題は定式化までできない。

これらについて、定式化した問題を学生の手で（あるいは授業中にコンピュータを用いて）解けるように工夫をしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II [TD]
授業コード 55A05-001
教員名 小市 俊悟
教員コード 101691
登録人数 102
回答数 26
回答率 25.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

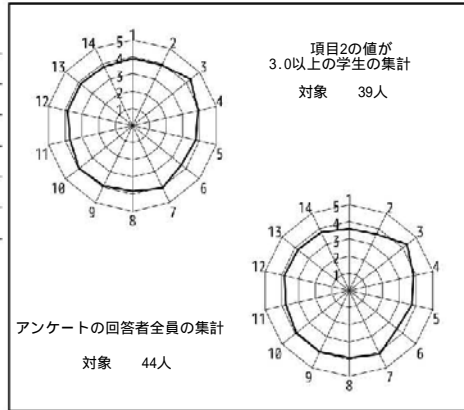
線形代数学Iで学んだ知識も活用して、線形代数学の中心的概念である基底や次元などベクトル空間の基礎を理解することが目標となっている。授業は演習がセットになっており、問題を解く機会も十分にあったかと思うが、定期試験において、演習問題とよく似ているが、自身で説明を加えないと正しい解答とならないような問題を出題したところ、全くできないということは少なくとも、学生により差が見られる。形式的な解答作成ではなく、本質的な理解までできている学生が大半というレベルには達していないことを確認した。

Q4ということで、回答者にも偏りがあると思うが、評価は悪くない。演習では、学生に集中を促すためスマホは使用禁止にしているが、その環境を好ましく思うコメントもあった。教えているより、監督しているようで、色々思うところはあるが、学習させるという目的への悪くない手段となっているのであれば、継続の方向で考えたい。

学生の解答時間を見ても、演習問題をもう少し増やす余裕があるのではないかと考えている。良い問題があれば、追加したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械学習の数理
授業コード 55A09-001
教員名 河野 浩之
教員コード 048595
登録人数 209
回答数 44
回答率 21.1%
休講回数 0 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
改組後、2度目の講義となることから、一部の資料構成を変えた。その結果、資料数は増えたが、閲覧しやすくなったと思われる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
登録者数が増加したが（今年度209名登録，昨年度185名登録），小テストやレポート提出者数から判断すると、履修しない学生が一定数いたと考えられる。

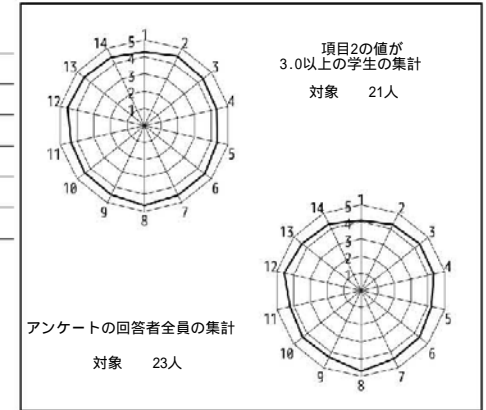
昨年度の自由記述を踏まえて、今年度は小テストの解説資料を別途用意した。このことが、良かった点として記述されたと思われる。

一方、困った点として、レポート期限延長（1週間）を初回提出ギリギリで行なった点があった。この延長は、レポート課題開示（2023/12/6）から初回締切（2024/01/22）までの提出数（108通）が履修登録者の半数程度であったためである。延長にもかかわらず、登録者の20%程度（43名）からレポートが提出されなかった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など今年度同様の履修登録傾向が続く場合は、履修中止制度の利用をアナウンスしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理最適化
授業コード 55B02-001
教員名 佐々木 美裕
教員コード 019463
登録人数 97
回答数 23
回答率 23.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

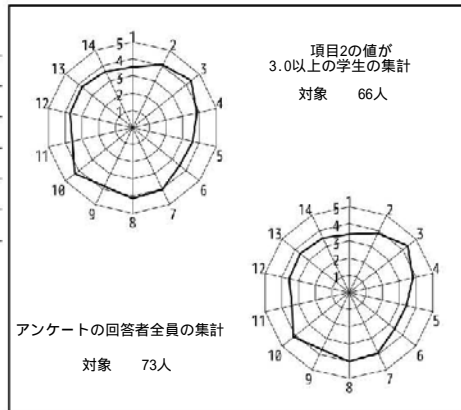
基礎的な内容を中心に説明し、毎回の授業内容を確実に理解して積み上げ式で学習効果を上げることを目標とした。そのため、今年は評価基準を変更してレポートのウェイトを昨年の20%から40%に変更し、積み上げて学ぶことを重視した。さらに、授業後にも復習できるように、毎回の授業動画を授業後1週間に限定して公開した。授業内容の確認を目的としたクイズ形式の小レポートを8回実施し、昨年度は実施しなかった手書きのレポートも1回実施した。残念ながら、昨年と比較して、小レポートの提出率も得点率も大幅に下がり、目標を達成したとは言えない。

項目の平均値が4.3を超えており、評価としては悪くない。自由記述にも「レポートの回数が多く、毎回の授業内容の確認ができてよかった」という記述が複数あり、少なくとも一部の学生にとっては、効果的な学習ができたのだと思う。一方で、設問20の平均が2.61と極めて低い。授業は理解できて身についていないという感じる学生が多いという結果であり、授業運営に改善が必要であると考えている。

小レポートとは別に自習課題を毎回の授業内で指定し、解答の確認をWebClass上でできるようしくみを作ることによって、授業内容を理解しても身についていないと感じる学生を減らすよう努めたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信理論
授業コード 56A09-001
教員名 梅比良 正弘
教員コード 104425
登録人数 193
回答数 73
回答率 37.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果からは、授業の構成は概ね問題ないものと思われるが、項目5の授業の到達目標への理解、項目6の実際に力がついただけ感じている学生についての評価が、他学科の授業評価の比べて低い。これは、項目9、項目11のアンケート結果が3.5程度となっていることが原因と考えられ、学生の理解度への配慮や、授業中に講義の理解を助ける仕組みを取り入れる必要があることを示唆していると思われる。

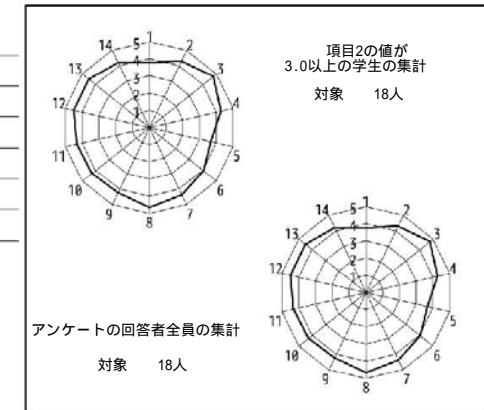
実際、項目15のアンケート結果をみると、レポートや演習問題を解く機会があったことが良かったとの回答を寄せている学生が多く、説明だけでなく、講義はよりポイントを絞ったものとし、代わりに授業中に簡単な演習を入れることがよいのかもしれない。

項目16のアンケート結果で、講義資料の空白は不要、空白の模範解答が欲しい、との意見が少なからずある。講義資料の空白は、教科書を読めば書いてある内容で、予習でこれを埋めて授業に臨むことを想定しているが、授業を休んだ時に困ったという意見があった。来年度の授業では、何らかの対策を検討したい。

期末試験の結果をみると、不合格者が少なからずおり、基礎的な理解ができていない学生が散見される。結果として、総合の満足度は3.5で決して高いとは言えず、より学生の理解が進む授業となるよう、工夫していく。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子情報工学実習
授業コード 56A11-001
教員名 藤原 正浩
教員コード 104753
登録人数 68
回答数 18
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
提出レポートを評価した結果、シラバス記載の到達目標について少なくとも基礎的なレベルには概ね達していることを確認できた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

平均的に4~5の値となっており、学生からは概ね満足できる授業となった。

点数の低い設問（「自身が理解できたか」系の設問）についても、 3 ± 0.5 の範囲にあり、平均的である。

（提出レポートから評価される理解度と比較し、学生の自己評価は概ね一致しているといえる。）

自由記述において（班単位で実習を遂行するため）「能力が低い学生も高い評価になりえることが問題」とあるが、個人ごとに評価するレポートもあるため一部は勘違いである。評価基準の周知徹底を心がけたい。

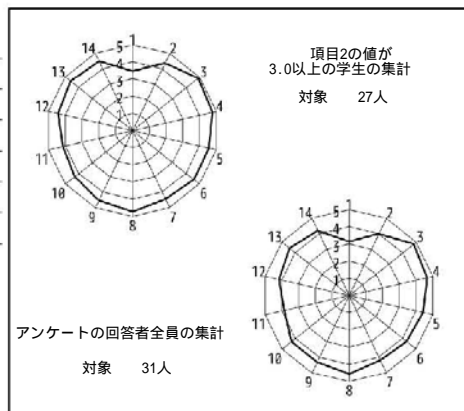
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生の理解度は最低限のレベルには達していると言えど、関連する授業や卒業研究を何の苦も無く理解していくのに十分とは、到底言えないと思われる。理解度をさらに向上できるよう、学生が本授業へのエフォートを増やせるような方法を考えていきたい。

また、本授業は前身の電子通信工学実習から数えて4年ぶりに実物の機材により実習を行った（コロナ禍ではコンピュータシミュレーションを主とした実習を行っていた）。

自由記述においても「やっていて楽しい」「実践的であったので役に立った」旨の記述があり、次年度以降も実物による実習を実施できることを願う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FB・FF・FG]4
授業コード 10C01-018
教員名 大月 英明
教員コード 047340
登録人数 34
回答数 31
回答率 91.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

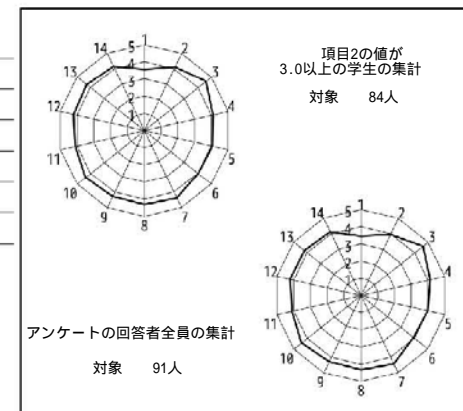
各項目の傾向についてはほぼ例年と同様である。評価の平均値は（授業評価に関連が薄いと思われる1を除けば）4以上がほとんどなので、授業運営も大きな改善の必要はないと思われる。

前回の授業評価では「声が聞きにくい」という意見を初めて受けた。高性能マスクをしていたのがその理由であったが、適宜マスクを外すことによって改善したと思われる。今回初めて「質問がしにくい」という意見があった。コロナ対策のために、動画プレゼンテーションを行っていたが、今後は動画プレゼンテーション方針が見直しされる可能性があり、この点も考慮して改善をしていきたい。

グループ分けについては、学生番号順であることに対する不満があった。しかし学生番号順以外に適切な方法はないと思われる。自己のグループを知ってから共同作業を始めるまでの時間が短いかも知れない。次回からは、グループでの顔合わせはガイダンス時に行うように指示することで改善することとしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御理論I
授業コード 57A08-001
教員名 杉本 謙二
教員コード 104614
登録人数 191
回答数 91
回答率 47.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標はシラバス記載の内容をしっかりと身につけてもらうこと。到達の程度は満足できず、特に周波数応答は理解不足のようである。
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
91人が回答し、授業の進め方には概ね良い評価をしてくれたようである（数値データと項目15）。しかし「この授業の達成目標に挙げられた内容について」への回答が3.04と低いのは私の自覚通りである。項目16, 17への自由記述でも少数ながら耳の痛い指摘が目立った。私語を慎むよう繰り返し言ってきたつもりだが、それでも後方は騒がしかったようで真面目な学生には申し訳ない。ただ、教室の前方に座れと幾ら言っても前はガラ空きで、広い階段教室の全体を管理することの難しさを痛感している。また、エアコン温度はいつも皆に尋ねていたし、暑いならアンケートでなくその場で言ってくれよと言いたい所はある。
3. 次年度以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
毎回、出していたminutes paper（小テスト）に関する運用を大幅に見直すこと、クラスをよりしっかりと掌握すること。授業内容について精選し、例などを増やして理解をはかること等。簡単なことではないが、できることから改善して行こうと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械工学基礎

授業コード 57A09-001

教員名 中島 明

教員コード 103140

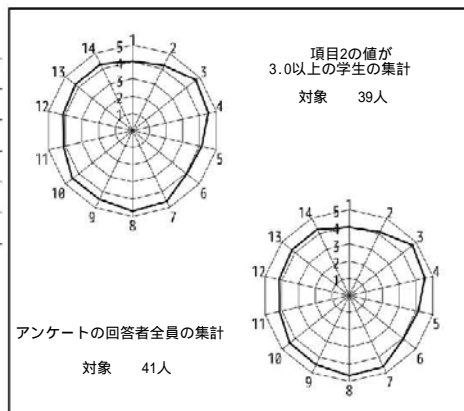
登録人数 208

回答数 41

回答率 19.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の内容は4単元から構成されており終了時にレポートを課した。一部理解が出来ていないように思われるレポートもあったが、概ねそれなりに解答できており、授業内容の理解はできていると思われる。評価としても概ね4以上であり、「真面目に受講した学生」にとっては好評であったと考えて良いであろう。一方で出来の悪いレポートでは似通った誤答が頻発しており、互いのレポートを複写したであろうことが見て取れる。

講義登録者が200名を超えるにも関わらず、初回から100名程度と半数の参加者しかおらず、その後も下がり続け最終的には40名未満となった。理由としては、「1限開講」「出席がない」「レポート評価のみでテストがない」「受講生のレベルが下がった」が挙げられる。

8割の学生がやる気がなくこの授業を「舐めている」一方で、手前味噌になるが、2割の講義参加者の満足度は総じて高い。

「出席評価なし」と「レポートのみの評価」は真面目な学生には効果的であるが、そうでない場合は最悪の効果を生む。

来年度、出席評価の導入については検討中だが、レポートに加えて「テストでの評価」を復活させる予定である。

最低位の人間に勉強させる、というより「楽をさせない」ような施策の導入は痛恨の極みであり、大学教育とはもはや言えないかもしれない。

8割の学生は怠惰に堕ちており、もはや義務教育未満である。

いやそれにも劣る。

未就学児には成長という未来があるが、彼らは衰退するのみだ。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械システム工学演習IV

授業コード 57A14-004

教員名 潮 俊光

教員コード 104870

登録人数 7

回答数

回答率

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

以下の3つの目標を設定した。

(1) 目標：下記の英語の専門書を使って力学の基礎知識を習得する。

J. L. Meriam and L. G. Kraige, Dynamics, 7th Edition, John Wiley & Sons, Inc.

Q1のときに比べて、適切に和訳することができるようになり、専門書は2.8節まで進み、当初の目標に到達した。

(2) 目標：グループごとにテーマを定めて、設計・制作する。

定期的に進捗報告会を行い、最終授業で成果を発表した。どのグループも制作物を完成させており、当初の目標に到達した。

(3) 目標：カルマンフィルターを使えるようになる。

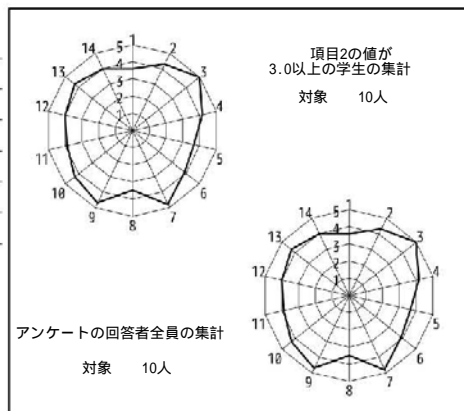
カルマンフィルターのプログラムを実際に動かすことができるようになり、当初の目標に到達した。

無断欠席する学生はおらず、学生全員が意欲的に授業に取り組んでいて、目標(1)については担当箇所の説明ができており、目標(2)については空き時間に制作を行うなど積極的に取り組んでおり、目標(3)についてはカルマンフィルターのプログラムを使えるようになった。授業内容は主担当者の中島先生が検討し、私はその指導方針に沿って学生へのアドバイスなどを行った。特に(2)については、私のアドバイスを参考に実験を行うなど、授業の質の向上に貢献できた。

次年度から私単独で機械システム工学演習(3年生開講分)を担当することになるので、今年度の経験を活かして、授業内容を検討する。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 計測工学
授業コード 57B02-001
教員名 陳 幹
教員コード 100770
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

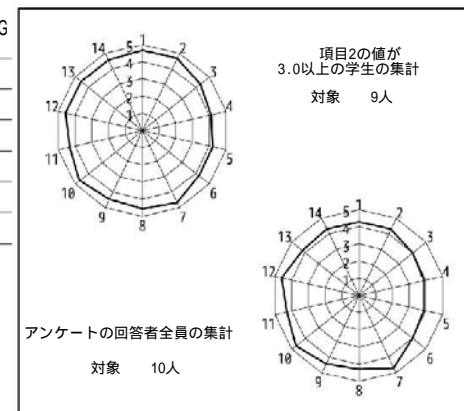


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
講義概要に明記した目標を達成した。
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
項目1-14 の評価値は一定以上あり、適切な講義を行っていたと判断できる。
一方、項目20,21 の評価からは、学生自身が感じる理解度が低いといえる。
理論を構築する講義ではなく、計測器とはどういうものなのか、その原理や仕組みはどうなっているのかという知識を伝えることが中心であるので、それを実際に使う現場に出るまでは、身についたかどうかを判断することが難しいように感じる。
受講生が少なかったため演習を取り入れることを試みたが、項目15からはそれがよい取り組みであったことがわかる。
一方、受講生が少なかったために、スクリーンがない小さな教室に割り当てられたが、不評であった。
3. 改善点、今後の抱負、方針など
受講生の人数に強く依存するが、可能なら次年度も演習を通して計測原理の理解を深めたい。
また、受講生がどれだけ少なからうとも、大きなスクリーンがある部屋で講義を行えるよう、教務課に依頼する。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[G
]4
授業コード 11A04-035
教員名 YARDLEY, Gabriel
教員コード 016998
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 1 回

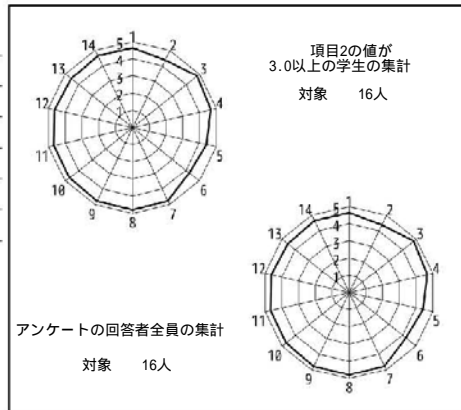


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with the course in terms of the teaching methods, the syllabus objectives—which were met in full, as well as with the knowledge acquired and updated materials used throughout the quarter. The lower scores reflect some concern about the structure and pace of lessons, and doubts about the goals of the class. A detailed schedule of assignments for the quarter was distributed on the first day of class, as was a print outlining the goals of the course. The instructor will ensure that future participants fully understand and are comfortable with these elements. One student wanted more time to be made available for discussion, and where possible, this will feature in future classes. Written answers note that some students were satisfied with the course overall (I was able to study without any trouble..., assignments were effective..., I had many opportunities to speak English..., there was ample opportunity for conversation and discussion,...materials to facilitate conversation were also provided. Where appropriate, additional activities and materials will be introduced and others extended as requested by additional (anonymous) comments and suggestions. Students were lively, good-humoured and generally participated actively in all class activities and assignment completion and were a pleasure to work with.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[G]
]8
授業コード 11A04-039
教員名 BURCH, Alfred Rue
教員コード 104829
登録人数 17
回答数 16
回答率 94.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

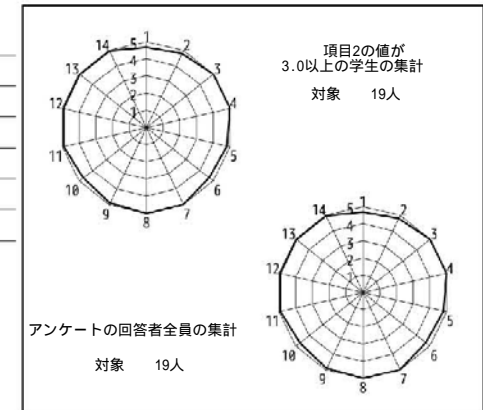


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The goals were achieved well, I believe. In this class, everyone was able to develop their abilities, and the lowest achievers in Q3 showed marked improvement in Q4 (by 2 letter grades!).
- 2) This particular group of students made it reasonably easy to meet task goals and get them to communicate. The other Oral Communication course students were much more reticent, and I had to work to find ways to encourage them to communicate with each other (and to trust each other).
- 3) The primary concern for teaching this course next year will be to find techniques and strategies for encouraging communication among students who seem to not feel comfortable with each other. In this particular group, this was not a problem, but the other course presented challenges. I also want to find ways of negotiating aspects of the syllabus in order for the students to feel a greater investment in the course, tasks, and materials.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]4
授業コード 11A08-035
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 21
回答数 19
回答率 90.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

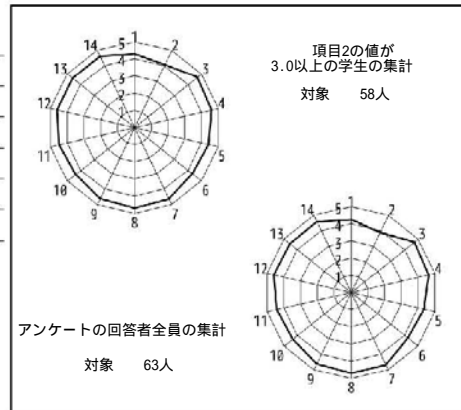


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I am very satisfied with the course evaluations for English Literacy IV. The course was designed specifically to help students become more independent English writers (primarily with essays), as well as to help improve their critical reading skills. The students answered with a score of 4.95 to question #14, indicating they were very satisfied with the course and answered with a score of 5.00 (question #4) to show they felt the course had been structured and taught at an appropriate pace.
2. The written comments from the students were all positive and many commented specifically on the feedback I provided on their essay drafts. This takes a great deal of time to do, so I was very happy to see the students appreciated this and learned from everything I gave them. The scores for question #13 (4.95) also indicate that the students felt they had gained a lot of new knowledge and skills from this course.
3. For next year, I will continue to try and support my students and provide them with as much guidance and feedback as I can, so that they can continue to improve their reading and writing skills in English. In particular, I will try to reinforce the idea that they are making progress towards the course goals as the answer to question #6 (4.68) was relatively lower than other responses.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と倫理問題4
授業コード 13A03-004
教員名 神崎 宣次
教員コード 103280
登録人数 286
回答数 63
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

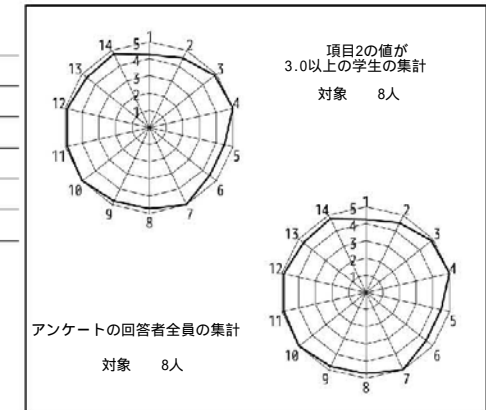


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
今年度は扱うテーマの内容と順序の一部変更を行ったが、当初の目標は達成したと考える。
- (2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
回答の数値に関しては問題ないと思う。項目2についてはもう少し高い方がよいかもしれないが、学生が負う学習負担全体を考えると、いわゆる教養科目である本授業についてはこの程度で十分だろう。
自由記述にある出席の厳格化等をした方がよいのではというコメントについて。出席を強制することは受講生の授業体験の向上につながらないと思う。そのかわりに、レポート課題と成績評価の厳格化によって自然な受講生選抜が生じるように来年度シラバスでは記述の変更を行った。
- (3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
大きな改善の必要性はないと考えているが、レポート課題についてはレポートの書き方の提示も含めてよりよい者とする検討を行いたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Topics in GLS C2
授業コード 48A50-002
教員名 MUNSI, Roger Vanzila
教員コード 101925
登録人数 23
回答数 8
回答率 34.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

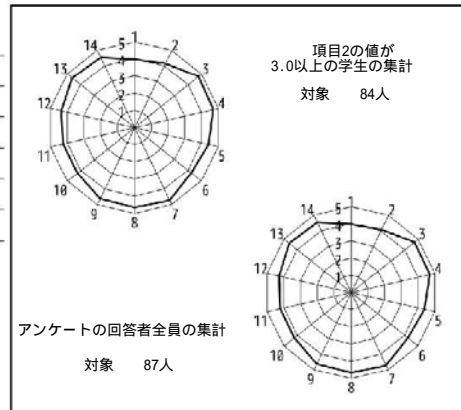


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- This course "Topics in GLS (Global Liberal Studies)," focused on the anthropology of sustainability. I aimed to equip students with a foundational understanding of anthropology, covering both methods and theories. We delved into core aspects of sustainability, exploring topics such as the nature, extent, and contours of the circular economy, human-environment relations, and sustainable mobilization. The inclusion of case studies aimed to offer practical insights into these subjects.
- To enhance the learning experience, a mini-workshop with a Guest Speaker was organized, providing students with valuable perspectives beyond the classroom discussions. Assignments, including a homework assignment and a final term report, were designed to reinforce the topics covered during the class sessions. Supplementary reading materials were also provided to encourage further exploration and understanding.
- I am delighted to realize that students expressed appreciation for the content of the course and communicated that they gained valuable insights from the discussions. Personally, preparing and teaching this course allowed me to learn and incorporate new perspectives, leading to the development of a research paper set to be published in the forthcoming issue of Nanzan ACADEMIA Journal.
- I also acknowledge and appreciate the constructive feedback provided by some students, and I am committed to addressing any shortcomings mentioned to enhance the overall quality of the lecture.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 シティズンシップ論 / Citizenship
授業コード 48B09-001
教員名 大竹 弘二
教員コード 101968
登録人数 145
回答数 87
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

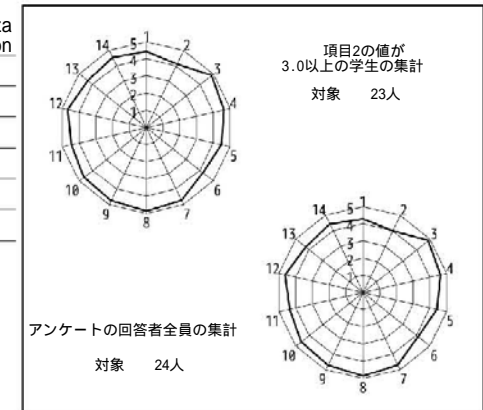
本授業は毎年私が担当している国際教養1年次必修科目であり、授業内容は基本的に大きく変えることなく、必要に応じて授業テーマに関連した新しい時事的なトピックを盛り込むようにしている。学生の反応や授業態度などに関しては昨年度とそれほど大きな差はなく、おおむね学生たちはこちらのお話をよく理解し、それについて自分たちなりに考えてくれたようである。

問題点としては、今年度はリスポンスペーパーにChatGPTなどの生成AIを利用したと思われるものが少なからず見られ、それへの対策が必要となったことである。リスポンスペーパーには漫然と授業の感想を書かせるだけでは意味がないと思い、特定の具体的な問いを立ててそれに対する自分の考えを書いてもらうようにしているが、それがかえって生成AIを利用しやすくしているようである（授業に出席していなくても、こちらの出した問いをAIに入力すればそれなりの回答が返ってくるなど）。

AI利用の有無は比較的簡単にチェックできるので、最終レポートの提出前に全履修者にレポートにおけるAI利用の禁止を周知したが、来年度はもっと早い段階でその点について注意喚起すべきだろう。来年度以降もこうした傾向が続くようであれば、リスポンスペーパーやレポートではなく、ペーパーテストで成績を評価することも考える必要が出てくるかもしれないが、単なる知識の暗記になるのも望ましくないため、評価方法については今後の検討課題である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化と国際協力 / Globalization and International Cooperation
授業コード 48E05-001
教員名 吉田 信
教員コード 104481
登録人数 92
回答数 24
回答率 26.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標到達度について

評価対象となる講義の目標として、以下の3点を設定した。

1. グローバル化の展開を理解する
2. 国際協力の歴史的な展開について理解する
3. 国際協力の問題に対して私たち一人ひとりが個人としてどのように関わっていくことができるのかを考えてみる

それぞれの目標について、予定されていた講義の中でほぼ取り扱うことができた。

とりわけ目標3については、外部から講師を招き、定住外国人の問題あるいは国際NGOの活動について話していただくなかで、学生にこれらの問題に対してどのように自らが係わるのが可能なのかを考える機会を提供できた。

数値データ・自由記述

設問項目のうち、最も低い値を示しているのが設問項目2である。

予習復習は毎回課題となっており、講義では授業内容の復習を兼ねた小課題をリアクションペーパーとして提出するように設定した。

自由記述においては、外部講師によるレクチャーに対する高い評価が散見される。

座学による知識の提供に加え実務の立場からの知見を加えることで講義の理解が高まっており、開講目標の達成にも繋がっている。

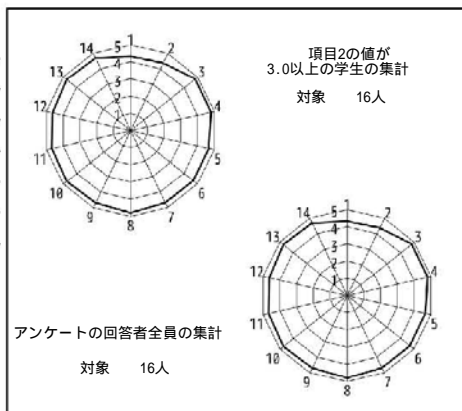
次クォーター以降の改善策

本来、講義の単位は予習復習の時間を伴い認められるものである。

受講生に対してこの点を十分説明するとともに、予習を講義に組み込む仕組みを検討していきたい（復習についてはすでに小課題として組み込み済み）。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics: Global Studies E (Political Studies) <国際科目群>
 授業コード 48E10-901
 教員名 山岸 敬和
 教員コード 101411
 登録人数 48
 回答数 16
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q4に開講された「Special Topics: Global Studies E (Political Studies) <国際科目群>」は、アメリカの政治、社会、経済、文化の特殊性を他国と比べて論じていくことである。他の科目に比べてより多くのアクティブラーニング活動を取り入れた演習形式の科目である。

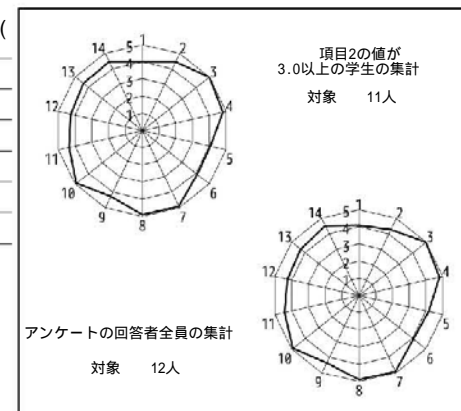
この科目の目標は以下の三つであった。1) To read and discuss political and social issues in English, 2) To understand political and social problems in the world, 3) To think about how to solve the problems. 授業内での議論の内容を見るとかなりレベルが高いところまで達成されたと思われる。そのようなことから、授業評価において「設問3～14の平均値」が4.72(学科平均4.54)、「設問1～14の平均値」が4.67(学科平均4.49)となり、全体的には良い評価であったと認識している。

今回のクラスで特に気をつけたのは、学生がしっかりと授業のための準備をしてくるような仕掛けをしたことである。特にこの科目では難解な英語のテキストを使用するため、最初の方は進度を遅くしたことが良かったのではないかと考えている。

反省点としては、準備をしっかりとしないと授業に臨めないようにしたため、出席率が他のクラスより悪かったことがある。英語のテキストを読んで理解ができなかったため授業に来なかった学生がいたことが予想される。学生は全てを理解してから授業に来たいということがあろうのだが、大学というのは、分からないことを共有して議論する中で学びを深めていくのだということを学生にもう少し明確に伝えたほうが良いと思った。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics: Global Studies C (Religious Studies)1
 授業コード 48E13-001
 教員名 VOLPE, Angelina
 教員コード 000167
 登録人数 49
 回答数 12
 回答率 24.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It has been somewhat surprising to read that the lowest score for this class was regarding Question 1: Were you already interested in the content of the course before you enrolled (4.08).

In fact, the students can choose different topics in “Special Topics” classes.

Another surprise concerns the low score for Question 5: Were you able to understand the course attainment target? (4.17).

In their final papers it is indeed clear that most of the students understood them perfectly well. In fact, some of them wrote that in spite of much prejudice against religion because of misinformation, the students now understand that religions are an universal phenomenon which have a great task in building up good relationships between people, because the “serious” ones focus on a quest for truth, fraternity, love and a refusal of violence.

The major problem still is that only a few students answered the survey, so it appears that a significant challenge for future sessions is how to persuade – and not compel – all those enrolled in the course to complete and submit the questionnaire in a true spirit of cooperation.

Of course, the best way to improve a lesson would be for students to realize that they are always free, as young adults, to consult directly with the teacher about any intellectual or pedagogic difficulties, doubts or concerns that they may have.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies A (Language Studies) <国際科目群>
授業コード	48G14-901
教員名	村杉 恵子
教員コード	019034
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4に行われたSpecial Topics の授業評価を行った学生は4名しかいなかったため、レーダーチャートが作成されていないが、開講当初に設定した目標(シラバス記載)は、授業のほとんどの出席をしている学生についてはおおむね到達されたと思われる。

受講生の理解度は二極化されたといわざるを得ない。俯瞰すると、最後の学期に開講された本授業を受講する4年次生のほとんどは出席率も芳しくなく、最終試験(レポート)においても授業の内容を理解されていたとは判断されにくいものが多かった。一方で、受講生のうち、3年次生の多くは、熱心に授業に参加し、最終試験(レポート)の内容も優れたものが多かった。

来年度は学生が真摯に出席し、楽しんで授業に取り組める授業にしていかななくてはならないと改めて省みる。アイヌ語に関する授業に興味を持った学生がそれを題材としたレポートを書いたが、アイヌ語でつかわれる漢字が現代日本語の漢字と共通するなどという記述もあり、話し言葉であるアイヌ語についての授業の内容が生かされない結果となる例などもあった。このような状況を変えていくためにはどうしたらよいのか。授業の在り方について考えていかななくてはならない。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	PBL演習A5
授業コード	48J09-005
教員名	北村 雅則
教員コード	100212
登録人数	12
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

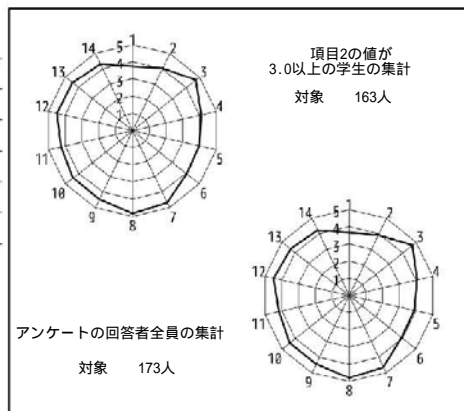
この授業においては、(1)言葉と社会の関わりを理解し、課題や問題点を見出すことができる、(2)自分で設定した問題を調査、分析し、解決策を提示することができる、(3)発表の際、資料・データを収集・分析し、適切に使用できる、の3点を到達目標として提示し、それに向けて演習形式(アクティブラーニング)で授業を行っている。授業期間中に2回グループ発表をしてもらい、その準備の過程や発表内容から判断するに、履修生(出席者のみ)は到達目標を概ね達成できたと考えられる。

授業評価対象外の授業であるため、履修生から評価をされないが、授業期間内に個人的に行った、論文輪読およびディスカッションを学習支援システムによって行うことに関するアンケートでは、このシステムを用いることで従来のやり方よりやりやすくなったと答えたのが8名中6名であり、アクティブラーニングを促進する授業方法が一定の評価を受けたことがわかる。

今後もこの授業は授業評価対象外となるが、履修生へのアンケートなどを通して、授業の実践方法の評価や、内容面(特に到達目標の達成度)等を把握するとともに、それを次々回の授業に活かせるようにしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物権法
授業コード 44A18-001
教員名 平林 美紀
教員コード 100773
登録人数 326
回答数 173
回答率 53.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



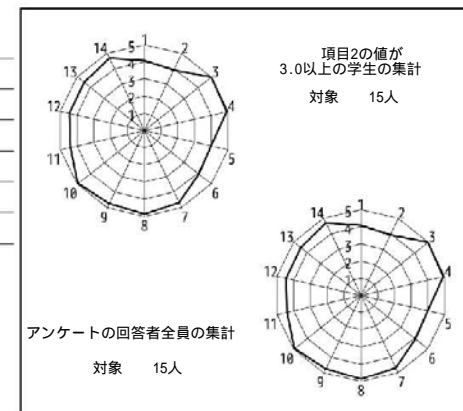
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目を担当するのは初めてでしたので、準備をゼロから始めました。その意味で、教えるための知識もスキルも他の民法科目と比べて十分ではない自覚があり、試行錯誤の連続でした。それでも、各設問で4点台の評価が多く、設問14（全体としての満足度）も4.21でした。これは、長年担当し、今年度もQ2に評価を受けた「契約法B」の設問14（満足度）のポイント4.52と比べると確かに低いのですが、「契約法B」が2年生以上の学生があえて選択して履修する科目であるのに対し、この「物権法」が選択科目とはいえ1年生の全員が履修するよう事前登録されている科目であることを考慮すると（そのため、設問1の評価はかなり低いです）、決して悪くない評価であったと捉えています。また、設問7（誠実さ・真剣さ、4.64）が高いのは、経験不足ゆえの必死さが学生の皆さんに伝わったゆえではないかと思えます。

ただ、設問4（授業の進行について、4.07）や設問11（学習意欲を引き出す指導や情報提供、4.20）の評価は決して高くありませんでした。この点は、まさに私自身の経験不足が現れたものと考えています。進行が遅れた、ずれていたことの指摘は自由記載欄にたくさんありました。また、授業終了後の対応だけでなく、WebClassの掲示板機能を活用したことが功を奏して、設問12（質問の機会など、4.50）はそれなりに高い数値が出ているわけですので、単に、授業でわからなかったことフォローだけではなく、さらに発展的な学びにつながるような働きかけを、授業やWebClassを通じて行うこともできたかもしれないと反省しています。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事執行法
授業コード 44C21-001
教員名 石田 秀博
教員コード 101939
登録人数 39
回答数 15
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問13（新たな知識・理解の獲得・深化）の評価4.47、設問14（満足度）の評価4.67という結果から、到達目標（民事執行・保全手続につき、その全体像を把握することができる。権利の実現場面における基本的問題点につき理解することができる。）について、おおむね達成できたと考えている。また、自由記述欄の記載中、良かった点として、授業資料の配布に関し、「前回分のレジュメも配布してくれたこと」を挙げる意見、設例を踏まえた講義形式について、「各項目に例題がついているので、自分が授業で習った内容をちゃんと理解しているか確認できる点良かった。」、「レジュメ内にその都度理解の程度を確認する設問が設けられていて、知識が整理しやすかった点良かった。」との意見があり、加えて、設問項目4（毎回の授業の構成や進行速度の適切性）の評価も4.93であったことから、次年度以降も本年度の授業資料・内容・進行方法を続けていきたい。

他方、設問項目2（学生の授業参加の主体性・理解のための努力）の評価が3.93と相対的に低かったことから、学生の授業参加の自主性を高めるため、今後、授業中の質疑も含めて、より一層努めていきたい。また、「実務ではどうかをもう少し教えて欲しかった。」との意見もあったので、次年度以降、民事執行の実務・実情についてもより説明を加えていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログレッシブ演習D
授業コード 44K04-031
教員名 實原 隆志
教員コード 104772
登録人数 17
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本演習では、法学の議論を十分に理解したうえで、判例について報告できるようになることと、それにより習得した、憲法上の権利の保護や制限に関する理解を基に、現実の社会問題やそれへの対応が憲法とどのように関連するかに気づき、自らの見解を表現できるようになることを目標として設定した。普段の授業を通じて、こうした目標に概ね到達できたのではないかと評価している。

講義では判例や学術論文を扱い、また、具体的なテーマについてゼミ生の統一的な見解をまとめる作業を行った。グループワーク中心の作業を行い、そこでは活発な議論が展開され、各グループの報告内容も十分に充実したものであったことから、当初の目標に沿った講義とできたのではないかと評価している。

演習科目の受講生も各年度において変わるため、来年度においても各受講生の関心に合わせて改めてテーマを選択するが、基本的には憲法上の権利や統治機構の仕組みに関係する事柄を扱うことで、次年度においても演習の目標に到達し得るような運営を心がける。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読AIV（英語）
授業コード 44K08-008
教員名 永江 亘
教員コード 103861
登録人数 3
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、演習形式でシンガポール法制にかかる理解を深めることを目的として、知らない法制度にかかる調査・日本語の作成技術の向上を目標とした学習を実施した。演習の前提として、英米法にかかる基礎知識や、シンガポール法の成り立ち、シンガポールの歴史などについての講義を行い、さらに、学生のシンガポールへのイメージなどを伺いつつ、同国と我が国との関係を歴史的・文化的な側面からも意識づけた。その後、知らない国の法制度について調査する場合、とりわけ、公的な機関の位置付けなどについては、日本や知っている諸外国に類似の機関はないかなどを検討することを例示し、実際に学生たちはこのような調査手法を用い、適切な和訳の製作を実現していた。目標に照らして、今期の成果はこれまでの同科目担当の中では目を見張るものがあり、学生からの授業評価のリターンがないものの、学生の属性に助けられつつ、充実した学習ができたと評価している。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 北川 ひろみ
教員コード 101017
登録人数 15
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業（1回）は、法律実務家（弁護士）として、（1）民法が、実際に、社会においてどのように使われているか、法的紛争が起きたときに、どのように機能するのか、（2）民法の全体構造と学習方法、（3）民法を使う際の、事案分析と理論的思考、（4）司法試験においては何が求められているか、という視点に基づいて、目標到達に寄与できるよう、授業を展開しました。多くの身近な事例を取り上げ、民法のいろいろな条文が、日常生活に関係していること、問題が起きたときには条文で解決できる場合があること、条文の解釈が問題になることがあり、その場合は法の趣旨から考えることなどを、再認識してもらいました。また、司法試験の問題を取り上げ、事例を整理・分析する訓練、関係する条文を捜す訓練、条文を適用するうえでの論理的な思考の訓練、問題の所在を感じ取る感覚（何か、不公正なところがないか、不公平な点はないか、といった感覚）の共有などに取り組みました。受講生の積極的な取組もあり、法律実務家として求められた目標は概ね到達できたのではないかと考えております。以上

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 久志本 修一
教員コード 101928
登録人数 15
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講学生が1年生であったことから、前半は法曹の仕事とその魅力について説明し、後半は、法的三段論法及び法律用語の特徴、使用法を中心とした講義を行った。しかし、残念ながら、発言を求めても、受講学生の反応はうすく、受講学生に、どこまでの内容が理解されたかについて、十分な把握はできなかった。レジュメを配布し、レジュメ内容のパワーポイントを利用して授業を進める予定だったが、当日、パワーポイントの利用に不都合が生じたため、配布したレジュメのみで進行することになったことも影響したかもしれない。また、もっと平易なレベルに軸足を置いた内容にした方がよかったかもしれないと反省している。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	司法特修講義II
授業コード	44N02-001
教員名	杉浦 徳宏
教員コード	104634
登録人数	15
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

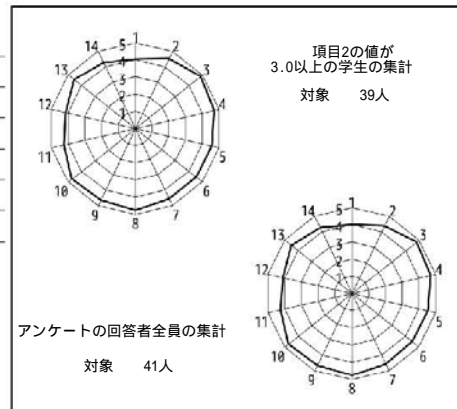
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義における私の担当は法曹の中の裁判官についてのイメージを抱かせることである。したがって、私の経歴を紹介するために自己紹介、裁判所概要、法務局概要などを話したほか、なぜ法律学を学ぶことは難しいのかについて歴史的経緯があることを話した。アンケート結果を見る限りある程度理解してもらえたと考える。より分かりやすくするため工夫したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法2
授業コード	15A20-002
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	65
回答数	41
回答率	63.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

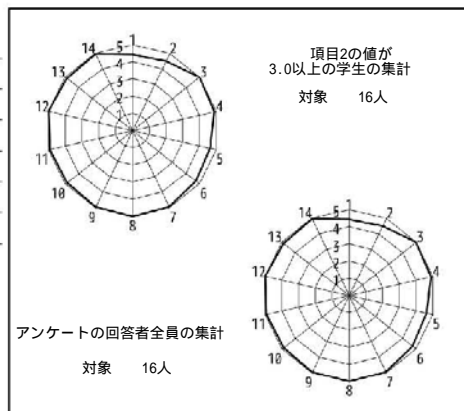


授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職を目指す学生の必修科目であり、例年、この時期から教員採用試験に向け取り組む必要があるため、今年度も教職教養の内容を加えて指導した。教員採用試験が1ヶ月前倒しになった影響か、真面目に取り組む学生が増加し、定期試験の結果は7割を超え、昨年より平均点も上昇した。このため、評価をA+とした学生が増加し、BやCの学生が減少した。学生による授業評価の平均は4.5で、すべての項目が4.0以上であった。授業に真剣に取り組む学生が多い中、授業時間が長いためかトイレに行く学生やパソコンで授業以外のことを行っている学生が目についた。将来、中学校や高等学校の教員を目指す学生には、授業を大切にすることを学んでもらいたい。この点について、来年度からは予め学生に説明しておく必要があると思っている。受講者が65人であったが、Q3は80人教室のため、かなり狭かった。このため、Q4から100人教室に変更していただいたが、それでも狭く感じる学生がいた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 比較教育学
授業コード 23C14-001
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 19
回答数 16
回答率 84.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



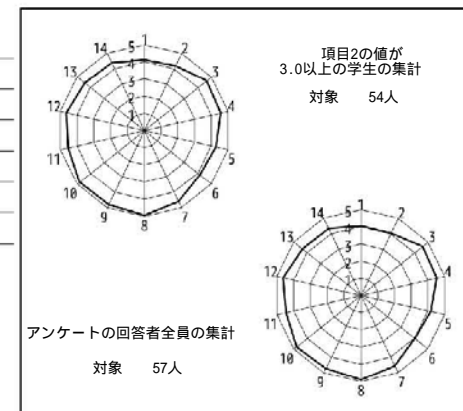
授業評価結果を踏まえた点検・評価

諸外国の教育制度を学ぶ講義科目である。プレゼンテーションやディスカッションによるアクティブラーニングの手法を取り入れつつ、論説文に対する小論文を課すことで、思考力を育成するよう工夫した。問13)新しい知識の習得4.88、問14)総合満足度4.98であることから、授業目標は達成できたといえる。問9)学生の理解度・教材等4.94、問7)講師の熱心さ4.94、問12)事前事後指導の十分さ5.00であったことから、学生の理解度に合った進め方ができたと考えられる。

自由記述では、改善すべき点は「特になし」であったが、良かった点として、「授業を受けるだけでなく、自分で調べたいものをテーマに合わせて調べる機会があり、興味があるものへの知識を深めることができた」「プレゼンとその後のフィードバックで確実に自分の力が付く点」「点数などが明確されていることもよかった」「文章を読んで、読み取ったことを話し合ったり、自分の考えを表現する時間があり、人と情報を共有する訓練ができたように感じる点」「就職や将来のキャリアなどいろいろと考えさせられるものが多く、おおきな学びだった」とあった。学生自身の興味・関心を軸にプロジェクト課題を設定し、ウェブクラスで各自が進捗状況を確認できたことが評価されたと考えている。今後も学修成果の可視化ができるよう教育方法を工夫していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育行政論
授業コード 23C17-001
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 126
回答数 57
回答率 45.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

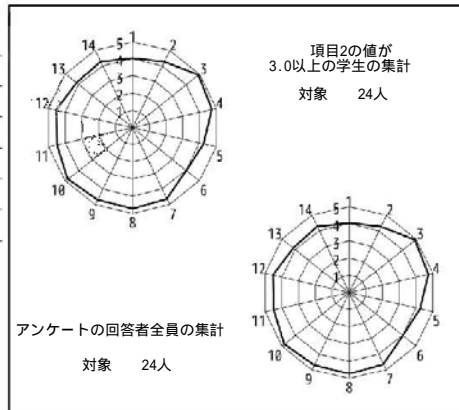
本授業の目標は、「日本の教育がどのような仕組みで動いており、その課題は何かを理解すること」として、到達目標を(1)日本の教育行政の構造と特質を理解する、(2)教育行政学における研究的課題を理解する、(3)現代の教育行政の課題について自分の言葉で意見を述べるができる、としている。(1)、(2)は特に授業中に、それらを通して(3)を期末レポートで確認した。今年は現代教育の「多様化」「市場化」を特に扱ったが、概ね理解を得られた。

数値評価については4点以上をクリアしており、大きな問題はないと考える。ただし、設問5,6が低い点については、基礎的な知識の獲得等に不十分さがあつたのではないかと考える。また、大規模教室での意見交流や出席の厳正化などではポジティブな意見が多いものの、受講者に手間をかけてしまったり不快な思いをした場合もあることがわかった。こうした受講環境については改善の余地がある。

以上を踏まえて、来年度については(1)基礎知識獲得の機会を増やすこと、(2)受講環境を一定に保つことを授業改善のための目標とする。今回はやや発展的な内容だったため、話題によっては関心を持つことが難しかった可能性がある。基礎知識の獲得にもう少し時間を費やし、段階的な理解を深めたい。また、出席の取り方などを途中で変更したことで混雑が生じたため、これを一定に保つことで安心して受講できる環境を整えたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]10
授業コード 11A12-010
教員名 TAYLOR, Jamie
教員コード 104100
登録人数 24
回答数 24
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



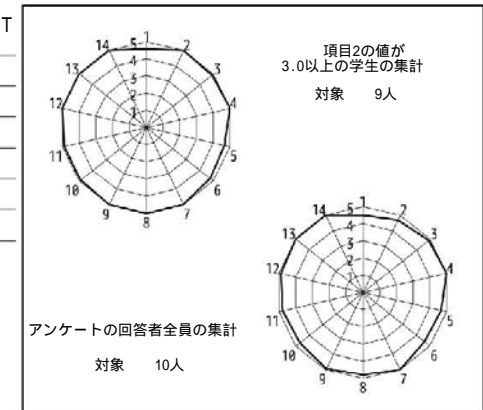
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for this course included being able to have 3-7 minute conversations, giving 3-5 minute presentations on a variety of topics, using conversation strategies effectively, and reading an average of 4,000 words a week. Almost all students enrolled in this course were able to meet each of these goals, demonstrating good use of conversation skills, giving 3+ minute talks on a variety of topics, and reading a variety of graded readers throughout the school year. Overall, it seems this course was effective in achieving the course goals.

Next school year, this course will involve a greater variety of listening exercises to improve students' ability to understand spoken English in a variety of situations.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[T
J]5
授業コード 11A12-053
教員名 LOTT, Danielle
教員コード 103593
登録人数 26
回答数 10
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

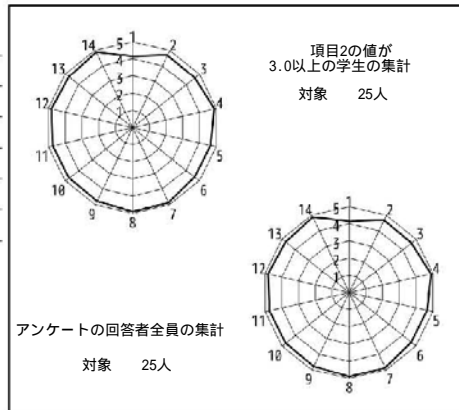


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. My goals were to continue teaching communicatively, to incorporate simple games at the start of each unit to improve motivation, and to scale back assessment so that the pace of the class would be more appropriate for students in this major. I also incorporated a new assignment of writing out an ideal conversation using target conversation strategies for review at the end of each unit. Finally, I wanted to improve my approach to disciplinary issues like chatting and tardiness.
2. Based on the numerical data, I was pleasantly surprised, particularly in regards to students' attitudes about how I handled disciplinary issues. As for the comments, I was happy that students mentioned that they liked the games and looked forward to going to my class. Overall, I received some of the most positive numerical scores and comments I have ever received, so according to these numbers, I feel that the course was a success. However, only half of the students responded. I need data from all of the students in the class to be sure.
3. In the future I'll continue the changes I've made this year. The review assignment seemed particularly helpful.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[T
J9
授業コード 11A12-057
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 25
回答数 25
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

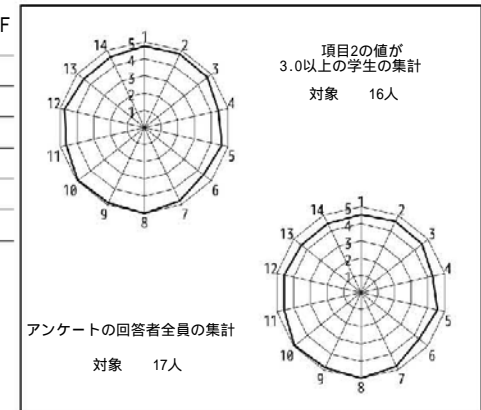


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The principal activity for students in quarter 4 was the crossfire debate. Indeed, the goals of the class as stated in the syllabus were: "learning persuasive techniques; understanding debate." All students in the class were able to understand and participate in the debate in English. The numerical data reflects the achievement that students felt in the class. In a sense the crossfire debate represents the culminating project of the year because it incorporates feedback, listening, critical thinking skills, and during the crossfire section, conversation skills, all of which were practiced in the previous quarters. In the evaluation, the lowest value was for the first question, at 4.16. The students were all from the engineering division and usually such students have interests in STEM subjects rather than in language arts, so the low value is understandable within this context. Nevertheless, students were found to participate actively in the class. Given the high evaluation received, the next iteration of the class will continue this proven syllabus.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]2
授業コード 11A14-002
教員名 DAVANZO, Christopher
教員コード 101653
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

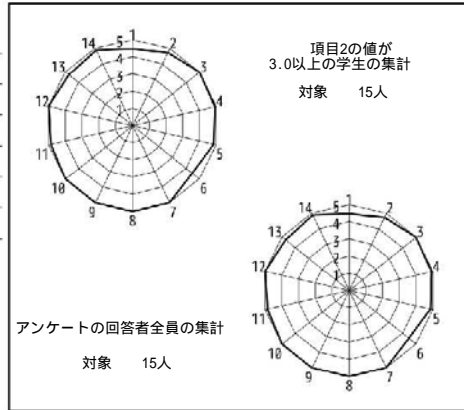


授業評価結果を踏まえた点検・評価

For the most part, the students achieved the class aims which included understanding reading texts and thinking critically about them, and making short English presentations to classmates. They did very well in their two conversation tests. They had to first engage in everyday small talk, and introduce the main topic that they had practiced in class. They had to ask follow-up questions and comment on their partner's responses. Students also completed academic vocabulary sheets on a weekly basis, and they were tested on 25 words per week. The class engaged in regular vocabulary review activities as well. Their reading fluency and comprehension seems improved as well. In quarter four, they tackled an entire advanced textbook on intensive reading, and as a class did very well. For next year, I would like to build on the conversation skills the students have acquired and expand the variety of topics that I introduce to the class. I'm also going to research and brainstorm some new small group activities for them. Overall I was pleased with the high numerical numbers in the radar chart and the positive comments from the students, and I will strive to continue improving the content.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]9
授業コード 11A14-030
教員名 TROY, Henry
教員コード 104616
登録人数 19
回答数 15
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

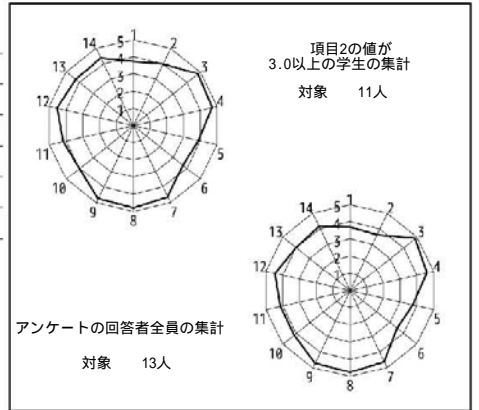
The goals of the course were largely achieved thanks to the endeavours of this class. They generally did their best in activities and were a nice group to teach.

I am pleased that the feedback to the class is so positive, with no negatives identified by the students. During the class it seemed they were enjoying it and motivated, and I am glad to see that reflected in their scores and comments.

Nevertheless, there are a couple of areas I aim to improve in this course when I teach it next year. First, the level of some activities was clearly too high for the students, and now being aware of what level of student I can expect this class, I will adjust the level of these activities accordingly for next year. Second, on a couple of occasions some of the students seemed to completely misunderstand the instructions for important assignments. Therefore, I will make the instructions even clearer next year by making sure they are given earlier and posted on WebClass sooner too. Finally, one or two students used AI to write their book report, so next year I will have them write the report in class.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ
[T]3
授業コード 11A16-003
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード 102955
登録人数 17
回答数 13
回答率 76.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals were, for the most part, met. The students were able to use English in the classroom, and were able to communicate with each other in English. Use of English in group discussions was encouraged. There were also enough opportunity to read in English, covering a variety of topics, such as culture, news, and literature. Students were encouraged to give their opinions about the various topics discussed. Looking ahead, it would be beneficial to add more to the reading and critical thinking activities, plus give students more time to discuss using English.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<HA, HP, HJ>1
授業コード 11A18-001
教員名 FLORES, Ana Maria
教員コード 102899
登録人数 13
回答数 4
回答率 30.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

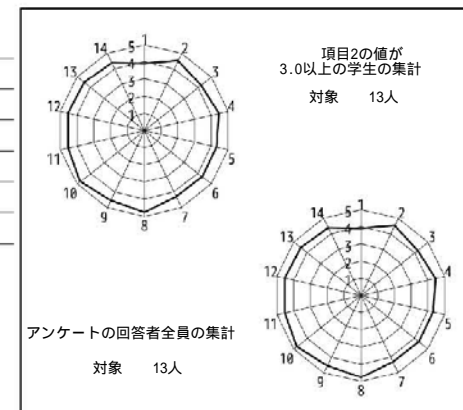
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I feel encouraged by my ESL writing students' reflections on their progress in essay writing through my classes. To further enhance my approaches and methodologies in teaching academic writing, I plan to provide more targeted feedback on individual essays, encourage regular writing practice with diverse essay types, incorporate authentic academic materials for analysis and discussion, teach effective research and citation skills, foster a supportive writing community for peer collaboration, and stay updated with current trends and resources through continuous professional development. These efforts will ensure a comprehensive and effective learning experience for my students and enable them to further excel in their academic writing skills.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全・T>6
授業コード 11A18-005
教員名 ELLIOTT, Darren
教員コード 101579
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

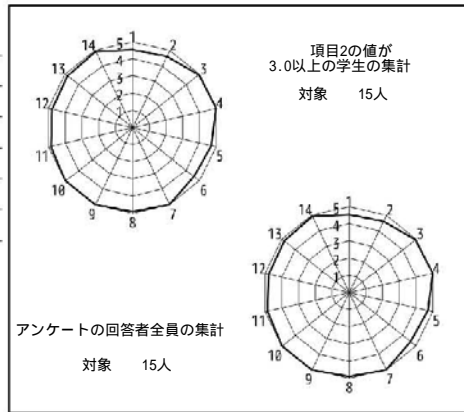
There is no particular feedback to act upon, so I don't plan to make significant changes next year. Students were able to produce written work of a reasonable standard and showed improvement during the course.

I found this class quite frustrating at times and my impression is that, post-COVID, there have been more issues with student attendance. I hope that students come to understand that attendance is not just a case of checking a box, but will actually help them improve and develop their skills. Certainly, those who attended regularly were better able to complete written assignments successfully.

I think that the increased flexibility online teaching and learning affords us is generally a good thing, but perhaps some less motivated students feel that they can learn equally well without coming to class. Maybe on some courses they can, but not this one.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全・T>9
授業コード 11A18-011
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 21
回答数 15
回答率 71.4%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of Writing II were to continue from Writing I and focus more on academic writing, writing from sources and research, and developing a more academic voice. This was my first year teaching a Writing I/II elective, and I have learned more about the typical students who register for the course. I will review skills taught in Writing I in Writing II next year as some students registered for Writing II without taking Writing I and were at a disadvantage. However, student feedback was overwhelmingly positive. Student comments include:

I was able to acquire the ability to write well by completing the assignments.

I'm not good at English, but the class was a lot of fun!

I was able to take classes comfortably because the teacher disciplined students with an inappropriate attitude.

There were many activities in groups and pairs, so I was able to take classes without getting bored.

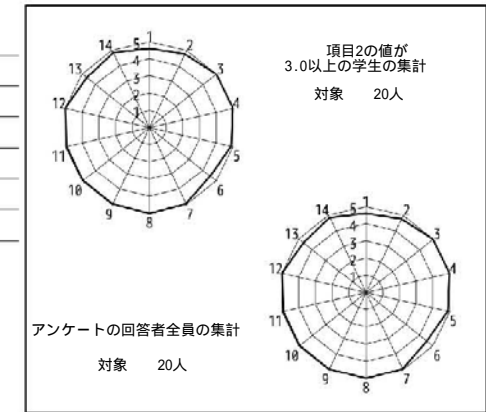
The teacher's explanation was easy to understand.

It was easy to learn because the teacher returned feedback and time to correct mistakes.

The professor was very good. Even if I wasn't good at English, I was very happy that he taught me kindly.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>2
授業コード 11A24-002
教員名 MILLER, Adam Lee
教員コード 104449
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0回
補講回数 0回



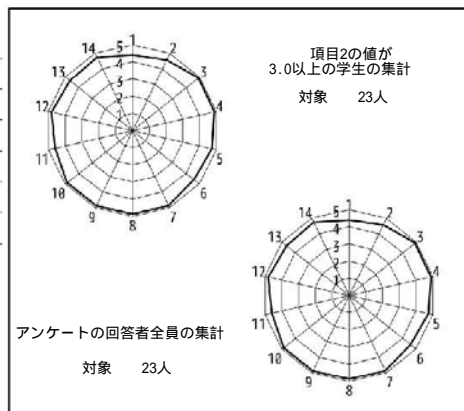
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Reading was obviously the focus of this class, but I tried to include group work and various activities so that reading could be both a personal and a communal activity. Looking at the feedback from the students, I am very happy to hear that they enjoyed the discussions and other group activities. Although it was a relatively large class with students from different departments, the students worked really well together and there was a lot of enthusiasm for everything we did.

Moving forward, I think I will rely less on the textbook and introduce a wider variety of readings; although the topics in the textbook were interesting, they were all formatted similarly (like an article), and adding different styles of texts could be interesting for the students.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリーディング<全・T>4
授業コード	11A24-004
教員名	ZONI UPTON, Jessica
教員コード	104815
登録人数	23
回答数	23
回答率	100.0%
休講回数	1回
補講回数	1回

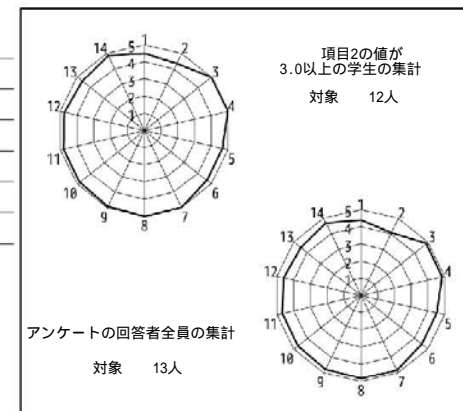


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The initial goals of this class were to help students improve their reading skills, increase the vocabulary level and acquire/improve critical thinking skills. Each week students were provided with a reading from the textbook, the vocabulary and comprehension tools to understand it, and critical thinking activities that would help them reflect deeper on the topic to form their own opinions about it so they could discuss with classmates. I believe the goals were successfully achieved as 99% of students rated 5 or 4 when asked whether they felt the class had helped them (Q.13). Moreover, in students' comments, they claim to have been satisfied with the opportunities to practice their English skills and the topics used. One thing to take into consideration for improvement next year is the communication of assignments outside of the class time. One student comment in answer to Q.16 said that they would want to be informed of a deadline even when I or a student is absent. While that was done through Google Classroom, where I posted information and where it automatically tells students of their deadlines, it might be best to also have the same information available on WebClass too.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング<S, T>4
授業コード	11A25-032
教員名	PEO, Jared
教員コード	104673
登録人数	18
回答数	13
回答率	72.2%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

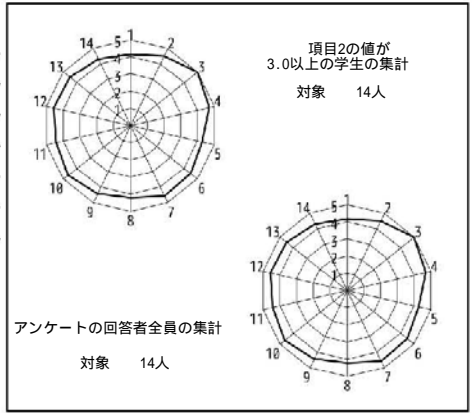
The English I: Listening <S, T>4 evaluation results were overwhelmingly positive. I have taught the course for 2 years, which means I have taught it 8 times because it is only a one-quarter course. Over this period I have come across various issues and problems, and I feel like quarter 4 this year was the smoothest version of the course.

The course is an introductory course for science and technology majors, but it is also open to other majors. This means that there are students with various levels and proficiencies. The primary goal of the course is to improve students' listening skills such as listening comprehension, listening to longer passages, and differentiating between difficult sounds. All students in the class were able to meet these goals through various listening activities such as predicting, listening for gist, summarizing, and active listening. My assessment of student improvement seemed to be echoed in their comments.

While I worked hard to develop this course and improve it each quarter, another teacher will take over the class next year. As a result, I will not be making any changes or improvements to the course. If I were changing the course, I would consider dropping the textbook and developing original listening materials because previous students have complained about the price of the textbook. In doing so, I would also be able to have more time for different ways to practice listening.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全・T>6
 授業コード 11A26-019
 教員名 TIDMARSH, Andrew
 教員コード 104101
 登録人数 22
 回答数 14
 回答率 63.6%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

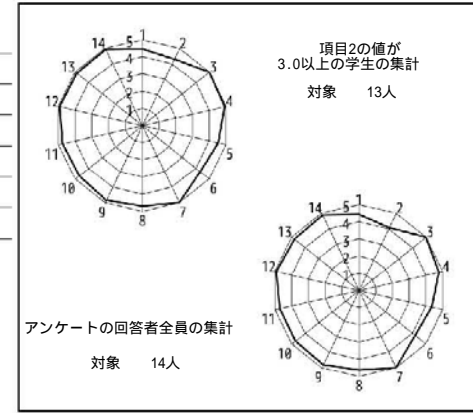
In this class, the main goal was to allow students more time to develop their listening skills steadily regardless of starting proficiency.

It was difficult to decide the correct level of sophistication and difficulty of students' listening tasks. Some students found a few topics too difficult and others found many tasks too easy. This is what happens in a mixed proficiency class. In the final assessment, it became clear that the mix of easier and more difficult topics was appropriate. Some students were able to engage with the materials to a surprisingly high level, therefore I am satisfied that the pitch was correct.

The next time I run this course I will take on student feedback I received in class. This suggested a few more competitive tasks and activities based on songs. In short, I will be incorporating these suggestions into my plans for future teaching.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VIII[FF]2
 授業コード 11B08-004
 教員名 OLIVERO, Regis
 教員コード 104119
 登録人数 19
 回答数 14
 回答率 73.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals that I set for the class I was in charge of were the same as in the previous quarters: conduct classes effectively, help the students to achieve their goals and above all, make them feel conscious of their progression and let them be proactive in their learning activities. I believe that the students were able to make significant progress in their oral and written skills by having oral and dictation tests on a regular basis.

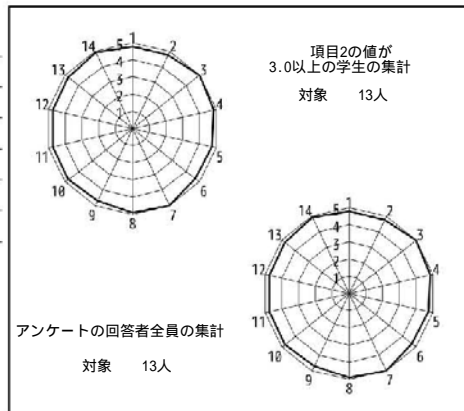
According to their comments, They seemingly found it useful to have such tasks being assigned.

The group was also quite responsive when it came to work collectively and interact in class activities and I could notice that they were willing to help each other to whatever assignment was required. I think that this group got the tools and the structure to carry on learning effectively in their second year.

Although the assessment was positive overall, there is always room for improvement. I wish I had more time to get them ready for final tests and work more on their speaking skills. From my point of view, it was a fun and fruitful experience to help these students improve their overall skills.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII<全>1
授業コード 11C08-001
教員名 KOISEGG, Karl
教員コード 103972
登録人数 31
回答数 13
回答率 41.9%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

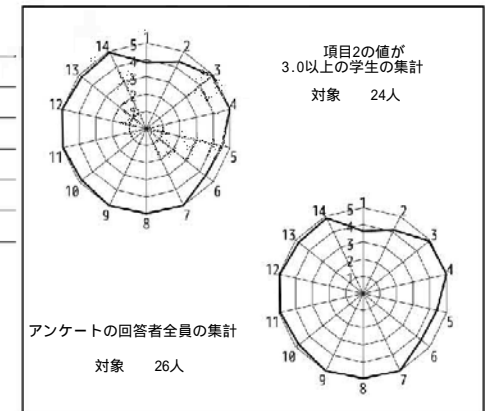
First of all I am happy that I could achieve my goals for the lesson. I am also pleased that I could implement a speaking test and motivate the students to speak. At times using the textbook was a little challenging, but I believe I managed well.

I am happy with the result of the students survey and it seems that most students were satisfied with my lessons. In this particular class were many different individuals and some students were sitting in groups. At times it was a little difficult to teach as smoothly as I wanted. I realized that I should have motivated students more not to sit always in the same group. Another challenge was the number of students in this class. There were almost 30 of them and the classroom felt at times too small, especially if students had to line up or do conversational activities with a different partner.

From now on, I will try to continue to focus on communication in my classes. I also want to make sure to address issues that make teaching more difficult, like sitting in groups and therefore being noisy in class much sooner.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<H>3
授業コード 11F04-003
教員名 趙 偵宇
教員コード 104640
登録人数 30
回答数 26
回答率 86.7%
休講回数 0回
補講回数 0回



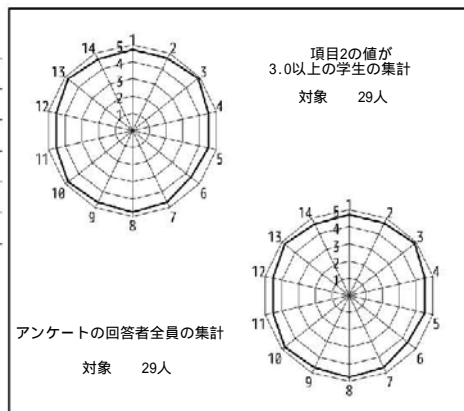
授業評価結果を踏まえた点検・評価

：目標の到達度について、第13項目の得点は4.77であり、私自身からはもちろん、学生からも満足していると言えます。

、：各問題において、5点満点やそれに近い点数が多く、大変喜ばしいことです。自由記述では、「担当教員の方がとても丁寧かつ熱心で、意欲を引き出す取り組みをたくさん行ってくださってとてもよかった。」「威圧感のない雰囲気、親しみやすく寄り添った授業を提供してくださっていると思った。」「解説が非常に丁寧で分かりやすい。毎回の発音チェックは、厳しめなので力がつく。休憩が適度にあるため、集中しやすい。」「毎回授業の最後にアンケートを実施していた。そのおかげで、学生の疑問点をあぶり出すことができたと思うのでよかったと思う。」などの意見が確認できます。自分の熱意が伝わって良かったと思います。南山大学での授業はこれで最後でしたが、有終の美を飾ることができて嬉しく思います。ここでの授業は、自分にとってかけがえのない経験です。この場をかりてお礼を申し上げます。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語IV<J・P>1
授業コード 11G04-005
教員名 陸 心芬
教員コード 101225
登録人数 34
回答数 29
回答率 85.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

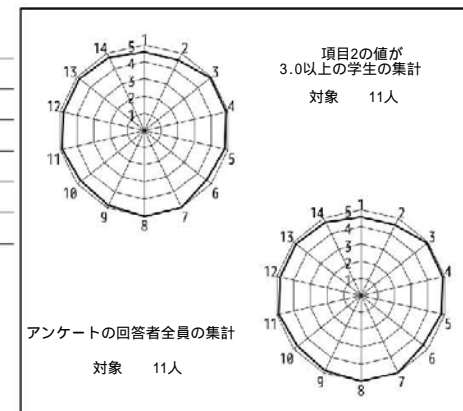
Q4の授業目標であった基礎文法の習得や基礎会話ができることについては、学生による授業評価の設問項目平均値が4を超えており、おおむね達成できたと考える。

授業の「良かった点」を挙げると「一年間でたくさん学んで、韓国に興味をもつようになったし、とても楽しかった」「いろいろな単語を覚えることができた」「質問や相談をした時に親身になって話を聞いてくれたので、とても有難かった」「分からないことがあると一つ一つ丁寧に教えてくださった」「しっかり韓国語が練習できた」「一つの単元を二回の授業に分けてしっかりと教えて頂けたので、内容が頭に入ってきた」「進むスピードが丁度よかった」が書かれていた。このクラスは学生が積極的な授業態度で取り組んでくれたので、こちらこそ楽しく教えることができ感謝の意を示したい。韓国朝鮮語の授業はこれで終了するが、興味がある学生は独学でも続けて学んでほしい。

授業の「改善点」においては「小テストが少し大変」「少し練習に時間をとりすぎていて、途中暇になってしまった」「小テストの難易度がクラスによって大きく違っていて、単位に関わるところでもあるのでできれば同じくらいの難易度にしてほしい」「プリントをもう少しはやく印刷できるようにアップしてほしい」が挙がっていた。学習プリントは授業が終わったらすぐにアップロードしていたのでこのままに続けていきたい。小テストの難易度については今後他のクラスの教員と話し合い改善していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)2
授業コード 11L17-002
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 12
回答数 11
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、文法の時間に習った文型や表現を活用して、留学生が日本語で書かれた文章の内容を正確に読み取れるようになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ(4.84)から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問4(授業の構成や進行速度の適切さ)、設問7(担当教員の授業に取り組む姿勢)、設問11(適切な指導や情報提供)、設問13(新たな知識や技術の獲得、理解の深まり)などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「文法の授業で学んだことを活かして日本語の文章を読むのは楽しかった」「よく読めるようになった」「日本語の文章を読むこと以外にも、様々なことが学べた」「読解教材を通して得た情報が、日本語の文章を理解する助けになった」「とても丁寧な指導」「9月から最後の授業まで全部よかった」などの評価が多く、受講生たちの満足度の高かったことがうかがえる。

一方、自由記述欄には、「ストーリーの中の言葉が難しい」「新しい語彙を覚えるのが大変だ」との意見も複数あった。留学生が新出語彙を覚えやすいよう、イラストを用意したり、意味の上下関係を図示したり、具体例を挙げたりして工夫してきたが、十分ではなかったようだ。来学期からは、文脈に即して語彙の意味を理解する練習をより多く取り入れていきたいと考えている。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化との接触6
授業コード	13A02-006
教員名	佐々木 陽子
教員コード	019695
登録人数	9
回答数	1
回答率	11.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

副題 [対話するパレスチナ] / 対話を軸とした現地情報の提供と、多文化への視座の確立を目指す。多様な情報提供（国家と民衆の差に配慮して）、多様な態度の奨励（課題調査における自発性）、対応力構築（グループワーク、意見交換を通し多面的解釈の理解）を重視した。自由記述・授業後アンケートは以下の通り

>先生の説明が詳しく、学生との交流が多い。

>毎回新たな発見が多くあり、受講が楽しかったです。特に、先生の体験はなかなか聞ける機会があるお話ではなく、とても興味深かったです。ありがとうございました。

>先生から聞いたパレスチナの美しい風景や人、文化の話である。受講する前はシラバスより「現在まで続いているパレスチナ・イスラエル問題を、これまでの歴史を踏まえて理解する」といった授業内容だと考えていたため、良い意味で大きなギャップがあった。

>以前はパレスチナと聞き、「素敵な自然や文化を見に観光として訪れたい」といった気持ちは全く思いつかない考えであった。しかし、先生の話を通して、どんなに攻撃がおこっている場所でも始まる前は、今の日本と同じような一つの場所だったのだと改めて考え直すことができた。

紛争状況は悪化の途にあり、現在進行形で変化し予断を許さないが、次々と更新されるニュースの読み取り能力の育成や、持続可能な多様性への視座を得たという点で、（三枚舌外交原因論や同情論で終わる学生も一部あったものの）全体的には、多様性や紛争解決に向けた国際的状況への着実な解釈力・判断力の獲得が見て取れた。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ワークショップC<全・T>2
授業コード	14A03-002
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

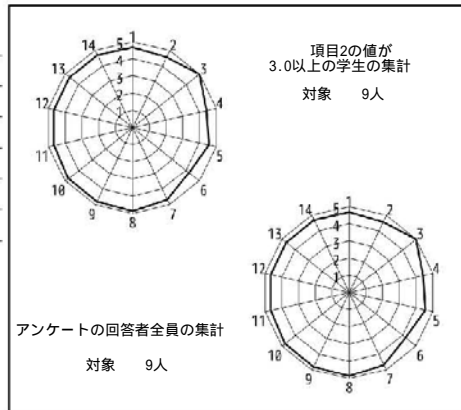
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class is a Workshop class, designed to give students an opportunity to be exposed to authentic English materials, and to be able learn how to express themselves, while thinking about global issues. Goals for this class include: Read, understand, and discuss “authentic” articles on current issues; think critically about, discuss, and/or debate issues related to the field of study; and Give a 10- to 15-minute public performance such as a speech, presentation, role-play, debate, or drama in English on a researched topic. A radar chart was not able to be compiled, because there were four or fewer responses, however there was student feedback. This student stated, in response to Question 15: 学生用に作られたテキストではなく、普通の小説という真正性の高いものを教材にしているところがとても良かった。それゆえに読むのは簡単ではなかったが、教員のヒントやリードのおかげでなんとか読み切って自分で考察まですることができて満足している。

In future classes, I endeavor to help students navigate more easily the nuances of English source materials, and to help them understand texts as a means towards understanding and meaning, through more guided means towards an ultimate goal of critical thinking

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IIA<全・T>試験対策TOEIC2
授業コード 14A12-002
教員名 ELMETAHER, Hosam
教員コード 104289
登録人数 14
回答数 9
回答率 64.3%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall

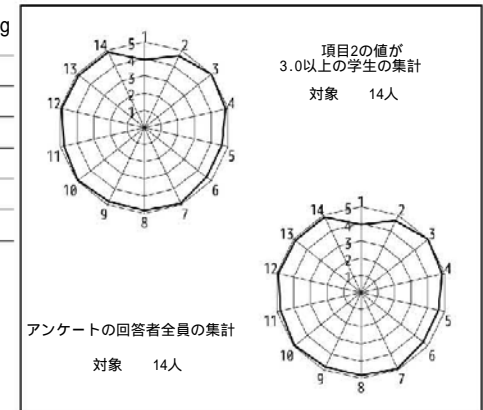
I have taught various English subjects, each with a different specific teaching goal; however, the main objective is always to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and utilized my own teaching materials, such as a new multifaceted receptive vocabulary test. Students were consistently well-informed about their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, progress tests, and final tasks. My classes always adhered to the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked effectively, and students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation

This class was designed to enhance students' business English and TOEIC scores. The students worked on various weekly assignments, including integrated reading tasks, vocabulary quizzes, and progress tests. Group and individual feedback were provided through both Webclass and individual conferences. Based on the class evaluation, students greatly enjoyed the class, especially pair and group work, and have confirmed their TOEIC skills development. For the next academic quarter, I aim to incorporate more progress tests into all my classes.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language E2
授業コード 31C15-002
教員名 加藤 尚子
教員コード 103630
登録人数 20
回答数 14
回答率 70.0%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

このクラスでは、学生がポライトネス理論が普段のどのように事象されているかという事を、具体的に考察するという挑戦を目標としました。専門的な分野である為、クラスディスカッションを通して一緒に理論を探究し、実際に自分でデータを集めポライトネス理論のレポートを書くことも課題として取り組みました。聞き手話し手の関係を良好に保つためのポライトネス理論の基本的な特性を理解することができたと思われます。

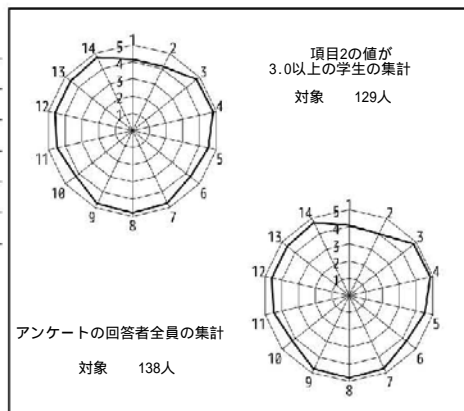
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

設問1での数値が示すように、履修前の学生のポライトネス理論への興味は低かったのですが、新しい知識を得ることができたという学ぶ喜びが評価に表れていると思われます。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。専門的な言葉と概念が多かったので、資料の改善に努めます。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と環境3
授業コード	13D02-003
教員名	加藤 孝基
教員コード	104117
登録人数	368
回答数	138
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

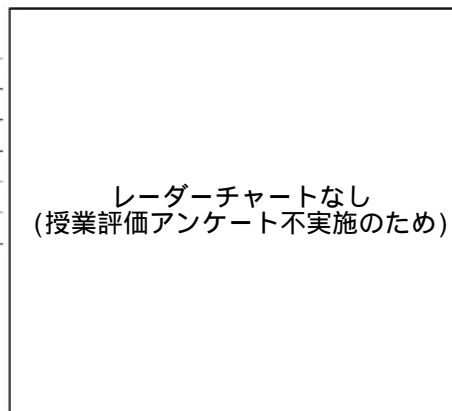
「人間と環境」は、学際科目として幅広い知識を身につけられるよう、講義を展開した。15回の講義を通して、人に関する様々な知識を一方向的に教授するだけでなく、学生各々が興味を持てるような授業展開を行った。例えば、身体のしくみや運動学習について、実際に学生自身が体験する実習方式の授業回を設けたり、学生が主体的に考える時間を設けるなど、飽きさせない工夫を施した。授業内で疑問が生じた内容は、毎回アクションペーパーを通し、次回講義内に回答を行うといった形式を用いた。また、当初設定した学習目標は、運動に関わるメカニズム・運動学習・発育発達の三点について理解することであったが、回答結果からも、概ね達成できたと考えている。特に、最終レポートの内容からも、知識が深まっていることが実感できた。

自由記述の回答内容を見ても、「わかりやすい」「面白い」等、概ね講義内容に好意的な意見がみられた。より興味を引く講義を展開できるよう、次年度以降も工夫したい。

事前に資料をアップロードしてほしいという回答があった。この点については、学習効果を考慮して改善していきたい。また、教室が広かったため、後部座席にいた学生の一部は、講義に集中できていないと思われた。より多くの学生が授業に興味を持てるよう、講義内容、進め方、話し方等を創意工夫し、改善していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(個人スポーツ)マーシャルアーツ
授業コード	14E01-005
教員名	伊藤 奨
教員コード	104830
登録人数	1
回答数	
回答率	
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数が1名となり、予想した受講人数を大きく下回った。対人競技は相手の身長や手足のなかさ、構え方、得意技など相手の特徴に応じた対応を学ぶことも必要である。今回は受講生が一人であったため、相手に応じた対応は学ぶことができなかった。の相手と開講当初に設定した目標をおおむね達成したと考える。しかし、教員が受講生の相手を務めることで受講生の課題点が明確となり、技術の習得、向上に十分な時間をとることができた。当初の目標はおおむね達成できたと考えられる。

1対1の授業となったこともあり、学生の受講状況、受講態度は良好であった。次年度以降、受講生の人数が大幅に増えた場合は、今年度とは異なる内容を検討する必要があると考えられる。

受講生が多数いる想定で授業を準備していたため、シラバスに沿いながらも、適宜調整して授業を実施した。次年度以降は今年度のように受講生が少数である可能性も想定したうえで、授業準備を行いたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(健康スポーツ)ストリートダンス
授業コード	14E04-005
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	16
回答数	3
回答率	18.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
 本科目の目的は、ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる、リズムにのってダンスを楽しめるようになる、ダンスルーティンを作れるようになるの3点であった。ジャンルについては、ヒップホップ、ハウスといった導入しやすいものからスタートし、後半はロック、ポップといった専門性の高いジャンルも紹介した。本年度に関してはポップを詳しく学びたい受講生が多く、技を体系的に整理したうえで幅広く教授することができ、昨年度より充実した内容にできたことと自己評価している。リズムの概念に関しても、例年紹介しているビートに乗るリズムに加えて、オフビートやボーカルに合わせたリズムの取り方を紹介できた。ルーティンについては多くのグループで非常に良い作品ができたものの、欠席者がいた際の取り組み方に困惑する受講生がいた点は課題である。

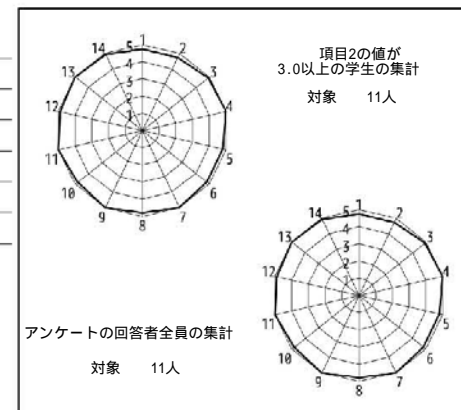
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

回答数が少ないものの、ほとんどの項目が5点評価であり、満足度が高い授業ができたものと推測できる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 今後は、欠席者がいた場合でもスムーズにルーティン作りが進められるような仕組みを作っていきたい。また、体育教場内にインターネット環境がなく、アンケートの回答数が少なくなってしまう点も引き続き課題として挙げられる。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)ヨガ
授業コード	14E06-001
教員名	畑山 知子
教員コード	101969
登録人数	17
回答数	11
回答率	64.7%
休講回数	3 回
補講回数	3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

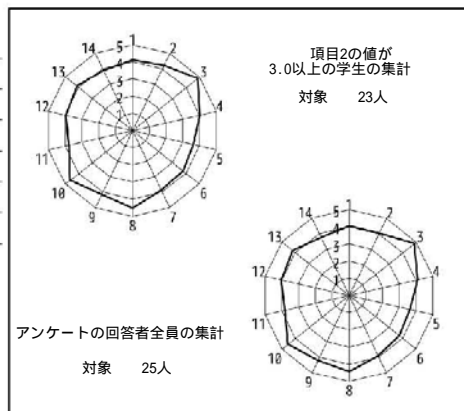
この科目の到達目標は、1) ヨガを安全に実践できる知識を身につける(からだのことを知る)、2) 太陽礼拝を習得し、実践できる、3) 自身にとって適切なアプローチを選択できる、であった。クラスでは、自身のからだに意識を向けられるよう声かけを工夫し、クラスの前後に、からだや心の状態などを記録し、自身の取組みによるからだの反応や変化を把握できるようにした。また、多くの受講生に共通する課題を取り上げてストレッチポールや足のケアなど様々な方法を用いて探求した。クラスの後半では、太陽礼拝はじめ多くのアーサナを実践でき、からだへの気づきや自身の選択、取組後のスッキリ感などが多く記述されていたことから、概ね目標は達成できたものと考えられる。

実際に、各項目の評価は4.73~5.00と高く、上記のような取り組みが、理解度への配慮や意欲の引き出し、新しい知識等の獲得(各項目満点評価)につながったと考えられる。

今年度は、3回の休講と補講を設定しなければならず、受講生には負担をかけたが、補講に加えて、参考動画を紹介したことが役立ったとの声もあったことから、今後のクラスにも活かしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の哲学
授業コード 22C09-001
教員名 長滝 祥司
教員コード 100764
登録人数 70
回答数 25
回答率 35.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

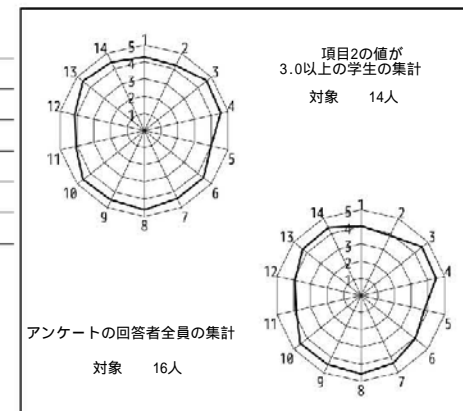


授業評価結果を踏まえた点検・評価

成績をみると、設定していた目標と到達の程度については、学生によるばらつきが出たようで、それがアンケートにも反映されていたと考えられる。授業の到達目標にたいする理解、それへの到達感、全体の満足度がやや低くなったのも、似たような原因による可能性がある。100分×という授業なので、なるべく退屈するような中身にならないようにと、本筋から展開するようなかたちで講義をおこなったが、自由記述によると一部の学生に対してはそれが裏目に出てしまったようであった。たとえば、政治的な話を交えたりしたが、これも哲学の一環であるという理解には至ってもらえないようであった。以前と比較すると、すべてプログラム通りでない満足感を得られないといった学生が増えてきているのかもしれない。また、アンケート回答数が25と少ないので、数名の学生からのかなりの低評価が全体に影響を与えたように思う。今年で終わりになるので、次学期にたいする抱負、方針等の記述は差し控える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と進化
授業コード 22C32-001
教員名 小田 亮
教員コード 104486
登録人数 47
回答数 16
回答率 34.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について、概ね到達している。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
外部評価のために授業評価を実施しなければならないという事情は理解できるが、このようなものに本質的な意味はない。なぜなら、もし正しく評価できるのであれば、その授業を受ける必要が無いからである。大学における講義で得たものは、人生のずいぶん後になって生きてくるといってもよくある。今の時点で適切に評価できるものではない。また、学生が「評価」というものを正しく理解できているのかどうかも甚だ疑問である。かつて本務校における授業評価で「先生のことが嫌いです」と書かれたことがある。学生に好かれるのが仕事ではないので、嫌われることは一向に構わないのだが、好き嫌いとは評価の区別もできていないことに驚愕した。評価とは何であるのか、ということを教えるのが先ではないのか。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など特になし。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)

授業コード 22C48-001

教員名 門脇 誠二

教員コード 102240

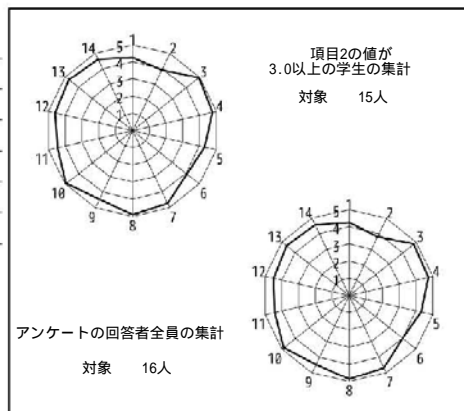
登録人数 47

回答数 16

回答率 34.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドを印刷し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。

アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。対面で講義を行ったため、できるだけ毎回、講義に関する実物資料(考古遺物やそのレプリカ、関連文献)を回覧してもらおうようにした。その点に関して良かったとの感想がアンケートにあった。また、動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。

100分授業で2時限続けての授業であったため、単調だと学生にとっても集中力が欠けると思う。そのため、配布資料のキーワードを穴埋めにして、注意力が少しでも持続するようにした。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論

授業コード 23C19-001

教員名 伊藤 修毅

教員コード 103837

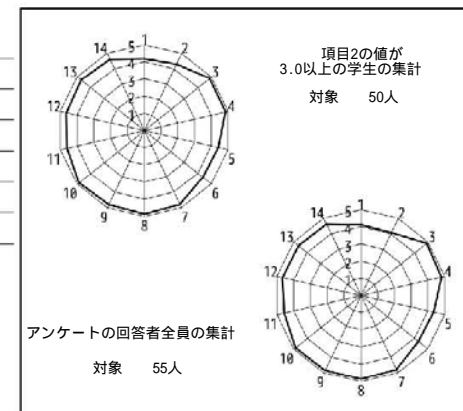
登録人数 94

回答数 55

回答率 58.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

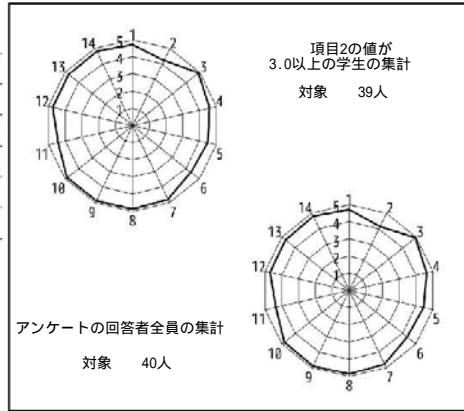
教職課程の科目と心理人間関係学科の専門科目の合併科目ではあるが、本科目非常勤講師をお引き受けする際に「教職課程」の履修者に寄せて内容を考えてよいということ言われていた。しかし、今年度は、教職課程履修者が少なく、目標そのものを変更することも考えることも検討したが、結局、変更はしなかった。しかし、結果的には、所期の目標を概ね達成できたと感じている。

上記の理由からか、そもそも興味を持たずに履修をしている学生や予復習のモチベーションが低い学生が一定履修していたことが1番目と2番目の問いからは伺える。しかしながら、それ以降の結果は、十分な水準に到達できているととらえることができ、安心している。

次年度も、同科目をお引き受けしたが、教職課程履修者の減少が一時的なものなのか、恒久的なものなのかによって、講義の設計そのものを検討する必要があると考えている。この点については、履修者が確定するまでわからないため、来年度については、どちらにでも転がれるような柔軟さをもって挑みたいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 48
回答数 40
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

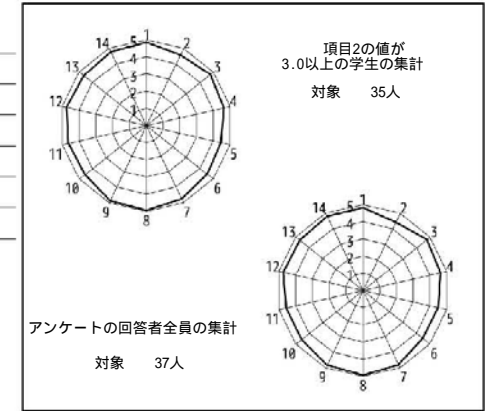


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の結果から全体的には比較的良好な評価を得られたようであり、学生もある程度、満足感は得られたようであるが、これまでも課題であった「到達目標」についての項目がやや低得点となっている。そのため、今回の授業でも「到達目標」を明確にすることを意識して、授業の中で提示する機会を増やしたが、本結果を見る限りでは、あまり効果はなかったようである。本授業は概論的な色彩が強く、また臨床的な経験がないと理解が難しいところがあり、この授業を通して何らかの専門性を身につけるといことは困難であるといえるが、その前の段階として、より明快で、達成可能な目標を提示していきたい。また、「自主的な授業への取り組み」についてもやや得点が低かったが、これについても、漠然と「このあたりについて調べておくとよい」と伝えるのではなく、具体的な文献や論文などを、複数提示するなどして、何をすべきかということができるだけ明確にしていく必要があるのかもしれない。また、評価方法もこれまで、最終レポートのみであったが、普段の授業から積極的に取り組めるよう、小レポートを課すことなども検討していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 司法・犯罪心理学
授業コード 23C72-001
教員名 山脇 望美
教員コード 104477
登録人数 101
回答数 37
回答率 36.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

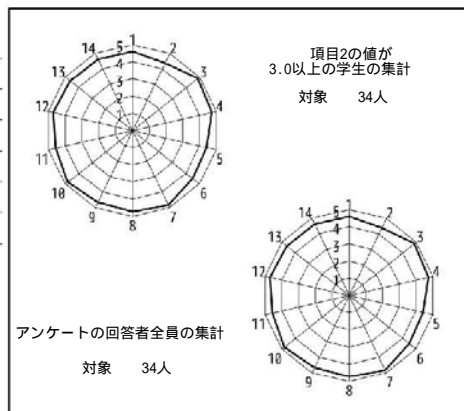


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度は、非行・犯罪についての基本的な知識を習得し、特に、非行・犯罪の理論や法律など基本的知識の習得について理解できるようになることであった。また、非行や犯罪の加害者や被害者の心理アセスメントの理解と取り組みについて、一般的な理論や知識を認識できるようになり、非行や犯罪の動機や背景を理解し、加害者臨床の理解と取り組みについても知ることができるようになることである。さらに、各種の犯罪類型について理解し、各類型における犯罪動向を把握できるようになり、最後に、犯罪被害者についても理解できるようになる。授業評価の内容から、概ね、授業目標は到達できたと考える。また、総合評価から、学生が満足できるような授業内容になったと考える。しかし、授業内容の量が多かったことから、少し授業のスピードが速くなったことがあり、知識の定着には不十分なところがあったかもしれない。そのため、来年度の授業では、授業時間内で実施できる適切な授業内容を提供していきたいと考える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会言語学
授業コード 24C53-001
教員名 安井 永子
教員コード 102889
登録人数 70
回答数 34
回答率 48.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

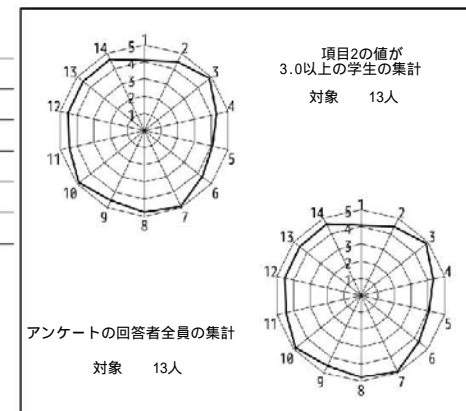


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標の到達の程度については、設問6の平均が4.50であることを踏まえると、概ね達成できたと考えられる。授業評価結果では、設問7への回答が特に高得点であり、教員として授業に誠実に真剣に取り組んだとの印象を持ってもらえたことがうかがえた。自由記述にもある通り、学生の理解を助けるため、毎回授業時、学生からのリアクションペーパーで寄せられたコメントや質問に対し、時間をかけて答えたことや、できる限り多くの事例を盛り込んで伝える努力をしたことが、このような評価につながったと考えている。一方で、主体的に授業に参加したかどうかという設問への平均点が、他に比べるとやや低かった(4.38)。この点に関しては、学生が自主的に予習や復習をしたり、授業内で積極的に意見を述べたりできるよう、適切な促しを行っていくことや、グループワークをもっと多く取り入れ、学生が授業内で互いに刺激を受けることのできる環境にしていくことで、今後改善したいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学
授業コード 24C56-001
教員名 古泉 隆
教員コード 101035
登録人数 16
回答数 13
回答率 81.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、テキストエディタの検索・置換・Grep等を利用してテキスト処理ができる、テキスト処理に必要な正規表現を理解している、単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解する、正規表現およびエクセルの機能・関数等を用いて単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、プログラミング言語を用いて単語頻度表・n-gram頻度表を作成するための基礎事項を理解する、最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。

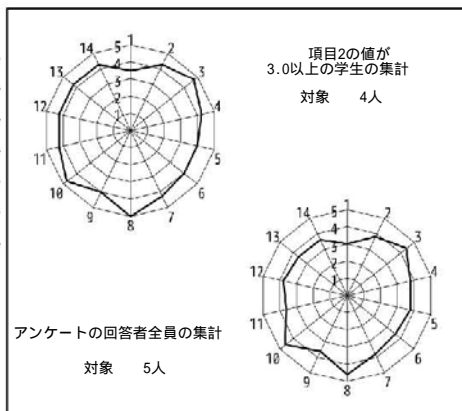
普段の授業では演習・課題・小テストを行い、学期末レポートでは、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでもらった。演習・課題小テストの解答状況およびレポートの内容を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。一方で自由記載欄に「たまにわからないことがあった」との記載があり、わからないままにならないように頻りに質問できる機会を提供するように努めたい。

授業では、実際の研究でどのようにテキスト処理を利用するかを例を通して体験してもらったり、言語処理だけでなく、プログラミングといった将来役に立ちそうな場面での利用例も時折取り入れ、興味・関心を引くように工夫した。今後も、実践的なスキルが身につくような工夫をしていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
C1
授業コード 31C08-001
教員名 TOMKINSON, Fiona Gail
教員コード 104760
登録人数 28
回答数 5
回答率 17.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

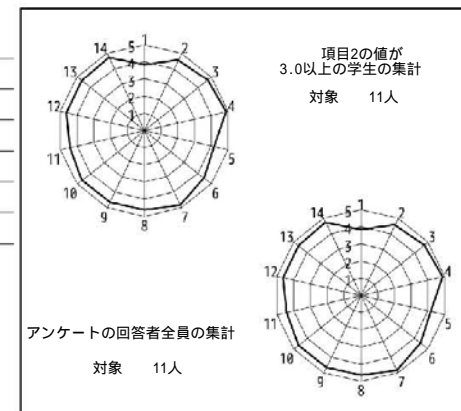


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) I think that the students generally enjoyed the course and gained an understanding of the text and of the life and times of Tolkien. They were also able to make connections between Tolkien and his sources and to discuss his influence on more recent fantasy literature. I was impressed by the quality of many of the presentations and final projects.
- 2) With regard to the student assessments, it seems that delivery, classroom management and time-keeping were positively assessed, whilst encouraging student participation and independent study were perceived as the weakest points. I was a little surprised with regard to student participation, as the second part of each lesson was devoted to group discussions followed by reports on these and we also had assessment by student presentations. Students were also given comprehension questions to prepare every week.
- 3) I think that next year I can improve the course by giving more extensive reading lists to encourage independent study. I think I should also make the details of the final project clearer at the beginning of the course. I shall also continue to revise and improve the course materials.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語の構造
授業コード 31E15-001
教員名 吉田 江依子
教員コード 103084
登録人数 31
回答数 11
回答率 35.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- シラバスどおりに授業をすすめることができた。また期末試験において、平均点が5.7点、また授業に出席していた学生の95%が単位をとることができたことから(本講義の成績評価は期末試験100%)、学生の理解度においても目標は達成できているのではないかと考察する。ただし、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」が最もポイントが低く4.18であったことから、学生自身が毎回の授業目標をもう少し明確に理解できるようにしながら次年度は進めたい。
- 設問1は平均値が3.82ともっとも低く、授業前の本講義への興味がそれほど高くはなかったことをうかがわせるが、設問14において全体の満足度が4.74とポイントがあがっており、受講生にとってこの授業が意味あるものであったようだ。また、もっとも平均値の高い項目は、4.91で設問4の授業の進度と構成についてであった。これは毎年学生の状況をみながら、そして本アンケートの意見を参考にしながら積み重ねてきた結果であると感じ引き続き授業改善を試みたいと思う。また2番目に平均値が高かった項目は設問7の4.82「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか」で学生にとって信頼できる教員であれたことがうれしく思う。
- 次年度は、身近な例をさらに取り入れ、学生がさらに興味を持てる授業内容にしていきたいと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIB1
授業コード	32A13-001
教員名	GUTIERREZ CERVANTES, Lenin Emman
教員コード	104703
登録人数	17
回答数	3
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

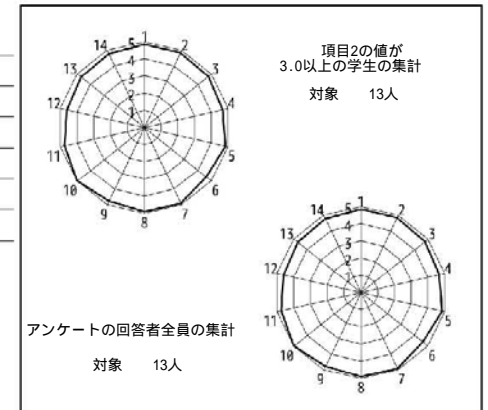
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Los estudiantes son bastante atentos y mantienen un buen ambiente de trabajo. Todos presentan muy buena disposición para trabajar y siempre atienden indicaciones. Intentaré implementar actividades diferentes en el próximo ciclo para mejorar el aprovechamiento en clase.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IID1
授業コード	32A17-001
教員名	LAGONES, Jakeline
教員コード	151441
登録人数	54
回答数	13
回答率	24.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

According to the result of the evaluation, the general practical objective was consolidated, which was to review the grammatical and lexical contents of the second conversation course. Conforming to overall self-assessment and self-evaluation of the subject, the answers of students (question 1 to 14), the average scored was high (4.79). And from question 2 to 14, also the result was very positive (4.78). These results showed that students were able to understand, and meet the general and specific objectives of the course according to the syllabus.

In agreement with student's impressions of the course and evaluation that can be positively evaluated students wrote the next comments: "The time for pair work was appropriate, and I was able to practice and memorize important phrases". "It was more fun than anything"; "The teacher is kind and takes everything positively"; "Being able to learn Spanish using famous songs;" "There were challenges that I could tackle with interest"

In general, I think that using different strategies during the lessons help students to improve their understanding of the course content. Mostly, the methodology of active learning had a positive effect in the process of teaching and learning. To improve the method of teaching I will continue using these five activities; (a) TICs as Edpuzzle. (b) The linguistic landscape to learn new vocabulary. (c) The pair work, group work, and the classmate interview. (d) Spanish songs to study vocabulary and the analyzes of the grammar content. And (e) Oral presentation.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIA2
授業コード 32A19-002
教員名 HOPKINS Mariella
教員コード 103653
登録人数 14
回答数 3
回答率 21.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

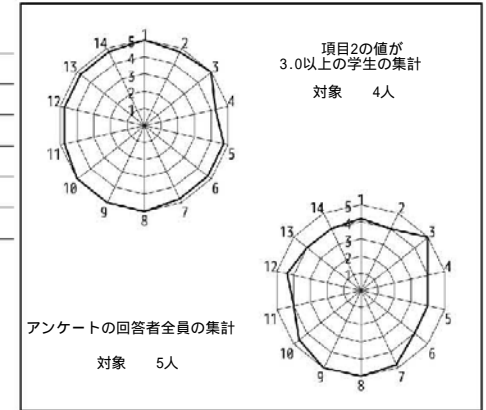
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The objectives set at the beginning of the course were met in their entirety. During the reading course we had two midterm exams to be able to measure the students' progress in understanding the different topics that were covered in the readings. The structure of the topics that were discussed were divided into three classes: the first class with a reading of the students' material, the second class with a similar reading and the third class with complementary activities such as diagrams of what was learned.
- (2) in relation to the general self-assessment, the reading course is an area that allows the student who is studying another language to develop another link with the language they are studying that allows them to have greater proximity to the culture of the language they are learning. and in relation to the self-assessment of the subject of which I am in charge, according to the numerical data and the comments, we can see that the course has been developed successfully, the students in their comments have validated that the way in which it was given has been so that they develop and identify their own skills in reading comprehension.
- 3) Thinking about the next quarter or semester, the improvements are related to time control in classroom activities, and as specific measures to continue without the use of cell phones, and mainly to continue using Spanish for communication in class.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC1
授業コード 32A23-001
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード 103464
登録人数 20
回答数 5
回答率 25.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標達成を達成できました。まず、学生と一緒に調査したり、先行研究を読んだりして、学生と一貫して授業を進められたことで学生の興味や問題点を補うことができました。
- 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自己点検において、スペイン語で発表する力を補うことができなかった点です。スペイン語で読み書きしてい、十分に言語力は身についたと思われるが、学生の発表力を向上させる取り組みができなかった。
- 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後の授業では、発表力を向上させるための取り組みを行うことで、言語力とコミュニケーション力を高めることを目指します。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの政治
授業コード	32C22-001
教員名	中川 智彦
教員コード	102940
登録人数	12
回答数	2
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

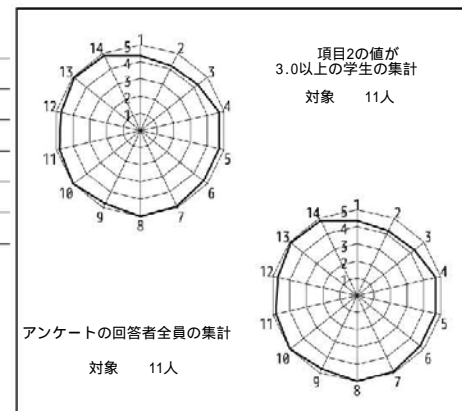
全体としては、授業への取組み等を含めて最終評価は悪くなく、講義の到達目標は、おおむね達成できている受講生がほとんどであった。

アンケートについては、回答者が2名と少なく、事前に授業の内容について興味をあまり持っていなかった回答者ととても持っていた回答者による回答が1件ずつだけであったので、アンケート結果を基にした分析は難しいが、興味を持っていなかった学生については、項目6の目標到達度に関する自己評価が3<どちらも言えない>と低くなっていたものの、興味を持って受講した学生の自己評価は5と高くなっていた。一方で、項目7の教員の誠実さ・真剣さ、ならびに、授業運営と全体的な評価に関する項目(9~14)では、それぞれ4と5で、特に、項目12の質問や相談の機会、課題、実習等に対する指導の十分さは、両者とも5と高く評価してくれていた点は、よかった。次クォーターでも、受講生とのしっかりとしたコミュニケーションを心がけていきたい。

今期は、授業中に案内を行い、作業時間中に回答も促したつもりだったが、アンケート回答者数が非常に少なかったうえ、自由記述がまったくなかったので、次クォーターではこれまで以上にアンケートの周知徹底を図りたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ポルトガル語圏文化・社会特殊研究A
授業コード	32C33-001
教員名	伊藤 秋仁
教員コード	100662
登録人数	15
回答数	11
回答率	73.3%
休講回数	4 回
補講回数	4 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本務校の入試と海外公務出張のため2日休講し、その分、補講したため、学生に迷惑をかけたが、何とか当初の目標に到達できたと思う。

数値は概ね良好だった。授業に対する改善点についての提案もなかったため、授業については大きな問題がなかったと思われる。ただ学生はいわゆる「優しい」先生に高評価をする傾向がある、可もなし不可もなしの先生に安易な高評価をする傾向があるので、額面通りに受け入れるべきではないことは理解している。年度によるが、積極的にコミットする学生が多い年もあれば、そうでない年もある。本年は学生の意欲を感じることができなかった。より活気ある授業ができるよう工夫したい。今年度はレポートとプレゼン、出席などで評価した。少人数の場合は学生のリアクションを見ながら授業を進めるため、理解度をおおよそ測ることができる。今年度は受講者の数が比較的多く、講義が中心となった。レポートやプレゼンはAIの影響が排除できず、学生の数によっては理解度を測ったり評価するのにテストが必要かもしれないと感じた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語学特殊研究B
授業コード	32D07-001
教員名	泉水 浩隆
教員コード	102114
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

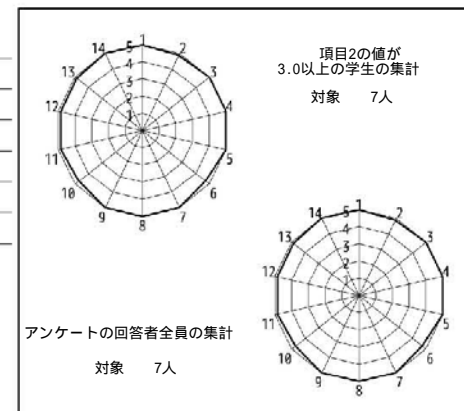
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価においては、最後から2回目の授業および最後の授業でアンケート調査への協力を呼びかけ、回答時間も取ったのですが、科目の登録者そのものが6名という小さいクラスだったせいか、レーダーチャート等が提供される回答数に至りませんでした。そのため、学生毎回答結果のエクセルファイルを元にした所見になりますが、どの項目に対する回答もほぼ5となっていることから、この授業の目標は特段の問題なく達成され、また、授業運営についても特筆すべき支障はなかったと考えられます。受講生の皆さんの積極的な受講態度や十分な準備状況もあって、予定していたペースで順調に進み、目標としていたところまで無事たどり着くことができました。

自由記述欄の記述では、項目15については「3年生までに学んだことの中で、まだ理解しきれいかなかったことやより理解を深めたい点をピンポイントで学ぶことができました。特殊研究の講義ということで受講人数が少ない反面、質問しやすかったり、再度確認したりしやすく、アットホームな雰囲気を受講することができました」、「分かりやすく、余談も面白いので最高でした」、「明確な文法の使い方を学習出来た」などの回答がありました。項目16および17では特に指摘・意見はありませんでした。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIIB2
授業コード	33A16-002
教員名	VURPILLOT, Xavier
教員コード	104503
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during the previous quarters. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing, so that the learners reach a level equivalent to A2-B1 in the CEFR. All the students managed to validate this quarter, so I would say those goals were achieved, even though some students barely reached the threshold.

We started using a new textbook at the beginning of this year, and the students seem to have receive it positively. I didn't notice any complaint about in the survey either. The survey results were overall positive, so I think I will teach next year more or less the same way next year, even though I might do some minor modifications on my PowerPoints. The only big change we decided to do with my pair next year is to do more exercises at the end of each unit as a way to review everything that has been study in the said unit.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論C

授業コード 33C03-001

教員名 NISHINO, Aurelie

教員コード 103640

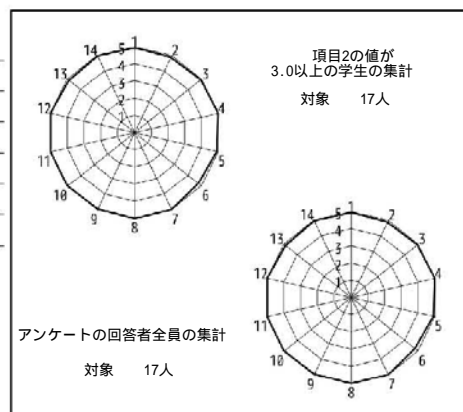
登録人数 26

回答数 17

回答率 65.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students to speak as much as possible with this communication course. I wanted them to react through different situations in french as fluent as possible by giving them the way to do it.
This was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons, they were really active and it was lovely to teach to them.
2. Following the results of the enquête, I will try next year to continue to teach them how to react to different situation and to make it as interesting as possible for them to remember what they learned.
3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中級フランス語III

授業コード 48A35-001

教員名 HERGOTT, Florian

教員コード 101725

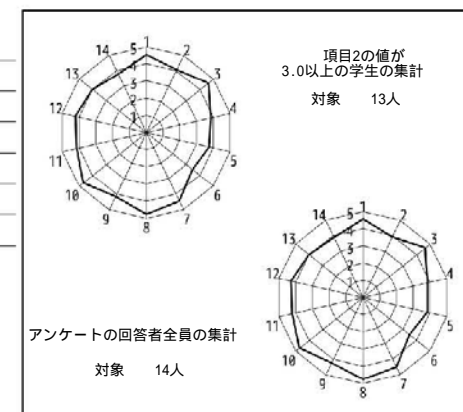
登録人数 38

回答数 14

回答率 36.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- New technologies have made it possible to compensate for a certain lack of written expression, which is why more and more students are aiming to develop their oral communication skills in a foreign language.
- The course objectives are geared towards this, but practical discussion exercises are complicated by the large number of students. One possible way of improving the lesson would be to introduce more individual discussion time.
- At the start of the next academic year, I'm going to change my textbook. The aim of this change is to develop even more oral practice during class time. Another objective would be to develop self-learning during the periods between 2 lessons.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語IV会話
授業コード 35C06-001
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 5
回答数 3
回答率 60.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

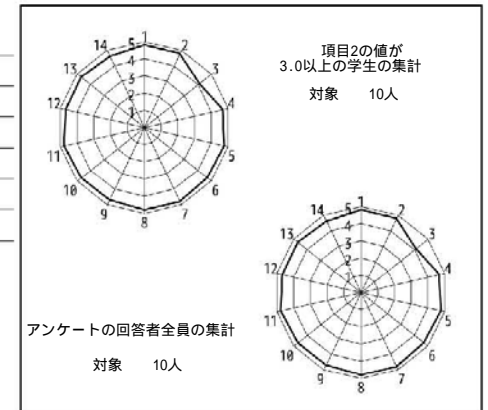
この授業は、中級中国語IV会話ということで、今年は例年と同じ、中国の本土から（台湾も含め）1年間ほど留学して帰ってきた履修者もいれば、ほぼ日本国内の環境で、中国語を覚えた受講生もいます。会話の授業ですので、いかに留学経験のある学生の会話力を保ちつつ、伸ばしていくのか、またそれと同時に留学経験のない学生の皆さんに口をあけて、中国語で話せるようにしてもらえるのか、皆さんの口語表現の上達を念頭に授業を工夫して進めてきました。皆さんも頑張っていて授業はほとんど中国語で行い、内容の豊かな授業となりました。

その結果、アンケートの回答にあるように受講生の満足度の高い授業と評価され、開講当初の目標は達成できたと思われます。

今後も受講生の状況に合わせ、みなさんに評価されたところを引きつづき努力し、工夫もし続け、中国語の背後にある中国文化のいろいろをとりいれながら、授業の内容をさらに充実にし、学生の興味をもっと湧いてくるに授業運営を行っていききたいと思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中級中国語III
授業コード 48A44-001
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 29
回答数 10
回答率 34.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標にほぼ到達したと思います。

真面目で熱心に講義を受けていた学生が多く、また教員のアドバイスや注意などを素直に耳を傾ける学生も多いです。勉強の雰囲気はとても明るくて良かったです。「授業内容と補足内容があって理解しやすかったと思います」などのコメントを見て、たいへん嬉しく思います。このクラスの学生は理解力が高く、教科書以外の内容も教えたり、中訳の総合練習を作成し練習させたりしていました。中には教える内容が多く難しいと思う学生もいるかもしれないと心配していましたが、結果的に良かったようで、安心しました。やはり学習意欲が高く、たくさん勉強したいという学生が多いと思います。知識欲と好奇心は本当に大事ですね。

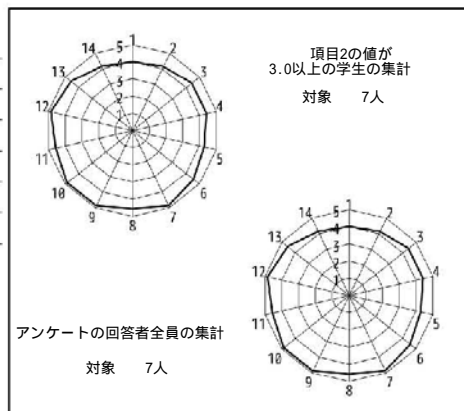
これからも分かりやすく、楽しく講義を行っていききたいと思います。なるべく学生一人、一人の様子を見ながら指導していききたいと思います。学習することは楽しいことです。でも楽ではありません。

共に頑張っていきましょう。

謝謝！加油！

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門2
授業コード 40D05-002
教員名 塚本 高浩
教員コード 104478
登録人数 23
回答数 7
回答率 30.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおよその受講生は、学修到達目標に到達していた。アンケートの結果を見ると、全体的に大きな問題は生じていないように判断できる。しかしながら、本授業は7週間で扱う内容としては重いものとなっているため、より効果的な授業方法を検討していく必要がある。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B2
授業コード 40E05-002
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 10
回答数 2
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

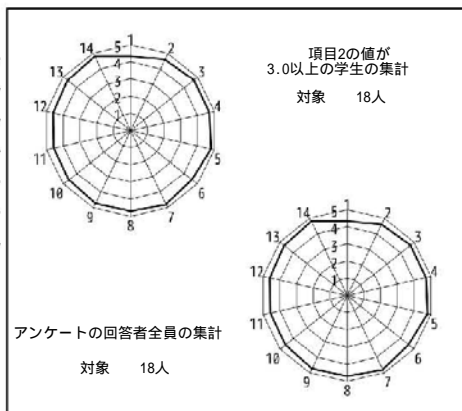
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have examined the evaluation report for this Business English Class. Most students attended the class regularly. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing and reviewing for classes. I felt they were interested in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the format of the course and the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students felt they could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. I also adjusted the class to the student's needs and level. There were few behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to consult with each student. Students were encouraged to participate in class. They seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were satisfied with the class.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民法B
授業コード	40F05-001
教員名	照井 暹瑛
教員コード	104799
登録人数	153
回答数	18
回答率	11.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、民法のうち債権法と家族法の基礎的知識を身に付けることで、日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標に設定した。履修者の多くは法学という学問に触れるのが初めてであったため、専門用語はできる限り平易な表現に改めて、「この条文や制度はどのような場面で誰をどのような理由で保護するのか？」といった基本に比較的多くの時間を割くことで法学に対する知的関心を維持しようと努めた。また、条文や制度の名称だけを見ても抽象的で分かりづらいときは、具体的な事例をできるだけ多く取り上げて、履修者の記憶に定着させることを心掛けた。各設問項目の平均値も高く、自由記述欄を見る限り、講義の方向性に概ね賛同していただいたと一安心している。しかしながら、重要な箇所についてはゆっくりと丁寧に繰り返し説明していたため、時間配分を誤り、講義の後半で早口で説明してしまった場面が何度かあったことについては、反省をしている。次年度は、特に時間配分を意識して講義運営に努めていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法B
授業コード	40F07-001
教員名	村上 康司
教員コード	103658
登録人数	21
回答数	4
回答率	19.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

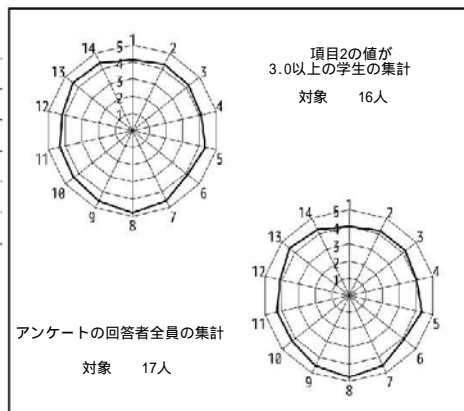
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、14回の授業を通じて、当初シラバスに予定していた内容を滞りなく終了した。定期試験を踏まえた成績評価にあっては、残念ながら履修者が多くないこともあり、少しの変動で大きく数値が動くものの、軒並み高い水準での合格者がみられることから、一定の水準は学習してもらえたものと考えられる。上述の通り履修者が少ないうえにアンケート回答率が低いため、数値化をチャート等で確認することができず、また、自由記述欄にも何も寄せられなかったが、回答の数値はおおむね肯定的な評価を得ていたと推測される。履修者は、まじめに毎回参加している層と、そうではない層とに区分されるが、参加率の高いグループは極めて履修態度はよかった。次年度について、これまでと同じように、学習する内容と実社会での利用がリンクして、学びを確かめられるような材料を活用していきたいと考えている。特に、授業への参加が少ない層への、はたらきかけには工夫を凝らしたい。履修者の増加やアンケート回答率の向上等は、その時々状況に左右されるところがあるので、あまり気にしても仕方がないが、一人でも履修希望者がある限りは、その満足度を高めるために力を注ぐことに変わりはない。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学概論
授業コード 40F08-001
教員名 滝谷 英幸
教員コード 104298
登録人数 43
回答数 17
回答率 39.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

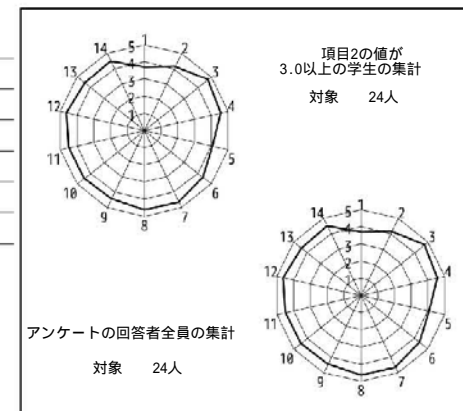
シラバス記載のとおり、この授業では、「知識ではなく考え方を身につける」というコンセプトを徹底しました。「正解は存在し得ないが、責任をもって結論を出せ」、「自分の価値観や思考過程を直視し、言語化せよ」といった要求は、おそらく、多くの学生にとって初めての「しんどい」体験だったのではないかと思います。しかし、毎授業後の課題に対する解答などをみると、少なからぬ学生がその「しんどさ」に正面から 向き合い、授業の趣旨をふまえた努力をしてくれたように感じました。

昨年度と同じ方向性で、かつ、昨年度よりかなり内容を充実させたつもりだったのですが、数値自体はだいぶ下がっているようです。率直に言って思い当たる原因があまりないのですが、もしかすると、そもそも、今年度は、この授業に対して法に関する「知識」を求める（あるいは、「正解はない」と突き放されることに不安/不満を感じる）学生が相対的に多く、ニーズに合わなかったのかもしれない。今のところ基本的な方向性を変えるつもりはありませんが、授業の方法につき改善できる点がないか、引き続き検討したいと思います。

限られた時間内で、かつ、法学を専門とするわけではない学生に対して、知識の切れ端を提供することにはあまり意味がないと思っています（本気である程度体系的に知識を得たいという人は、図書館で法学に関する書籍を読んでみてください）。「考える」経験を重視するという方向性は維持しつつ、学生がその意義を理解できるよう、丁寧な説明を心がけるつもりです。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)3
授業コード 42F03-003
教員名 石田 晃三
教員コード 104906
登録人数 151
回答数 24
回答率 15.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

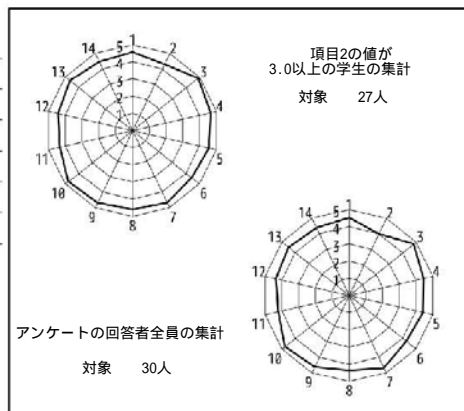
については、初めての講師のため、学生の興味や学習意欲を見ながら変更してきた。7週間の講義で手探りであったため、項目番号5の評価点が4.08と他の項目に比べて低くなっている。この点が次年度に向けた課題だと認識している。

については、項目番号1と2について、自分の課題だと感じている。授業内のアンケートにおいても、技術的な深掘りが入った際は理解がとび難いとのコメントを伺っている。技術を知らずに電子・電機産業論を語ることはできないとの思いもある。経営学部を主体とする社会科学系の学生にもわかりやすい内容について、考えていきたい。

について、学生が感じていることを考えながら授業を進めてきたが、まだまだとの認識をしている。授業で得た経験をもとに、教材や内容について、学生の能力向上と興味を持てるよう改善を進める。次年度においては、工場見学などを追加することで、学習した内容がどのように企業で生かされているか実際に感じることで、授業業の内容の深掘りを行いたいと考えている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(自動車産業論)2
授業コード 42F04-002
教員名 飯島 修
教員コード 104485
登録人数 99
回答数 30
回答率 30.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標に向けて力がついてきていると思うか(設問6)、新しい知識 あるいは、技術や能力 を得たり理解が深まったと感じるか(設問13)の平均値を上げることを目標としたが、それぞれ4.02 4.27、4.15 4.50となりほっとしている。昨年度の授業でシラバスを見ていない学生が多いと判ったので、到達目標と授業計画の関係、復習による理解・定着を意図した資料の活用方法と授業の進め方について初回授業でしっかり説明したことが結果に表れたと推測。

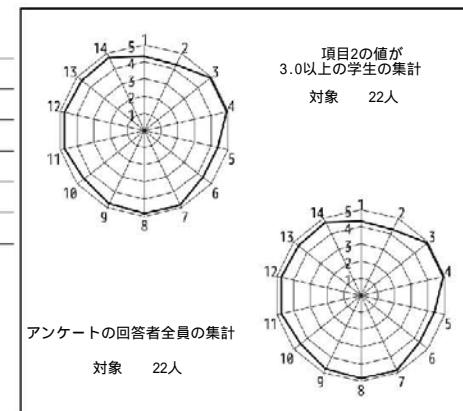
「配布資料が分かりやすく見やすい」
「資料に詳しく書いてあるため、わかりやすかった」
「資料に空欄が作られていることで、授業を聞こうという姿勢になれた」
とのコメントがある一方、
「レジュメの文字が多すぎて目が疲れる」
とのコメントもあり、講義資料はさらに工夫が必要と感じた。また「出席をとるなら少しだけでも出席点として成績に反映して欲しかった」
とのコメントがあるが、
出席確認の理由はルール上、成績表示S(欠席過多)の人がいないかどうかを確認するため、成績評価は「定期試験レポート100%」で評価すると授業で説明。

その後、授業に1度も出席せず定期試験レポートを提出する学生が散見されたので、シラバスの【評価方法】の注釈として、授業科目履修規程第16条による、いわゆる3分の1ルールが適用される場合、欠席が1/3を超えると成績表示はS(欠席過多)となる旨、明記した。

* 授業は出席が当たり前で、出席回数で成績評価しないことが前提であれば、欠席を確認しなくてはならないルールは無くても良いのではと感じている

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)
授業コード 42F05-001
教員名 藤榮 幸人
教員コード 103879
登録人数 39
回答数 22
回答率 56.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講時には以下の3つの目標を設定し、学生にも伝えて授業を開始した。
1.日本における起業のダイナミズムの必要性理解. 2.起業家やフリーランスとして働く意義やリスクを知っている 3.企業の成長ステージ毎にそれぞれ取り組むべきこと、陥りやすい事象を理解することができる
1については、授業の前半で、政府の起業促進の背景や起業に関する実態について丁寧に解説することで、学生の理解を深めることができた。
2と3については、実務家としての経験も踏まえて、起業のメリットデメリットについて事例を交えながら伝えたり、ケースディスカッションを通じてリアリティを持たせることに腐心した結果、概ね学生の反響は好評であった。

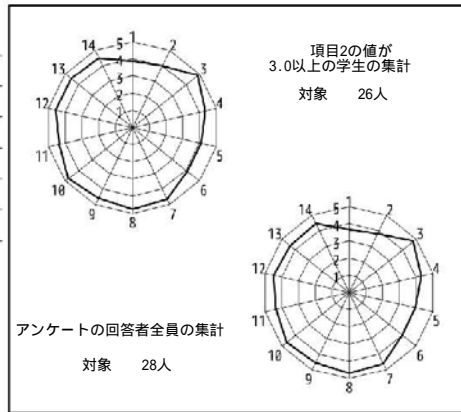
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
5番6番の質問項目についての数値が相対的に若干低くでているものの、起業というテーマにつき当事者意識を持って力量がついた実感というものを感じづらいものであると思われる。ただ、できるだけイメージを持ってもらえるような授業にするべきと考える。

自由記述でケース設問を具体的にとの意見があったが、これはあえていろいろな捉え方ができるように設定しているものなので、問題ないと思う。理解を促すアナウンスは心がけたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回は学生の発言をより取り上げる姿勢で臨み、良い授業空間になったと思うため、次年度は一層学生とのコミュニケーションをとって学びの場づくりを促進したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学原論B
授業コード 44B41-001
教員名 加藤 哲理
教員コード 104771
登録人数 143
回答数 28
回答率 19.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

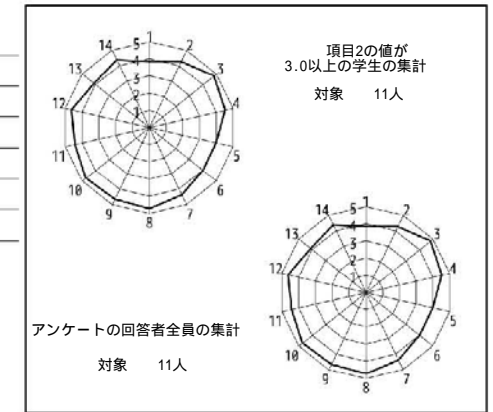


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 当初にシラバスで呈示した内容を、最終的にはすべて包括できる講義ができ、また十分に受講者にも理解していただくことができたと考えている。ただ内容面において儒教と仏教と神道に時間をかけすぎた影響で、当初の予定にあった非西洋圏の政治学のうちでもイスラム教やインド思想の伝統などには講義内で触れることにできなかったため、その点は授業の進度という点で、より工夫が必要であったと思われる。
2. アンケートの結果から見るに、概ね学生たちに満足をいただけたのではないかと考えているが、講義の内容面だけではなく、講義室の空調の完備など環境面でも配慮が必要であるという点は、一つの発見である。
3. まずは授業の進度、今回はクォーター制で講義をするのが初めてだったので、毎週の時間配分の点で掴みにくい面があったが、来年度以降はその経験を活かして、ペースを考えて講義を進めたい。その他、アンケート結果に甘んずることなく、なお一層の工夫を重ねていく所存である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政学B
授業コード 44B43-001
教員名 高 東柱
教員コード 104267
登録人数 83
回答数 11
回答率 13.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

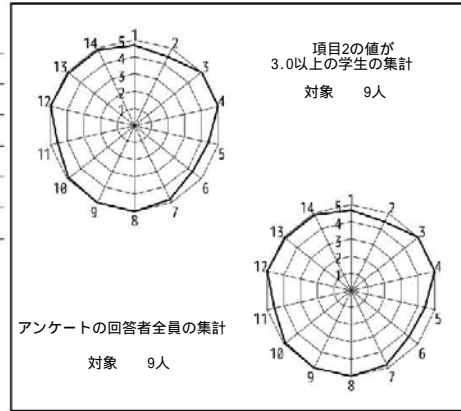


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業アンケートの結果に基づき、授業を振り返る。
まず、講義当初に設定していた目標と到達の程度について、項目5、6の平均値を見ると、法律学科の平均値を少し下回るものの、どちらも4であることから、概ね目標に到達できたと考えられる。
次に、全体的にこの授業に満足しているのかについて、項目14の平均値が4.36であったことから、学生から一定の評価を得られたと考える。そして、項目15のこの授業の良かった点、評価できる点については、自由記述回答の中に「様々な資料の提供やニュースの紹介を通して、学んでいる内容を身近なものに紐づけて学ぶことができた。」との回答があった。これからも、授業内容と関連するニュースや資料を提供することで、授業内容への理解を深め、より主体的に授業に取り組めるようにしていこうと考えている。
最後に、今回の授業アンケートには11名の学生が回答している。その結果、回答率は約13%にとどまり（履修登録83名）、項目15の自由記述も2件のみであった。授業アンケートだけでは学生の意見や評価の把握に限界があるため、授業中に学生の意見をなるべく把握しながら授業を進められるよう、工夫していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論B
授業コード 44B53-001
教員名 川地 啓介
教員コード 103289
登録人数 16
回答数 9
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

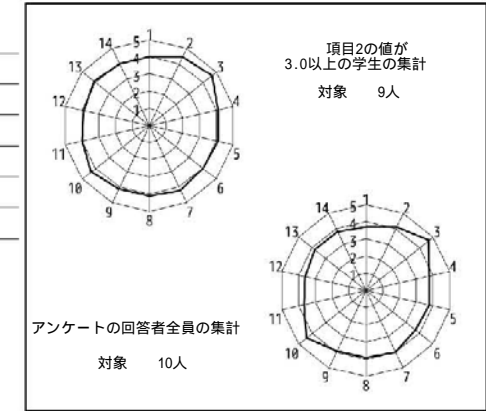


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標として、国民経済計算とマクロ経済学における各市場の仕組みに加え、経済政策の影響について理解できるようになることを設定し、授業期間内に授業目標に関する内容を講義することができた。全体的な授業評価は、おおむね良好だったと判断される。受講生の疲れのない1時間目から開講させていただき、受講生の受講姿勢が良かったことが全体としておおむね良好な授業評価につながったと推測される。今年度の授業では、昨年度の反省を踏まえ、授業全体の到達目標について受講生の理解を促すことを目標に掲げた。そのために、授業の到達目標を明確にするためのスライドを新たに用意するとともに、その説明時間を捻出するために最初に教室に入りチャイムとともに授業を始められるよう取り組んだ。その結果、授業時間に関する評価は満点を得ることができたが、授業の到達目標の理解についてはあまり深まっていなかった。そのため、来年度の授業では、到達目標のスライドを改善して、受講生の理解を促すよう工夫したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III3
授業コード 46F03-003
教員名 Jean Claude AHWENG
教員コード 104148
登録人数 43
回答数 10
回答率 23.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



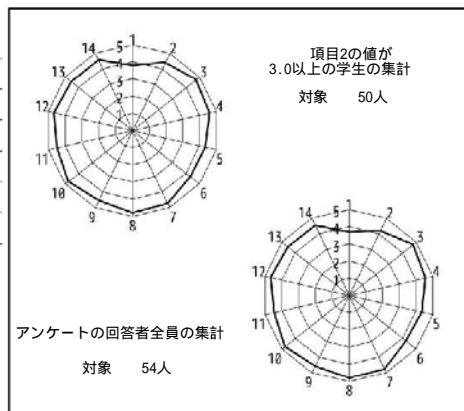
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were for the students to: (1) undertake independent research and think about the assigned policy related topics; (2) convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research. A good learning environment and teacher-student communication prevailed during the semester. Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments. The students found the assigned topics to be interesting and thought provoking, and took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports. Based on feedbacks from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. The teacher concludes, therefore, that the course attained its goals. In the future, the content of the course will be updated to include recent important developments in world affairs, such as the Russia-Ukraine war and the Israel-Palestine conflict.

(223 words)

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と法
授業コード 46M05-001
教員名 岩崎 恭彦
教員コード 102072
登録人数 121
回答数 54
回答率 44.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

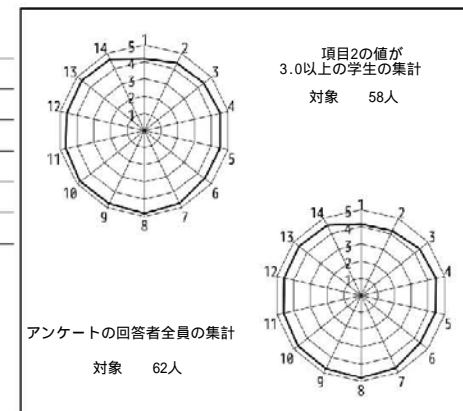
南山大学総合政策学部において担当している「環境と法」の科目では、授業の方針として、コロナ禍を経て対面による授業実施方式が再び定着した本年度も従来と同様、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払いました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストなどの資料をパワーポイントで作成したスライド上で共有して学修内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しました。また、法学関係科目の未履修者に配慮して、法令集を作成・配付して実際の法令・条文を参照し、かつ、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけました。これらの点に対しては、今回のアンケートでも多くのみなさんに評価していただいているのではないかと感じています。

他方、自由記述欄では、口頭説明事項の難易度や速度等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても適宜対応を図ることを通じて、更なる授業改善を心がけようと思っています。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公会計論
授業コード 46N15-001
教員名 曾場 七恵
教員コード 151236
登録人数 264
回答数 62
回答率 23.5%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

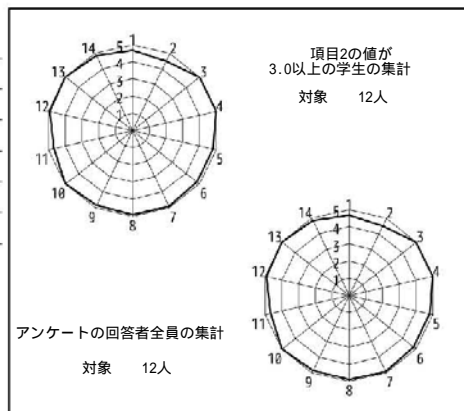
この授業では、公会計の視点から社会経済を見つめ、自分の住む地方自治体や国について考える機会を提供することを目指している。履修者には、住民や国民としての立場から国や地域の財政的問題をみつめる視点と、行政サービスを提供する公的組織の立場から需要と供給のバランス考えるという2つの視点から、公会計の課題に向き合ってもらったこととした。

2コマ連続の授業であること、そして簿記や会計に関連する他の授業を履修したことがない学生が大半を占めていたため、初学者でも理解が容易になるよう毎回の授業内容をまとめた課題を配布し取り組んでもらった。この授業内で取り組めるまとめの課題があることで各テーマの理解がしやすかったとの評価を複数得られ、学生の履修満足度が高かったことは良かったと感じている。

改善点として、インターネットを利用した調べ学習やPCを用いた小レポート課題の作成が毎回あり、授業参加時にはPCを持参するようシラバスにも記載していたが、教室が古い建物であり電源アダプタを利用できず授業途中でバッテリー切れになって課題に取り組めない学生や、代替機としてスマートフォンを使おうにも地下教室で通信環境が悪く接続できないトラブルが毎回発生した。また、教員側も教室設備のPCで教材のPDFファイルを開けない等というトラブルが発生し、授業開始までに時間を要してしまうことが重なったことは残念であり、この指摘評価に対しては教室の変更や設備工場があることを期待したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際協力論 / International Cooperation
授業コード 48C12-001
教員名 大瀨 裕
教員コード 104578
登録人数 25
回答数 12
回答率 48.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

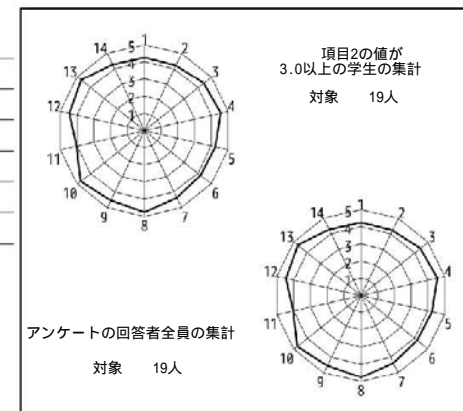
(1) 講義目標の達成度に関しては、以下の根拠により、概ね達成できたと考えられる。即ち、期末レポートにおいて提出者(20名)の半数がA評価以上の出来映えであること、学生の授業評価、特に内容に関する項目(No. 5.6.13.14)における高い満足度、である。

本講義は、「国際協力=国際関係 x 国際開発」の枠組みで、今日の状況・課題とそれらの改革・改善に向けた新たな理論と実践手法を論じるものである。其処では、(1) 国際社会を捉える歴史的(時間)・構造的(空間)な視座、(2) 「現象(蟻の目)」と「本質(鷲の眼)」の両者を統合する視点に基づき、(3) 国際・国内社会における諸問題・矛盾および国際協力の現状を「社会的弱者(第三世界・貧困層)」の立場から「批判的」に論じることにより、新たな時代開拓に向けての「意識変革」と「実践主体の形成」を意図している。

(2) 学生評価・コメントを踏まえての自己点検としては、内容・方法ともに十分であったと判断される。受講学生の大半の反応は「眼から鱗」と云うものであり、特に、講義内容の質的斬新性、講義展開の論理的組み立て、簡潔明瞭なレジュメ・豊富な資料、熱心な指導姿勢・意欲等が評価され、学びの促進・深化に繋がったと考えられる。また、自らの人生における生き方・姿勢を学べたとの言及も多く見受けられた。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV<H>2
授業コード 11B04-002
教員名 中島 潤
教員コード 100883
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



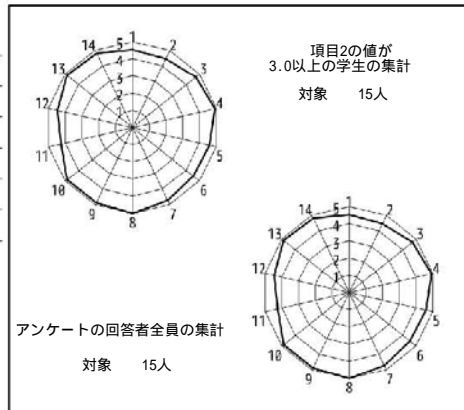
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ある程度の学生に関してデータ的に満足が得られたことについて、良かったと思います。しかし、若干数の学生に関して評価が得られなかったことは、今後の反省材料にしたいと思います。予定の内容を教えることができ、そこは満足出来る点でしょう。一年次の第二外国語としてフランス語を選択する学生に、どのような教育的ニーズが持たれているのかということが、今回ある程度(アンケート結果や授業自体において)明確になりましたので、次回以降にこれらを生かしたいと思います。

前年と同じく一年生を主な対象にした授業でした。使用の教科書も二年目になり、初年度のぎこちなさがなくなり、よりポイントを押させた授業ができたような気がしております。その中で、学生すべてが満足できる授業を行うにはいっそうの模索が必要であると考えています。来年度も同じ授業の担当を予定していますので、改善点がはっきりしたことは評価すべきであると思います。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語VIII<全>1
授業コード	11B08-001
教員名	村田 ひで子
教員コード	100665
登録人数	19
回答数	15
回答率	78.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では2年生用のテキストも後半なので、学ぶべき内容も多く、文法事項も難しくなってきたが、楽しくかつ基礎はきちり、をモットーに授業を進めた。学生の実力にはばらつきがあるので、理解度配慮には気をつけたつもりである。会話部分の訳や発音練習は3～4人のグループでしてもらってから発表、というスタイルをとったので、皆積極的に授業に参加してくれたと思う。三人寄れば何とやら、とは良く言ったもので、難しい文でも、グループでワイワイやっているうちに何とかそれらしい訳をつけてくれた。アンケートの結果を見ると、「授業の構成、進行速度」(4,93)、「理解度配慮等」(4,87)、でまあまあの数字が出ていると思われる。学生の自由記述で、「一つ一つ丁寧に教えてくれた」、「視聴覚資料を用いて発音についてしっかりと説明してくれた」、「詳しく文法を説明してもらえた」の評価があったのはうれしいことである。また、年度初頭に比べれば大体の学生は格段に力をつけていて、「新しい知識の獲得や理解等」の項目では、4,87と自己評価している。せっかく2年間フランス語を学んだので、興味を持った人は是非これからも続けて行って欲しいし、これでフランス語の学習を終了する人も時折テキストを引っ張り出して見返してみたいと思っている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIIB2
授業コード	32A13-002
教員名	VILLALOBOS Antelma
教員コード	101011
登録人数	19
回答数	3
回答率	15.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

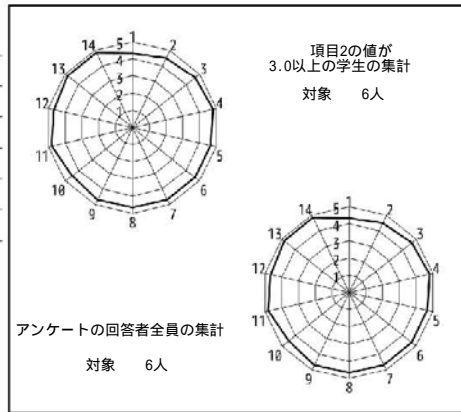
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The general objectives of this course were fulfilled and the students seems to be satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the course. As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods. In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year. Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<全>1
授業コード 11F04-027
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 39
回答数 6
回答率 15.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

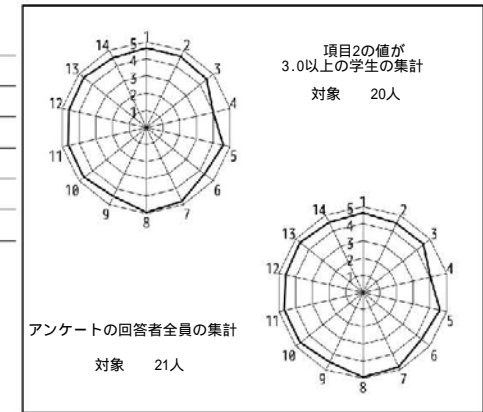


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定していた目標にほぼ達していると思う。
40名近い受講生のほとんどが、ピンインを正確に読めるようになり、各課で紹介される文法を身に付け、簡単な短文作りなどが出来るようになっている。特に25名ほどの学生は中国語初級レベルの知識を完全に身につけている。
5時限の授業で、再履修生の多いクラスであるが、受講生の受講態度は非常に良く、出席率も良かった。
各課の本文を正確に読めるまで一人ひとりに読んでもらったこと、各課に登場する新出単語と文法を確実に習得するため小まめに小テストを行ったことは大変良かったと思う。
今後も、受講生に沢山発音させ、沢山書かせ、中国文化の紹介なども加えながら楽しく授業を進めていけたらと思う。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<G>
授業コード 11F04-030
教員名 中野 麻里子
教員コード 102125
登録人数 43
回答数 21
回答率 48.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

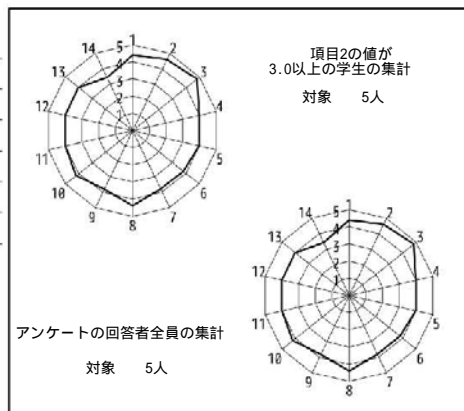


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。学生たちが予習・復習をしっかりと、よくついてきてくれるので、なかなか達成するのが難しい設定目標だが、達成できていると思う。中には進度が速い、内容が多すぎると感じる学生もいるようだ。体調不良なので休んだりすると、遅れてしまい、進度も速いと感じるかもしれない。インフルエンザやコロナが流行り、欠席者が多いときは進度を遅くしたり、例年よりずいぶん学ぶ内容を減らしゆっくりにしたのだが、まだ進度が速かったり板書が速いという指摘がある。真摯に受け止め、次回の授業でももう少し配慮できるようにしたい。90分から100分授業になったことも、学ぶ内容が多すぎると感じる要因かもしれない。100分週2回授業を受けるときの進度をもう少し考えたほうがいいのかも。ただ、授業が速い、学ぶ内容が多すぎる、という学生たちも、きっと今年苦労した分、来年度中国語を継続した時に、より高いレベルの授業を受けられるだろうし、この1年があったために、2年目が楽に感じるのではないかと思う。このクラスの学生たちは本当に本当によく頑張っていた。自信をもって、これから先中国語を継続してもらいたい。また、資格試験などにもチャレンジしてもらいたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II語法2
授業コード 35A08-002
教員名 廣澤 裕介
教員コード 104639
登録人数 30
回答数 5
回答率 16.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

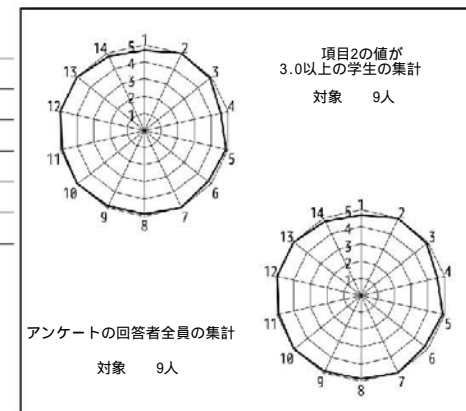


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1 基本的に安定的な授業運営ができ、当初の学習目標はおおむね達成できたと思われる。
- 2 使用する教科書の内容が豊富であるため、ときに十分な説明が時間的に難しくなることがあった。特に学生の回答を修正する際には、より丁寧な説明を心掛けてゆきたい。全体として、授業時間をバランスよく、より計画的に使う必要があり、また学びやすい雰囲気づくりは今後とも継続してゆきたい。
- 3 学生によって習熟度や意欲に個人差がやや見られたため、今後は授業内での学習支持をきめ細かくおこない、より注意深く学生たちが自主的に学び、自分の力を向上させられるよう授業を展開してゆきたい。学生とコミュニケーションをより積極的に行い、説明不足な点や誤解を生みやすい説明をなくしてゆき、分かりやすい解説に努めてゆきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2
授業コード 11L09-002
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 14
回答数 9
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

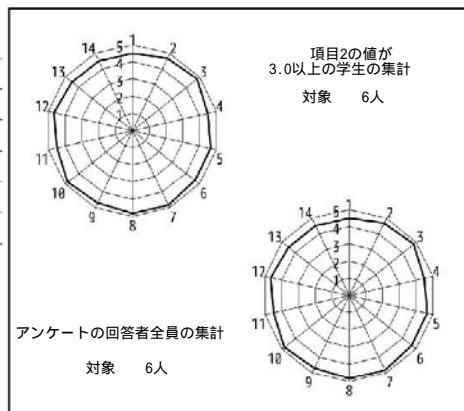


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。
- 開講時には初級とは異なる日本語学習に苦労する様子が見られた。しかし、後半に掛けて日本語能力の向上が見られ、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、文章を理解した上で理解した内容を表現すること、また適切に要約することができるまでになった。回答者の多くが日本語力の向上を感じていたようである。(設問6平均値4.78、設問13同5.00)ただし、授業の構成や進行速度について(設問4同4.56)は、3という回答もあり、授業についていくのに困難を感じた学生がいたことも考えられる。
- 次学期は、今学期の授業内容を中心に学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら授業を運営していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(表現技術B)2
授業コード	11L11-002
教員名	三輪 志保
教員コード	103665
登録人数	14
回答数	6
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

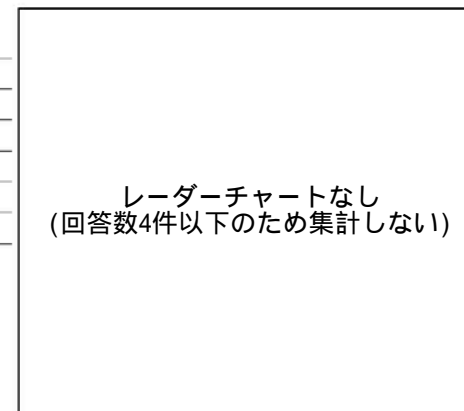


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、今後の助けとなるよう図書館での講習やレポート執筆の基礎力を高める表現演習を取り入れている。また、先学期の反省を踏まえて理解しやすい教材を改善し、毎回の課題で定着を試みた。ほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の1つである「レポートの構成を整える、出典を明らかにして引用する、客観的な表現でレポートを執筆する」ことに関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、最終課題のレポートでは、実質的な文章表現の運用やレポートの構成・内容に関して個人差が顕著に表れた。学生からの授業評価には、自由記述はなかったものの、平均値が全て4.5ポイント以上であり、授業内容に関しては概ね評価できると考えられる。定期試験を受けているにも関わらず、定期試験に対する手応えが良くなかったことが原因なのか、最終課題であるレポートの提出がなかった学生が2名いたため、学生全員がレポートを提出できるような授業、定期試験への改善を試みたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語III(表現技術A)2
授業コード	11L14-002
教員名	蒔田 雅子
教員コード	102042
登録人数	11
回答数	3
回答率	27.3%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

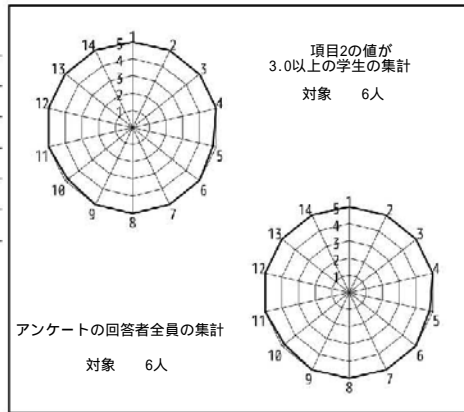


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は内容理解のための聴解力向上と発表の表現力向上の2点である。聴解力向上のために、授業ではタイトルと図表を手掛かりにどのような発表がされるのか予測を立て聞くべき点を意識すること、1度の聴解で分かったことを自分の言葉で表現することを求めた。次に同じ素材をもう一度聞き、内容をより理解すること、構成を意識することに加え、図表の説明や解釈・結論の提示など、発表時に必要となる表現を学んだ。開講当初は正確な聴解にこだわり、後半部分が理解できない学生がほとんどだったが、回を重ねるごとに聞き取りの範囲が広がっていった。発表の表現力向上のためには、構成を意識しながら表現を確認し、定着を図るために、毎回の課題として提出させた。学生の評価を見ると、5・授業目標を理解し、6・力がついた、13・新しい知識を得たという項目で高評価が得られており、学生にとって意味のある授業であったことがわかった。ただ、4・授業の構成や進行速度、11・学習意欲を引き出す適切な指導という点では不十分であったと反省する。発表の表現については正解が一つではないため、1つの正答を提示できなかったが、期待されることだったのでないか。今後の課題としたい。また、授業評価への回答人数が少なかったことについては、授業中に解答の時間を設けられなかったことが原因である可能性が高く、今後は授業内での回答時間を確保したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2
授業コード 11L15-002
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 14
回答数 6
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文での確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。多くの課題を課したが、まじめに取り組んで少しずつ力をつけた学生が多く、まとまりのあるレポートが書けるようになった。設問2への回答を見ると、学生も積極的に課題に取り組んでいたことがうかがえる。また、設問6、13、14への回答を見ると自身の日本語力の成長を実感していることがわかる。

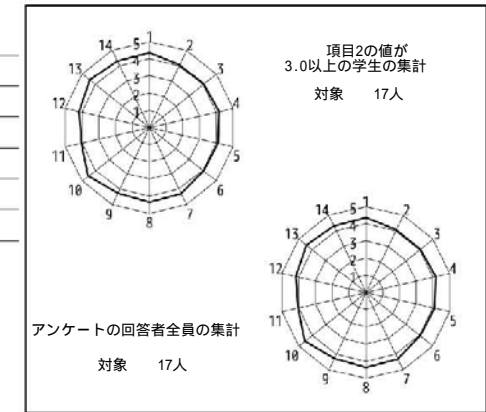
授業の進め方についても、学生の評価は高く（設問3、4、7、8、9、10、12、14）自由記述でも「教え方はとても良い」とのコメントが得られた。引き続き工夫を加えつつ役に立つ授業を心掛けたい。

わずかに数値が低いのは、設問5と設問10である。授業の目標については常に口にしていたつもりではあったが、十分に理解できていない学生もいたということなので、さらに丁寧に説明していきたい。また、授業中に検索や辞書機能の使用を許可しているスマートフォンの使い方についても指導を徹底していく必要があるだろう。

受講人数に対して今回のアンケートの回答数が少なかった。授業中に回答時間を設けたが、もう少し余裕を持って時間をとった方が良かったかもしれないと感じたので改善したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3
授業コード 10D01-003
教員名 長澤 壮平
教員コード 102718
登録人数 52
回答数 17
回答率 32.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回のコメントペーパーから理解度の水準が読み取れたなかで、開講当初に設定していた目標は、概ね達成されたように思われる。自由回答記述を見ても、好意的な評価が見られ、よかったと思う。ただし、理論的な部分が多いため、十分に理解がいきわたったとは言えないことが、数値データからも読み取ることが出来る。今後は、より多くの学生にも理解がいきわたるよう、内容の改善につとめたい。また設問11の、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」という部分の数値が低かったことが気になった。講義をていねいに構成することが、逆に一方的に伝えるだけの講義になっている面は否めない。今後は、主体性を引き出すという観点で、授業を構成する工夫も必要であるように思われた。総じていえることは、コメントペーパーも対するリプライの時間をもっと割いたり、質問の機会を増やしたりすることで、一方的になりがちな講義をよりインタラクティブなものにするよう心掛けたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5

授業コード 10D01-005

教員名 浅野 幸治

教員コード 100779

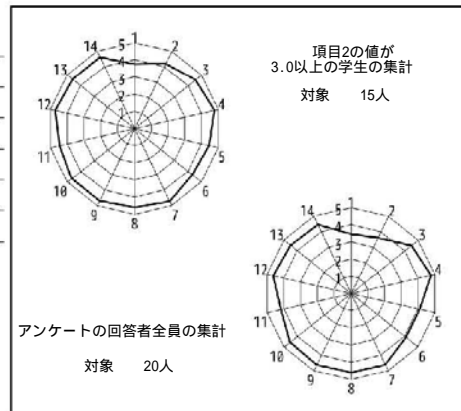
登録人数 37

回答数 20

回答率 54.1%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、なぜか学生からの評価が非常に良かった。その中では、授業の到達目標に関わる項目と、学生の学習意欲、積極的な授業参加、自主的な学習に関わる項目が低評価であった。授業の到達目標は抽象的で難しいけれども、難しいことに学生が悩みながら取り組み理解を深めていけるよう、繰り返し到達目標に注意を向けていきたい。学生の学習意欲や積極的な授業参加や自主的な学習を促せるよう、次回は、私のほうからより積極的な働きかけを行っていく。

資料は好評だったようである。私としては学生があまり資料を読んでいないという印象をもっているので、学生が資料を読みやすいように、次回から資料をWeb-Classからダウンロードするのではなくて、まとめて印刷し授業開始時に学生に配布する。

授業の最後のほう、障害者福祉の話が少しまとまりに欠けたと思うので、次回からは、もう少し時間を掛けて十分な話ができるようにしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳5

授業コード 10D06-005

教員名 三谷 竜彦

教員コード 102441

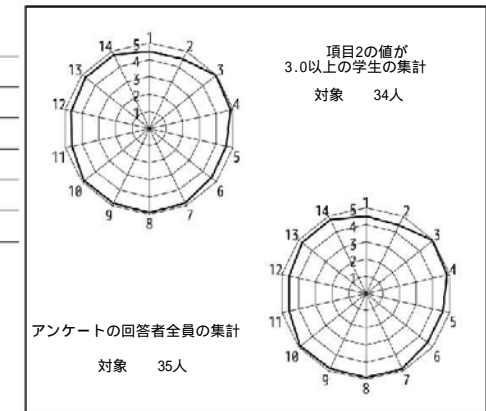
登録人数 74

回答数 35

回答率 47.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

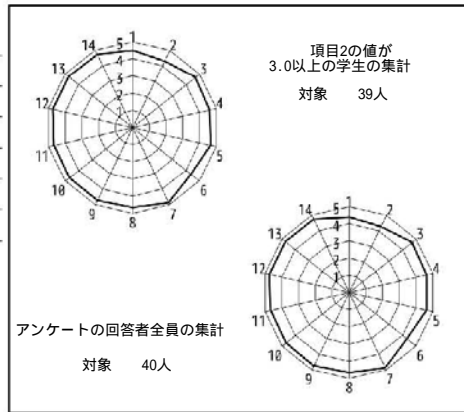


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生数は74名で、回答者数は35名（回答率47%）でした。設問3～14の平均値は4.76で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.50）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「...新しい知識...」）および設問14（「全体として...」）の数字は、4.74および4.77で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.52および4.44）を上回りました。これらのことから、開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって 今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には配布資料・プレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化や、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後もたえず取り組んでいきたいと思っています。私にとっての一番のネックは気象病による体調不良ですが、それも漢方薬などで極力コントロールして頑張っていきたいと思っています。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	美術A1
授業コード	12A05-001
教員名	井上 瞳
教員コード	104795
登録人数	67
回答数	40
回答率	59.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は理系や高校の日本史選択でなくても基本的な項目を押さえて日本美術を学ぶという内容であるため、それに沿った目標は十分達成している。日本美術に興味を持つことができた、分かりやすく理解することができたといったコメントが多く、画像を多用することで理解を助けることができたと感じている。

いずれもよい評価を得ることができた。

授業最初にコメントシートを配布するようにし、中休みの時間まで時間を割くことのないようにコメント用の時間を適切に設ける。授業の内容的には現在の方向性で微調整していきたい。前回指摘のあったスライドの切り替えが早くて板書の時間がないといった点を改善し、皆が書き終わっているかを確認しながら授業を進めることにより板書の時間を取ることができるようにした。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人文地理学2
授業コード	12B09-002
教員名	柴田 陽一
教員コード	104342
登録人数	15
回答数	1
回答率	6.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

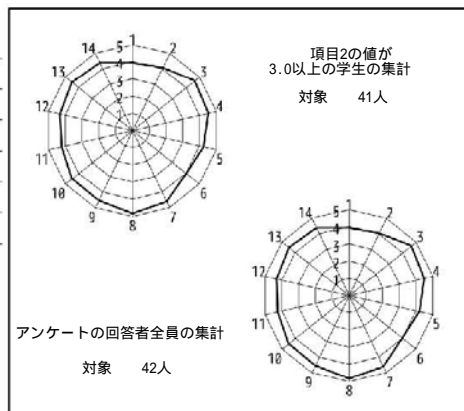
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

カリキュラム見直しのためか今年度で閉講する授業ということもあり、少数の履修者であることが予想されたため、発問や対話を通じてわかりやすく授業内容を伝えることが、当初設定していた目標であった。予想どおり実際の履修者数も10人未満と非常に少なかった。そのため、思っていたとおりの授業が展開できたと感じている。アンケート回答者は一人のみのものであり、その評価をどのように受け取って良いのかには迷いがあるが、その回答を見る限りは、授業が高く評価されたことが見て取れる。設問3：授業の開始と終了の時間は守られていましたか、に対する回答が評価4であった以外は、設問4～14の回答はすべて評価5であったからである。さらに、自由記述欄には、「これまで学んだことのない分野であったが、説明がわかりやすかった点」との記載があった。履修者はすべて卒業をひかえた4年生であったが、学生生活の最後に人文地理学という分野に触れる機会を提供できたことを嬉しく思うと共に、身近な現象を人文地理学の視点から考えてみることをコンセプトとした本授業の内容を今後の社会人生活の中で時折思い出してくれることがあれば、授業担当者としてこれに勝る喜びはない。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A2
授業コード 12D06-002
教員名 三野 義尚
教員コード 102236
登録人数 91
回答数 42
回答率 46.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

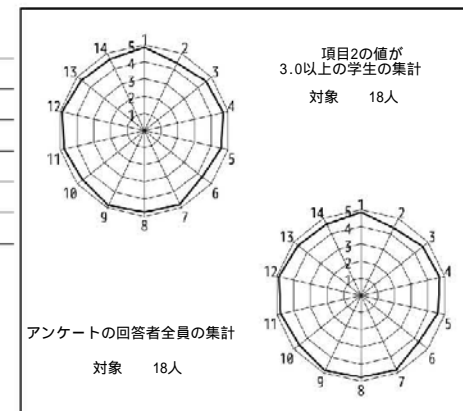


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計10回実施した。項目3-14の平均値は4.44であり、基盤科目平均（4.53）より低い評価だった。特に設問#5と#6のスコアが低かった。これらは到達目標の理解と実感に関する評価であり、目標設定が抽象的なのが原因だと思うので、次回は具体的な項目を設定することで対応する予定である。同時に、講義中に行った小テストはアウトプットの場合（＝理解を実感する場）としてあまり機能していない可能性があるため、形式を見直したい。一方で設問#15の回答には、小テストが知識の定着および理解度の確認に役立ったという意見もあった。それらも考慮して検討するつもりである。授業運営に関しては、映像資料と講義を組み合わせるスタイルが学生さんに好意的に受け入れられたようだ。また資料が穴埋め形式であることも好意的に捉えられていたので継続したい。またなるべく簡単な言葉で説明したつもりだが、専門的な話に100分間集中することは難しいというコメントもあったので、これについても改善していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1
授業コード 12E04-001
教員名 齋藤 菜月
教員コード 104282
登録人数 60
回答数 18
回答率 30.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

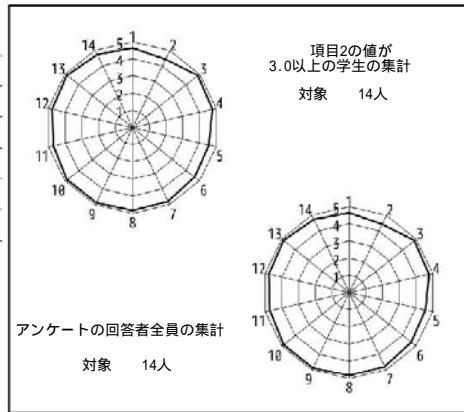
心理学に関係する様々な広い話題について、専門分野以外の人でも対象とした授業を行った。本講義では全てシラバスに則って授業を進められていた。学生からの質問や話題提供には毎コマフィードバックを返すことで知識の定着を図った。身近な問題について心理学の観点からとらえ直し、心理学的な考え方の基礎から応用まで幅広くお伝えした。

数値データをみると概ねすべてにおいて高得点の回答がされていた。このことから、授業内容について興味をもって、問題や不満を感じることなく参加してもらえただろうと推測できる。自由記述において、授業に関連する身近な内容を取り上げて興味を引いた点や、リアクションペーパーへのフィードバックがあることで授業内容について理解が深まる点を良い点として挙げている学生が多く、狙い通りの効果が得られていると考えられる。ただ、環境に関する改善点として「4限時に暗くなっても電気がつけられなかったのでスクリーンの画面が眩しかった」という意見があった。授業開始時に室温や明るさ等に気を配っているが、2コマ連続の授業であるため環境が変化する可能性はある。この点について改善する必要があるだろう。

次年度においても、リアクションペーパーを通じた双方向のやり取りを取り入れ、学生も主体的に参加できるような授業づくりを心掛ける。また、基礎的な内容から、話題性の強い最新の内容までを取り入れ、なるべく多くの学生に興味をもってもらうような授業づくりを維持する。適切な授業環境については、授業の最初だけでなく切り替えのタイミングでも気を配るとともに、学生から環境についての要望を言いやすいような雰囲気づくりを心掛ける。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2
授業コード 13A01-002
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 48
回答数 14
回答率 29.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



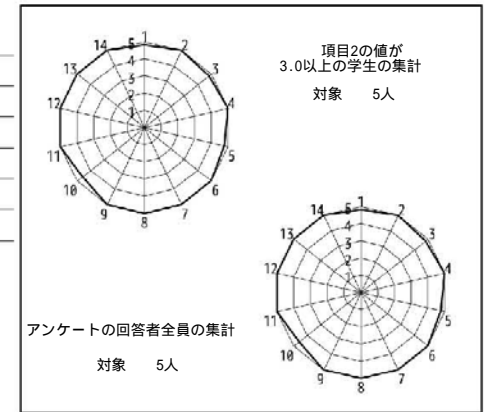
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。特に映画や音楽を毎回使用したことで「アイルランドの言い伝えや歴史的背景を題材にした映画をみたり、資料が多く講義に盛り込まれていて、理解しやすかったし、興味を失わず楽しく学ぶことができた」などのコメントが寄せられていた。また今回は中間課題についても「自ら学べるようないろいろな工夫があつてとても良かった」という感想があつたため、今後も続けていこうと思う。

今クォーターでも引き続き、授業の始めにWebClassで集めた前回の感想をまとめて口頭で紹介していたが、コメントに「最初の感想を読み上げる時間が長いと感じた」とあつたので、今後は紹介するコメントを厳選するなどして時間配分に注意したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって2
授業コード 13A04-002
教員名 山本 宗由
教員コード 104809
登録人数 19
回答数 5
回答率 26.3%
休講回数 4 回
補講回数 4 回



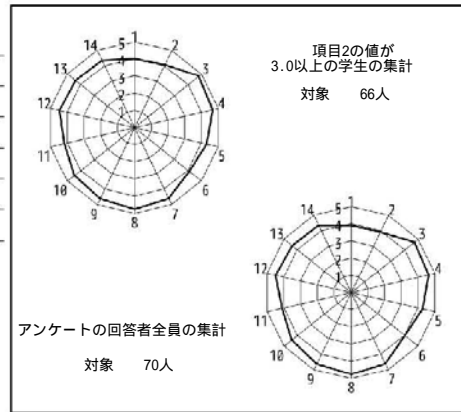
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、音楽、美術、演劇、ダンスなどの多様な芸術を通して、芸術との関わり方を学ぶことを目的としていた。芸術に興味を持ち、鑑賞する力を身につけ、芸術への理解を深めることを到達目標としており、学生からの自由記述によると、新しい楽器や作品について学び、知識を深めるきっかけになったことが示されている。また、この授業を通して普段接することが少ない芸術に触れる機会があり、授業に参加した他のメンバーともワークショップを通じて新しい触れることができたことと評価されている。さらに、多様な意見を否定しない授業の雰囲気から、自由でのびのびと学ぶことができたとの声もある。

以上の評価から、本授業は芸術に対する理解と鑑賞の力を養うとともに、学生の感性を豊かにすることに成功したといえる。今後も、学生の意見を取り入れつつ、なるべく参加型にすることで多様な芸術のあり方について実体験として経験できるように、授業内容の充実と改善に努めたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐる4
授業コード 13A04-004
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 122
回答数 70
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

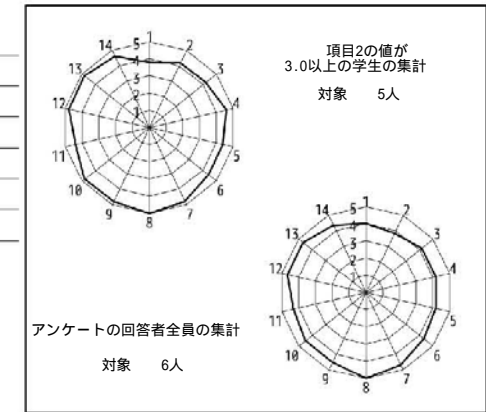


授業評価結果を踏まえた点検・評価

諸芸術の潮流や社会的背景を視野に入れながら西洋の芸術音楽の歴史を概観する授業である。CD、DVD、ピアノの使用による聴体験を通して感覚的に理解できた、多くの音楽に触れることができた、レジュメの情報量がちょうど良く見てやすかった、などの他、さまざまな音楽を社会的な面から知ることができて音楽に詳しくなくても理解できた、という自由記述もあり、音楽や芸術の変遷を社会との連動の中で把握するという授業の目的はおおむね達成されたのではないかと思う。進度がもう少し速いほうが良い、私語をもっと厳しく注意してほしい、ビデオをもっと増やしてほしい等の要望について、また、アンケートの設問の項目1～14、3～14の平均値が学際科目全体の平均値よりも下回っていることについては今後の課題として心に刻み改善を試みるが、今期とりわけ気になったのが、授業中に教室を出たり入ったりする学生が毎回数名いたということである。体調が理由なのかもしれないのであまり注意はしなかったが、自由記述にもその指摘があり、少なからず授業の妨げにはなっていたのは確かである。来期も同じような状況となった場合、どのように対処すべきか考えておきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境と物質
授業コード 13D03-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 19
回答数 6
回答率 31.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



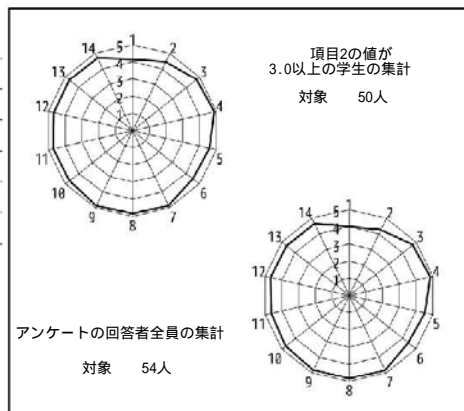
授業評価結果を踏まえた点検・評価

副題「生命の科学」として前半はDNA(遺伝子)の基礎と応用、後半はクローン動物誕生から再生医療への道を説いた。専門用語を避けるわけにはいかないので、動画や新聞記事などを参考教材として、新聞・ニュース・ネットで取り上げられる科学情報を学生が自分の言葉として理解し判断できるのを目標とした。項目3から14の平均は4.46なので、自分に課している基準の4を満たしている。項目ごとのアンケート結果は以下のようなものである。この授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まったか、全体として、この授業に満足したかに対してそれぞれ4.67と4.33。担当者の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真実さを感じることができたかについては4.67で、担当者の配慮や工夫は十分届いていたと考える。質問や相談の機会が十分に設けられていたかに対しては4.67であり、自由記述では「質問ができた」があったが、2コマ続きの授業形の休憩や授業後によく質問を受けた。細胞やからだの中で起こる目に見えない反応を理解しやすくするために動画を利用したが、自由記述ではプラスに評価するコメントを得ている。

担当者は、今年度をもって職を辞すので、今学期以降の抱負を述べることはできないが、南山大学においての経験を何らかの形でつなげたいと考える。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 視聴覚メディア論
 授業コード 15M09-001
 教員名 宮下 十有
 教員コード 103580
 登録人数 134
 回答数 54
 回答率 40.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

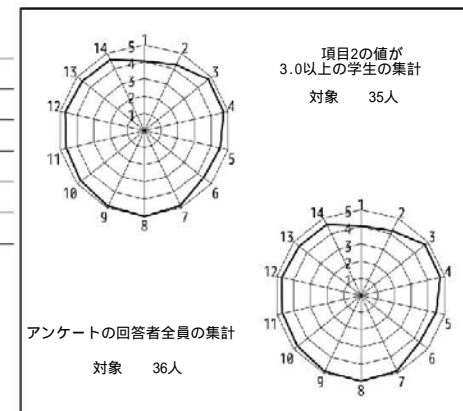


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
 本授業は博物館・美術館、学校教育における情報提供方法、メディア活用方法についての理解し、提案する力を身につけることを目的としている。
 授業の目標到達について平均4.44との評価になっていることから、多くの学生が目標到達できたと考えられる。
 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
 授業に満足度の平均が4.63となっていたことから、総合的に満足が得られる授業内容となっていたと考えられる。
 自由記述では、授業で利用した資料の内容や提示方法について、教員が工夫していたことを評価する文言が多く見られた。
 また内容から「授業の内容を踏まえて日常のメディアについて考えるきっかけになった」「視覚や聴覚に障がいを持った人々に配慮した取り組みについて知るきっかけが多くあった点が良かった。」「内容が面白い。他の授業では絶対に学べない視点だし、学問の内容として興味深い。」「年表や展示のプレゼンテーションなど、創造力が試されるような面白い内容が充実していた点です。」「豊富な実践と考える力の鍛錬。」と、授業内でのアクティビティや課題についてもポジティブな評価が得られた。
 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など今年度と同様、できる限り新しい情報の提供をしながら内容の充実させる様に進めていきたい

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館サービス論
 授業コード 15P04-001
 教員名 和気 尚美
 教員コード 104781
 登録人数 50
 回答数 36
 回答率 72.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

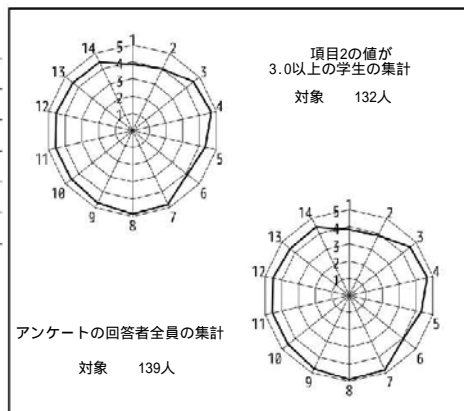


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「図書館サービス論」は扱う内容が多岐に渡るが、可能な限り新聞記事や論文等に触れ最新の動向や事例を提示しながら、受講生にとって関心を抱きやすいよう各回の授業内容を解説していくことを開講当初に目標として設定した。アンケート回答のうち、項目15「この授業の良かった点、評価できること」を見ると、「複数の参考文献、資料が授業中に提示されたこと」、「濃い内容をほとんど削ることなく学べ、諸々の実例も示されていた」、「補足資料がとても充実していたこと」が挙げられている。ここから、開講当初の目標は概ね達成できたと判断している。
 、
 回答全体を見渡すと、特に項目5の到達目標の理解および、項目6の到達目標の達成に関する項目で受講者の理解度や満足度が低いことがわかる。実際、担当教員から見ると、到達目標を達成している学生は多数確認できた。しかしながら、受講者自身の実感は異なっていることが今回のアンケート回答から判明した。振り返ると、初回授業時に到達目標を提示し説明したものの、その他の授業回では示していなかった。今後は各回において、到達目標を提示し、受講生が自身の「現在の位置」と「到達目標」との距離をその毎回確認できるよう改善していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論
授業コード 15P08-001
教員名 河野 明日香
教員コード 102729
登録人数 215
回答数 139
回答率 64.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

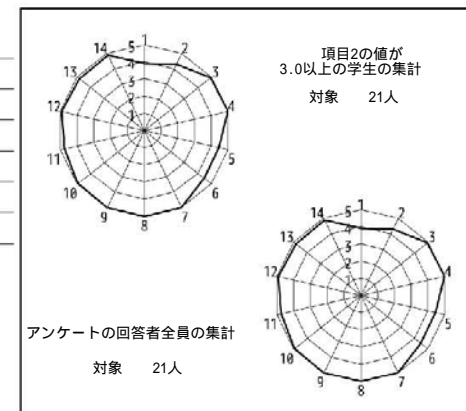


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の開講当初に設定していた目標については概ね達成できたと考えている。履修生の意見では、パワーポイントなどの授業資料を紙媒体で配布するとともに、オンラインでもアップロードしていた点、多くの視聴覚資料や関連のホームページを授業内で紹介していた点、授業のスピードについては概ねよい評価の意見があがっていた。一方、授業時間が長いと途中で休憩を入れてほしいという意見、出席確認についての意見、授業の延長についての意見、授業資料でのホームページ資料の掲載についての意見などが見られた。これらの点については、新年度の授業で改善、工夫を行っていききたい。今年度は、特に履修者の数が多く、教室の換気や席の数、教室の大きさについての意見が多く出された。履修生からの意見にもあったように、今後は履修者数に応じて、ある程度余裕を持った教室の設定が必要ではないかと思われる。新年度の授業においても、履修者の数を念頭におき、よりよい環境で授業を進めていけるよう、工夫を行っていききたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習II2
授業コード 15P11-002
教員名 小嶋 智美
教員コード 104494
登録人数 21
回答数 21
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、1を除く項目すべてが4.29以上の評価であった点、各回課題および最終課題（定期試験の代替）の回答内容からも、達成されたと考えている。また、項目1（授業内容に対する興味）が3.9であるにも関わらず、項目13（理解の深まり）や項目14（全体の満足度）が4.8以上と高いこと、教員の対応を示す項目では、項目7、項目8、項目9が5.0であったことから、学生の興味を引き出し、適切な授業運営を実施していたと考えることができる。項目16で「説明は非常に分かりやすかったが、他の司書授業で扱った内容も多く、簡単な単語の説明などは省かれていても良かった」というコメントが寄せられたが、貴学では司書課程の履修に順番を設けていない（概論を学ぶ前に演習が受けられるような仕組みである）こともあり、基礎的内容のフォローを省くことはできないと考える。

なお、自由記述の17でPORTAに関する要望として「教室表示が「図書館」としか書かれておらず大変困惑した」とのコメントがあった。PORTAの表示については教員ではコントロールできないため、大学側での検討をお願いしたい。当方の授業はこれまで毎年教室が変化し、昨年度は図書館が工事中であったことから、教員自身も図書館のどの場所で授業を行うのが不明な状況であった。来年度からは教員から授業開始前に受講者へ場所の通知を行うこととするが、できればPORTAの表示も改善いただけるとよいのではないかと考える。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(大陸哲学)
授業コード 22C67-001
教員名 星 揚一郎
教員コード 100986
登録人数 22
回答数 3
回答率 13.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

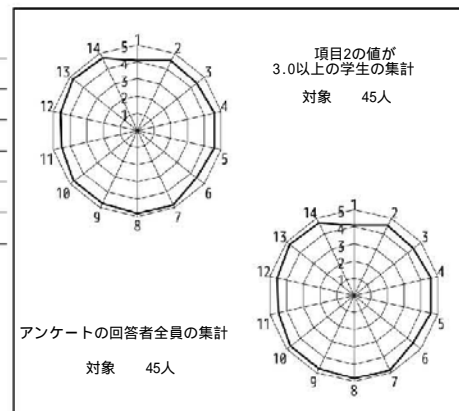
シラバスのとおり、クリッチリー『ヨーロッパ大陸の哲学』岩波書店(2004)を下敷きにして、フッサール、ハイデガー、ガダマーらの現象学・解釈学について、時事的な問題や周辺領域との関係をふまえて講義をしました。哲学が専門でない幅広い学生が受講しているからです。全学生に対して、5週にわたり、授業内課題をWebClassで提出し、その課題に対する回答や質問や意見に配慮しつつ、反応を見ながら授業を進めました。予想よりも多くの方に参加していただき、活気のある授業となりました。感謝申し上げます。

その結果、授業の核心を各自の関心に応じて自由に展開してもらった期末レポートでは、この授業にふさわしい力作が多く見られました。他方、わずかですが、かたちだけ条件に合わせたものも見られました。そうした、たんに単位をとりきている学生が厳しい評価をしているのかもしれませんが。そうした無気力な学生でも、せっかく取ってくれているのですから、関心を引くような授業をしたいと思っています。

引き続き、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ研究の基礎(歴史・社会)
授業コード 34A08-001
教員名 山口 宏
教員コード 101552
登録人数 59
回答数 45
回答率 76.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

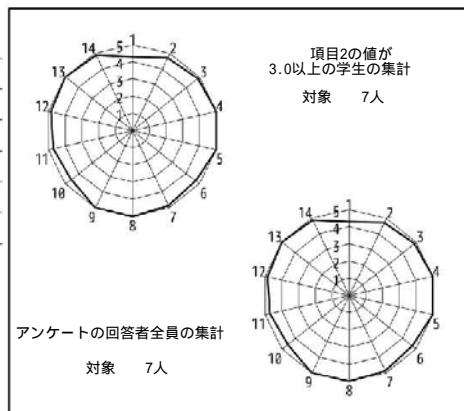


授業評価結果を踏まえた点検・評価

の目標到達については、ドイツの諸問題や社会・政治思想の諸概念を押さえるということ、力が付いている実感(問6)は特別高くないものの、新たな知識・理解の深まり(問13)は高めの値で、まずまず到達できたかと思う。授業内容を押さえているかについては、毎回のリアクションペーパーで確認もしていたが、ほとんどの学生はしっかりと書いてくれた。については、まずは全体的な満足度(問14)が比較的高い値となっていてよかった。教員の真剣さや声の聞き取りやすさは当然のこととして、授業開始前の興味(問1)の低さに対して、興味も理解も高めてもらえたと感じている。自由記述を見ても、「わかりやすかった」「面白かった」といった声はかなり多く、ありがたい。また授業は毎回、多種多様な短い映像を挟みつつ話を進めていったが、それもなるべく退屈させずメリハリをつけるのに良かったと思う。授業は詳細なリアクションペーパーを毎回課していたので、しっかり聞かざるをえないという面もあったと思うが。また改善点は「特になし」が多いが、進行スピードが速いや音量が大きいといった声もあるので、それも頭に入れておきたい。の次年度に向けてについては、基本このままのかたちをベースに、さらに練習して面白いものを作っていきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語IV<E・B>2
 授業コード 11G04-008
 教員名 白 明学
 教員コード 103287
 登録人数 32
 回答数 7
 回答率 21.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

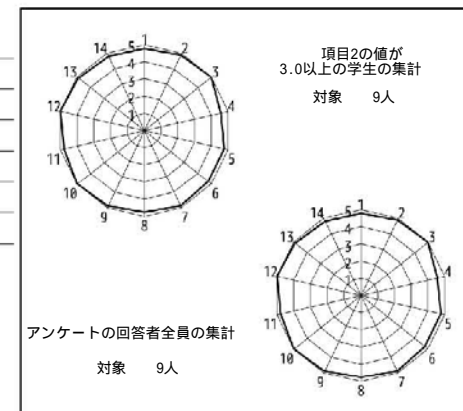
2023年度第4クォーターの授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時にQ4の目標値をきちり示し、設定したスケジュールに合わせ、初級会話に必須の名詞述語文、動詞文、形容詞文の作り方および助詞の使い方をマスターした。標本数は少なかったものの、授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.87で、学生の満足度も高いと言える。

Q4はQ3同様、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「例文が流れてきて時間内に読むのが自然な早さで読む練習になってよかった」「楽しく学べた」「授業雰囲気良かった」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。

ただし、一部の学生にとっては進度が少しはよかったようなので、そういった学生をケアできるツートラック・アプローチを工夫していかなければならない。来学期の課題である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化II
 授業コード 35C02-001
 教員名 金 由那
 教員コード 101171
 登録人数 45
 回答数 9
 回答率 20.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



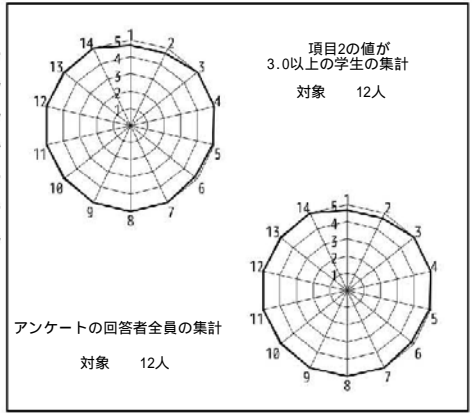
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけでなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「ペアワークを設けてくれるので会話の中で韓国語をどのように使えばいいのかが実際に考えながら実践できた」、「先生が生徒に寄り添って感じて解説してくださるのでとても分かりやすく理解できた」、「初心者状態で心配することもあったが、全体的にスピードも適切で授業プリントもわかりやすくてとても良かった」、「韓国語を学ぶだけでなく、映画などを見て、歴史を学ぶことが出来た点」などのコメントがあった。楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国語科指導法D
 授業コード 15B56-001
 教員名 上野 裕章
 教員コード 103859
 登録人数 21
 回答数 12
 回答率 57.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



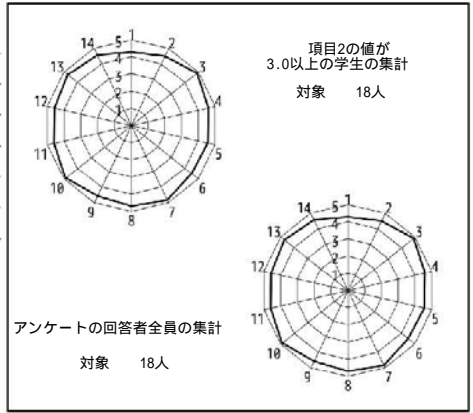
授業評価結果を踏まえた点検・評価

次の2点を目標にした。1 中学校国語科学習指導要領を理解し、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成することができる。2 模擬授業と相互評価を通して授業改善を行い、授業設計の向上に取り組むことができる。

1については、新学習指導要領に新たに加わった指導内容について取り上げ、教材を用いて授業展開について理解を深めさせた。2については、グループで授業計画を立て、模擬授業を実施させた。国語科指導法CDを通して、中学校課程の指導法について目標を達成できたと思う。学生の評価結果は、項目3から14の平均値が4.97であった。5でなかったことが悔やまれる。最も低い評価が6「この授業の到達目標について力がついてきているか」の4.83である。学生に「力がついてきている」という実感がなければ、教師の自己満足でしかすぎないと思う。毎時間の振り返りシートで個々の学生の思いを確認していきたい。自由記述を見ると、今回多く取り入れた「グループ活動による意見共有」が良かったという意見が複数あった。学生が「力がついてきている」と実感するためにも、教員の一方通行の授業だけではなく、学生が話し合い、発表し、考えを共有したり広げたりする場をこれからも設定していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語科指導法D
 授業コード 15B60-001
 教員名 浅野 享三
 教員コード 070912
 登録人数 22
 回答数 18
 回答率 81.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

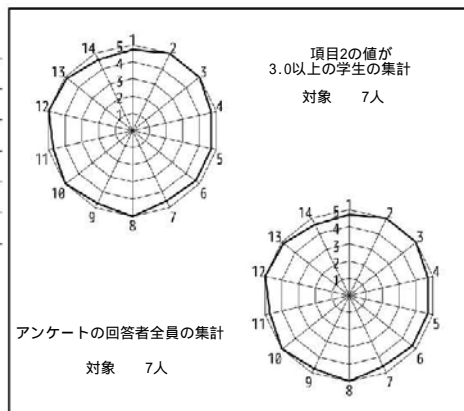
シラバスに設定した目標と到達度について。担当科目を前半(Q1Q2)と後半(Q3Q4)と見立てて授業計画を立てた。履修学生の多くはシラバス読み、前半と後半の授業計画の差を意識して履修ができたため、目標は十分に理解され、到達度も上がった解釈できた(それは数値データより自由記述、および授業時間の振り返りにおいて顕著だった)。

上記の と関連して、自己点検結果・評価は上々だった。数値として最低なのが、#1、#2、および#6で、いずれも履修者自身の課題と判断できる。10年ほど前から気づいていたが「資格のみ履修希望者」が過半数から88%に達し(授業内調査結果)、取り組みが「受け身」になり、意識が高まらない状況が継続している。卒業後即、教員希望のわずかな学生のことを配慮すると、授業のエネルギーが高まらず苦勞を強いられた。

今後も資格講座として存続する前提で提案するなら、2つ考慮して欲しい。その1つは、AからDのどの科目も自分のタイミングで好きな学年学期に履修する現方式を改めて欲しい。これは次の2つ目の提案と関連するが、このままでは科目のA-Dの関連性がなく効率が悪く無駄が多い。結果として資格のみ取得希望を助長しているとも考えられる。提案の2つ目は、教員採用志望者と資格のみ取得希望者とを分けて考え、前者にはより実践的な、後者にはより広範囲な知識を学ばせるような工夫があっても良さそうな気がする。学生の職業選択幅を狭めないような配慮を施しつつ、真に教員志望の学生にも対応できるはず。南山大の卒業生に注がれる世間の期待に背いてはならない。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商業科指導法B
授業コード	15B74-001
教員名	服部 文彦
教員コード	103205
登録人数	10
回答数	7
回答率	70.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度で、9年目になり始めて愛知県教員採用合格、三重県立教員採用合格の2名を輩出して、即戦力のある教科指導を目標に今年度目標が達成、多くの卒業生が卒業後三重県立教員採用合格、愛知県の私学教員常勤講師、専任講師になれるように指導して専任になっている。今後のも高校現場の経験をいかして指導していく。

教科指導に関しては、簿記、ビジネス基礎、情報処理の新規採用の基礎科目の指導や、教員採用の2次試験の模擬授業に対応した授業展開をしている。学生の主体的な点を重点に置いた学生に思考判断できるように学生主体の授業展開をモットにしている。

学生に夢に受験を目標にした卒業後の採用試験のアドバイスや私学教員の試験勉強法のアドバイスや私学教員の専任講師の推薦や試験対策についても指導をしている。さらにガイダンスカウンセラー資格をいかした高校現場の生徒のメンタルヘルスについても指導している。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学科指導法B
授業コード	15B81-001
教員名	飯島 康之
教員コード	104632
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は受講者が少なく、また学生の力量(数学的知識、教育的知識と経験そして授業を实践する上での実践的な力量)にかなりばらつきがあったため、それぞれの学生の様子を把握し、個別最適な対応を工夫しながら対処することが必要だった。

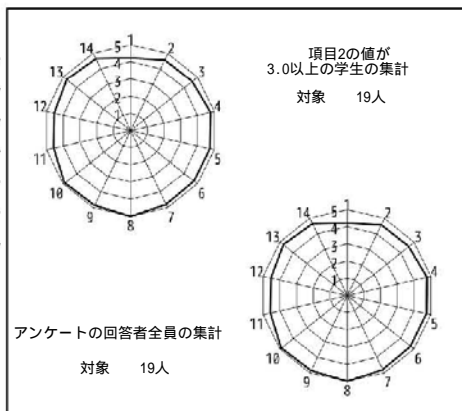
自由記述はなかったが、数値データからは学生はおおむね満足しているとともに、彼らに適切な指導が行えたことを実感することができる。

そのような意味では、当初設定していた目標をほぼ達成することができたと判断できる。

次クォーター等に向けては、基本的には今回のノウハウをふまえて、配布する資料の適切性(特に、中学校・高校教科書やその指導資料等の扱い)や、それらをふまえた学修のあり方、また、模擬授業のノウハウの向上などをめざしたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]
]2
授業コード 11A04-021
教員名 岩城 奈巳
教員コード 049601
登録人数 23
回答数 19
回答率 82.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

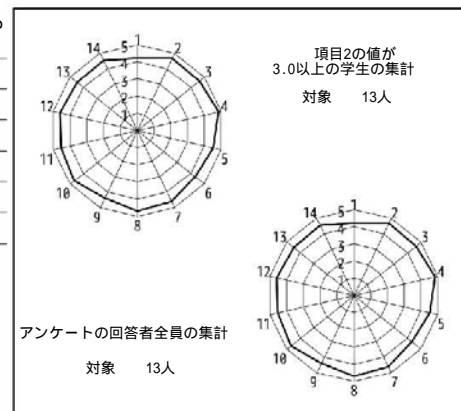


授業評価結果を踏まえた点検・評価

オーラルコミュニケーションP[2]の目標は概ね達成できたと考える。本講義は2-3名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。また「全員が積極的に参加する」ことを開始から常に意識させて学生に伝えていくことで学生の意識も高めていくことができた。授業は毎回教科書のテーマ紹介と授業内での目標、授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した。それらが功を奏し、アンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。自由記述欄では、1) 洋楽のリスニングを通して、英語の発音のみならず、英語圏の文化にも理解が深まった、2) 実用的な英語を教えてくれる点、3) 重要な単語は意味や語源の解説があり、自分のボキャブラリーを増やすことができた、4) 先生の解説がわかりやすく丁寧、5) 先生が実際にアメリカで使われている表現を積極的に教えてくれたこと。とても今後役立つ内容だと感じた、(原文ママ)などのコメントがあった。サブ教材として取り入れたTOEICについてもコメントが多く、TOEICの模擬問題を通して、自分の現在のレベルを知ることが出来た、なども多くコメントがあった。今後就職活動等で必要になった際に参照してもらえると嬉しい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]
]4
授業コード 11A04-023
教員名 HERSCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Student responses suggest high satisfaction with the class, learned skills, and content. One student wrote s/he "was able to think about myself a lot because of the content, which I have never thought about even in Japanese." Students also remarked positively on skills learned.

All-in-all a successful class, I am encouraged to continue providing interesting, retrospective content, as well as laying out useful skill-building tasks for students to profit from.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[P]6
授業コード	11A08-025
教員名	BONDOC, Jeffrey
教員コード	103469
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	1回
補講回数	1回

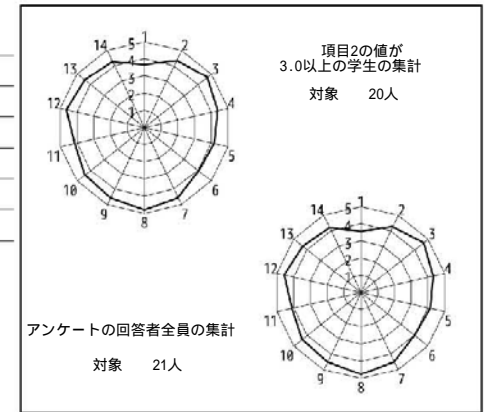
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals of the term was largely achieved. Students enjoyed the lesson and found it engaging. I tried to make each lesson interactive with students having more agency in their class performance. The writing section was challenging for both the students and myself. The topic chosen was challenging. The main theme were business reports with each week focusing on a particular aspect of their chosen business. It was difficult for the students as it was the first time students studied a business in great detail. With the reading section. The students were getting a bit jaded with the routine. I tried to vary the activities related to the textbook. Students found it manageable and still tried their best in each lesson. In the future I will need to vary the activities starting from Quarter 3 so the reading classes do not feel so much as a routine. This would help the students be engaged and invested throughout the term.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[P]11
授業コード	11A08-030
教員名	平出 優子
教員コード	102521
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0回
補講回数	0回

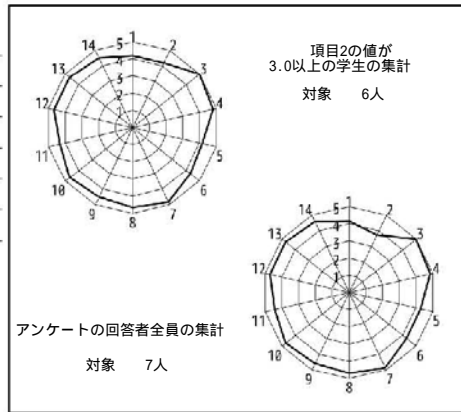


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4におけるWritingの目標は、Opinion paragraphにおいて250語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになることであった。その際、自分の意見の根拠となる客観的理由を複数述べることに数値データを含むことを条件とした。また、文末にはAPA Styleによる参考文献のリストの記載も求めた。Q4におけるReadingは、様々な分野の英文を読んでSummaryとListを作成すること、Listをパワーポイントで作成し発表をすることを目標とした。WritingもReadingにおいても、データ数値から目標に十分到達したと考えられる学生が多かったが、最後まで授業内容を理解できなかった学生も数名存在したと振り返る。その原因は、トピックが客観的であり自分たちの興味を持ってない内容であったことが一因と推察する。来年度に向けては、特にWritingのトピックをより吟味し、難易度高い部分をさらに繰り返し練習出来るよう授業構成を見直すつもりである。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]12
授業コード 11A08-031
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 20
回答数 7
回答率 35.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

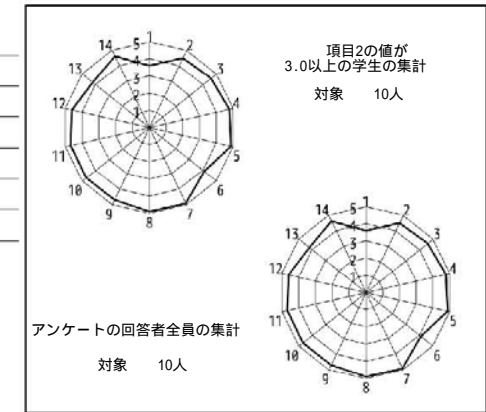


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は概ね達成されたと思うが、設問5-6の到達目標に関する質問への学生の回答から、到達目標自体の理解が一定ではなかったことが垣間見える。Writingでは秋学期にessay writingに移ってから、春学期に履修済のparagraph writingと構成面で混同する学生が想定外に多かった。特にTopic sentence (thesis statement)の位置について、essay writingではIntroductionの最後或いは最後から2番目に書くとは何度も繰り返し説明しても、1st paragraphの最初に書く学生が最後の課題に至るまで若干名いた。また書き起こしの技法として比較的容易に活用できそうな3-4種類を説明し、これら書き起こし方のことを読み手の関心を引きつけるものという意味で、an attention getterという、できるだけわかりやすく説明したつもりだった。しかし、いきなりthesis statementから書き始めた学生に対して、コメント欄に「An attention getterから書き始めること」と書いてそれで理解した学生もいた一方、最後までan attention getterを理解していない学生もいて、説明することの難しさを痛感した。説明力不足かとも悩んだが、「説明が素晴らしく分かりやすく...」等のコメントに救われた気がしている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]1
授業コード 11A08-032
教員名 MEJIA, Justin
教員コード 104498
登録人数 15
回答数 10
回答率 66.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

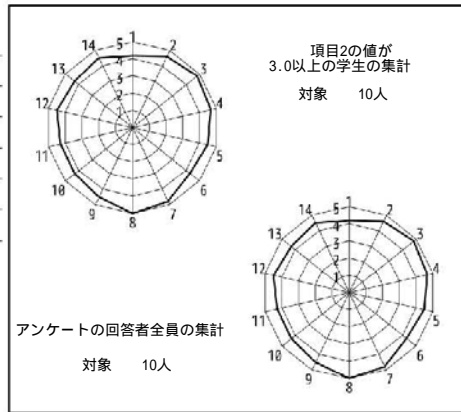


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was my first time teaching an advanced course, so it was a little difficult to adjust my normal pace and expectations at first. Because of this, I think the goals set out at the beginning were a bit too low. This was reflected in one of the students comments about the course not having much meaning for students of their level. Still, by Q4, I felt that I adjusted the course goals to focus more on the research and pre-writing aspects of essays, which I believe will be helpful for the students in the future, regardless of their language abilities. Another thing a student mentioned was switching to paper-based vocabulary quizzes. Although I trust my students not to use their smartphones to cheat, going forward that may not be enough and quizzes and such may need to be altered.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]3
授業コード 11A08-034
教員名 木下 薫
教員コード 104328
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

- (1) アカデミックエッセイの形式と構成 ほとんどの学生が達成できた
- (2) アカデミックエッセイ（意見文）を書く 達成できた
- (3) ナラティブエッセイを書く 達成できた
- (4) APAスタイルによる引用 一年生としては十分なレベルまで達成できた
- (5) 多読と精読の課題 精読は達成できたが、多読の取り組みはQ3にとどまった
- (6) コンテキストに合う語彙の習得 達成できた
- (7) 詳細の精査、推測、批判的分析 達成できた
- (8) 600語以上のエッセイを書く 達成できた

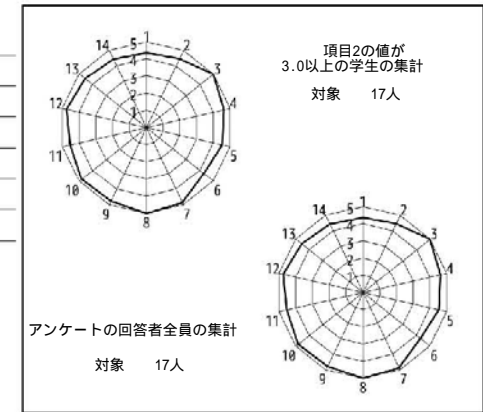
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業の構成や進行速度、教員の授業に取り組む姿勢など、全体としては満足してもらえたと思う（4.7-4.8）。授業の内容への興味や理解、学習意欲に関する項目が相対的に低かった（4.2-4.3）のは、工夫の余地があったと思う。このクラスでは私語や遅刻が散見されたが、教員の対応が十分ではなかった感じた学生がいた（4.3）ので、今後の課題であると思った。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も、実践的な内容をペアやグループで取り組む方式の授業を継続する。個々の学生の学習ニーズに配慮して柔軟な授業をすることが今後の目標である。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]8
授業コード 11A08-039
教員名 水野 真紀
教員コード 101981
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

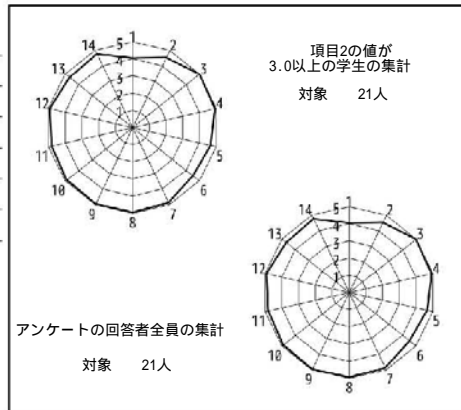
目標は概ね達成できた。1年の集大成である論述文執筆に向けリーディングは英語文献リサーチを、ライティングはAPAスタイルを計画的に指導した。文献の内容、語彙、表現をもとにプロセスライティングを経て一通り書けるようになった。教員とクラスメートのフィードバックにより読み手を意識するようになった。

数値から当初は履修内容に興味を持てなかったが、主体的に参加・努力したことが伺える。目標到達に向けて力がついた、の数値が低いのは論述文が一因している。学術的エッセイへの移行に伴い、形式、語彙、表現など学習することが膨大にあった。英語文献を探し、内容を理解・分析し、自分の意見を書くことは困難であったと思う。しかし新しい知識（あるいは、技術や能力）を得て、理解が深まったとの数値は高い。添削や解説により誤りや改善点が明確になり、アドバイスや質問によって問題解決ができたとの自由記述も多数ある。半面、教科書の読解にあてる時間が減り、要約が短いとの指摘に表れた。課題の多さについては共通シラバスがある抱き合わせ授業なので止むを得ない。

週2でリーディングとライティングを実施する負担は大きい。特に添削は時間と労力がかかり、個別対応できる利点もあるが、肝心のフィードバックがライティング力向上に繋がらなければ意味がない。授業内でできる方法を模索したい。またライティングに偏りすぎずにリーディングも充実させることを留意したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]12
授業コード 11A12-012
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

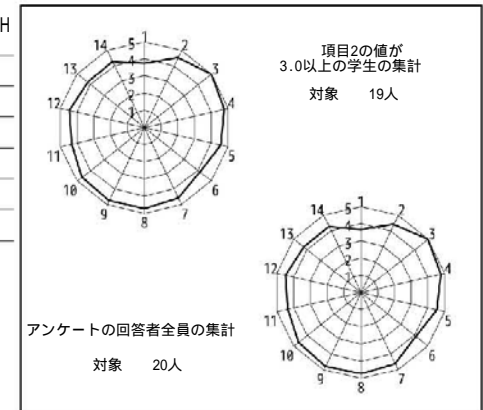
I have set a couple of goals for the course in Q4. Some of the goals for reading skills are summarizing, making inferences, etc. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. For speaking and listening, they were introduced to various conversation strategies. They seemed to understand the notion of it and tried to use it.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed discussing the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for 2024. Since they seemed to get the idea of different kinds of conversation strategies, I would like to have more practice time for them. Same for the listening, they will need more chances to listen to English conversation and monologues.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]14
授業コード 11A12-014
教員名 GOODMACHER, Greg
教員コード 104785
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

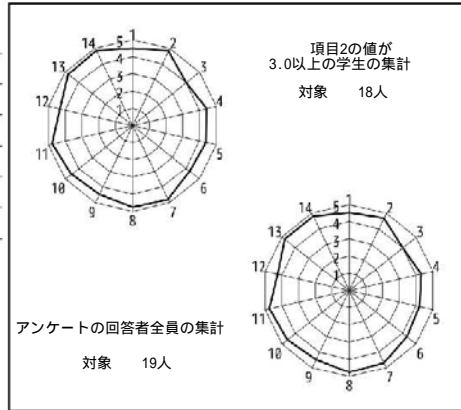


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was very happy with the evaluations. According to the answers, the students liked my class, felt they were improving and gained confidence. Actually, the result was better than I expected because there were a few times when I acted strictly with a couple of students, and I thought they might have been angered. Unfortunately, due to the timing of the classes, the difficulty in getting to Nanzan from my home, and the fact that some other colleges pay a little more, I will not be continuing as a Nanzan teacher next school year. I am thankful to all of the excellent office staff who helped me so much this past year. You have my best wishes.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[J]
11
授業コード 11A12-037
教員名 LENIHAN John
教員コード 045070
登録人数 25
回答数 19
回答率 76.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, the usage and origins and history of idioms, develop effective reading strategies, explore both intensive and extensive reading and to develop advanced vocabulary through the serious study of Greek and Latin prefixes, suffixes and roots.

I believe that the students that showed a high level of motivation and participated actively would agree that the goals of this class were met to a very high degree. This is the top level class with a wide range of abilities and motivation. Most were engaged in the class activities.

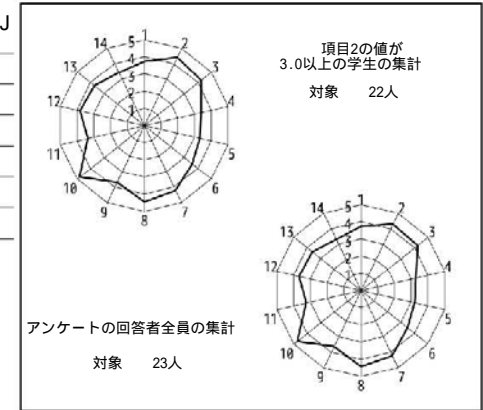
The oral communication portion of this class was centered around various short plays and original writings by these students. These plays and original writings proved once again to be very popular and quite entertaining, while at the same time holding sure educational value.

The extensive reading materials from the school library were chosen by the instructor, with a 2 page list of approved classic novels for the students to enjoy reading and become a bit familiar with the great books of literature in the English language, as well as some known worldwide in translation, for example, Jules Verne, Alexandre Dumas and Leo Tolstoy.

Overall, this class was very pleasant to teach, very challenging and very worthwhile.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[J]
12
授業コード 11A12-038
教員名 SKEATES, Colin
教員コード 104779
登録人数 26
回答数 23
回答率 88.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved.

The goals were pretty simple.

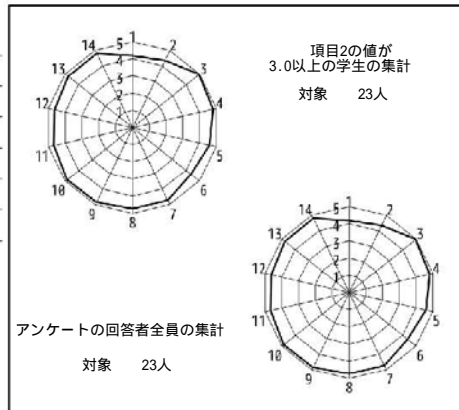
- a. Get students to speak.
- b. Get students to read a lot.
- c. Get students to make performances in English, such as do presentations and make speeches.

(2) An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc. Given that this was my first year teaching at Nanzan, my expectations were fairly low. I tried to scale back the amount of work I asked students to do but it would seem I was expecting too much. Strangely, the reactions in class were fairly positive, so I am somewhat surprised that the evaluations were not higher. For those students that found the class too difficult / not relevant to your field of study (Law), the course content is very much similar to discourse found in law.

(3) Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take. Next year, I will do a better job of showing the connections of what is done in class and how it relates to law..Hopefully, this will mean that a better result in how the course is rated.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]
]4
授業コード 11A12-040
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 26
回答数 23
回答率 88.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

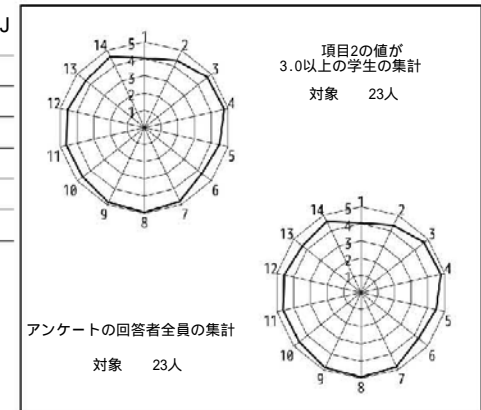
We continued in much the same way as we did in the spring. I encouraged them (very gently), to read outside class. I would have liked the students to use the reading program more, but I am glad that almost all students met the minimum requirements.

The students were easy to work with. I am glad that the scores are high, and the comments are positive. There was one minor criticism (or maybe it was not a criticism, but simply a desire) which was unclear to me, and I would have liked to have had the opportunity to ask the student what was meant.

In the coming school year, I will be looking for ways to increase reading outside the classroom.

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]
]5
授業コード 11A12-041
教員名 佐藤 ゆかり
教員コード 047605
登録人数 25
回答数 23
回答率 92.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

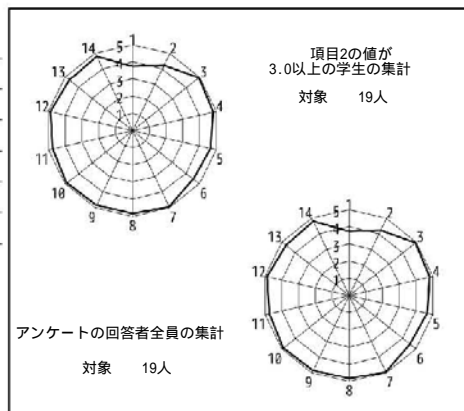


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、参加者が英語を恐れることなくたくさん話す機会を持つこと、そのなかで、学習した表現を理解し、使用して定着させていけること。さらには、これらの学習過程を経て、英語学習の今後の取り組み方法をそれぞれが見つけ、好きで続けていける動機付けをねらった。1年間やってみて、明るい雰囲気、全員が英語を話しながら何らかの課題に取り組むことが出来ていたと思う。授業開講前の授業に対する学習意欲が低いのに驚いた。そして同じくらいの数字で、授業を経た上で、この授業に興味を持てたという項目が他のものに比べて低かった。もともと英語が好きだった学生のみならず、そうでない学生の意欲向上を狙っただけに残念だ。しかしながら、個別コメントを見ても、大半の学生は、授業内で仲間と話す活動を楽しみ、学習効果を実感出来ているようでよかった。来年度はテキストを変更し、より興味を引きつけられる目先の変わった授業をしたい

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションズスキルズ[J11]
授業コード	11A12-047
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	26
回答数	19
回答率	73.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



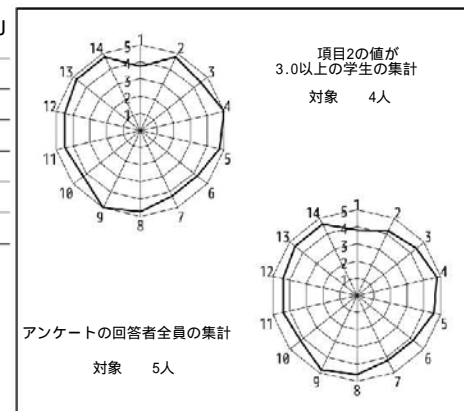
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノログなど様々な教材を聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とした。金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。MReaderを利用して多読学習を進め、期限までに35,000単語を読み終えることを目標とした。週2回の効果的な授業を目指して毎回課題内容を明示し、ペア及びグループワーク学習を教室の換気や学習者間の距離など感染対策に十分留意しつつ進めた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設定問3から14の平均数値データが4.68、学生の授業に対する全体的な満足度については4.80であった。授業の良かった点、評価できる点として、「先生がとても接しやすく授業内容が理解しやすかった」点、「丁寧な解説」や「話し合いなどを通じて主体的に進行できるようにしていたこと」などが自由記述にあった。学習者中心の授業を心掛けた点が評価されたと考える。MReaderを利用した多読学習によって「本を読む習慣が身についた」という意見がある一方、「MReaderというシステムそのものに懐疑的」とする意見や「難しい単語が多い」と改善点を指摘する声もあった。授業時間外の自主学習内容について、その目標と意義を明確にし、学生の積極的な課題取り組みを促すべく工夫していきたい。

2023年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションズスキルズ[J12]
授業コード	11A12-048
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	22
回答数	5
回答率	22.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

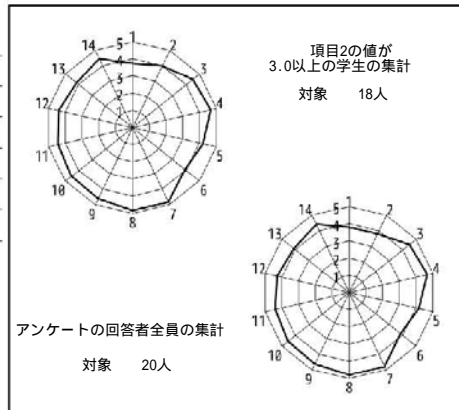
I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out, and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

Nothing in particular. The students are largely co-operative and the class runs smoothly.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[T
]2
授業コード 11A12-050
教員名 NICKSICK, Thomas
教員コード 102113
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

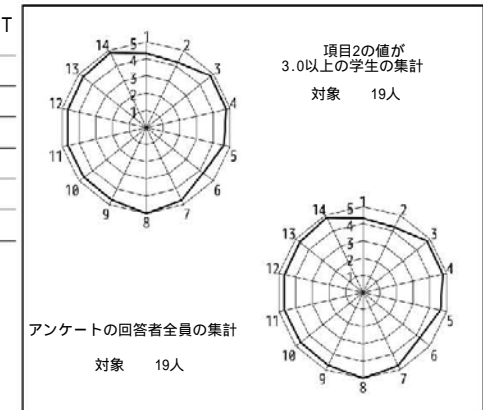
The purpose of the course is to help students become more confident and proficient English communicators. Some of the course goals include using vocabulary for contemporary topics and asking questions for clarification.

The instructor was relatively successful in some areas. Regarding the classes being structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.70. Regarding the instructor's sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.80. Regarding the instructor taking into account the students' degree of understanding, the rating was 4.60.

However, regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 3.85. Regarding the instructor motivating students to want to learn, the rating was 4.40. Regarding the students acquiring new knowledge, the rating was 4.10. To help students make solid progress, the instructor should do better at motivating students to improve their skills. To increase students' motivation to learn, the instructor should develop more interesting lesson plans. To improve course satisfaction, the instructor should improve his communication skills with students.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[T
]7
授業コード 11A12-055
教員名 LANDSBERRY, Lauren
教員コード 103626
登録人数 23
回答数 19
回答率 82.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think the students and I all enjoyed studying together in Q3 and Q4. I think the goals of the course have been met and the students have improved since the start of the academic year. As well as working through the textbook together I continued to use several online apps for both in and out of the classroom. We used Quizlet and Kahoot for studying in the classroom and Flip (previously Flipgrid) and Padlet for assessments. They also enjoyed giving both solo and group presentations to each other. Reflecting on the comments, I am glad to see that the students enjoyed the class and the atmosphere as well as having a break from their regular studies. Some of the students wished to change seats. I told them that as it is university, they are free to sit wherever they wish each class, but they asked me to decide. I reminded them at the beginning of Q3 and Q4 that they could sit wherever they wanted however no students moved and they remained in the same seats for the entire year!

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションズスキルズ[T11]
授業コード	11A12-059
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

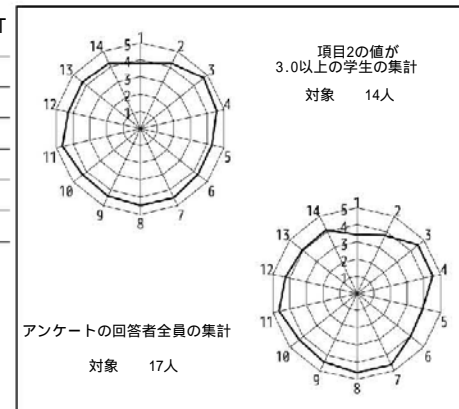
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Even though enough students didn't complete the questionnaire, they did provide feedback in their end-of-semester reports. I need to tighten up and improve in certain areas in the new academic year. The students said they would like more speaking practice and to do more short writing exercises. In the future, I will give students greater autonomy to choose subjects for discussion. The students enjoyed the presentations but found making PowerPoint difficult and requested more practice time. The balance between the four skills was about right, but I will add extra speaking to the syllabus in future classes. I will endeavor to learn more about the students and try to alleviate any problems they may have.

There was an overreliance on computers for writing tasks, the students needed some time planning on paper which in turn will make the class more communicative.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションズスキルズ[T12]
授業コード	11A12-066
教員名	橋爪 真理
教員コード	104272
登録人数	23
回答数	17
回答率	73.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは全体的に英語そのものに苦手意識を持ち、英語学習、さらに対人関係に対して困難を感じている学生が多いと思われたため、英語学習が楽しく感じ全員が理解し、発話の機会を多くするよう工夫し、対人関係構築のためグループ学習を中心とした授業を展開していった。結果として、楽しく交流できたという振り返りがだったので、今後もさらに工夫していこうと考えている。

授業形態としては発話のための知識を付け、音声面での指導を進めたので、授業資料、授業形態を工夫してきたことはある程度効果があったようである。

目標としては“英文を読み、理解し、英語で自分自身を表現する。また他者とのコミュニケーション力を伸ばす”と設定し、適宜小目標を設定し授業展開を行った。Q3においては、読む領域ではWPM120以上を目指し、基本的な読書の技巧に基づき英文に親しみより早く深く読む能力を伸ばせるように授業展開を行った。話す領域では、あいさつ、好き嫌いを表現できる能力を身に着けることとした。Q4では、WPM130以上、表現力を強化し、様々な項目について意見を言う、また発音、他者との会話、プレゼンの機会を設け自分自身を表現するとした。数値目標に達せられる生徒は少なかったようだが、個人の将来目標にできたのはよかった。苦手感を克服し当初の目標の英文を読む技術と話す技術について実践を重視してすすめていく。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ<再[S・T]>
授業コード	11A12-068
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	22
回答数	3
回答率	13.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は再履修生のために設けられたもののため、学期毎に履修者の顔ぶれが変わり、また中には何年も連続で履修する生徒もいるため、通常の授業とは大きく様子が異なります。

最終授業日にグループに分けて行った会話テストの後、それぞれのグループに対し余った時間で授業評価に取り組んでもらうよう依頼しましたが、実行したのは12人中3人で、集計データなどありません。そこで個々の回答を確認したところ全設問の評価数値の平均は4.5でしたが、3人中2人は全ての設問で5を選んでおり、この結果を鵜呑みにして良いかわかりません。記述回答ではリスニングに重きを置いた授業であることをポジティブに捉えたコメントが複数ありました。改善点を指摘する唯一のコメントからは、こちらの指示とその意図を正確に理解していないことが窺われ、より丁寧な説明の必要性を感じました。

今学期は1~3学期に比べ欠席者が多い点と期末レポート未提出者が多い点が目立ちました。前者は体調不良を起こす生徒が多い季節であることも一因と思われ、後者は欠席によって重要な説明を聞き逃したことで期日までのレポート完成に支障が出た生徒がいたことも考えられますが、この2点の改善を来年度以降の大きな課題と捉えていますので、様々な手段を用いて取り組んでいきたいと思えます。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ<再>2
授業コード	11A12-069
教員名	BLOWER, Luke
教員コード	104287
登録人数	23
回答数	4
回答率	17.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Despite allotting class time to complete the survey, there were only four response. However, the students who did respond were generally very positive, which is encouraging.

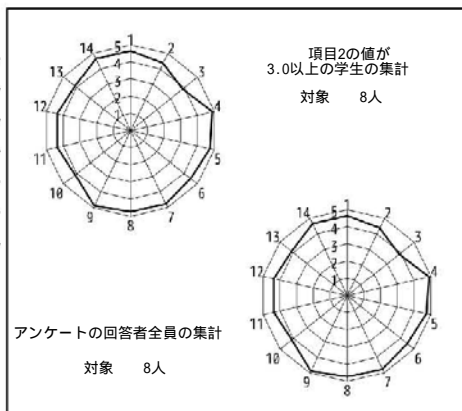
In will start with some points that I am happy about concerning this course. The main challenges in this repeater class are that students are from various faculties, so 'chemistry' can be a problem with regards to having them do group or pair work. By mixing solo, group, pair and whole-class activities, I was able to overcome. The other challenge is that student attendance may be irregular and the makeup of the class changes from quarter to quarter. By using a backup system on webclass, I was able to give students a chance to complete any work they have missed.

The book report method for the extensive reading where students shared their reports in class worked very well and they seemed very motivated by that.

The one major adjustment I want to make is to move from having two textbooks to one. Rather than having the Monday communication book, I will only use the Thursday book for the intensive reading. I can then use the activities in the Thursday reading book as the basis for the Monday class too. This way, students who only take one quarter will only need to purchase one book and the Monday and Thursday class content will tie in better.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<全>2
 授業コード 11A14-018
 教員名 FOX, Aaron
 教員コード 103869
 登録人数 24
 回答数 8
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students were highly motivated and enthusiastic about improving their language skills, which made teaching a joy. They participated actively in class discussions and activities, which created a dynamic and engaging learning environment.

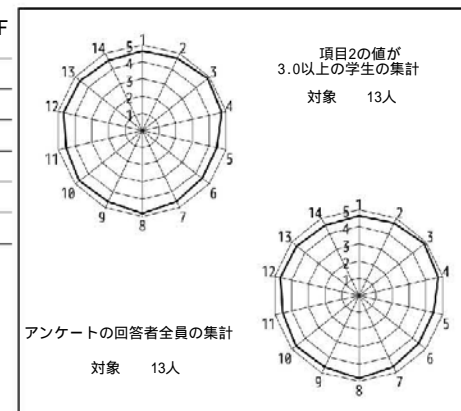
The progress the students made was impressive. Throughout the course, they developed greater fluency and accuracy, and their ability to express themselves improved markedly. Seeing their progress was a rewarding experience, and I was proud to have been their teacher.

One of the most rewarding aspects of the class was watching the students bond with each other and form friendships. They supported and encouraged one another, which helped to create a sense of community and made the class feel like a welcoming and safe space.

In conclusion, I am grateful for the opportunity to have been their teacher. Watching my students develop their language skills and grow in confidence was a privilege. I have no doubt that they will continue to succeed in their English language journeys, and I wish them all the best in their future endeavors.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]10
 授業コード 11A14-031
 教員名 加藤 普由子
 教員コード 101654
 登録人数 19
 回答数 13
 回答率 68.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

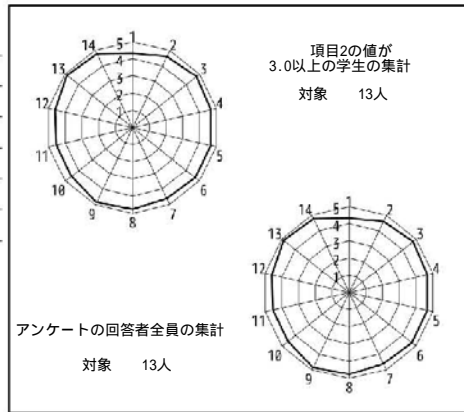


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数19名のうち回答者数は13名であり、7割弱の評価である。項目1—14の平均が4.64、項目3—14の平均も4.64であり、深刻な問題はなかったと理解する。一般的にコミュニケーションスキルズという科目名から予想される内容は、平たくいうと英会話であろうか。学生のコメントの中に「教員の説明に日本語が多い。学生の日本語での私語が目立つ。英語で活発なコミュニケーションを取りたい」との改善点の指摘があり、次年度の参考にしたい。一方で、トピックを与え、学生が持つ情報量にのみ依存し、その場でコミュニケーションを図るのは易しくない。リーディングとアウトプット準備にもかなりの時間を配分した。テキストには語彙や文法に関する問題もあり、特に形態や統語に関する説明には素早い理解度を考慮して日本語を利用している。本授業の学生は外国語学部に所属していることから、それなりの説明が必要と考えるからでもある。コミュニケーションに必要な総合力が養成するように授業を組み立てている。自由記述から、こちらの意図が伝わったと感じている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ <全>6
 授業コード 11A14-033
 教員名 IWASKOW, Roman
 教員コード 104145
 登録人数 24
 回答数 13
 回答率 54.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

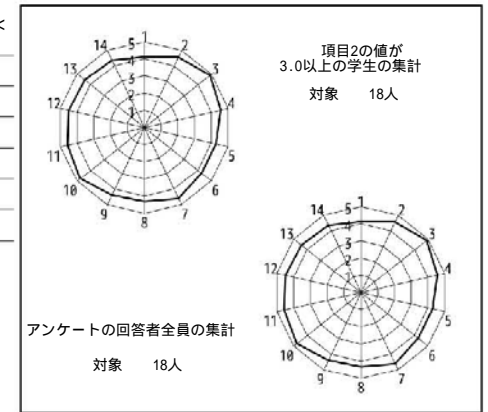


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1&2: The goals set at the beginning of the course were to enable students to practise communication skills concentrating on reading, speaking, and listening in an interesting way using worksheet puzzles, vocabulary tests, two poster presentations, and answering textbook exercises on google form answer sheets. As an intensive syllabus covering many topics, it proved a challenging course for the students. Based on the evaluations submitted by the students, they completed the course with a greater awareness, knowledge and appreciation of their own culture.
 3: Retiring

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ <全>8
 授業コード 11A14-035
 教員名 JONES William M.
 教員コード 100263
 登録人数 19
 回答数 18
 回答率 94.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

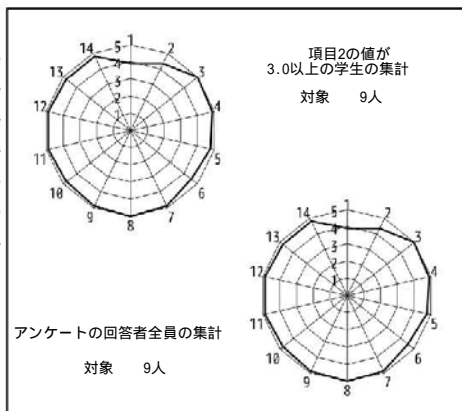


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The instructor was once again blessed to have a wonderful group of students, varying as always in motivational levels and abilities. In particular, the most significant challenge the instructor faced was that there were some students who were native-English speakers, having lived in America for many years, as well as other students who lived in non-native English-speaking countries but where English was often used. These advanced students were able to help other students, which made the instructor's job much more effective. The greatest success in this class was when students of various majors and years could come together and work as a coherent team. This class in particular, had what I believe to be very shy students who were a little apprehensive at first interacting with others, but through constant randomized work groups and the use of playing cards as education tools, they were able to become comfortable and interact with others. Most importantly, Ss were able to enjoy classes, even though they were challenging. Thinking ahead to the following term, I am already modifying several prints to make them much more effective, although this is quite a challenge and time-consuming. Overall, almost all students and the instructor were satisfied with the course and made significant progress.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]11
授業コード 11A14-038
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 14
回答数 9
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義計画書で提示した学習内容・範囲はすべて扱い、受講生全員が課題をすべて終えることができた。また、開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。

数値データでは、履修前の興味を問う項目1(3.89)が最も低く、予習・復習を含む主体的な授業参加を問う項目2(4.33)がそれに次いだ。授業では個別の活動・協同学習・プレゼンテーションのいずれにおいても、ほとんどの学生が積極的に取り組んだ。授業時間外には単元ごとの宿題(10回)、プレゼンテーション(2回)の準備、多読の3つに取り組んでもらった。宿題の提出率は96.5%と高く、多読についても目標語数にわずかに及ばなかった学生は1名のみであった。

自由記述の回答からは、語彙・リスニング・スピーキング・リーディングの各技能を練習できる点や、意見交換の機会が多い点が好意的に受け止められていることがわかった。今後も引き続き多様な活動を取り入れた授業構成にしていきたい。

反省点としては、英語で意見交換する活動で日本語を使ってしまう場面がたびたび見られたことが挙げられる。この活動の前に自分の意見を英語で書いたり、有用表現を学習したりするため、最初は英語で話せるが、会話が進むにつれて日本語を使ってしまうケースが多い。今後は実際に英語にできなかった事例を挙げて学生同士で解決策を話し合わせたり、言い換え表現を紹介したりする時間を設けて対策したい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ
<再[S・T]>
授業コード 11A16-014
教員名 MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数 20
回答数 1
回答率 5.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

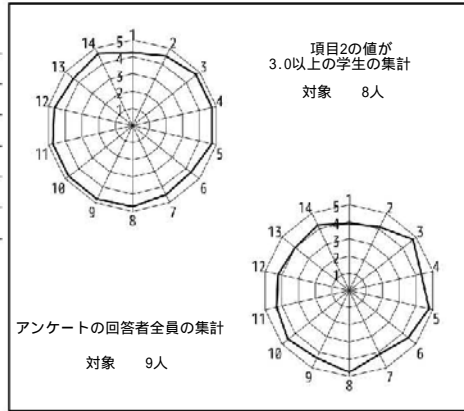
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The evaluation this year was overall quite good, which is quite pleasing as the year overall went well in the classes. There were a couple of areas where there could be improvement, including some parts of the homework expectations and grading as well as a bit of class activities. In the future, I will take these into consideration and revise the classes as needed.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<S・T>4
 授業コード 11A17-026
 教員名 KHONDAKER, Taslima
 教員コード 103598
 登録人数 12
 回答数 9
 回答率 75.0%
 休講回数 2 回
 補講回数 0 回

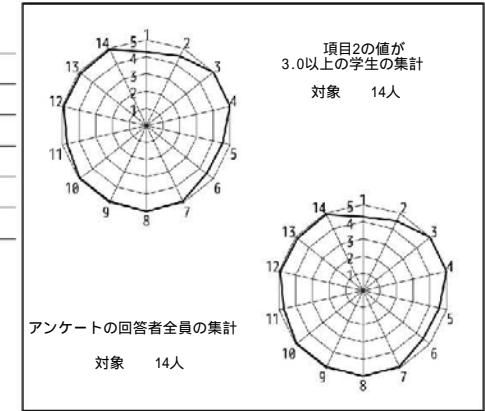


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to help students to be exposed to a wide variety of reading topics where they come across different types of vocabularies in the text and practice using them when communicating with people. Students are also being guided to express their thoughts by working in groups. As planned, I took thirteen classes with make-up report. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.24 and 4.44, the scores of this course were 3.89 and 4.11. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.78, 4.69, 4.51, 4.37, and 4.78 for all courses, the scores for this course were 4.78, 4.33, 4.78, 4.64, and 4.11. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.83, 4.71, 4.73, 4.59, and 4.65 for all courses, the scores of this course were 4.78, 4.33, 4.56, 4.33, and 4.22. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.56 and 4.59 for all courses, the scores of this course were 4.00 and 4.22. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. I hope to improve more so that students are more motivated and I can achieve my goal in full. I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming new academic year.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全・T>7
 授業コード 11A18-007
 教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew
 教員コード 103868
 登録人数 17
 回答数 14
 回答率 82.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main, academic goal for the class was for the students to gain basic English writing abilities: brainstorming, writing the first draft, revision, and writing the final draft. The personal goal was to enable students to feel responsible for their own learning.

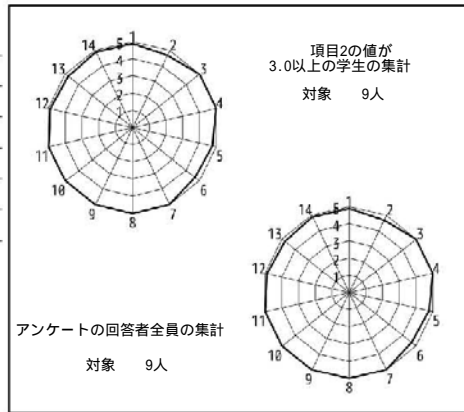
The main challenge of the course is that each quarter, students from various departments and years join the class. As a result, students have very different English abilities and various attitudes toward the class.

In general, I believe I was able to achieve the goals. Regardless of their original abilities and attitudes, the students became interested in the course material and actively participated in the class. By creating many chances for pair or team work, students became comfortable with sharing their opinion in the class.

For the next year, I will keep in mind that some students come with very low writing abilities. Therefore, I will try to do more preparational activities and give them a chance to practice writing from paragraphs and non-academic writing to being able to complete an academic English essay. To achieve this, I will try to plan the classes accordingly and give even more chances for peer work.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<J>1
 授業コード 11A18-014
 教員名 HAYES, Mary
 教員コード 103625
 登録人数 9
 回答数 9
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

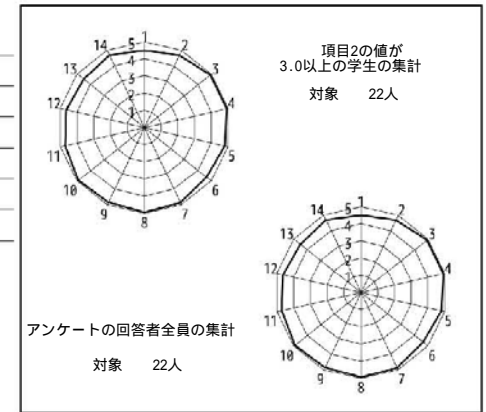
The goals of this English Writing class were largely achieved and the outcomes for all class members were on the whole a success. Each student was able to build on the English they knew in order to complete the 10-minute timed writings in each class, thereby increasing their fluency and confidence, as well as practicing their typing speed. Through working with the textbook, they learned to structure written work well and compose several paragraphs, email letters and a five-paragraph research paper.

I worked on creating a positive and relaxed atmosphere in the classroom, and according to the data and comments, I am satisfied that the approach had positive results. I regularly devoted some time to consulting with each individual in order to help them to edit and improve their written work. The students were receptive and motivated to express their opinions in original and authentic compositions which were a pleasure to read.

This was a great class and I appreciate the hard work and earnest effort of all members. Thank you!

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション<全>3
 授業コード 11A20-007
 教員名 都築 千絵
 教員コード 103924
 登録人数 23
 回答数 22
 回答率 95.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは全学部全学年対象の選択科目で、1年生から4年生まで混在した。当初から英語での会話力に学生間でかなり差が見られたが、設定された目標の16個は授業でカバーされ、目標の到達には個人差が見られたが、最後まで履修した学生は概ね目標を到達した。

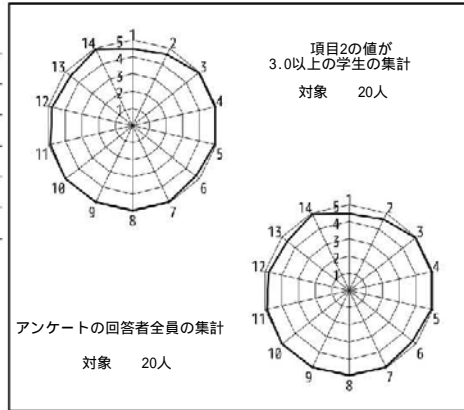
数値データでは設問13の数値が低かった。今回外国部学部の学生の履修生が多く、新しい知識、技能、能力を得たり、理解が深まったと感じることが少なかったのかもしれない。数値データで3を3回、1を1回付けている学生がいるが、人数的に途中で出席しなくなった学生ではないかと思われる。

自由記述の方では、「英語が苦手でも楽しめる雰囲気だった」や「担当教員の意欲が伝わってやる気がでた」など好意的なものが多い一方で、遅刻に関して厳しすぎるという声があった。遅刻をすると点がマイナスになる旨を書いているが、授業開始直後にある小テストの点が伸びないことを指していると思われる。1限の授業開始から出席したのが4回だけの学生には、遅刻が成績に与える影響が大きいのは仕方がないのではと思う。最後に、ディスカッションの評価項目が多すぎるというコメントに関しては、評価基準を再考したいと思う。

来年度以降、遅刻による影響をシラバスに明記することと、ディスカッションテストでの評価基準について検討したい。また、すでにあるスキルを実際に使い、本当に使えるものにすることは大事であるが、学生に理解が深まったと感じてもらえるように工夫していきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>10
 授業コード 11A24-010
 教員名 酒井 美納江
 教員コード 046060
 登録人数 24
 回答数 20
 回答率 83.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

読解力の向上のため、様々な話題を取り上げたexpository reading materialを毎回読み、関連のコミュニケーションアクティビティーを行うという活動を行った。また、テキストのトピックに沿った内容の簡易なプレゼンテーションを学生が行い、読んで理解した内容をアウトプットして自分のものにしていく機会を持った。様々なproficiency levelや動機を持った学生が集まるクラスなので、学生同士で助け合ったりフィードバックを出し合うことで学習しやすい環境づくりを心掛けた。意図したことは以下の自由記述にある様に、おおむね肯定的に受け取られたようだ。

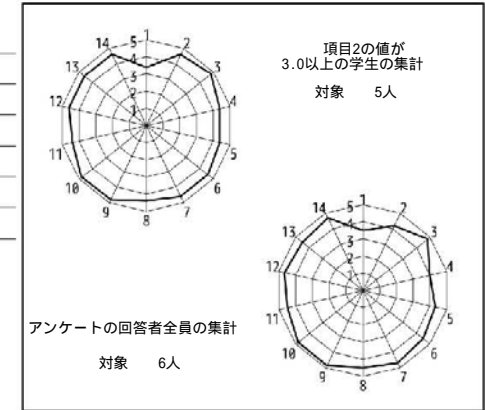
- アクティビティが多く、楽しく授業を受けることができた
- wpmなどの数値を用いていて、自身の成長を感じることができる点が良かった。
- プレゼンをした点。プレゼンはやはり話すことで身につく力があると思うのでやって良かったと思う。
- じぶんのペースで学習できる

反省点としては、proficiency levelの低い学習者に合わせて授業運営をしがちになってしまったことで、次のような意見もあり大変参考になった。

- 日本語で生徒が答えた場合それを英語で言い直し、リピートさせるなどすれば、生徒の英語力がさらに上がるのではないかと思う。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>14
 授業コード 11A24-014
 教員名 PALISADA Eloisa
 教員コード 055830
 登録人数 19
 回答数 6
 回答率 31.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

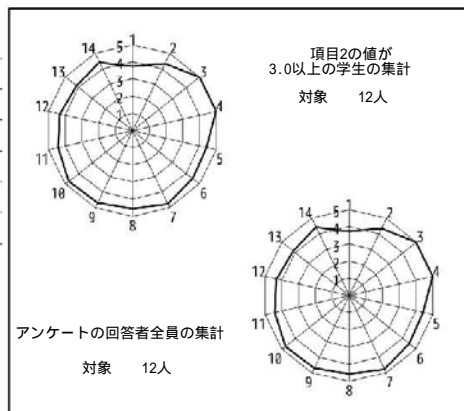


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class aims to provide students coming from different departments with a variety of reading strategies to improve reading proficiency and promote a positive attitude toward and competence in reading in English. Based on the survey result, this was highly achieved with an overall 91% satisfaction. Highly evaluated were class punctuality, the instructor's attentiveness to students' level of understanding, and effective class management, 97%. Students appreciate their teacher's sincere approach to class and proper guidance to motivate them to be responsible and participate actively. Their reflections highlight the improvement in comprehension, speed reading, and presentation skills. Almost all value being with a new partner each class time, group discussion, and enriching and friendly interactions. They also enjoyed a new way of learning vocabulary through games like Quizlet. Presentations posed a big challenge but they learned a lot from it. There's rapport among students and the teacher. The teacher can still improve in giving feedback and grading their assignments on time as a way to assess their performance. This class has been a satisfying and rewarding teaching-learning experience with the students this Quarter term.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全・T>4
授業コード 11A26-017
教員名 PENDELL, Patrice
教員コード 104625
登録人数 18
回答数 12
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

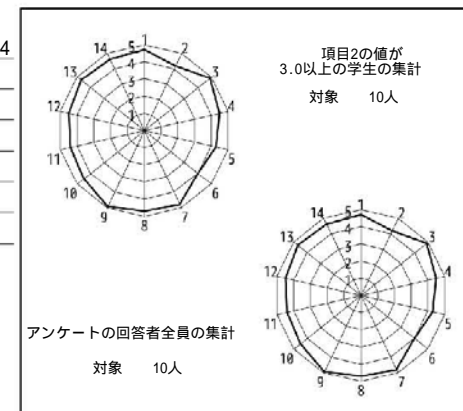
There were no canceled class. Class met 15 times (14 Classes Face-to-Face; 1 Class on-Line as required) The goals of the class were to improve English communication with focus on listening. Listening based lessons were scaffold with writing notes and answering questions; short and long summaries, and basic communications between students in pair work activities.

Students were asked to evaluate their performance as well as the class in their the self-reflective writing. Universally students appreciated the student based class, improved their listening, writing communicative skills as well as improved confidence using English. The class was and is a beneficial and positive experience.

The format of using a textbook, videos and communications-skills activities will continue, as it is successful. Clear goals, class schedule and rubrics are announced to students from the first class and also posted on WebClass.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IIA<全・T>試験対策TOEIC4
授業コード 14A12-004
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 11
回答数 10
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

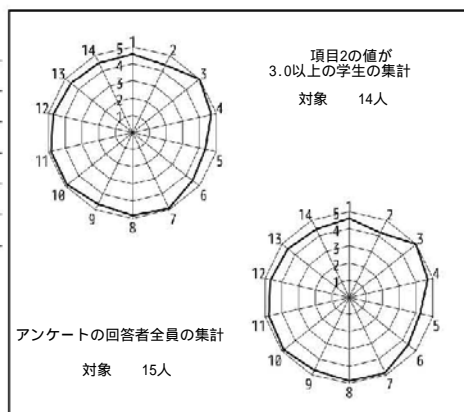


授業評価結果を踏まえた点検・評価

TOEIC試験の受験対策講座としての目標は、第一に試験全体の構成と出題される問題についての知識を高めること、第二に得点を伸ばすための英語力とテクニックを習得することであった。自由記述および期末レポートに添えて求めたコメントを基に振り返ると、第一の目標についてはおおむね達成されたと認められる。あまり意識していなかった全体の構成や問題の特徴について理解が深まり心構えができたとの反応が見られた。第二の目標では、テクニックに関しては向上したと思われる。TOEIC試験はスピードが重要になるが、自分で普通に問題集をやっているだけでは意識しないようなテクニックを知った、今後の受験で活用したいといったコメントがあった。ただし英語力に関しては、復習テストで見るとは残念ながら期待通りとはいかなかった。もちろん向上が見られた個人はいるが、一因には、過去と比べ今回はとくに履修者にTOEIC未経験や受験予定はないという人もいて、ターゲットスコア700点とした授業に合わなかったのではないかと思う。レベルアップを目指す人もおり、内容や進度を途中で変えるというのも適切ではない。初級レベルではないということをウェブシラバスと初回授業で強調しておきたい。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング2
授業コード 42G08-002
教員名 VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

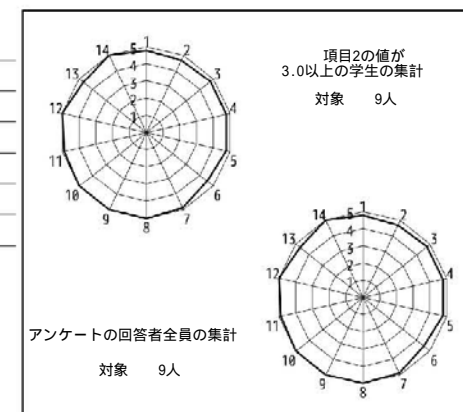
This class was delivered using a combination of lecture and seminar styles. Students learned the important aspects of the process of writing, such as writing clearly and simply, writing transparently, and editing for accuracy. They also practiced browsing advertisements, and exploring company websites and business media websites. Other activities incorporated in the class included extensive reading, learning new vocabulary, typing exercises, and timed writing on a variety of topics. Working in pairs was done in every class.

The overall significantly positive results of the students' evaluation indicate the students' general satisfaction with the content and dynamics used in class. The students' comments express appreciation for the time given for instruction and clarification, the instructor's manner of relating with students, and the regular free-writing activity that fostered self-expression. The lowest rating (4.2) pertains to students' self-evaluation of their preparation and review of the subject matter.

There is a need to have a better understanding of the different topics that students are studying in other classes so as to integrate them in the lesson or activities.

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ビジネス・ライティングB
授業コード 42G13-001
教員名 高野 洋子
教員コード 104147
登録人数 23
回答数 9
回答率 39.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。受講生は3、4回生なのでライティングをつうじてビジネスマナー、ルールなども学んでもらう予定をした。特に実務で使う英文レターを書くことで単語、構文を増やす目的も説明した。授業中は学生が積極的に質問をしてくれたので難易なところを理解しながらひとつひとつビジネスレターを作成していた。特に個人でレター作成をするのではなく、ペアワークで会社の同僚として想定しながら顧客への対応、クレーム、紹介文などを学生は書いたので理解を深めたり、気になる点を話しあったりして課題の目的を把握しながらパソコンで英文を書いていた。中にはタイピングが苦手だったが、この授業を通じて速度が速くなったと報告をくれる学生もいた。

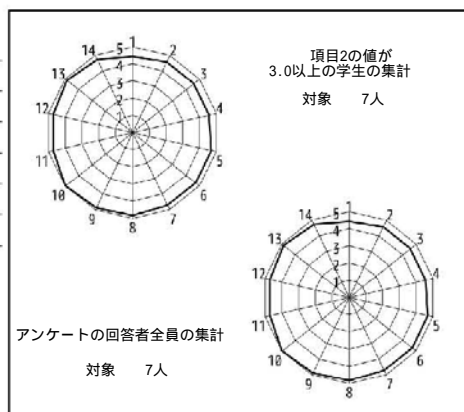
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業の内容が難解であれば履修を考えたいと、初回の授業の際相談にくる学生がいた。パソコンで英文を作成する授業なので緊張やハードルの高さが気になったようである。そのため、教科書をみてもらい、過去の学生の英文レターのサンプルを見てもらい、履修するか？否か？の判断材料にしてもらった。結果、納得して履修した学生は真摯に授業にでていて、英語に対する恐怖もなくなった、と言う学生もいた

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
2024年度もこのコースを担当するので、学生の為になる授業を実施する所存である。さらにビジネスシーンについて、常にUPDATEをして最新の情報を知る必要があるのでCNN、Japan TIMES、BBCのNEWSやTOPICを欠かさずに聞く、読むことを心掛けている。

2023年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語1116
授業コード 46F03-006
教員名 HAYNES Louise
教員コード 100372
登録人数 44
回答数 7
回答率 15.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring topics such as education and gender and diversity. The students chose which country they wanted to focus upon and each week researched about that country. In the first week, students read a book about their chosen country. From the second class, each week a different sociological theme was explored: education, health, population change, and gender and diversity. In the final class, each student gave a 10-minute presentation to two other students about the country that they had researched about. The results of the student feedback were positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, students wrote that they enjoyed learning about different countries. After teaching it the first time, I found that some of the students could take on a bit more of a challenge, so I added some discussion questions that were relevant to the topic for each week. This seemed to encourage more students to engage with the topics and to think more critically about the information. The students were quite congenial. I very much enjoyed teaching the course.

南山大学「学生による授業評価」のまとめ
2023年度第3クォーター・第4クォーター

発行日 2024年（令和6年）6月1日

編集・発行 南山大学内部質保証委員会
問い合わせ 教育企画・研究推進課
(kenkyu-jimu@nanzan-u.ac.jp)

*2021年度から本冊子の学内配付をとりやめ、大学 Web ページからの閲覧のみとする。

「授業評価 学生による授業評価のまとめ冊子」はこちら：<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyohyoka/matome/>